
地域社会の言語生活

— 鶴岡における20年間隔3回の継続調査 —

国立国語研究所

2007年3月

刊 行 の こ と ば

国立国語研究所は、昭和 23(1948)年の創立以来、国民の言語生活の実態を把握するためのさまざまな調査研究を行ってきました。その一環として、昭和 25(1950)年度に山形県鶴岡市において個別面接調査を行い、その結果を『地域社会の言語生活－鶴岡における実態調査－』として報告しています。また、昭和 46(1971)年度には、鶴岡市において再度調査を行い、約 20 年の間に共通語化がどの程度進行したか、またその社会的要因は何であるかを明らかにしました。その調査結果は『地域社会の言語生活－鶴岡における 20 年前との比較－』として報告しました。

さらにその約 20 年後の平成 3(1991)年度には、同じく鶴岡市において 3 回目の調査を実施しました。20 年間隔での 3 回におよぶ調査の実施は、戦後 40 年間の言語生活の変化を記述した、世界的にも類を見ない大がかりな調査です。本報告書は、この 3 回目の調査の結果を分析・報告するものです。

継続調査としての性格上、過去の調査結果と比較することを重要な目標としたために、質問方法や場面設定はできる限り同一にして調査を繰り返してきました。しかしながら社会変化や交通手段・通信手段の急激な変化にともなって、市民の言語生活における言語使用場面が多様化している可能性が指摘され、そのことを検証するために平成 4 年度には鶴岡市民を対象に場面差調査も実施しました。加えて、同年、伝統的な鶴岡方言の記述に関する調査研究も実施し、これらについては、『鶴岡方言の記述的研究』（国立国語研究所報告 109-1）、『方言使用の場面的多様性』（内部資料）として刊行しています。

これらの一連の調査研究は、研究課題名「地域社会の言語生活－鶴岡市における戦後の変化－」（課題番号：03301060、研究代表者：江川 清）として文部省科学研究費補助金（総合研究（A））の交付を受けて実施したものです。調査には国立国語研究所の所員をはじめ、多くの研究者の参加を得て共同で行いましたが、報告書執筆は、このうち、フェリス女子大学 佐藤亮一名誉教授、広島国際大学 江川清教授、明海大学 井上史雄教授（いずれも現職）と、所員の米田正人が担当しました。

調査を進めるにあたっては、直接調査に応じてくださった鶴岡市民の皆さまの御協力が不可欠のものでした。また、前回、前々回同様、鶴岡市役所、同教育委員会、および市立図書館関係者等に大変お世話になりました。これらの御協力、御厚意に対して、改めてお礼を申し上げます。

本書が日本語研究や国語施策等の分野で広く活用されることを願っています。

平成 19 年 3 月

独立行政法人 国立国語研究所長

杉戸 清樹

目 次

刊行のことば

目 次

I	調査研究の概要 [米田正人]	
1.	調査研究の目的	9
2.	調査の実施	
2.1	継続調査	9
2.2	場面差調査, 方言記述調査	11
3.	調査研究の組織	13
4.	継続調査(面接調査)の調査項目	14
5.	被調査者の属性	
5.1	基本属性	14
5.2	その他の社会言語学的属性	15
6.	報告書の編集方針と図表の見方	17
II	音声項目 [佐藤亮一]	
1.	音声項目	
1.1	音声項目の内容	21
1.2	音声項目全体の共通語化	22
1.3	音声分野別の共通語化	22
1.3.1	唇音性 I	22
1.3.2	唇音性 II	22
1.3.3	口蓋化	31
1.3.4	有声化	35
1.3.5	鼻音化	45
1.3.6	中舌化 I	50
1.3.7	中舌化 II	50
1.3.8	イとエ I	61
1.3.9	イとエ II	61
2.	アクセント項目	68
3.	音声項目のまとめ	75
4.	アクセント項目のまとめ	75
5.	調査法に関する問題点	76
III	語彙・文法(語法) [江川 清]	
1.	語彙項目	79
1.1	3回の調査結果が得られた項目	79
1.2	第2回調査以降に実施された項目	90
2.	文法(語法)項目	

2.1	3回の調査結果が得られた項目	99
2.2	第2回調査以降に実施された項目	112
IV	第3回調査における追加項目 〔井上史雄〕	
1.	鶴岡1991(追加質問)説明	117
2.	研究方法の概観	117
3.	結果の概観	118
3.1	音韻(第1回調査の追跡)	118
3.2	音韻(外来語音)	127
3.3	アクセント	136
3.4	文法	143
3.5	語彙	151
3.6	方言音	154
V	言語意識に関する項目 〔米田正人〕	
1.	鶴岡弁に対する意見	159
2.	鶴岡弁・東京弁のイメージ	162
3.	場面によることばの使い分け	164
4.	道きき	166
VI	単純集計表(性・年齢・学歴別分布表)	169
	表目次	171
1.	フェイスシート関連項目(1~31)	173
2.	音声項目(32~62)	185
3.	アクセント項目(63~67)	196
4.	語彙・文法(語法)項目(68~88)	198
5.	言語意識項目(89~100)	205
VII	資料	211
1.	面接調査票	213
2.	調査員記録簿	226
3.	提示リスト	227
4.	言語生活調査票	235
5.	調査へのお願い(依頼文)	239
	付記	241
	執筆者一覧, 協力者一覧	242

事 項 目 次

音声項目

音声得点	23
唇音性 I	
非唇音 (共通語) 率 I	24
「スイカ (西瓜)」 [216.]	25
「カヨウビ (火曜日)」 [217.]	26
唇音性 II	
非唇音 (共通語) 率 II	27
「ヒゲ (髭)」 [202.]	28
「ヘビ (蛇)」 [208.]	29
「ヒヤク (百)」 [218.]	30
口蓋化	
非口蓋 (共通語) 率	31
「セナカ (背中)」 [203.]	32
「アセ (汗)」 [204.]	33
「ゼイムシヨ (税務署)」 [219.]	34
有声化	
非有声 (共通語) 率	36
「カキ (柿)」 [214.]	37
「ネコ (猫)」 [207.]	38
「ハタ (旗)」 [210.]	39
「ハチ (蜂)」 [205.]	40
「クチ (口)」 [201.]	41
「マツ (松)」 [215.]	42
「クツ (靴)」 [213.]	43
「ハト (鳩)」 [206.]	44
鼻音化	45
非鼻音 (共通語) 率	46
「スズ (鈴)」 [211.]	47
「マド (窓)」 [209.]	48
「オビ (帯)」 [212.]	49
中舌化 I	
非中舌 (共通語) 率 I	51
「キツネ (狐)」 [230.]	52
「カラス (鳥)」 [228.]	53
「スミ (墨)」 [227.]	54
「チズ (地図)」 [225.]	55

中舌化Ⅱ	
非中舌 (共通語) 率Ⅱ	56
「シマ (島)」 [226.]	57
「ウチワ (団扇)」 [231.]	58
「チジ (知事)」 [224.]	59
「カラシ (芥子)」 [229.]	60
イとエⅠ	
イとエ (共通語) 率Ⅰ	62
「エントツ (煙突)」 [223.]	63
「エキ (駅)」 [221.]	64
イとエⅡ	
イとエ (共通語) 率	65
「イト (糸)」 [222.]	66
「イキ (息)」 [220.]	67
アクセント項目	
アクセント得点	69
「セナカ (背中)」 [203a.]	70
「ネコ (猫)」 [207a.]	71
「ハタ (旗)」 [210a.]	72
「カラス (鳥)」 [228a.]	73
「ウチワ (団扇)」 [231a.]	74
語彙項目	
「いつも」 [241.]	81
「留守番」 [242.]	82
「いらっしゃい」 [243.]	84
「もう (副詞)」 [244.]	85
「驚いた」 [245.]	86
「はずかしい」 [246.]	88
「あげる」 [247.]	91
「ツララ」 [248.]	93
「コーデ」 [249.]	94
「ボクシング」 [251.]	95
「乗車拒否」 [252.]	96
「ミニスカート」 [253.]	97
文法 (語法) 項目	
「起きろ」 [261.]	100
「わたくしたち」 [262.]	102
「見に行く」 [263.]	103
「行くから」 [264.]	104
「行くけれども」 [265.]	106

「 <u>強</u> かったなあ」	[266.]	107
「勉強 <u>し</u> ないで」	[267.]	109
「静 <u>か</u> なら」	[268.]	110
「 <u>あ</u> なたを」	[269.]	113

追加項目

音韻 (第1回調査の追跡)

「胃」	[301.]	119
「絵」	[302.]	119
「しみ」	[303.]	122
「鏡」	[304.]	122
「障子」	[305.]	123

音韻 (外来語音)

「チケット」	[306.]	127
「電電公社」	[307.]	128
「PTA」	[308.]	129
「ジェット機」	[309.]	129
「フォーク」	[310.]	131
「フィルム」	[311.]	131

アクセント

「クマ (熊)」	[312.]	136
「テレビ」	[313.]	136
「チャンネル」	[314.]	140
「アメリカ」	[315.]	140

文法

「分かりません」	[316.]	143
「朝寝を <u>し</u> たい」	[317.]	143
「 <u>ど</u> こへ行くのか」	[318.]	146
「 <u>学</u> 校へ行く」	[319.]	146
「 <u>高</u> く (なった)」	[320.]	149

語彙

「大きい」	[321.]	151
「赤ん坊が <u>か</u> わいい」	[322.]	151

方言音

「面白い」	[323.]	154
「教える」	[324.]	154

I 調査研究の概要

1. 調査研究の目的

国立国語研究所では1950年度と1971年度の2度にわたって文部省科学研究費補助金の交付を受け、山形県鶴岡市において地域社会における方言の共通語化を中心とする言語生活の実態調査を行った。それにより、戦後四半世紀間の急激な社会変化の中で方言が共通語化していく過程について、その実態や社会的な要因との関係を明らかにした。

本研究では、前回、前々回の成果を受継ぎ、1991年度に鶴岡市においてほぼ20年間隔となる3回目の調査を実施し、戦後40年間におよぶ共通語化の過程についての客観的資料を得た。さらに翌1992年度には、方言使用／共通語使用の「場面的多様性」を把握することを目的とした「場面差調査」を実施するとともに、共通語化の過程を見る上で前提となる伝統的方言の記述を目的とした「方言記述調査」を実施した。これらの調査研究は、研究課題名「地域社会の言語生活—鶴岡市における戦後の変化—」（課題番号：03301060、研究代表者：江川 清）として文部省科学研究費補助金（総合研究（A））の交付を受けて実施した。方言記述と場面差調査については2.2で示すようにすでに報告がなされており、本報告書は1991年度に実施された継続調査の結果について報告するものである。

2. 調査の実施

2.1 継続調査（ランダムサンプリング調査、パネル調査）（1991年度）

鶴岡市における戦後の共通語化の過程を把握するために、前回、前々回の共通語化調査と厳密な比較のできる形での継続調査を1991年度に実施した。継続調査は、鶴岡市民の言語生活の変化を探る「ランダムサンプリング調査」と鶴岡市という地域社会で生活する個々人の変化を探るための「パネル調査」に大別される。以下ではまずそれぞれの調査で対象とした被調査者について述べる。

(1) ランダムサンプリング調査の被調査者

住民基本台帳から無作為に500人を選定した。サンプリングの対象は、大正10年(1921年)11月1日から昭和51年(1976年)10月31日の間に生まれた人に限定した（満年齢で15歳から69歳）。サンプリング作業は米田が担当し、10月中旬鶴岡市役所に赴いてすべての住民基本台帳から88人おきに500人の氏名、住所、性、生年月日を書き写す作業を行った（スタートの位置は乱数によって決めた）。住民票に関する市職員の業務の邪魔にならないよう配慮しての作業であったため、サンプリング作業には3日間を要することとなった。

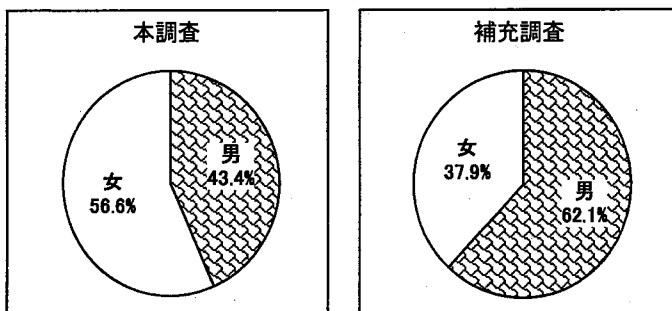
(2) パネル調査の被調査者

パネラーの追跡に関しては鶴岡市役所の全面的協力を得ることができた。前回、前々回の被調査者に関する氏名、性、年齢、住所等の一覧リストを作成し、あらかじめ市役所市民課に所在確認を依頼することが許された。その結果 368 名におよぶ市内在住者が確認された。

本調査、および補充調査の実施により、ランダムサンプル 405 人（回収率 81.0%）、パネルサンプル 314 人（回収率 85.3%）の回答を得ることができた。

調査方法は、個別面接調査と郵送留置自記式によるアンケート調査（言語生活調査）の併用方式であったが、パネル調査ではアンケート調査を省略した。

ランダムサンプリング調査、パネル調査とも実査は 1991 年 11 月 22 日（金）～30 日（土）の 9 日間（本調査）で行われたが、その期間に調査できなかった対象者もできるだけ調査して回収率を高めるため、1992 年 2 月 19 日（水）～25 日（火）の 7 日間で補充調査を行った。ランダムサンプル 405 人中、本調査で回答を得られたのは



376 人、補充調査では 29 人であった。回収票の男女比を本調査と補充調査で比較する、本調査で回収率の低かった男性が補充調査では逆に回収率が高くなり、本調査で回答者の少なかった男性を補充することができた。

図 I-1 本調査と補充調査における回答者の男女差

なお、ランダムサンプリング調査、パネル調査それぞれにおける回収不能の理由は、以下のとおりであった（ランダムサンプリング調査の不能者 95 人、パネル調査 50 人）。

ランダムサンプリング調査： 接触できず 24 人、拒否 18 人、長期不在 16 人、

多忙 13 人、病気 7 人、障害 6 人、転出 4 人、その他 7 人

パネル調査： 病気 18 人、拒否 16 人、接触できず 6 人、長期不在 3 人、その他 7 人

ランダムサンプリング調査やパネル調査に対して上述のように高い回収率が得られた要因としては、調査員個々人の頑張りもさることながら、前回同様、鶴岡市役所や地元マスコミの協力を得られたことがまず第一にあげられよう。被調査者の選定、市の広報誌による調査協力依頼、ことばの講演会開催等々、鶴岡市役所や同市図書館からは、今回調査の期間およびその前後でさまざまな形のご協力をいただいた（p.11 参照）。さらに、山形新聞や荘内日報では再三にわたり国語研の調査について大きな紙面を割いて報道して下さった（p.12 参照）。この場を借りて改めて感謝の意を表したい。

3 回の調査における被調査者の規模を図式的に表示すると、次ページ図 I-2 のようなイメージになる。

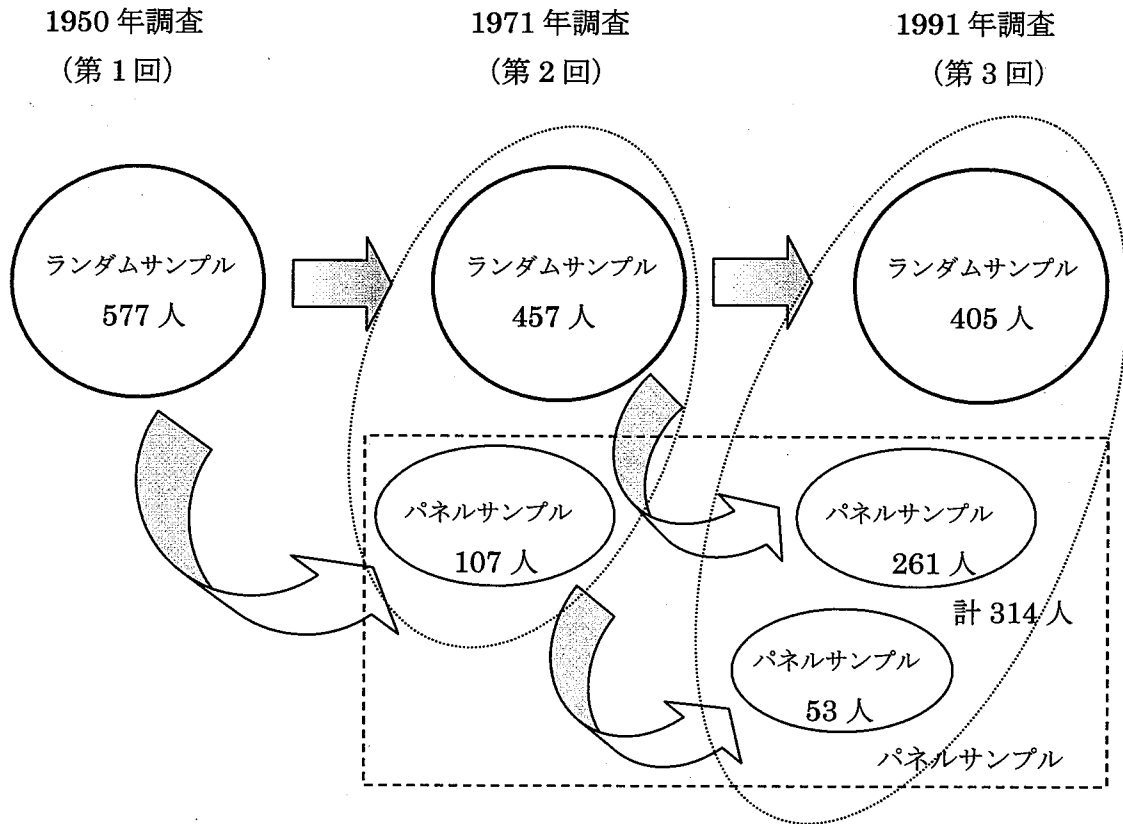



図 I-2 継続調査の被調査者 (ランダムサンプルとパネルサンプル)

言語調査実施にご協力を

国立国語研究所では、昭和25年と46年に次ぎ鶴岡市で3回目の言語調査(鶴岡市民の日常生活における言葉の使い方)を行います。調査は、市民800人を対象に、11月20日(水)から約10日間、同研究所の所員が直接お会いして行われます。質問内容は簡単なものです。

市民の皆様のご協力をお願いします。

※詳しくは、庶務課(☎内線315)へ。



ことばの
文化講演会

図書館 ☎25-2525

方言と言葉の文化についての講演会を開催します。

□日時 12月1日(日)午後1時30分～4時

□会場 図書館

□内容 講演①「方言の全国分布」…佐藤亮二氏(フェリス女学院大学教授)、
②「庄内のことばと文化」…井上史雄氏(東京外国語大学教授)

図 I-3 広報「つるおか」による調査協力依頼と文化講演会の案内

2.2 場面差調査、方言記述調査 (1992年度)

社会変化や交通手段・通信手段の発達に伴い共通語化が急速に進む一方、家族や地元の親しい人たちとの間では現在でも方言が普通に使われている場合も少なくなく、市民の言語生活における言語使用場面が多様化している可能性が指摘された。これを受けて、従来の調査では不十分であった場面性、文脈性を付与した検証・補完調査(場面差調査)を行った。この場面差調査は、平成3年度のランダムサンプルとパネルサ



発行所 庄内日報社
〒977 鶴岡市本町1-14
電話(0234)22-1480
〒978 鶴岡市東町1-14
電話(0234)22-1481
© 庄内日報社 1991

20年ぶり3回目 鶴岡で言語調査

国立国語研究所は二十日、鶴岡市で二十一年ぶりの言語調査を行った。同日、鶴岡市で二十一年ぶりの言語調査を行った。同日、鶴岡市で二十一年ぶりの言語調査を行った。

国立国語研究所 870人を対象に

国立国語研究所が鶴岡市で言語調査を行ったのは、昭和二十五年(一九四七年)以来、二十五年ぶりである。調査は、鶴岡市を代表する地域として、市内の各町を調査対象とし、八七〇人を対象とした。調査は、鶴岡市を代表する地域として、市内の各町を調査対象とし、八七〇人を対象とした。

来月中旬まで開催か 国幹審 庄内空港ICに期待

国幹審(国土開発審議会)は、庄内空港IC(インターチェンジ)の建設に期待を示している。国幹審は、国土開発審議会(国幹審)は、庄内空港IC(インターチェンジ)の建設に期待を示している。

鶴岡市長選、17日に投票 午後5時半には大投票

両陣営 投票率アップへ懸命

鶴岡市長選は、17日(日曜日)に投票が行われる。午後5時半には大投票が行われる。両陣営は、投票率の向上に懸命に取り組んでいる。

- 本社代表 TEL(0234)22-1480
- 購読のお申し込み TEL(0234)22-1481
- 編集局直達 TEL(0234)22-1482 FAX(0234)22-1427
- 広告のお申し込み TEL(0234)22-1479 FAX(0234)22-2633
- 印刷のお申し込み TEL(0234)22-1724
- 酒田支社 TEL(0234)22-4244 FAX(0234)22-0430

お天気

17日(日) ……南西のちのちの雨。
(海上) ……波高1mのち1.5m。
18日(月) ……西の風、曇りのち時々雨。
(海上) ……波高1.5m。
16日の気温(13時まで) 最高11.2(平年12.3) 最低7.8(平年4.5)
17日の気温(13時まで) 最高—(平年12.1) 最低—(平年4.4)

地域農業の問題研修 改善センター オープン祝う

鶴岡市で地域農業の問題研修が実施された。改善センターのオープンが祝われた。研修は、鶴岡市で地域農業の問題研修が実施された。



庄内の魅 酒田 伊藤市東女子大教授を囲む学術・地域経済研究会は、庄内地域の魅力を伝えるために、酒田で「庄内の魅」をテーマにした研修会を開催した。

図 I-4 庄内日報に掲載された鶴岡調査の記事 (1991年11月17日)

サンプルの中から213名を選定し、最終的に175名から面接調査とアンケート調査の回答が得られた。調査期間は、平成4年11月17日(火)～25日(水)の9日間であった。

また、鶴岡地方本来の伝統的方言について、音声、アクセント、語彙、文法などの諸側面を記述する調査を行った(方言記述調査)。被調査者は10名、調査期間は主として11月22日から24日の3日間で、場面差調査と並行して行われた。

これら2種類の調査についての詳細は、以下の既刊報告書を参照されたい。

- ・ 国立国語研究所(1994)『鶴岡方言の記述的研究－第3次鶴岡調査 報告1』(国立国語研究所報告109-1), 秀英出版刊
- ・ 国立国語研究所(2006)『方言使用の場面的多様性－鶴岡市における場面差調査から－』(内部資料)

3. 調査研究の組織

この調査研究には、以下に示すとおり、国立国語研究所員17名の他に、大学関係研究者など17名、合計34名が参加した(所属は調査当時のもの)。

江川 清, 米田正人, 杉戸清樹, 熊谷康雄, 相澤正夫, 伊藤雅光, 前川喜久雄, 尾崎喜光, 横山昭一, 井上 優, 大西拓一郎, 池田理恵子, 白沢宏枝, 辻野都喜江, 塚田実知代, 磯部よし子, 米田純子(以上, 国立国語研究所),

佐藤亮一(フェリス女学院大), 今石元久(広島女子大), 井上史雄(東京外語大), 高田 誠(筑波大), 真田信治(大阪大), 鈴木敏昭(富山大), 吉岡泰夫(熊本短期大), 沢木幹栄(信州大), 加藤和夫(金沢大), 佐藤和之(弘前大), 金沢裕之(岡山大), 水野義道(京都工繊大), 新田哲夫(広島文教女子大), 渋谷勝己(大阪大), 篠崎晃一(都立大), 早野慎吾(上智大大学院), 堀 司朗(鶴岡市立図書館)。

各年度のそれぞれの調査に参加したメンバーは以下のとおりであった。

継続調査(1991年実施)

本調査: 江川 清, 米田正人, 杉戸清樹, 熊谷康雄, 相澤正夫, 尾崎喜光, 横山昭一, 井上 優, 大西拓一郎, 池田理恵子, 佐藤亮一, 今石元久, 井上史雄, 高田 誠, 真田信治, 鈴木敏昭, 沢木幹栄, 佐藤和之, 金沢裕之, 水野義道, 新田哲夫, 渋谷勝己, 篠崎晃一, 早野慎吾, 堀 司朗。

なお, 白沢宏枝, 辻野都喜江, 塚田実知代, 磯部よし子が, 鶴岡ホテル内調査本部にて調査を統括すると共に被調査者からの苦情, 問い合わせ等に対応した。

補充調査: 米田正人, 前川喜久雄, 吉岡泰夫, 水野義道

場面差調査(1992年実施)

尾崎喜光, 杉戸清樹, 熊谷康雄, 相澤正夫, 前川喜久雄, 横山昭一, 大西拓一郎, 池田理恵子, 米田正人, 佐藤亮一, 井上史雄, 加藤和夫, 水野義道, 新田哲夫, 渋谷勝己, 篠崎晃一

方言記述調査(1992年実施)

大西拓一郎, 佐藤亮一, 井上史雄, 新田哲夫, 渋谷勝己, 篠崎晃一

4. 継続調査（面接調査）の調査項目（1991年調査）

ランダムサンプリング調査とパネル調査における調査項目は以下に掲げるとおりであった。なお、調査項目の配列順、正確なワーディングや調査で用いた提示リストについては巻末の調査票、提示リストを参照されたい。

音 声：唇音性Ⅰ：「カヨウビ（火曜日）」「スイカ（西瓜）」

唇音性Ⅱ：「ヘビ（蛇）」「ヒヤク（百）」「ヒゲ（髭）」

口蓋化：「ゼイムシヨ（税務署）」「セナカ（背中）」「アセ（汗）」

有声化：「マツ（松）」「カキ（柿）」「クツ（靴）」「ハト（鳩）」

「ハタ（旗）」「ハチ（蜂）」「クチ（口）」「ネコ（猫）」

鼻音化：「オビ（帯）」「マド（窓）」「スズ（鈴）」

中舌Ⅰ：「キツネ（狐）」「カラス（鳥）」「スミ（墨）」「チズ（地図）」

中舌Ⅱ：「シマ（島）」「ウチワ（団扇）」「チジ（知事）」「カラシ（芥子）」

iとeⅠ：「エントツ（煙突）」「エキ（駅）」

iとeⅡ：「イト（糸）」「イキ（息）」

従来から行われている上記31項目に、「イ（胃）」「エ（絵）」「シミ（しみ）」「カガミ（鏡）」「ショウジ（障子）」「ジェット機」「フォーク」「フィルム」「チケット」「NTT」「PTA」の11項目を加え、さらに方言音に関する「面白い」「教える」の2項目を補足し、計44項目を調査した。

アクセント：「ネコ（猫）」「ハタ（旗）」「セナカ（背中）」「カラス（鳥）」「ウチワ（団扇）」の5項目が前回、前々回調査で取り上げられたが、今回は更に「クマ（熊）」「テレビ」「チャンネル」「アメリカ」の4項目を加え、9項目を調査した。

文 法：「起きろ」「勉強しないで」「わたくしたち」「見に行く」「静かなら」「行くから」「行くけれども」「強かったなあ」「はい(応答詞)」「あなたを」「あなたが書いたのか」といった前回調査の11項目に加え、「わからない」「朝寝をしたい」「どこへ」「学校へ」「高く(なった)」の5項目を補充した。

語 彙：「いつも」「いらっしゃい」「驚いた」「ずいぶん」「はずかしい」「もう(副詞)」「留守番」「あげる」「つらら」「ボクシング」「乗車拒否」「ミニスカート」の12項目に加え、今回新たな項目として、「大きい」「かわいい」の2項目を追加した。

その他：フェイスシート項目、言語意識に関する項目など十数項目が調査されているが、基本的には前回、前々回と同様の方法により調査を行っている。

5. 被調査者の属性

5.1 基本属性

表I-1は性、年齢、学歴について過去3回調査の被調査者を比較したものである。男女構成比では目立った差は見られない。年齢構成では若年層が減少傾向にある点、55歳～69歳が増加している点が目立つ。また1991年調査の被調査者の性を年齢別に比較すると(図I-5)、25歳～34歳、および45歳以上で女性が多くなっている点が目立っている。一方、自明のことではあるが、調査の回を追うごとに低学歴が減少し、高学歴が

増加している様子が鮮明に現れている。

なお、学歴のカテゴリーについては、前回、前々回の調査のまとめ方に従って以下のように定義した。

- ・「低学歴」は学歴なしから義務教育終了程度以下を示す。旧制高等小学校卒、新制中学卒業までがこのカテゴリーに含まれることになる。
- ・「中学歴」は旧制中学校卒業、新制高等学校卒業程度を示している。
- ・「高学歴」は旧制高校卒業、新制大学卒業あるいは短期大学卒業以上を示している。

性、年齢、学歴それぞれのクロス集計については、表VI-19～表VI-21（179 ページ）を参照されたい。

表 I-1 性、年齢、学歴

	1950	1971	1991
全体	577名	457名	405名
	%	%	%
男	42.8	44.9	44.7
女	57.2	55.1	55.3
15～19歳	17.3	13.1	11.6
20～24歳	10.7	10.9	5.2
25～34歳	22.4	19.3	16.0
35～44歳	20.6	22.1	24.7
45～54歳	14.6	16.4	15.1
55～69歳	14.4	18.2	27.4
低学歴	66.0	41.1	25.9
中学歴	29.5	48.8	49.1
高学歴	4.5	10.1	24.9

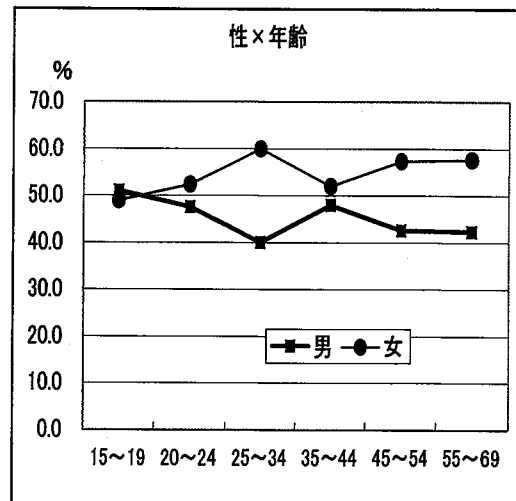


図 I-5 性の年齢別分布（1991年）

5.2 その他の社会言語学的属性

基本属性以外の社会言語学的属性（フェイスシート項目）として、以下では、1) 被調査者の居住歴、2) 被調査者、両親、配偶者の出身地、3) 被調査者の職業、4) 他地域との交流 について概観することにする。

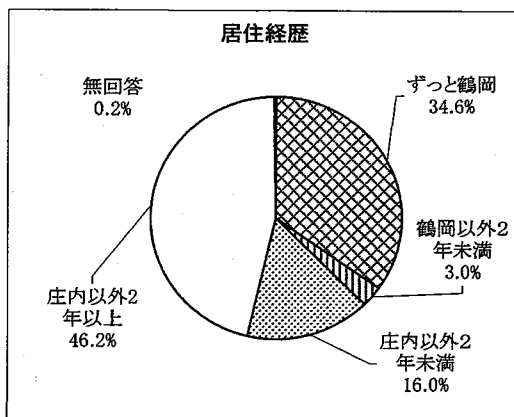


図 I-6 被調査者の居住経歴

1) 被調査者の居住歴

「ずっと鶴岡」は、生まれてからずっと鶴岡に居住している事を意味し、全体で34.6%になる。鶴岡以外での居住経歴が2年未満の人や庄内以外での居住経歴が2年未満の人を加えると53.6%となるが、庄内以外での居住経歴が2年以上の人も46.2%いる。この項目に関しては前回調査のまとめ方と若干方式が異なっているため正確には比較できないが、

前回、前々回調査時での13歳～25歳の居住経歴で、庄内以外での居住経歴が2年未満の人がともに65%強いることを考慮すると、庄内以外での居住歴を持つ人の割合が増えてきていることが推測される。

2) 被調査者、両親、配偶者の出身地

被調査者の出身地をみると、1950年から1971年にかけては1割ほど減少しているが、1991年調査では1950年の数値に戻っている。

	出身地	1950年	1971年	1991年
		%	%	%
被調査者	鶴岡市	59.3	49.7	58.3
	庄内地方	28.2	33.3	21.7
	東北地方	4.7	7.2	9.9
	その他	7.8	9.9	10.1
父	鶴岡市	46.1	36.3	50.1
	庄内地方	40.6	48.4	29.9
	東北地方	7.0	9.2	11.6
	その他	6.4	6.1	8.4
母	鶴岡市	39.5	31.7	43.0
	庄内地方	47.0	52.1	39.3
	東北地方	7.9	7.0	10.4
	その他	5.5	9.2	7.4
配偶者	鶴岡市	30.8	34.4	42.7
	庄内地方	24.1	26.5	21.0
	東北地方	5.4	6.8	4.9
	その他	4.8	4.8	8.4
	配偶者無し	34.8	27.6	23.0
全体		577人	457人	405人

表 I-2 被調査者、両親、配偶者の出身地

鶴岡市と庄内地方を合算して比較すると87.5% (1950年調査), 83.0% (1971年調査), 80.0% (1991年調査) となり、わずかずつではあるが減少する傾向にある。この傾向は両親についても当てはまり、庄内以外の出身者が少しずつ増えている様子が見えてくる。

3) 被調査者の職業

1971年調査で大幅に増加した給与生活者が1991年調査では若干減少し、代わりに、工員・大工・運転手といった、いわゆるブルーカラーが増加している。

また、主婦はわずかながら減少傾向にあり、日雇い・パートが幾分増加している。

表 I-3 被調査者の職業

	1950年	1971年	1991年
	%	%	%
給与生活者	18.9	43.8	39.0
商店主・工場主	12.1	10.3	7.7
工員・大工・運転手	14.4	4.4	14.6
日雇い・パート	2.3	3.9	6.9
農業・漁業	2.3	0.4	1.2
主婦	27.0	13.3	8.9
学生	11.8	12.0	10.1
無職・その他	10.9	11.8	11.6
	577人	457人	405人

表 I-4 被調査者の職業 (職業分類)

	1950年	1971年	1991年
	%	%	%
専門的・技術的職業	5.9	9.8	14.8
管理的職業	0.3	5.5	4.7
事務	9.7	14.7	10.4
販売	11.1	13.3	9.6
農林漁業	2.4	0.7	1.5
運輸通信	1.4	2.2	2.5
技能工・単純労働者	15.6	12.5	16.0
保安・サービス業	2.8	1.3	0.7
サービス業	0.5	2.8	4.4
主婦・学生・無職	50.3	37.2	35.3
	577人	457人	405人

表 I-5 被調査者の職業（産業分類）

	1950年	1971年	1991年
	%	%	%
農・林・漁業	2.8	0.9	1.2
建設業	2.3	3.5	3.7
製造業	14.4	10.1	14.6
卸売・小売業	10.7	14.9	14.6
金融・保険・不動産業	0.7	4.2	2.7
運輸・通信業	3.8	6.6	3.7
電気・ガス・水道業	0.3	0.7	0.7
サービス業	10.4	18.8	21.0
公務員	2.8	3.3	4.4
主婦・学生・無職・不明	51.8	37.2	33.3
	577人	457人	405人

職業分類（表 I-4）では専門的・技術的職業、技能工・単純労働者が増加し、事務、販売がわずかながら減少している。一方、産業分類（表 I-5）では若干ではあるが、製造業、サービス業が増加し、運輸・通信業が増加している。

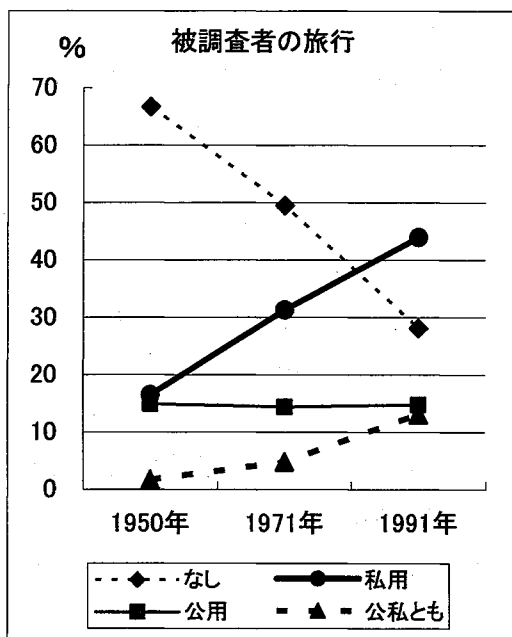


図 I-7 被調査者の旅行の経験

4) 他地域との交流

図 I-7 は、調査の直近の半年間に旅行をしたことが有るか無いかについて3回の調査を比較したグラフである。1950年当時70%近くの人が半年間に旅行を一回も経験していないのに対し、1991年調査では旅行をしたことがない人は30%を下回り、公私を合わせると70%以上の方が旅行をしたと回答している。旅行をしたことのある人の中で、増加が目立つのは私用の旅行である。それに対して、公用の旅行だけをした人の割合はこの40年間ほとんど変化していない。

行き先では東京方面(29.9%)、山形(25.9%)、新潟(17.3%)、秋田(12.6%)、関西(7.4%)の順であった。東京との接触と共通語化のとの間に少なからぬ因果関係が存在するものと思われる。

6. 報告書の編集方針と図表の見方

この報告書では1991年に行われたランダムサンプリング調査の結果を中心に、必要に応じて1950年調査、1971年調査の結果を引用しながら記述を行っている。解説は出来るだけ少なくし、データを提示するのに最低限必要と思われる程度の記述にとどめた。

調査項目については出来る限り全ての項目について結果を提示すよう努めたが、紙幅等の都合により、本報告書には掲載できなかった項目もいくつか残った。

パネル調査のデータは実時間による個人の言語変化の有無を確認できる重要なものであるが、今回は対象地域全体としての変化について報告することを優先し、報告の対象からはずした。また、言語生活調査(郵送留置アンケート調査)についても、本報告書の中心的課題である方言の共通語化以外の言語生活項目を多く含むため、本報告書への

掲載は割愛した。

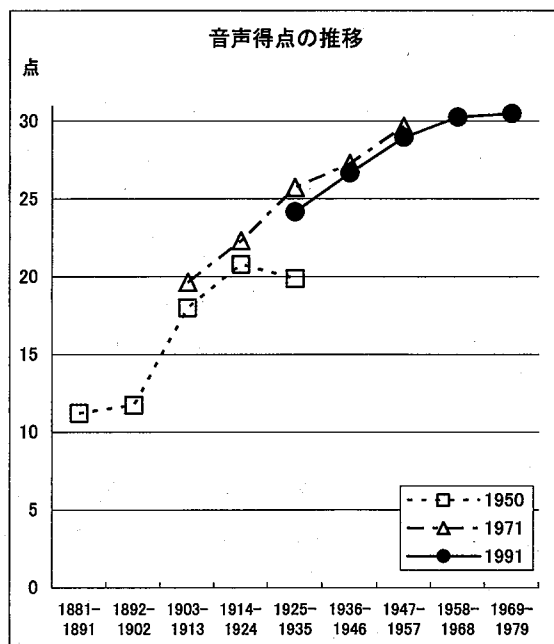
鶴岡調査のデータは、約 20 年間隔で 3 回、40 年の実時間をかけて収集した大変貴重なデータである。したがって、より多くの方に使っていただくため、このデータを Web 上で公開することとし、国立国語研究所のホームページ (<http://www.kokken.go.jp>) からダウンロードできるようにした。そこには、調査で得られた個票データを掲載しており、本報告書に掲載した図表、さらには掲載できなかった図表についても可能な限りアップロードしてある。パネル調査の結果や言語生活調査についても、順次公開する予定である。

本報告書で提示した図表では、2 通りの年齢刻みを用いている点に注意する必要がある。一方は、前回、前々回の報告書で用いられた年齢の刻みと同じもので、15 歳～19 歳、20 歳～24 歳、25 歳～34 歳、35 歳～44 歳、45 歳～54 歳、55 歳～69 歳といった 6 段階の刻みである（この年齢刻みを「報告書刻み」と呼んでいる）。

もう一方は「11 年刻み」と称する刻み幅である。鶴岡調査の被調査者は 15 歳から 69 歳を対象としたため全体で 55 歳の年齢差があるわけであるが、この年齢幅を等間隔に分け 5 段階としたものである。

・グラフの見方：

この年齢刻みを用いて 3 回の調査の年齢差を見ようとした参考図のタイプのグラフが本報告書には多く現れる。通常のグラフと対比すると、低年齢と高年齢が左右逆になっ



参考図 生年別グラフ

ている。「1881-1891」とは、1881 年～1891 年に生まれたグループを意味している（つまり、1950 年調査時点で 59 歳～69 歳にあたる）。このタイプのグラフは横軸 (X-Y 座標の X 軸) が生年を表しているため、グラフの右側にいくにしたがって生年が現在に近く、つまりは年齢の若いグループを示していることになり、ほぼ 100 歳の年齢幅を一望できるグラフになっているわけである。

各グラフはある年齢（生年）集団が見出し欄の回答カテゴリーに示されている語形を選択した者の割合を示している。

図の凡例にあるように □印で結ばれた折れ線グラフは第 1 回調査時点での年齢層別の語形使用率を示している。同様に △印は第 2 回、●印は第 3 回調査時点での年齢層ごとの語形使用率を表示している。

横軸の目盛の真ん中の「1925-1935」集団は、第1回調査、つまり1950年時では15～25歳の年齢層として回答し、1971年の第2回調査時では37～47歳、さらに1991年の第3回調査では56～66歳という年齢集団として答えているのである。つまり、この生年集団の回答結果は、第1回調査では若年齢層の、第2回調査時では中年層の、また第3回調査時では高年齢層の言語使用・言語意識を指し示すデータとなっている。しかし、このデータは、同時に「(出生) コーホート」データとなっているので、時代効果、加齢効果を配慮しなければならない通常のデータから得られない多くの情報を入手しうるものとなっている。

なお、調査間隔の違いや調査月のずれなどの影響で各年度の値を生年軸上の正確な位置にはプロットすることが困難である。本報告書では長期にわたる傾向を視覚的に捉えるため11年刻みの生年別グラフを提示することにする。

鶴岡における3回の調査結果(折れ線グラフ)をすべて一続きの折れ線グラフと見立てることができなくはないといえよう。もっとも、われわれの被調査者たちのうちで最も先に生まれた1881年生まれの人々は第3回調査段階では110歳となっており、生存者はゼロではないにしても調査対象者となっていないので、折れ線を繋ぐということはあくまで一定の仮定のもとでの作業にすぎない。しかし、そのように考えると、ここで示す各図は鶴岡におけるほぼ100年の言語変化の傾向を現しているとみなすことができよう。

【参考文献】

- 国立国語研究所(1953)『地域社会の言語生活－鶴岡における実態調査－』(国立国語研究所報告5), 秀英出版
- 国立国語研究所(1974)『地域社会の言語生活－鶴岡における20年前との比較－』(国立国語研究所報告52), 秀英出版
- 国立国語研究所(1994)『鶴岡方言の記述的研究－第3次鶴岡調査 報告1』(国立国語研究所報告109-1), 秀英出版
- 国立国語研究所(2006)『方言使用の場面的多様性－鶴岡市における場面差調査から－』(内部資料)
- 米田正人(1993)「鶴岡市における共通語化の調査－約20年間隔で行われた3回の調査を比較して－」『日本方言研究会第56回研究発表会発表原稿集』, pp.17-24
- YONEDA Masato 1997, Survey of Standardisation in Tsuruoka, Japan: Comparison of results from three surveys conducted at 20-year intervals. 『日本語科学』2, pp.24-38

II 音声項目

1. 音声項目

1.1 音声項目の内容

音声項目は全部で31項目である。その内訳は次のとおり（括弧内の数字は調査票の項目番号）。

(1) 唇音性 I（合拗音 kwa の有無を見る項目）

「西瓜」（すいか）の「か」（216）／「火曜日」（かようび）の「か」（217）

(2) 唇音性 II（ハ行における両唇音の有無を見る項目）

「髭」（ひげ）の「ひ」（202）／「蛇」（へび）の「へ」（208）／「百」（ひゃく）の「ひゃ」（218）

(3) 口蓋化（「せ」「ぜ」における口蓋化の有無を見る項目）

「背中」（せなか）の「せ」（203）／「汗」（あせ）の「せ」（204）／「税務署」（ぜいむしょ）の「ぜ」（219）

(4) 有声化（非語頭におけるカ行・タ行の有声化の有無を見る項目）

「口」（くち）の「ち」（201）／「蜂」（はち）の「ち」（205）／「鳩」（はと）の「と」（206）／「猫」（ねこ）の「こ」（207）／「旗」（はた）の「た」（210）／「靴」（くつ）の「つ」（213）／「柿」（かき）の「き」（214）／「松」（まつ）の「つ」（215）

(5) 鼻音化（非語頭におけるザ行・ダ行・バ行の直前の入りわたり鼻音の有無を見る項目）

「窓」（まど）の「ど」（209）／「鈴」（すず）の「ず」（211）／「帯」（おび）の「び」（212）

(6) 中舌化 I（ウ段音における中舌化の有無を見る項目）

「地図」（ちず）の「ず」（225）／「墨」（すみ）の「す」（227）／「烏」（からす）の「す」（228）／「狐」（きつね）の「つ」（230）

(7) 中舌化 II（イ段音における中舌化の有無を見る項目）

「知事」（ちじ）の「じ」（224）／「島」（しま）の「し」（226）／「辛子」（からし）の「し」（229）／「団扇」（うちわ）の「ち」（231）

(8) イとエ I（語頭の母音エにおける狭母音化の有無を見る項目）

「駅」（えき）の「え」（221）／「煙突」（えんとつ）の「エ」（223）

(9) イとエ II（語頭の母音イにおける広母音化の有無を見る項目）

「息」（いき）の「い」（220）／「糸」（いと）の「い」（222）

1.2 音声項目全体の共通語化

表Ⅱ-1・図Ⅱ-1は共通語得点（共通語音声で発音した得点。満点は31点）の平均値を示したものである。それぞれのインフォーマントが共通語の音声で発音すれば1点、方言的発音であれば0点を与えている。

図Ⅱ-1からうかがえるように、1950年調査と1971年調査の間の共通語化の度合いが著しい。最若年層（15歳～25歳）では1971年調査においてすでに100%近く共通語化している（のちに述べるように、これは、むしろ「共通語使用能力を獲得している」とみるべきである）。

表Ⅱ-1によれば、最高年層（59歳～69歳）は1950年には11.2点、1971年には19.6点、1991年には24.2点を獲得しており、40年の間に共通語得点が2倍以上増加している。また、どの年齢層を見ても、1950年～1971年の増加率が、1971年～1991年の増加率よりも大きい。音声に関しては、前者の期間に共通語化（厳密に言えば共通語使用能力）が大きく進んだことが分かる。

なお、表Ⅱ-2・図Ⅱ-2からうかがえるように、同一世代（同じ年代に生まれた世代）の20年間における共通語得点の増加率は全般的に小さい。これは、同じ人は歳月を経ても（少なくとも鶴岡調査の音声項目に関しては）ほとんど共通語化しなかった場合が多いことを意味している。しかし、1925年～1935年生まれ世代（1950年調査における最若年層＝1991年調査における最高年層）は1950年から1971年にかけて5.8ポイント共通語得点が増加していることが注目される。これは、鶴岡において共通語化が最も進んだ時期には、若年層の中には同じ人で20年間に音声の共通語化が進んだ者が少なからず存在することを示唆するものと言えよう。

1.3 音声分野別の共通語化

1.3.1 唇音性Ⅰ（合拗音 kwa の有無を見る項目）

1971年以降の共通語率が大きい。1971年以降では、すべての年齢層（若年層～高年層）の共通語率（非唇音率）が90%以上である。とくに48歳以上の年齢層の1950年～1971年の間における共通語化が著しいことが表Ⅱ-3から読み取れる。

「西瓜」と「火曜日」を比較すると、「西瓜」の「か」の方が大きく変化（共通語化）している（「火曜日」は1950年調査の段階で「西瓜」より共通語率が大きいので、変化率は小さい）。

また、「西瓜」については、同一世代でも20年または40年間に共通語化が進んでいる（すなわち同じ人で20年または40年間に共通語化が進んだ場合がかなりある）ことが注目される。

1.3.2 唇音性Ⅱ（ハ行における両唇音の有無を見る項目）

唇音性Ⅰ（合拗音）に比べて、全体としては共通語化率が小さい。しかし、1971年調査では36歳以下、1991年調査では58歳以下の年齢層が90%以上の共通語率を示している。

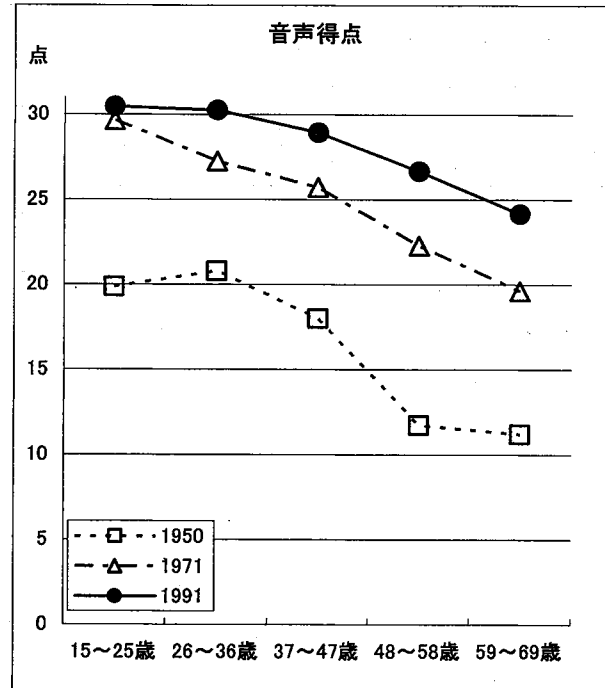
「髭」「蛇」「百」を比較すると、1991年調査では「蛇」の「へ」が最も共通語化が進んでいる。また、「蛇」の場合、同一世代における20年間（または40年間）の変化

がきわめて大きく、とくに1903～1913年生まれの世代では、20年間の変化率が38.2%という高い数値であることが注目される。「百」と「髭」についても同一世代における20年間の変化がある程度認められる。

・音声得点—共通語音声で発音した得点

表Ⅱ-1 音声得点(11年刻み)

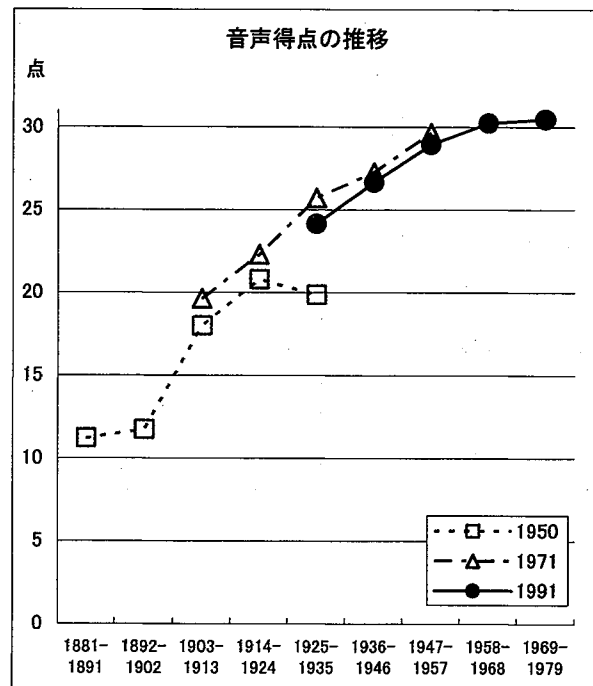
	1950	1971	1991
15～25歳	19.9	29.7	30.5
26～36歳	20.8	27.3	30.3
37～47歳	18.0	25.7	28.9
48～58歳	11.7	22.3	26.7
59～69歳	11.2	19.6	24.2



図Ⅱ-1 音声得点(11年刻み)

表Ⅱ-2 音声得点(生年別)

	1950	1971	1991
1881-1891	11.2		
1892-1902	11.7		
1903-1913	18.0	19.6	
1914-1924	20.8	22.3	
1925-1935	19.9	25.7	24.2
1936-1946		27.3	26.7
1947-1957		29.7	28.9
1958-1968			30.3
1969-1979			30.5



図Ⅱ-2 音声得点(生年別)

・唇音性 I - 合拗音 kwa の有無を見る項目

表 II-3 非唇音 (共通語) 率 I (11 年刻み)

	1950	1971	1991
15~25歳	88.5	100.0	99.3
26~36歳	84.8	99.5	100.0
37~47歳	82.6	96.8	97.4
48~58歳	68.9	97.1	97.0
59~69歳	66.0	94.1	93.4

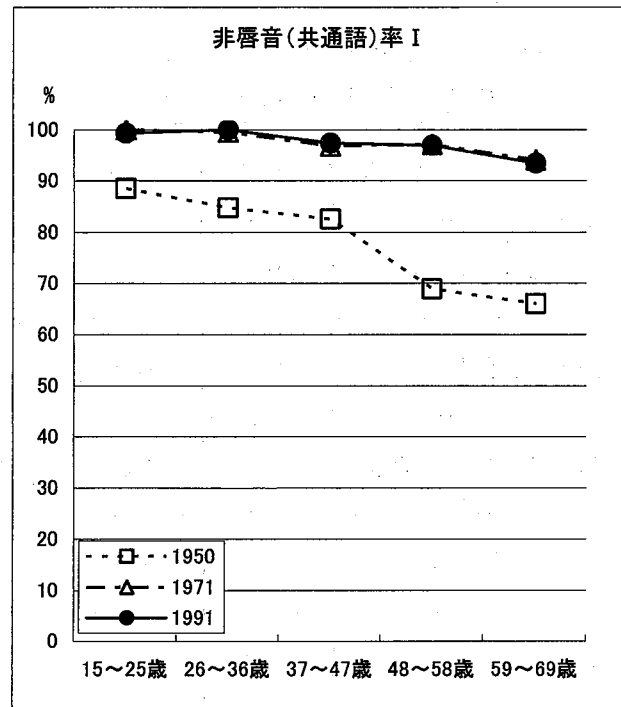


図 II-3 非唇音 (共通語) 率 I (11 年刻み)

表 II-4 非唇音 (共通語) 率 I (生年別)

	1950	1971	1991
1881-1891	66.0		
1892-1902	68.9		
1903-1913	82.6	94.1	
1914-1924	84.8	97.1	
1925-1935	88.5	96.8	93.4
1936-1946		99.5	97.0
1947-1957		100.0	97.4
1958-1968			100.0
1969-1979			99.3

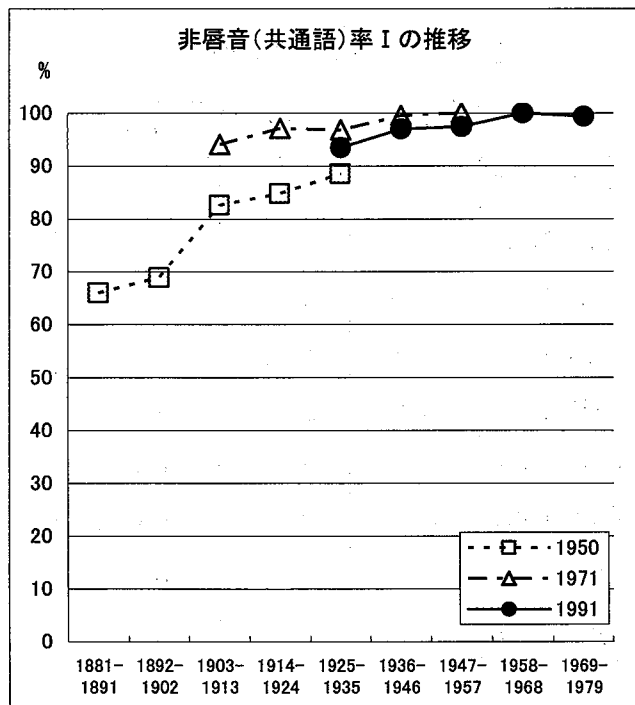


図 II-4 非唇音 (共通語) 率 I (生年別)

表 II-5 216.西瓜(スイカ)[k]

	1950	1971	1991
15~25歳	77.1	100.0	98.6
26~36歳	73.9	99.0	100.0
37~47歳	72.9	94.5	94.7
48~58歳	55.6	95.7	93.9
59~69歳	56.0	91.5	88.2

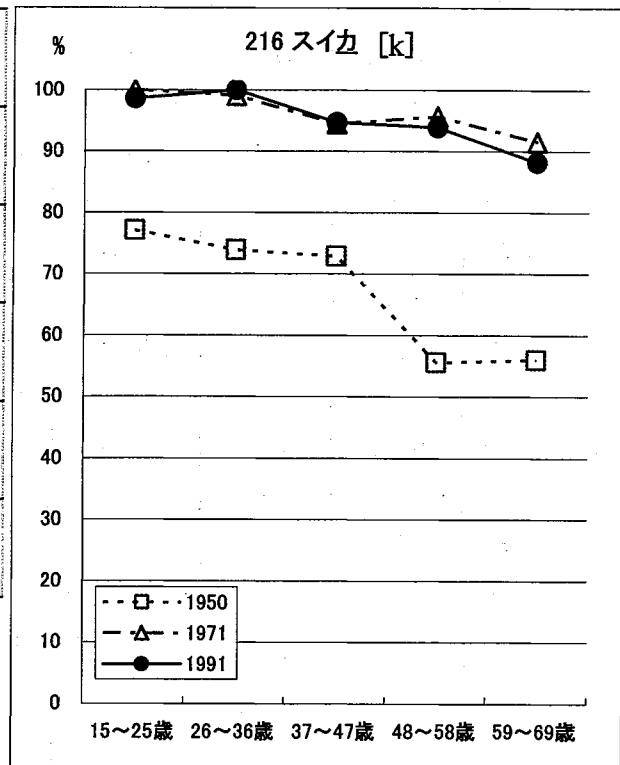


図 II-5 216.西瓜(スイカ)[k]

表 II-6 216.西瓜(スイカ)[k]

	1950	1971	1991
1881-1891	56.0		
1892-1902	55.6		
1903-1913	72.9	91.5	
1914-1924	73.9	95.7	
1925-1935	77.1	94.5	88.2
1936-1946		99.0	93.9
1947-1957		100.0	94.7
1958-1968			100.0
1969-1979			98.6

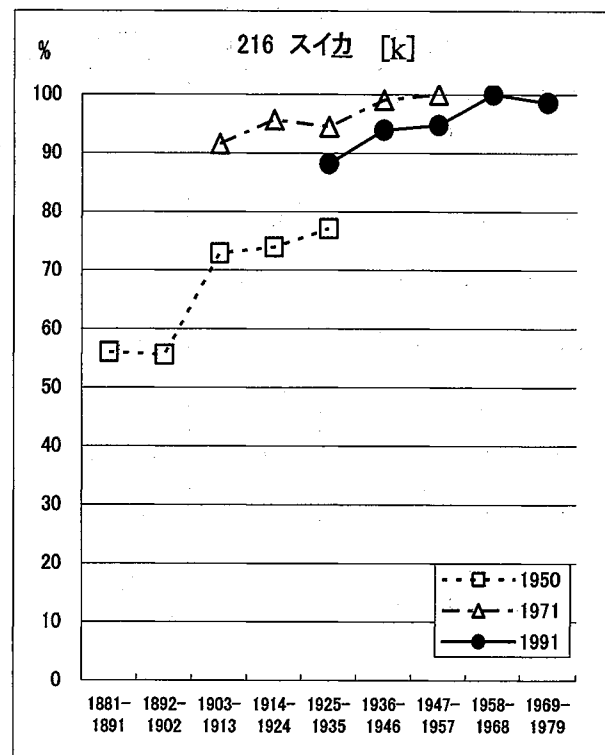


図 II-6 216.西瓜(スイカ)[k]

表 II-7 217.火曜日 (カヨウビ) [k]

	1950	1971	1991
15~25歳	100.0	100.0	100.0
26~36歳	95.7	100.0	100.0
37~47歳	92.2	99.1	100.0
48~58歳	82.2	98.6	100.0
59~69歳	76.0	96.6	98.7

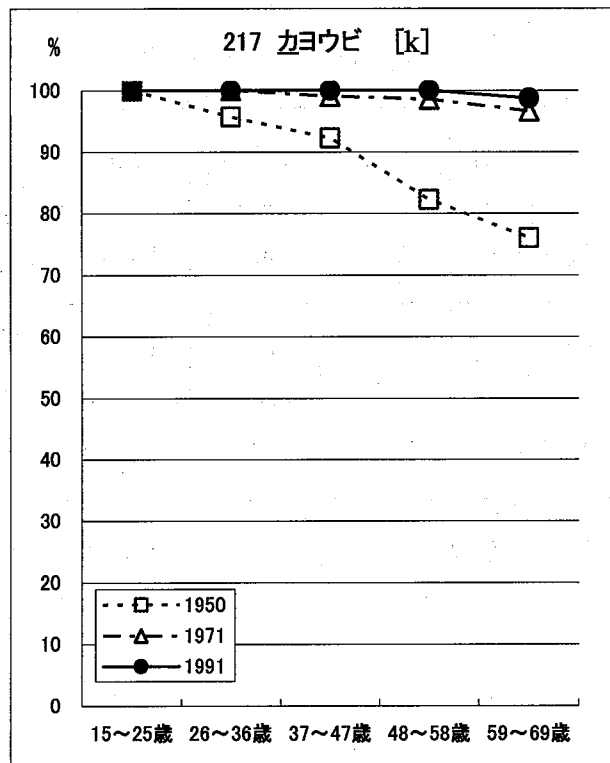


図 II-7 217.火曜日 (カヨウビ) [k]

表 II-8 217.火曜日 (カヨウビ) [k]

	1950	1971	1991
1881-1891	76.0		
1892-1902	82.2		
1903-1913	92.2	96.6	
1914-1924	95.7	98.6	
1925-1935	100.0	99.1	98.7
1936-1946		100.0	100.0
1947-1957		100.0	100.0
1958-1968			100.0
1969-1979			100.0

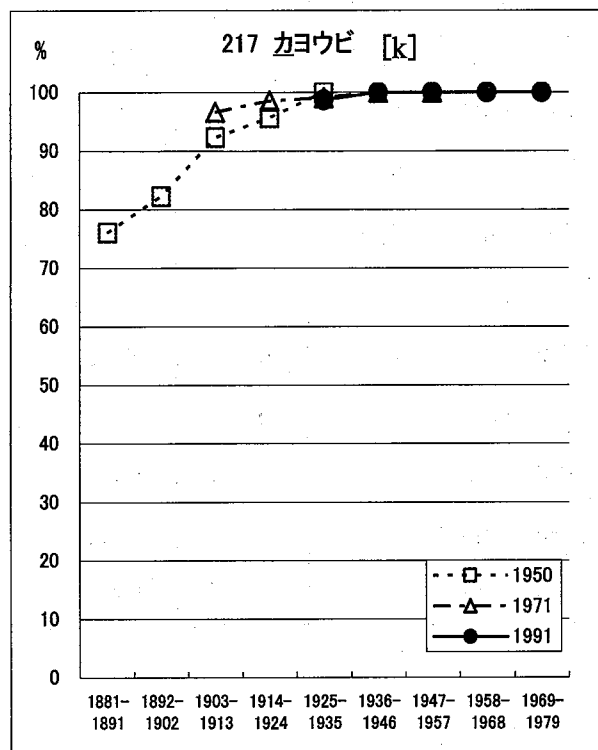


図 II-8 217.火曜日 (カヨウビ) [k]

・唇音性 II - ハ行における両唇音の有無を見る項目

表 II-9 非唇音（共通語）率 II（11年刻み）

	1950	1971	1991
15～25歳	60.4	100.0	99.5
26～36歳	57.2	93.0	99.2
37～47歳	41.9	83.8	98.6
48～58歳	17.4	70.0	92.7
59～69歳	16.0	62.7	74.6

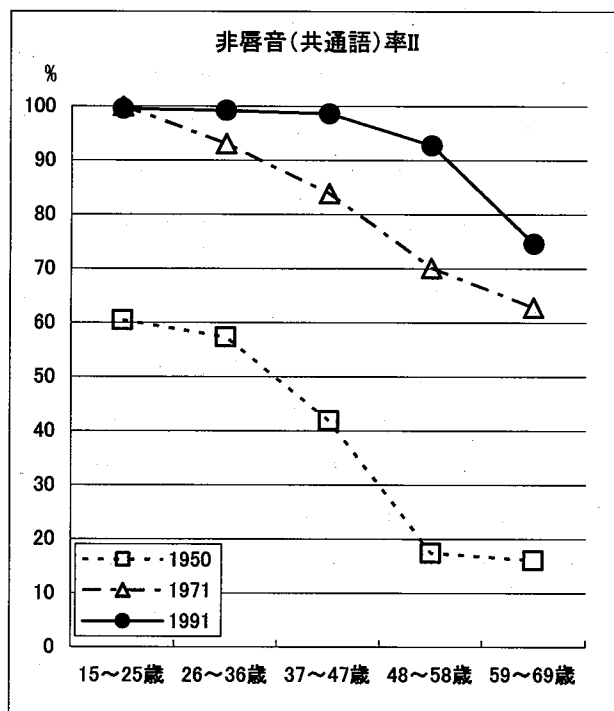


図 II-9 非唇音（共通語）率 II（11年刻み）

表 II-10 非唇音（共通語）率 II（生年別）

	1950	1971	1991
1881-1891	16.0		
1892-1902	17.4		
1903-1913	41.9	62.7	
1914-1924	57.2	70.0	
1925-1935	60.4	83.8	74.6
1936-1946		93.0	92.7
1947-1957		100.0	98.6
1958-1968			99.2
1969-1979			99.5

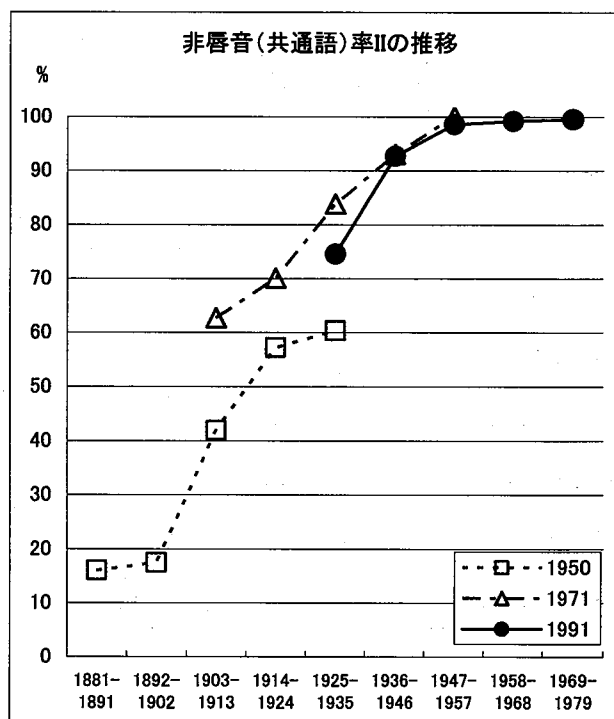
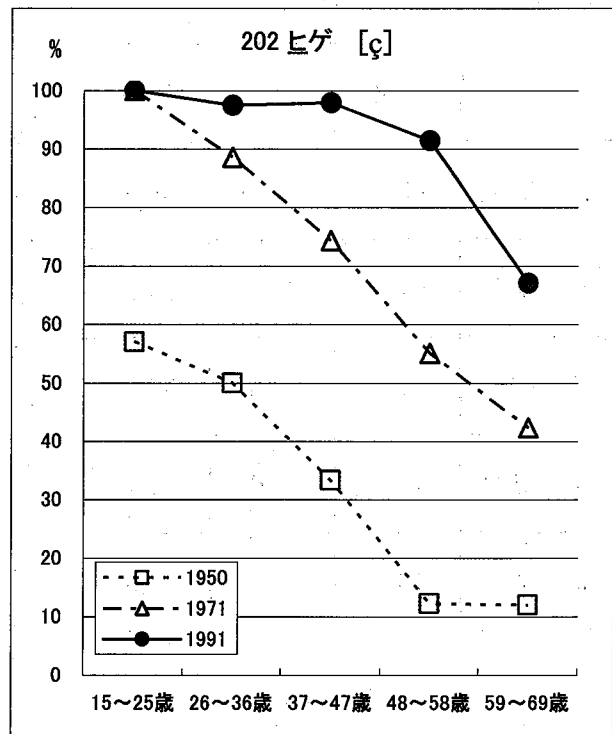


図 II-10 非唇音（共通語）率 II（生年別）

表Ⅱ-11 202.髭(ヒゲ)[ç]

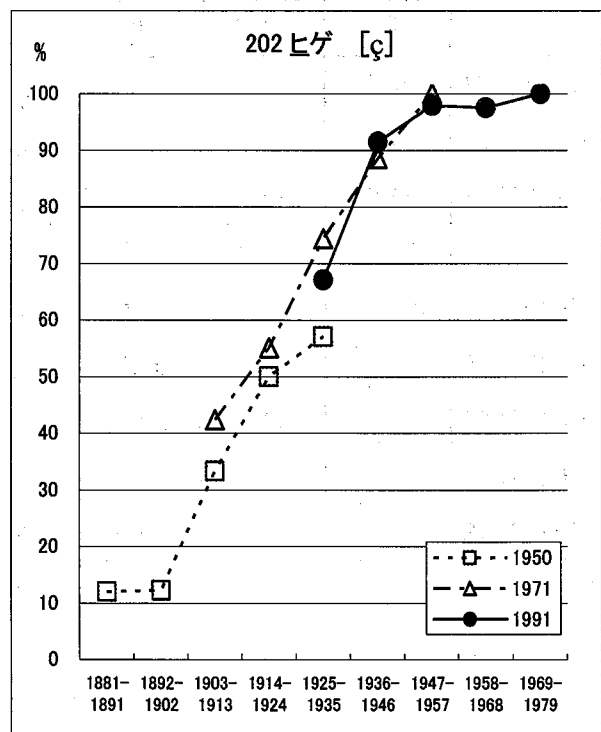
	1950	1971	1991
15~25歳	57.1	100.0	100.0
26~36歳	50.0	88.6	97.5
37~47歳	33.3	74.3	97.9
48~58歳	12.2	55.1	91.5
59~69歳	12.0	42.4	67.1



図Ⅱ-11 202.髭(ヒゲ)[ç]

表Ⅱ-12 202.髭(ヒゲ)[ç]

	1950	1971	1991
1881-1891	12.0		
1892-1902	12.2		
1903-1913	33.3	42.4	
1914-1924	50.0	55.1	
1925-1935	57.1	74.3	67.1
1936-1946		88.6	91.5
1947-1957		100.0	97.9
1958-1968			97.5
1969-1979			100.0



図Ⅱ-12 202.髭(ヒゲ)[ç]

表 II-13 208.蛇(へビ)[x]

	1950	1971	1991
15~25歳	64.1	100.0	100.0
26~36歳	64.5	97.1	100.0
37~47歳	46.5	93.6	100.0
48~58歳	22.2	89.9	93.9
59~69歳	20.0	84.7	88.2

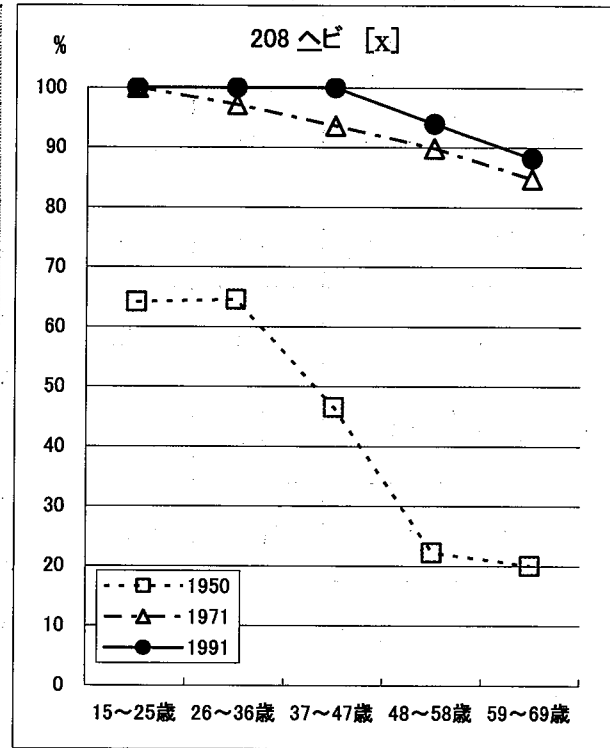


図 II-13 208.蛇(へビ)[x]

表 II-14 208.蛇(へビ)[x]

	1950	1971	1991
1881-1891	20.0		
1892-1902	22.2		
1903-1913	46.5	84.7	
1914-1924	64.5	89.9	
1925-1935	64.1	93.6	88.2
1936-1946		97.1	93.9
1947-1957		100.0	100.0
1958-1968			100.0
1969-1979			100.0

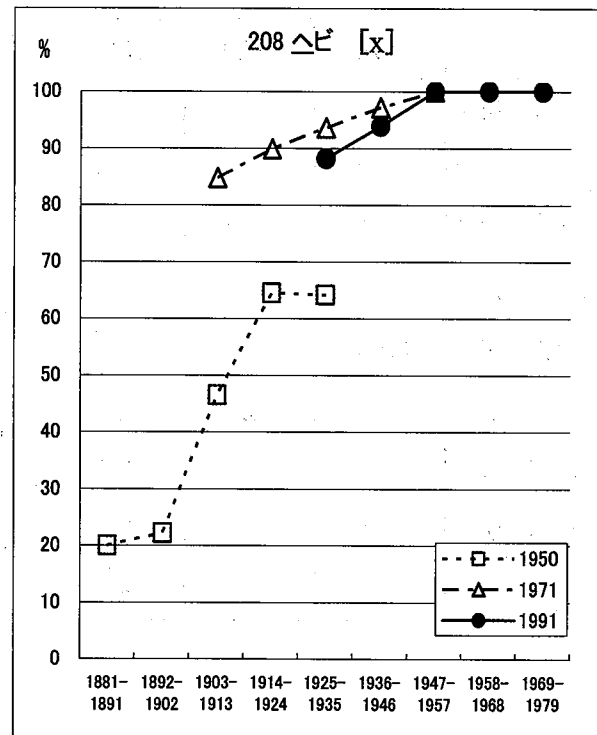


図 II-14 208.蛇(へビ)[x]

表 II-15 218.百(ヒヤク)[ç]

	1950	1971	1991
15~25歳	60.0	100.0	98.6
26~36歳	57.2	93.3	100.0
37~47歳	45.7	83.5	97.9
48~58歳	17.8	65.2	92.7
59~69歳	16.0	61.0	68.4

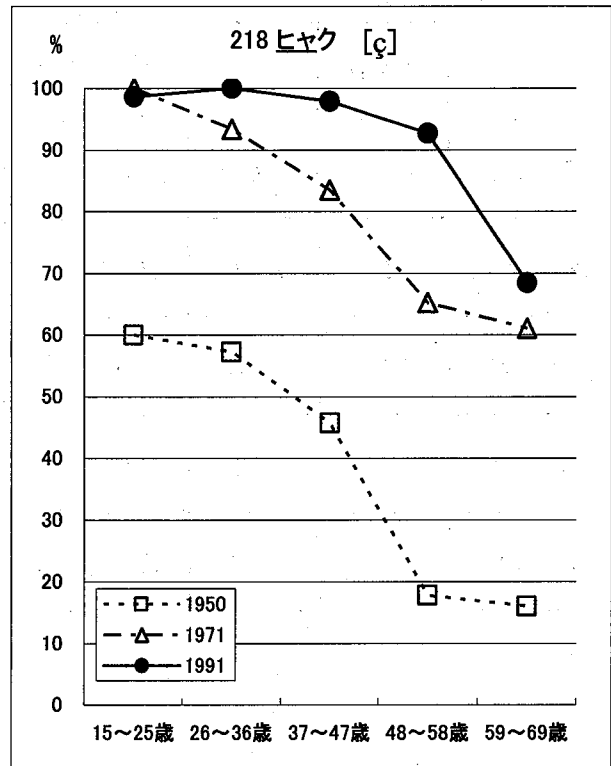


図 II-15 218.百(ヒヤク)[ç]

表 II-16 218.百(ヒヤク)[ç]

	1950	1971	1991
1881-1891	16.0		
1892-1902	17.8		
1903-1913	45.7	61.0	
1914-1924	57.2	65.2	
1925-1935	60.0	83.5	68.4
1936-1946		93.3	92.7
1947-1957		100.0	97.9
1958-1968			100.0
1969-1979			98.6

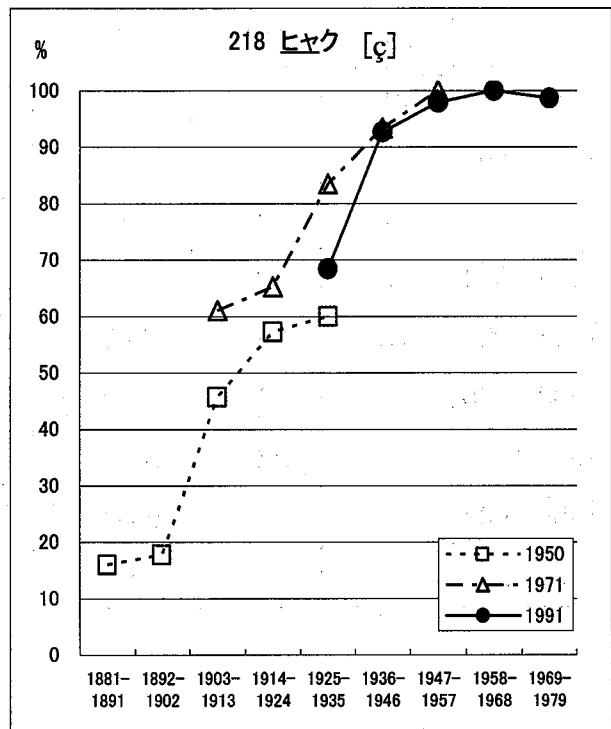


図 II-16 218.百(ヒヤク)[ç]

1.3.3 口蓋化（「せ」「ぜ」における口蓋化の有無を見る項目）

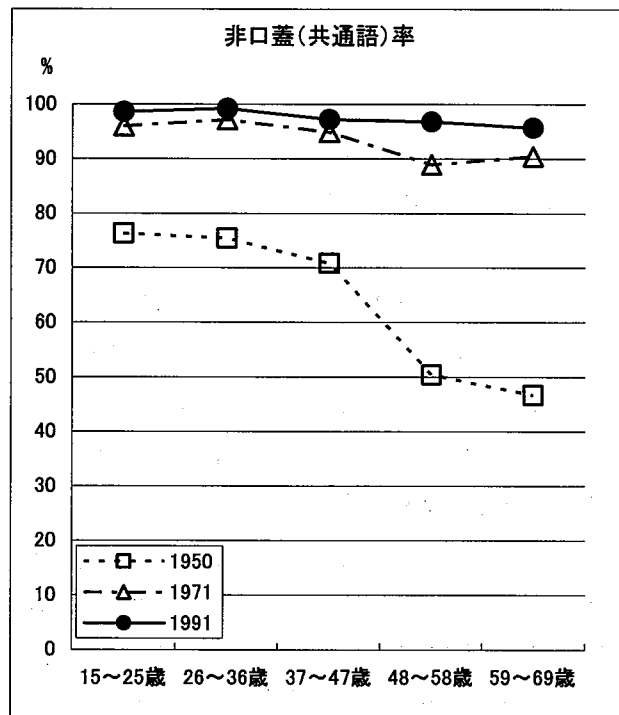
1971年以降の共通語率が大きく、1971年・1991年調査では、ほとんどの年齢層が90%以上の共通語率を示している（表II-17）。また、1950年～1971年の20年の間に、同一世代における一定の変化が、3世代（1903-1913, 1914-1924, 1925-1935）のすべてについて認められる（表II-18・図II-18）。

「背中」「汗」「税務署」の3項目間の差は小さいが、同一世代における変化率を見ると、「税務署」の場合のみ3世代とも20年間の差がきわめて大きい（約40%前後も変化している）ことが注目される。なぜ「背中」と「汗」は同一世代における変化がほとんど見られず、「税務署」にのみ大きい変化が認められるのか、その理由は分からない。「税務署」は公用語的であらたまった場面や書き言葉として使われやすいこと、漢語であること、「汗」「背中」に比べると日常性が低いことなどがその要因として考えられるが、この点に関しては慎重な検討が必要であろう。

・口蓋化－「せ」「ぜ」における口蓋化の有無を見る項目

表II-17 非口蓋(共通語)率(11年刻み)

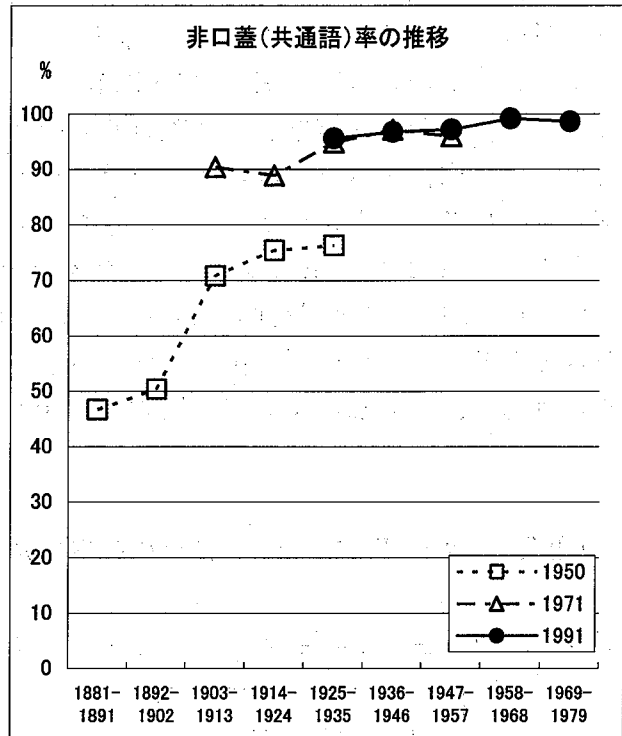
	1950	1971	1991
15～25歳	76.3	95.9	98.6
26～36歳	75.4	97.1	99.2
37～47歳	70.8	94.8	97.2
48～58歳	50.4	88.9	96.7
59～69歳	46.7	90.4	95.6



図II-17 非口蓋(共通語)率(11年刻み)

表Ⅱ-18 非口蓋(共通語)率(生年別)

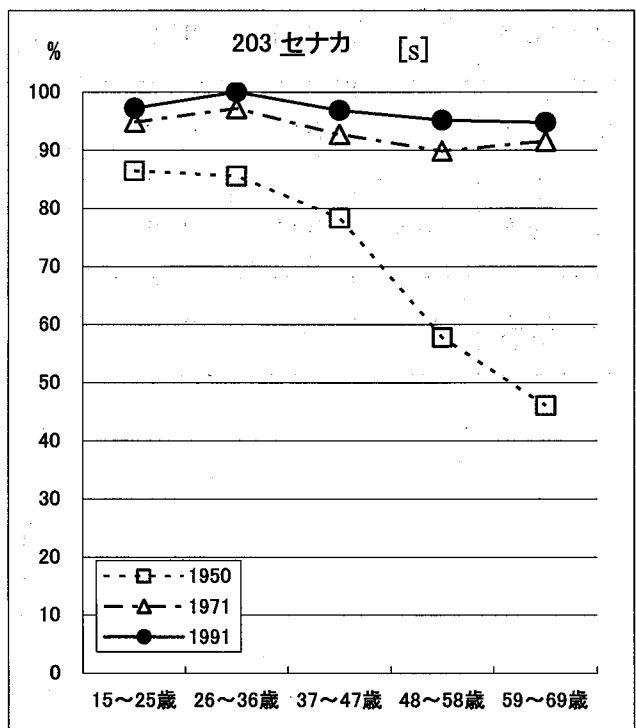
	1950	1971	1991
1881-1891	46.7		
1892-1902	50.4		
1903-1913	70.8	90.4	
1914-1924	75.4	88.9	
1925-1935	76.3	94.8	95.6
1936-1946		97.1	96.7
1947-1957		95.9	97.2
1958-1968			99.2
1969-1979			98.6



図Ⅱ-18 非口蓋(共通語)率(生年別)

表Ⅱ-19 203.背中(セナカ)[s]

	1950	1971	1991
15~25歳	86.5	94.8	97.2
26~36歳	85.5	97.1	100.0
37~47歳	78.3	92.7	96.8
48~58歳	57.8	89.9	95.1
59~69歳	46.0	91.5	94.7



図Ⅱ-19 203.背中(セナカ)[s]

表 II-20 203.背中(セナカ)[s]

	1950	1971	1991
1881-1891	46.0		
1892-1902	57.8		
1903-1913	78.3	91.5	
1914-1924	85.5	89.9	
1925-1935	86.5	92.7	94.7
1936-1946		97.1	95.1
1947-1957		94.8	96.8
1958-1968			100.0
1969-1979			97.2

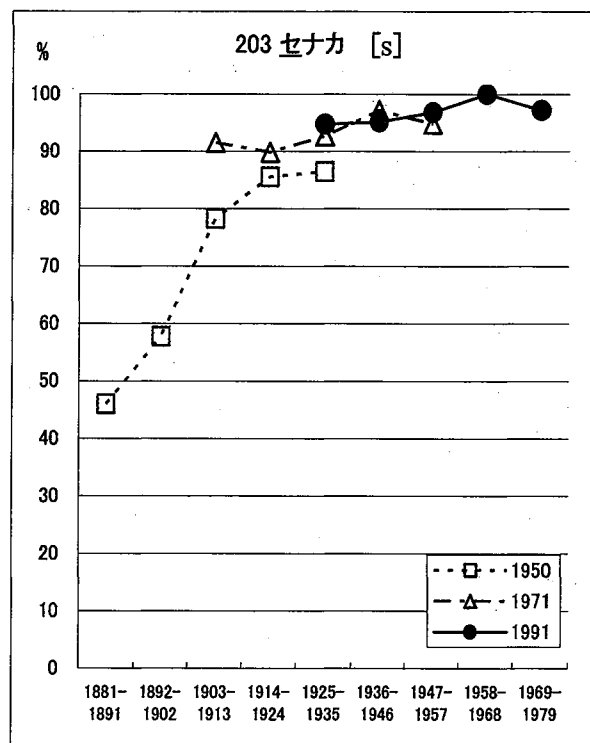


図 II-20 203.背中(セナカ)[s]

表 II-21 204.汗(アセ)[s]

	1950	1971	1991
15~25歳	85.3	93.0	100.0
26~36歳	89.1	95.2	97.5
37~47歳	82.9	93.6	95.8
48~58歳	65.6	87.0	98.8
59~69歳	52.0	89.8	93.4

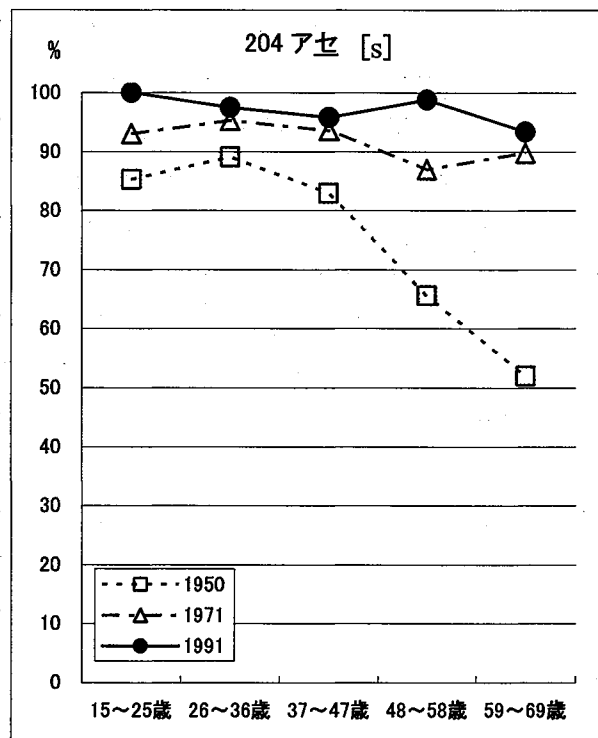
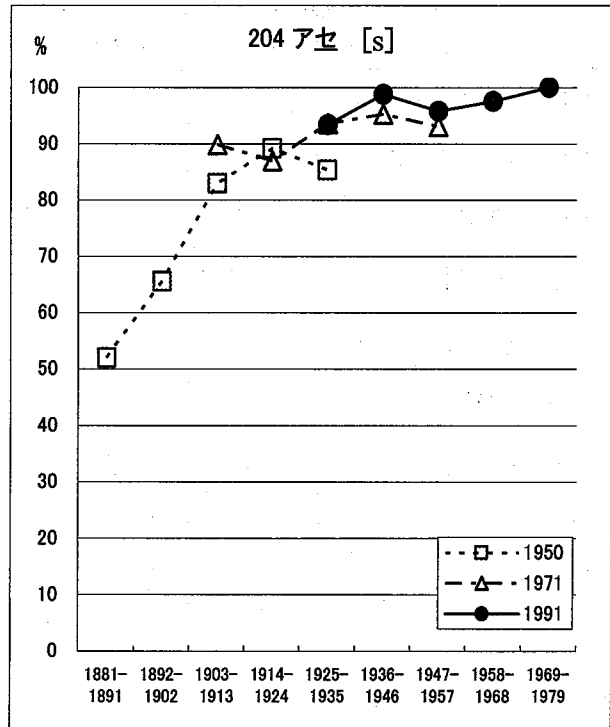


図 II-21 204.汗(アセ)[s]

表Ⅱ-22 204.汗(アセ)[s]

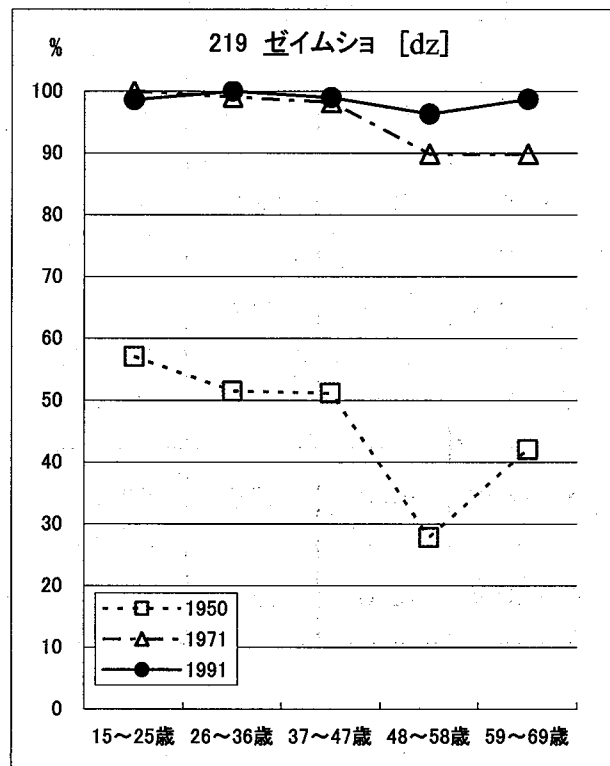
	1950	1971	1991
1881-1891	52.0		
1892-1902	65.6		
1903-1913	82.9	89.8	
1914-1924	89.1	87.0	
1925-1935	85.3	93.6	93.4
1936-1946		95.2	98.8
1947-1957		93.0	95.8
1958-1968			97.5
1969-1979			100.0



図Ⅱ-22 204.汗(アセ)[s]

表Ⅱ-23 219.税務署(ゼイムシヨ)[dz]

	1950	1971	1991
15~25歳	57.1	100.0	98.6
26~36歳	51.4	99.0	100.0
37~47歳	51.2	98.2	98.9
48~58歳	27.8	89.9	96.3
59~69歳	42.0	89.8	98.7



図Ⅱ-23 219.税務署(ゼイムシヨ)[dz]

表 II-24 219.税務署(ゼイムシヨ)[dz]

	1950	1971	1991
1881-1891	42.0		
1892-1902	27.8		
1903-1913	51.2	89.8	
1914-1924	51.4	89.9	
1925-1935	57.1	98.2	98.7
1936-1946		99.0	96.3
1947-1957		100.0	98.9
1958-1968			100.0
1969-1979			98.6

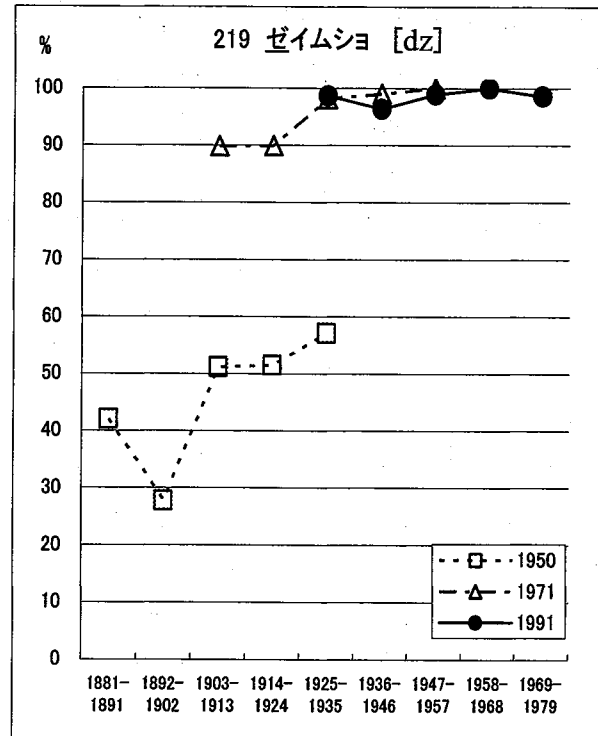


図 II-24 219.税務署(ゼイムシヨ)[dz]

1.3.4 有声化 (非語頭におけるカ行・タ行の有声化の有無を見る項目)

1971年調査の段階でも中・高年層に方言音声(有声音)がある程度認められるが、1991年調査ではすべての年齢層が90%以上の共通語率を示している。1950年から1971年にかけての変化(共通語化)が顕著であり、1950年における最若年層と1971年における最高年層がほぼ同じ数値を示している。

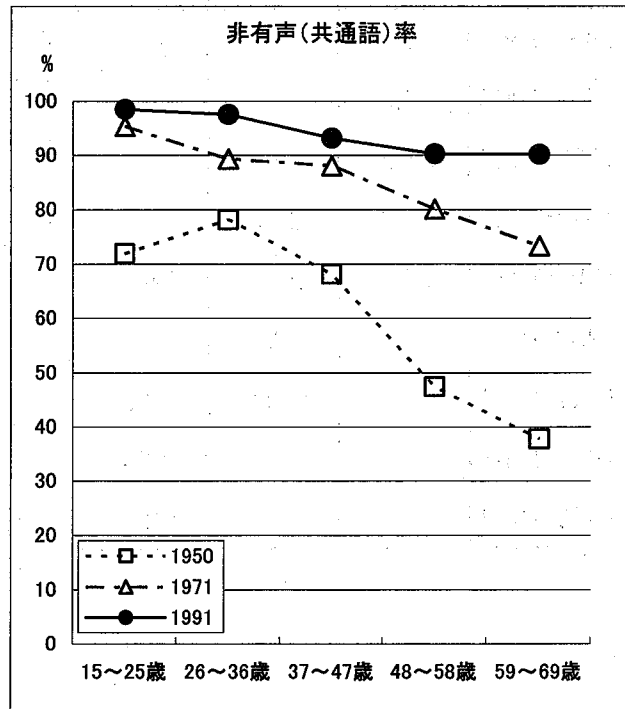
同一世代における20年間の変化(共通語化)は1925~1935年生まれの世代(1950年調査における最若年層)の1950年調査と1971年調査の間に顕著に認められる(表II-26・図II-26)。ただし、これは1950年調査で最若年層(15歳~25歳)における共通語率の数値が、その直前の年齢層(26歳~36歳)より6.3ポイント低下するという、一見奇妙な現象(すなわち、最若年層の方言音声化)が認められることによる(表II-25)。その要因は不明である。この現象は有声化項目(7項目)のすべてについて認められる。

共通語化のパターンについては、項目間に大きな差は見られない。しかし、同一世代における変化(共通語化)が3世代のすべてについて比較的顕著に認められる項目は、「柿」「松」「鳩」の項目である。

・有声化—非語頭におけるカ行・タ行の有声化の有無を見る項目

表Ⅱ-25 非有声(共通語)率(11年刻み)

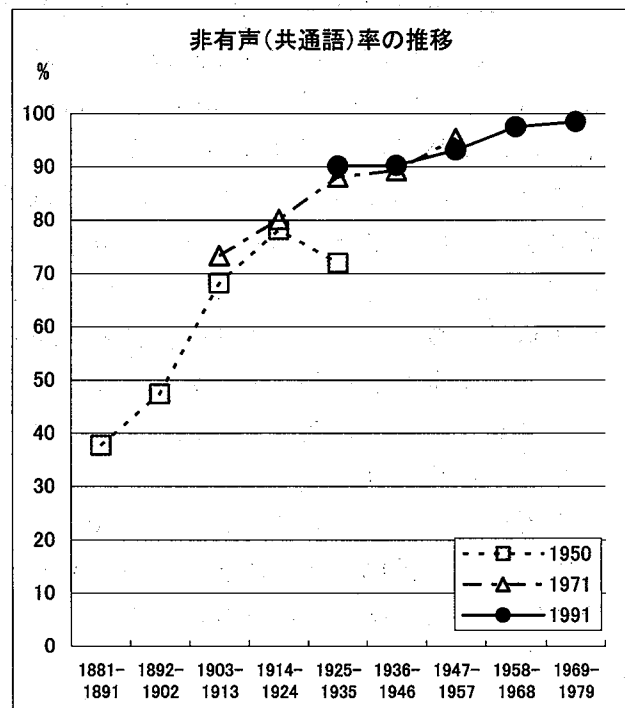
	1950	1971	1991
15~25歳	71.9	95.3	98.4
26~36歳	78.2	89.3	97.5
37~47歳	68.1	88.1	93.2
48~58歳	47.4	80.1	90.2
59~69歳	37.8	73.3	90.1



図Ⅱ-25 非有声(共通語)率(11年刻み)

表Ⅱ-26 非有声(共通語)率(生年別)

	1950	1971	1991
1881-1891	37.8		
1892-1902	47.4		
1903-1913	68.1	73.3	
1914-1924	78.2	80.1	
1925-1935	71.9	88.1	90.1
1936-1946		89.3	90.2
1947-1957		95.3	93.2
1958-1968			97.5
1969-1979			98.4



図Ⅱ-26 非有声(共通語)率(生年別)

表 II-27 214.柿(カキ)[k]

	1950	1971	1991
15~25歳	64.7	96.5	97.2
26~36歳	76.8	92.4	98.8
37~47歳	63.6	93.6	92.6
48~58歳	47.8	82.6	89.0
59~69歳	46.0	76.3	89.5

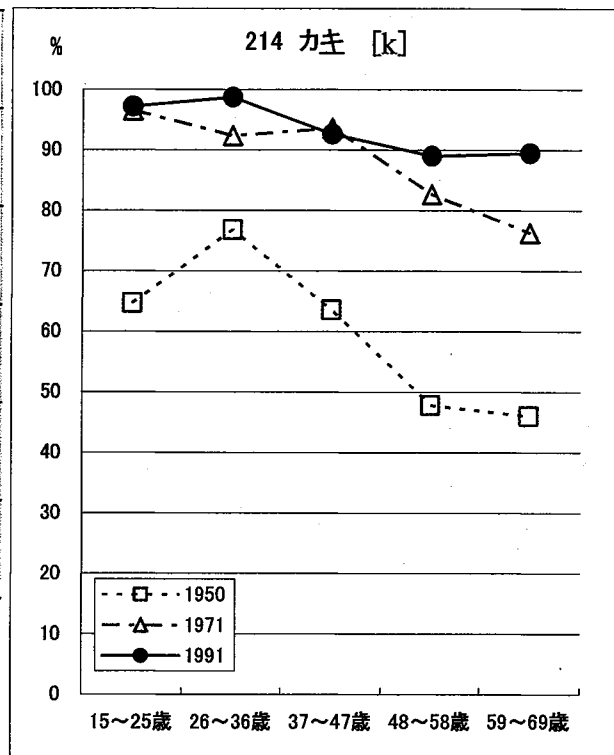


図 II-27 214.柿(カキ)[k]

表 II-28 214.柿(カキ)[k]

	1950	1971	1991
1881-1891	46.0		
1892-1902	47.8		
1903-1913	63.6	76.3	
1914-1924	76.8	82.6	
1925-1935	64.7	93.6	89.5
1936-1946		92.4	89.0
1947-1957		96.5	92.6
1958-1968			98.8
1969-1979			97.2

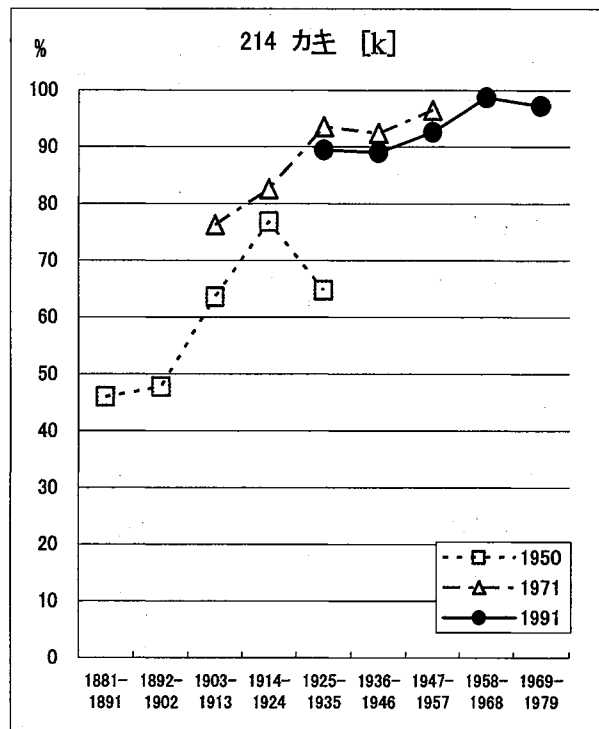


図 II-28 214.柿(カキ)[k]

表 II-29 207.猫(ネコ)[k]

	1950	1971	1991
15~25歳	71.2	92.2	97.2
26~36歳	76.8	86.7	95.0
37~47歳	69.8	86.2	92.6
48~58歳	44.4	75.4	86.6
59~69歳	32.0	62.7	89.5

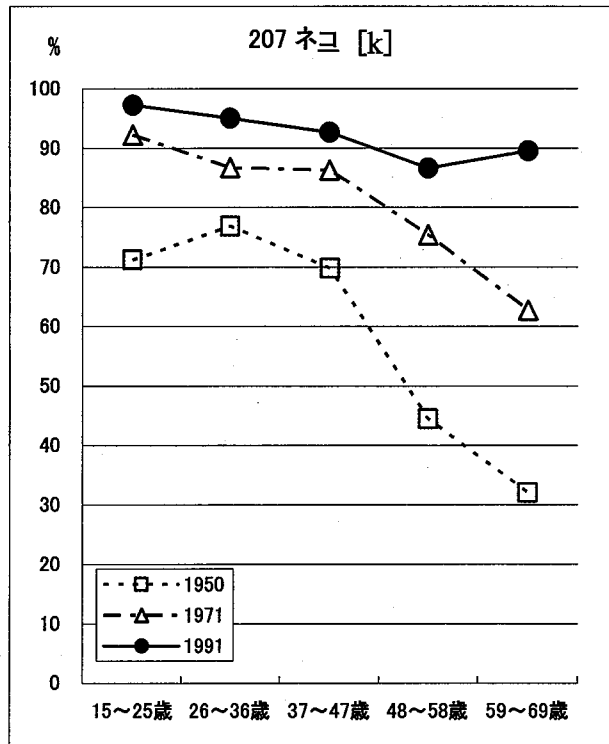


図 II-29 207.猫(ネコ)[k]

表 II-30 207.猫(ネコ)[k]

	1950	1971	1991
1881-1891	32.0		
1892-1902	44.4		
1903-1913	69.8	62.7	
1914-1924	76.8	75.4	
1925-1935	71.2	86.2	89.5
1936-1946		86.7	86.6
1947-1957		92.2	92.6
1958-1968			95.0
1969-1979			97.2

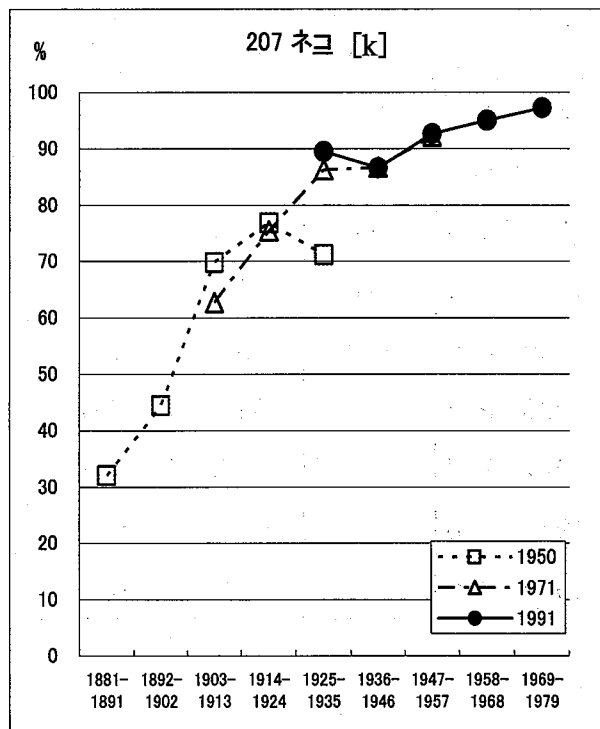


図 II-30 207.猫(ネコ)[k]

表 II-31 210.旗(ハ夕)[t]

	1950	1971	1991
15~25歳	72.4	94.8	98.6
26~36歳	75.4	88.6	98.8
37~47歳	71.3	88.1	94.7
48~58歳	45.6	82.6	89.0
59~69歳	34.0	74.6	90.8

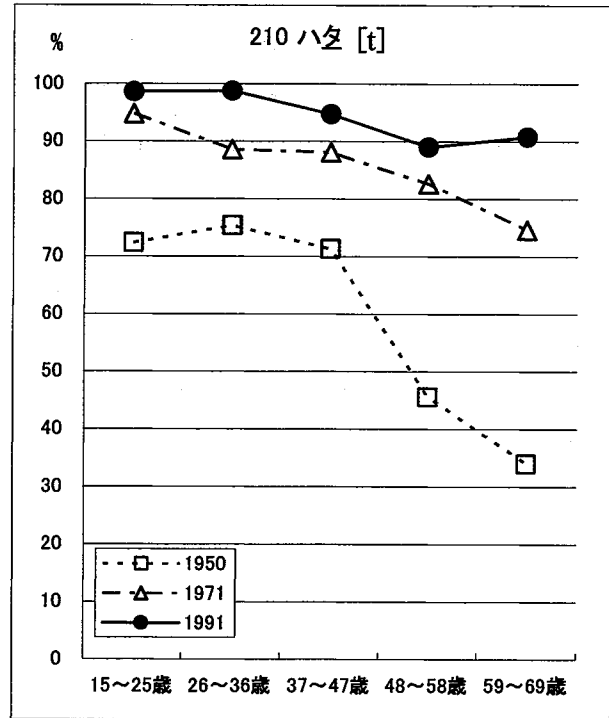


図 II-31 210.旗(ハ夕)[t]

表 II-32 210.旗(ハ夕)[t]

	1950	1971	1991
1881-1891	34.0		
1892-1902	45.6		
1903-1913	71.3	74.6	
1914-1924	75.4	82.6	
1925-1935	72.4	88.1	90.8
1936-1946		88.6	89.0
1947-1957		94.8	94.7
1958-1968			98.8
1969-1979			98.6

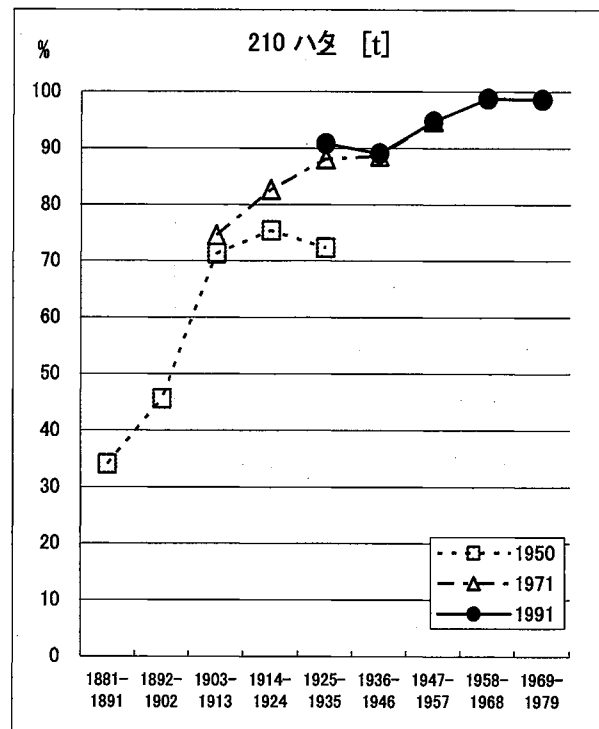


図 II-32 210.旗(ハ夕)[t]

表 II-33 205.蜂(ハチ)[t]

	1950	1971	1991
15~25歳	67.6	90.4	98.6
26~36歳	78.3	88.6	93.8
37~47歳	66.7	84.4	91.6
48~58歳	43.3	73.9	87.8
59~69歳	30.0	66.1	85.5

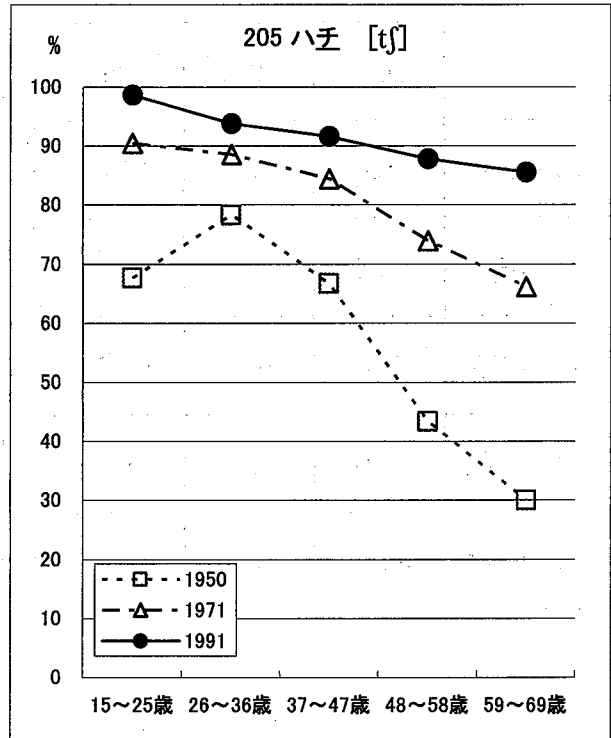


図 II-33 205.蜂(ハチ)[t]

表 II-34 205.蜂(ハチ)[t]

	1950	1971	1991
1881-1891	30.0		
1892-1902	43.3		
1903-1913	66.7	66.1	
1914-1924	78.3	73.9	
1925-1935	67.6	84.4	85.5
1936-1946		88.6	87.8
1947-1957		90.4	91.6
1958-1968			93.8
1969-1979			98.6

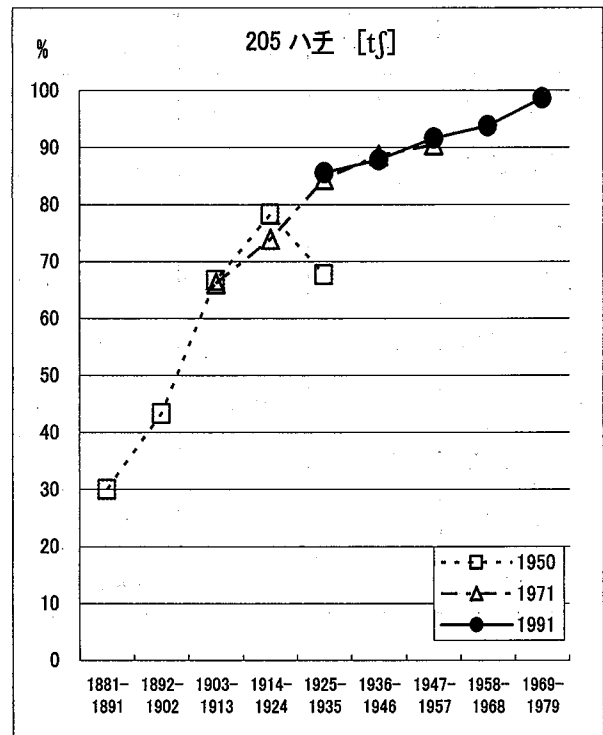


図 II-34 205.蜂(ハチ)[t]

表 II-35 201.口(クチ)[tʃ]

	1950	1971	1991
15~25歳	75.9	93.9	98.6
26~36歳	80.4	87.6	95.0
37~47歳	63.6	80.7	90.5
48~58歳	50.0	75.4	86.6
59~69歳	42.0	66.1	82.9

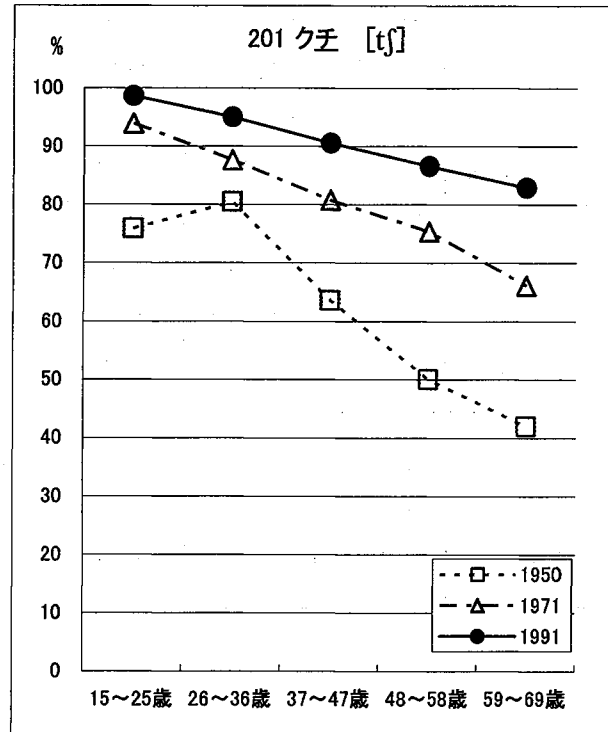


図 II-35 201.口(クチ)[tʃ]

表 II-36 201.口(クチ)[tʃ]

	1950	1971	1991
1881-1891	42.0		
1892-1902	50.0		
1903-1913	63.6	66.1	
1914-1924	80.4	75.4	
1925-1935	75.9	80.7	82.9
1936-1946		87.6	86.6
1947-1957		93.9	90.5
1958-1968			95.0
1969-1979			98.6

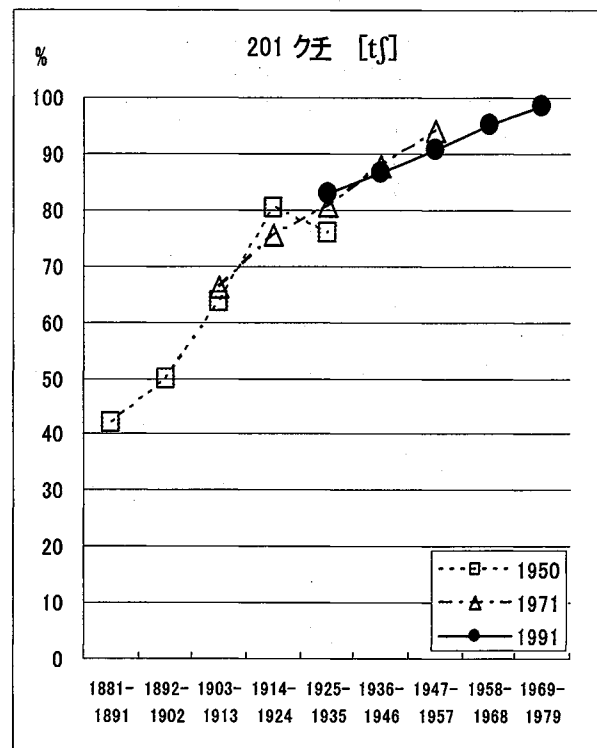
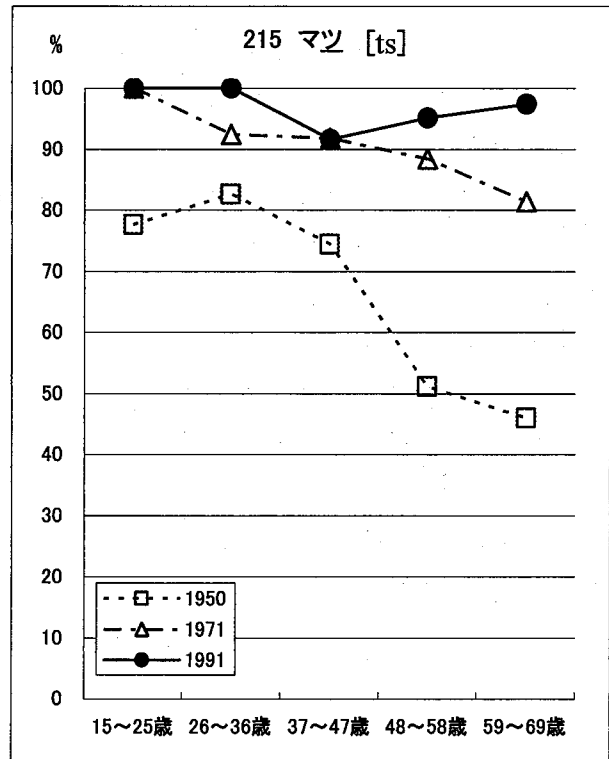


図 II-36 201.口(クチ)[tʃ]

表Ⅱ-37 215.松(マツ)[ts]

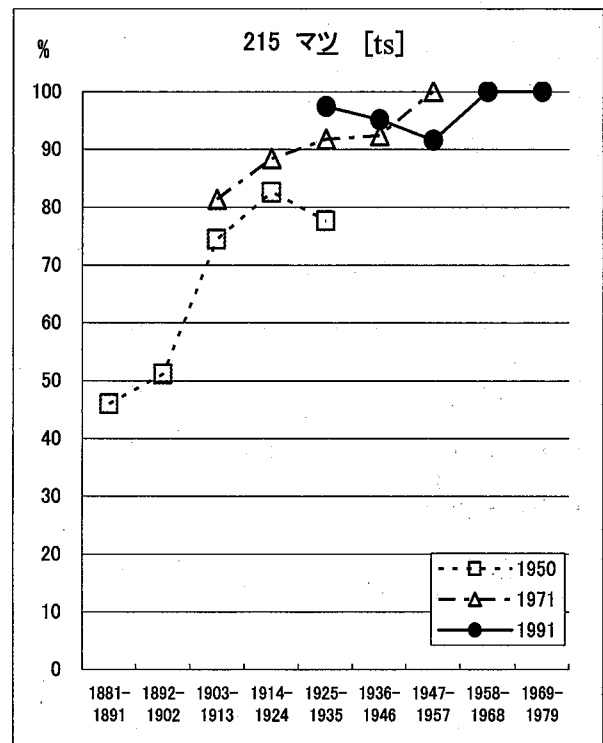
	1950	1971	1991
15～25歳	77.6	100.0	100.0
26～36歳	82.6	92.4	100.0
37～47歳	74.4	91.7	91.6
48～58歳	51.1	88.4	95.1
59～69歳	46.0	81.4	97.4



図Ⅱ-37 215.松(マツ)[ts]

表Ⅱ-38 215.松(マツ)[ts]

	1950	1971	1991
1881-1891	46.0		
1892-1902	51.1		
1903-1913	74.4	81.4	
1914-1924	82.6	88.4	
1925-1935	77.6	91.7	97.4
1936-1946		92.4	95.1
1947-1957		100.0	91.6
1958-1968			100.0
1969-1979			100.0



図Ⅱ-38 215.松(マツ)[ts]

表 II-39 213.靴(クツ)[ts]

	1950	1971	1991
15~25歳	79.4	100.0	97.2
26~36歳	81.9	87.6	100.0
37~47歳	65.1	89.9	95.8
48~58歳	53.3	79.7	93.9
59~69歳	38.0	81.4	94.7

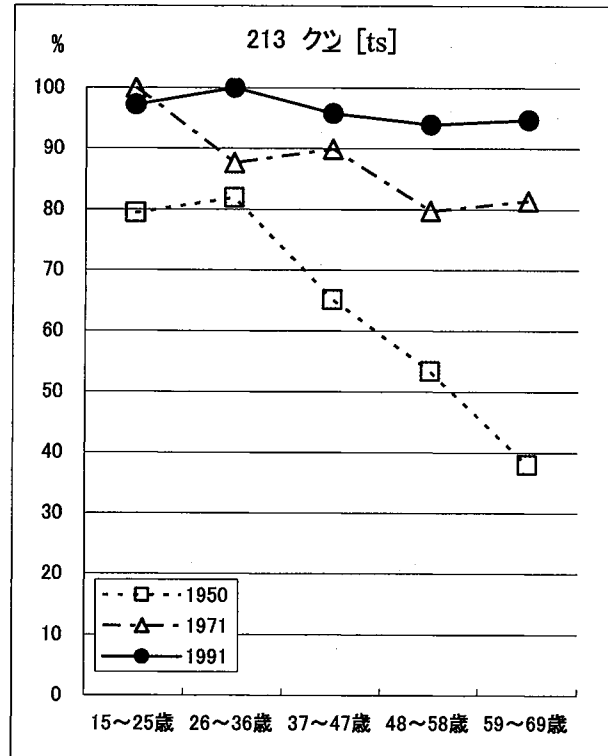


図 II-39 213.靴(クツ)[ts]

表 II-40 213.靴(クツ)[ts]

	1950	1971	1991
1881-1891	38.0		
1892-1902	53.3		
1903-1913	65.1	81.4	
1914-1924	81.9	79.7	
1925-1935	79.4	89.9	94.7
1936-1946		87.6	93.9
1947-1957		100.0	95.8
1958-1968			100.0
1969-1979			97.2

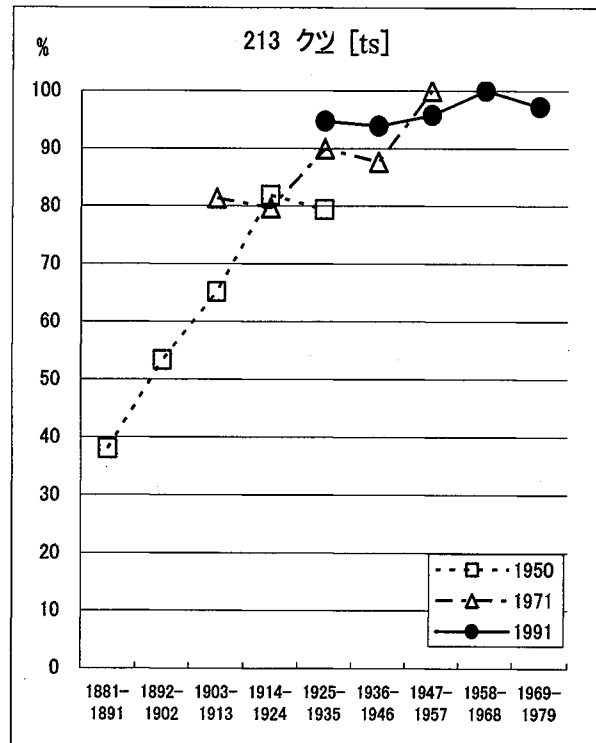
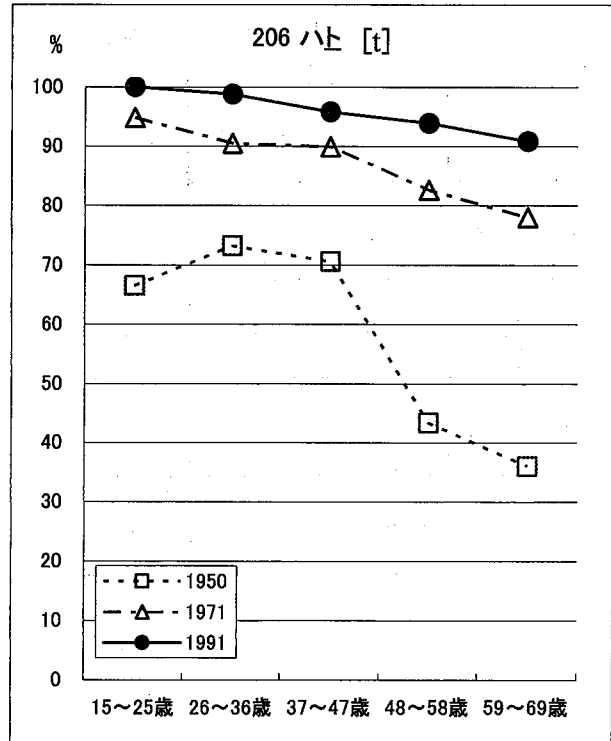


図 II-40 213.靴(クツ)[ts]

表Ⅱ-41 206.鳩(ハト)[t]

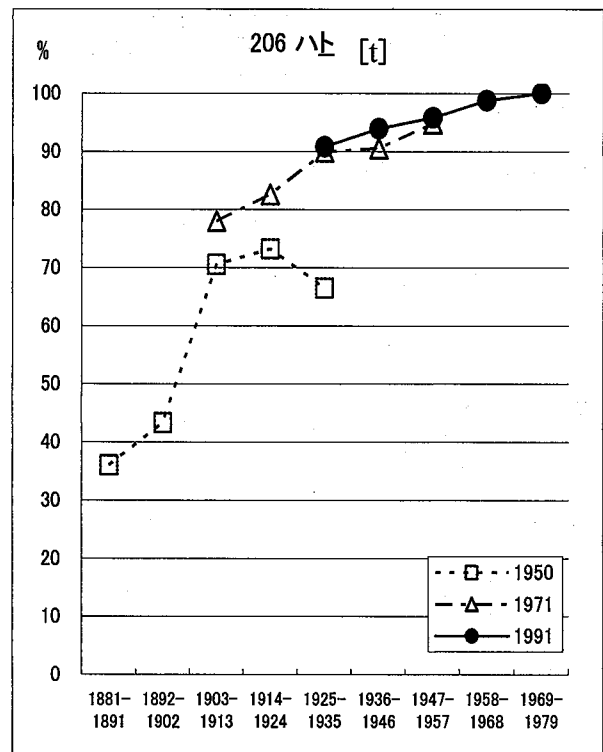
	1950	1971	1991
15~25歳	66.5	94.8	100.0
26~36歳	73.2	90.5	98.8
37~47歳	70.5	89.9	95.8
48~58歳	43.3	82.6	93.9
59~69歳	36.0	78.0	90.8



図Ⅱ-41 206.鳩(ハト)[t]

表Ⅱ-42 206.鳩(ハト)[t]

	1950	1971	1991
1881-1891	36.0		
1892-1902	43.3		
1903-1913	70.5	78.0	
1914-1924	73.2	82.6	
1925-1935	66.5	89.9	90.8
1936-1946		90.5	93.9
1947-1957		94.8	95.8
1958-1968			98.8
1969-1979			100.0



図Ⅱ-42 206.鳩(ハト)[t]

1.3.5 鼻音化（非語頭におけるザ行・ダ行・バ行の直前の入りわたり鼻音の有無を見る項目）

これまでの分野（唇音化・口蓋化・有声化）と異なり，1991年調査でも最高年層（59歳～69歳）における共通語率が62.7%という低い数値を示している（表Ⅱ-43）。1950年調査と1971年調査の差（共通語化の度合い）もこの年齢層がとくに小さい。また，1950年調査では，年齢層（若年層～高年層）間の差が小さいことも注目される。これは鼻音化現象が唇音化・口蓋化・有声化に比べて方言意識が小さい（方言と気づきにくい）ことと関係があるのではないかと思われる（筆者は長年，山形県庄内地方の方言を調査研究しているが，他の方言音声と比較して，自分が使用している鼻音化音声を意識しているインフォーマントは稀である）。しかし，1991年調査では，47歳以下の年齢層は90%以上の共通語率を示している。

また，1950年調査では，有声化の分野と同様に，年齢層が下がる（若くなる）にもかかわらず共通語率が低下する（方言化する）という現象が認められる。同一世代における変化（共通語化）は3世代のすべてについて見られ，とくに1925～1935年生まれの世代では，1950年と1971年の20年間に，共通語率が31.2%も増加している（表Ⅱ-44）。

また，この分野についても，同一世代において，常識とは逆に，20年後に共通語率が低下する（方言化する）という現象が，3世代のすべて，とくに1925～1935年生まれの世代における1971年調査と1991年調査の間に顕著に認められる。

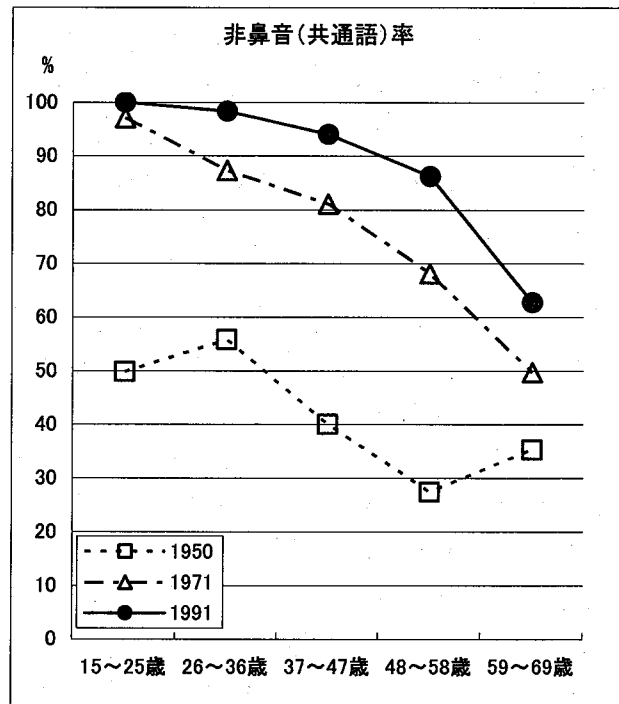
これらの現象は鼻音化項目のすべて（「鈴」「窓」「帯」の3項目）について認められる。

鼻音化の有無は聴き取りによる判断が他の項目に比べてむずかしい。このことが調査者による聴き取り能力の差を反映し，一見不自然な調査結果になっている可能性もある。

・鼻音化—非語頭におけるザ行・ダ行・バ行の直前の入りわたり鼻音の有無を見る項目

表Ⅱ-43 非鼻音(共通語)率(11年刻み)

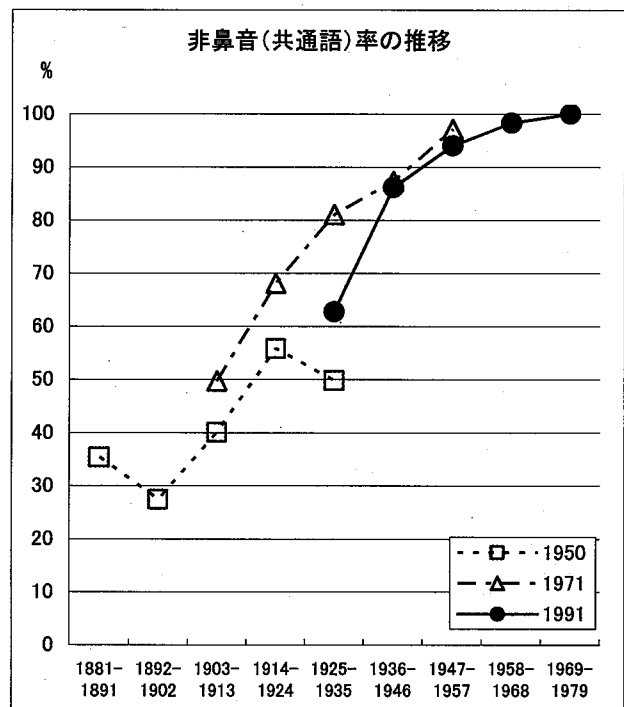
	1950	1971	1991
15~25歳	49.8	97.1	100.0
26~36歳	55.8	87.3	98.3
37~47歳	40.1	81.0	94.0
48~58歳	27.4	68.1	86.2
59~69歳	35.3	49.7	62.7



図Ⅱ-43 非鼻音(共通語)率(11年刻み)

表Ⅱ-44 非鼻音(共通語)率(生年別)

	1950	1971	1991
1881-1891	35.3		
1892-1902	27.4		
1903-1913	40.1	49.7	
1914-1924	55.8	68.1	
1925-1935	49.8	81.0	62.7
1936-1946		87.3	86.2
1947-1957		97.1	94.0
1958-1968			98.3
1969-1979			100.0



図Ⅱ-44 非鼻音(共通語)率(生年別)

表 II-45 211.鈴(スズ)[dz]

	1950	1971	1991
15~25歳	40.6	93.0	100.0
26~36歳	42.0	83.8	97.5
37~47歳	31.0	73.4	94.7
48~58歳	16.7	63.8	84.1
59~69歳	26.0	39.0	56.6

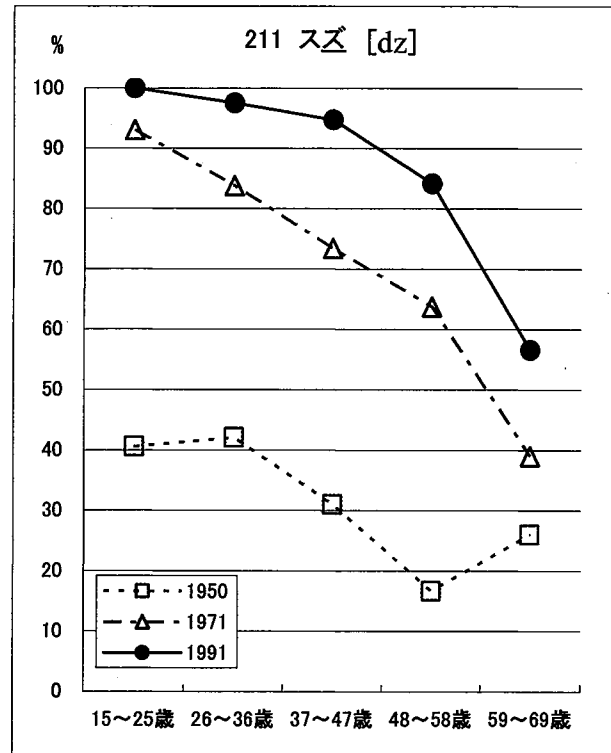


図 II-45 211.鈴(スズ)[dz]

表 II-46 211.鈴(スズ)[dz]

	1950	1971	1991
1881-1891	26.0		
1892-1902	16.7		
1903-1913	31.0	39.0	
1914-1924	42.0	63.8	
1925-1935	40.6	73.4	56.6
1936-1946		83.8	84.1
1947-1957		93.0	94.7
1958-1968			97.5
1969-1979			100.0

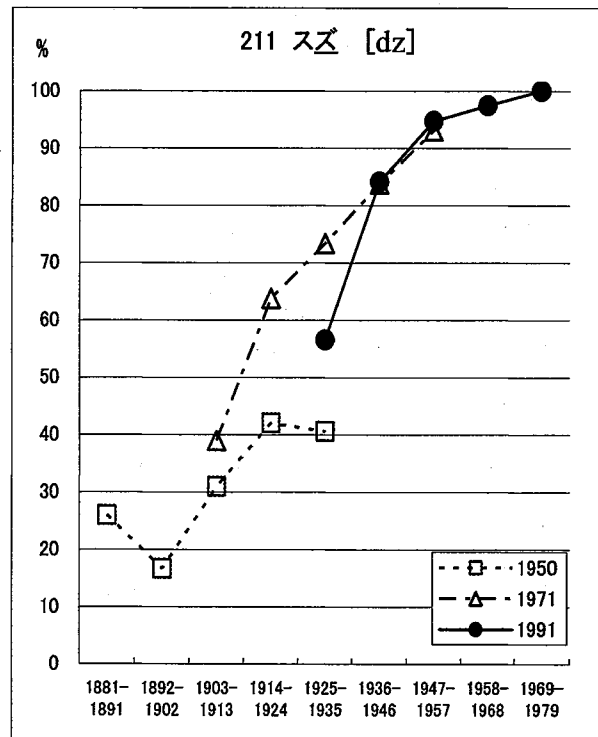


図 II-46 211.鈴(スズ)[dz]

表 II-47 209.窓(マド)[d]

	1950	1971	1991
15~25歳	53.5	100.0	100.0
26~36歳	61.6	86.7	98.8
37~47歳	49.6	85.3	95.8
48~58歳	35.6	66.7	91.5
59~69歳	38.0	54.2	72.4

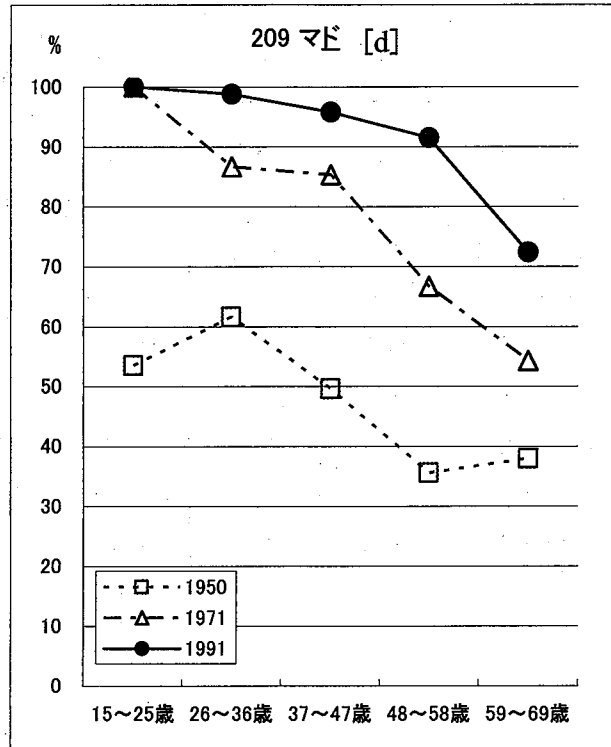


図 II-47 209.窓(マド)[d]

表 II-48 209.窓(マド)[d]

	1950	1971	1991
1881-1891	38.0		
1892-1902	35.6		
1903-1913	49.6	54.2	
1914-1924	61.6	66.7	
1925-1935	53.5	85.3	72.4
1936-1946		86.7	91.5
1947-1957		100.0	95.8
1958-1968			98.8
1969-1979			100.0

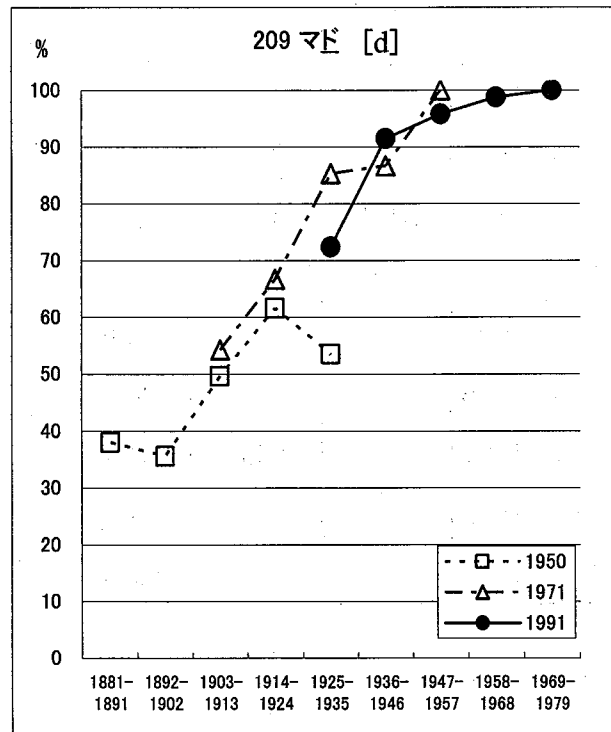


図 II-48 209.窓(マド)[d]

表 II-49 212.帯(オビ)[b]

	1950	1971	1991
15~25歳	55.3	98.3	100.0
26~36歳	63.8	91.4	98.8
37~47歳	39.5	84.4	91.6
48~58歳	30.0	73.9	82.9
59~69歳	42.0	55.9	59.2

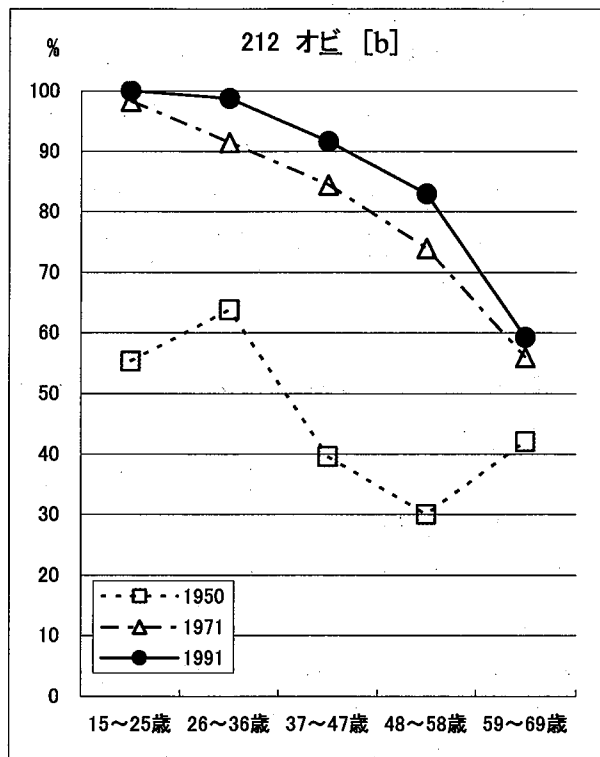


図 II-49 212.帯(オビ)[b]

表 II-50 212.帯(オビ)[b]

	1950	1971	1991
1881-1891	42.0		
1892-1902	30.0		
1903-1913	39.5	55.9	
1914-1924	63.8	73.9	
1925-1935	55.3	84.4	59.2
1936-1946		91.4	82.9
1947-1957		98.3	91.6
1958-1968			98.8
1969-1979			100.0

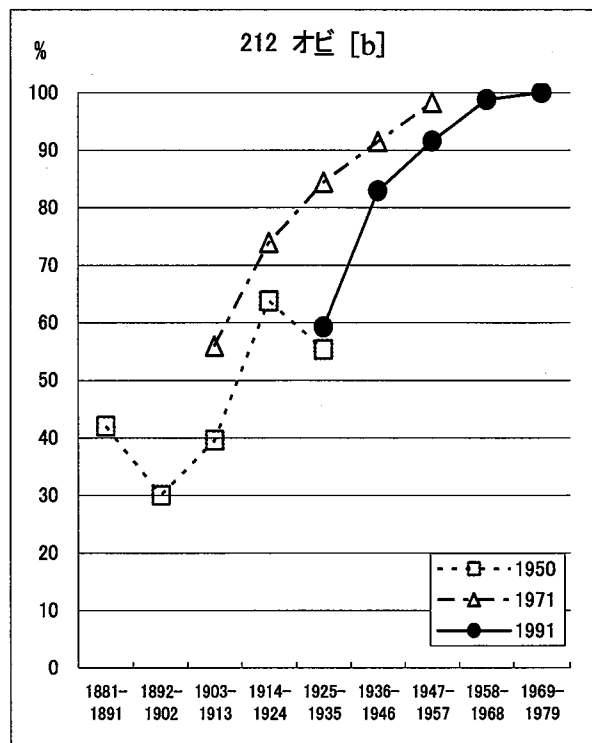


図 II-50 212.帯(オビ)[b]

1.3.6 中舌化Ⅰ（ウ段音における中舌化の有無を見る項目）

この分野も、他の分野に比べて共通語率がやや小さい。1991年調査でも48歳以上の共通語率は90%に達していない（表Ⅱ-51）。

同一世代における変化（共通語化）は3世代のすべてについて見られ、とくに1925～1935生まれの世代（1950年調査における最若年層）における1950年調査と1971年調査の差が大きい（表Ⅱ-52）

項目別に見ると、同一世代における変化（共通語化）が3世代のすべてについて見られるのは「地図」「鳥」「狐」の3項目であり、特に「鳥」と「地図」について顕著に認められる。

1.3.7 中舌化Ⅱ（イ段音における中舌化の有無を見る項目）

この分野は中舌化Ⅰの分野よりも、さらに共通語率が小さく、1991年調査で90%以上の共通語率を示しているのは36歳以下の年齢層のみである。1950年調査では、最も高い共通語得点を示した年齢層（26～36歳）でも53.8%にすぎない。また、1950年調査では年齢層間の差が1971年調査や1991年調査に比べて小さいことが注目される（表Ⅱ-61）。

この分野についても、同一世代において、1991年調査の方が1971年調査より共通語率が低下する（すなわち方言化する）という奇妙な現象が、3世代のすべてについて認められる（1903-1913と1914-1924の世代については1950年調査と1971年調査の間にも同様の現象が認められる）（表Ⅱ-62）。その要因は不明である。

・中舌化 I -ウ段音における中舌化の有無を見る項目

表 II-51 非中舌(共通語)率 I (11年刻み)

	1950	1971	1991
15~25歳	60.3	97.6	99.0
26~36歳	65.8	89.5	99.7
37~47歳	57.8	82.1	97.6
48~58歳	35.0	71.0	86.0
59~69歳	37.0	65.3	83.9

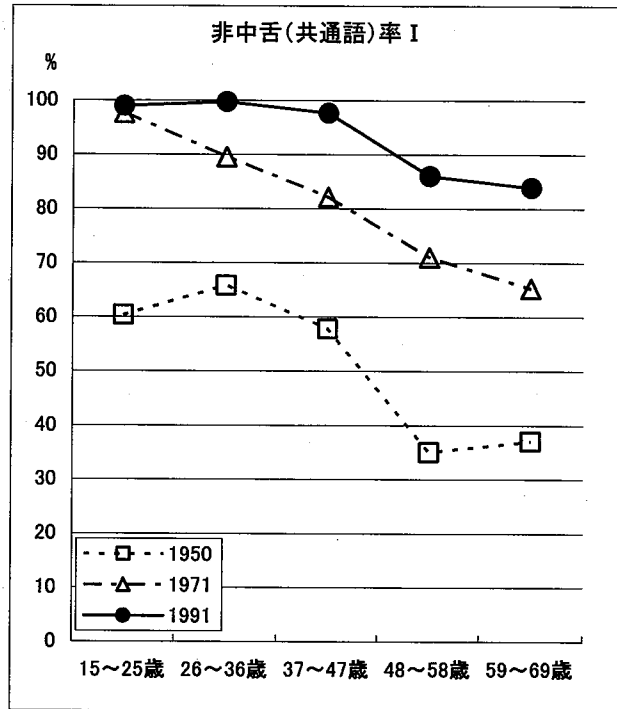


図 II-51 非中舌(共通語)率 I (11年刻み)

表 II-52 非中舌(共通語)率 I (生年別)

	1950	1971	1991
1881-1891	37.0		
1892-1902	35.0		
1903-1913	57.8	65.3	
1914-1924	65.8	71.0	
1925-1935	60.3	82.1	83.9
1936-1946		89.5	86.0
1947-1957		97.6	97.6
1958-1968			99.7
1969-1979			99.0

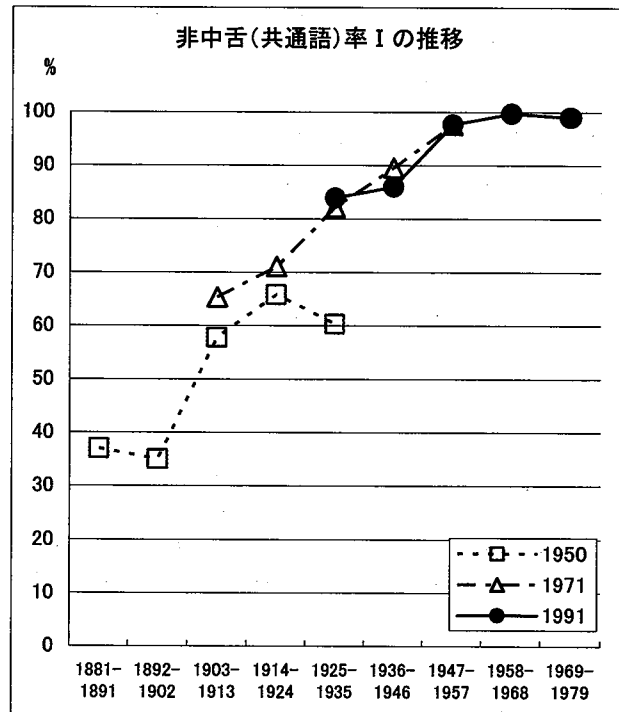


図 II-52 非中舌(共通語)率 I (生年別)

表 II-53 230.狐(キツネ)[tsu]

	1950	1971	1991
15~25歳	62.9	98.3	98.6
26~36歳	71.0	93.3	100.0
37~47歳	66.7	93.6	96.8
48~58歳	44.4	79.7	91.5
59~69歳	42.0	71.2	92.1

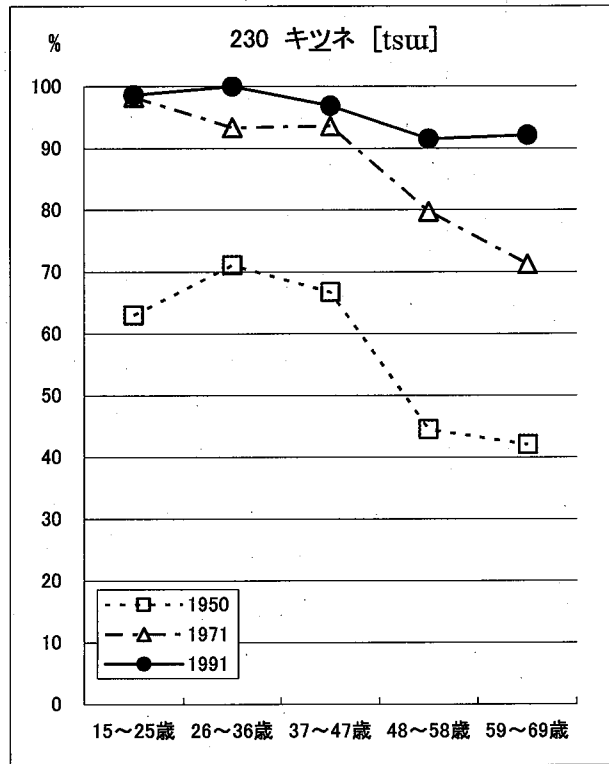


図 II-53 230.狐(キツネ)[tsu]

表 II-54 230.狐(キツネ)[tsu]

	1950	1971	1991
1881-1891	42.0		
1892-1902	44.4		
1903-1913	66.7	71.2	
1914-1924	71.0	79.7	
1925-1935	62.9	93.6	92.1
1936-1946		93.3	91.5
1947-1957		98.3	96.8
1958-1968			100.0
1969-1979			98.6

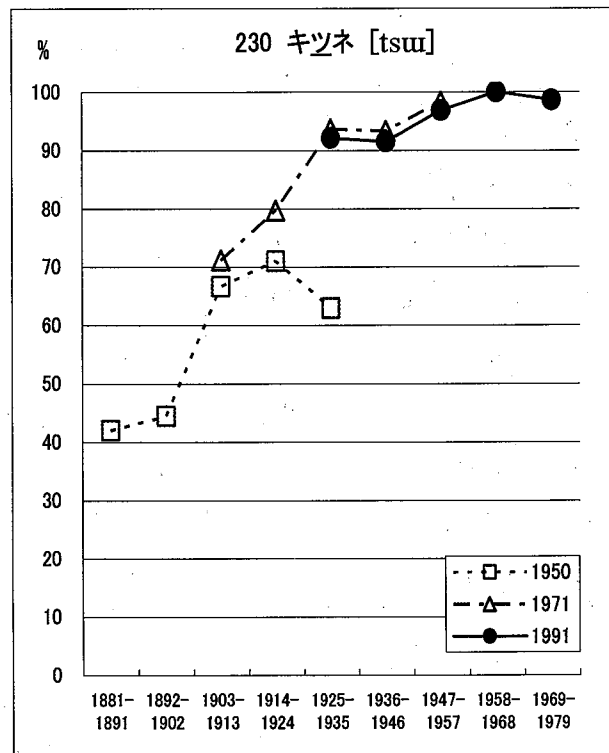


図 II-54 230.狐(キツネ)[tsu]

表 II-55 228.鳥(カラス)[su]

	1950	1971	1991
15~25歳	60.6	98.3	98.6
26~36歳	68.8	94.3	100.0
37~47歳	56.6	83.5	100.0
48~58歳	36.7	76.8	85.4
59~69歳	42.0	72.9	86.8

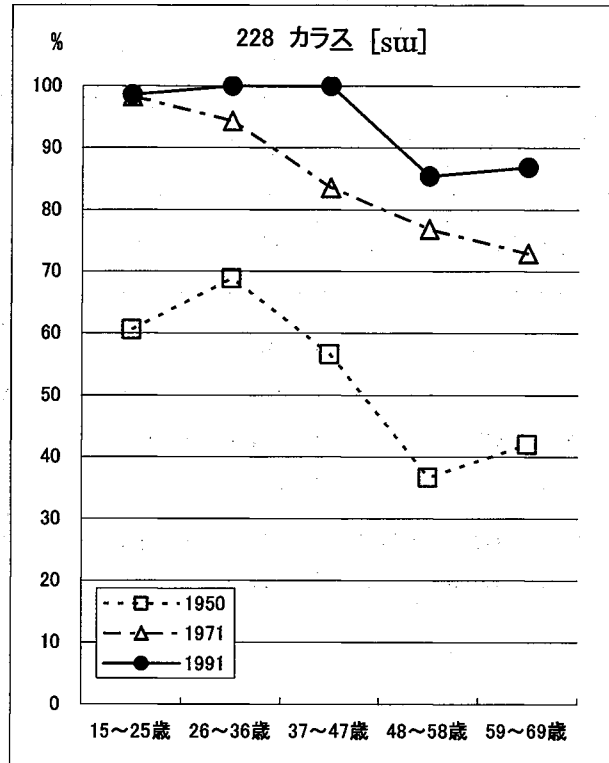


図 II-55 228.鳥(カラス)[su]

表 II-56 228.鳥(カラス)[su]

	1950	1971	1991
1881-1891	42.0		
1892-1902	36.7		
1903-1913	56.6	72.9	
1914-1924	68.8	76.8	
1925-1935	60.6	83.5	86.8
1936-1946		94.3	85.4
1947-1957		98.3	100.0
1958-1968			100.0
1969-1979			98.6

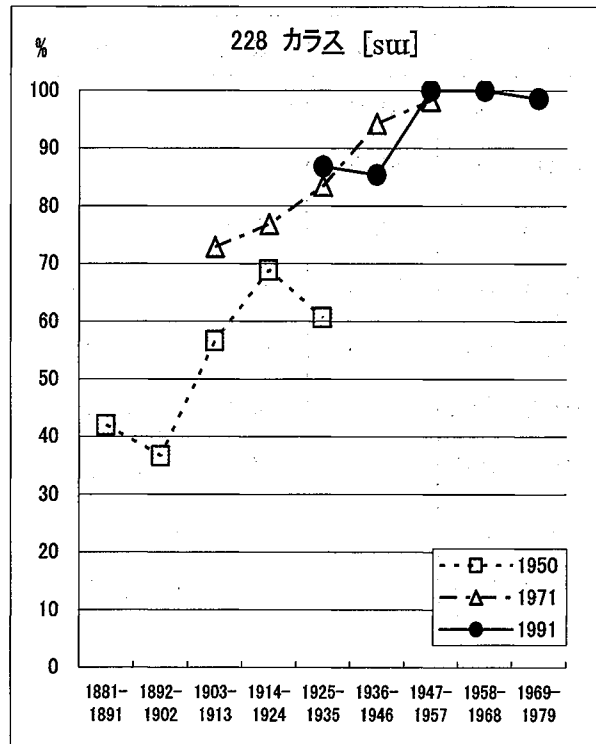
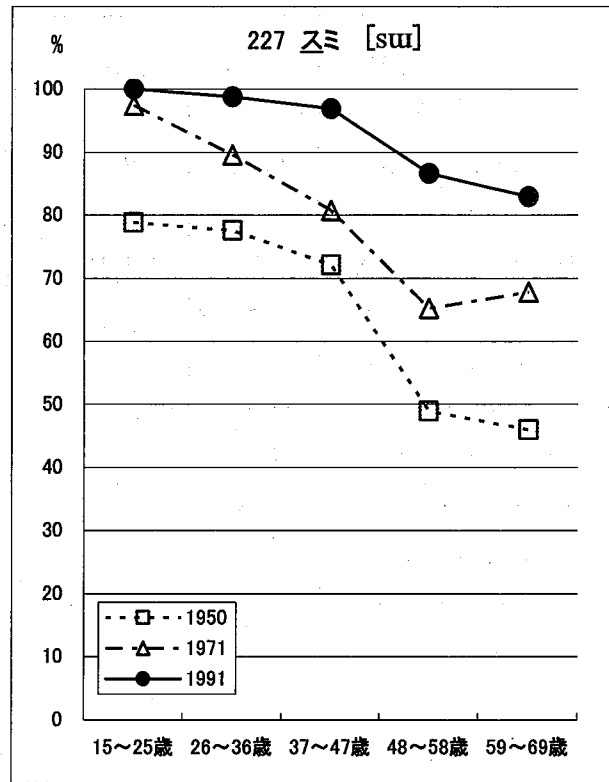


図 II-56 228.鳥(カラス)[su]

表Ⅱ-57 227.墨(スミ)[suu]

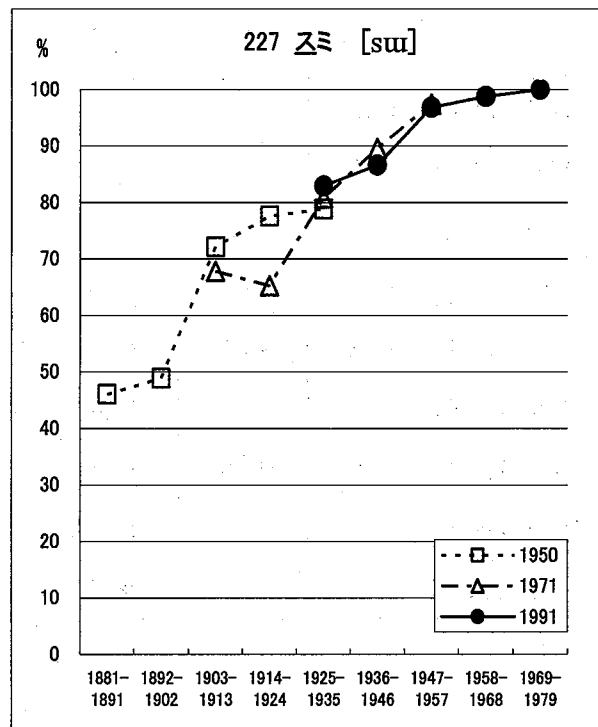
	1950	1971	1991
15~25歳	78.8	97.4	100.0
26~36歳	77.5	89.5	98.8
37~47歳	72.1	80.7	96.8
48~58歳	48.9	65.2	86.6
59~69歳	46.0	67.8	82.9



図Ⅱ-57 227.墨(スミ)[suu]

表Ⅱ-58 227.墨(スミ)[suu]

	1950	1971	1991
1881-1891	46.0		
1892-1902	48.9		
1903-1913	72.1	67.8	
1914-1924	77.5	65.2	
1925-1935	78.8	80.7	82.9
1936-1946		89.5	86.6
1947-1957		97.4	96.8
1958-1968			98.8
1969-1979			100.0



図Ⅱ-58 227.墨(スミ)[suu]

表 II-59 225.地図(チズ)[dzɯ]

	1950	1971	1991
15~25歳	38.8	96.5	98.6
26~36歳	45.7	81.0	100.0
37~47歳	35.7	70.6	96.8
48~58歳	10.0	62.3	80.5
59~69歳	18.0	49.2	73.7

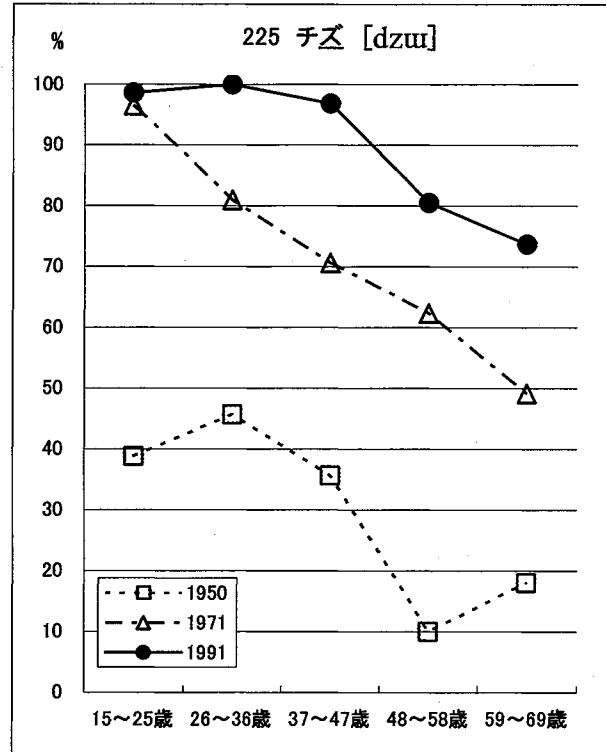


図 II-59 225.地図(チズ)[dzɯ]

表 II-60 225.地図(チズ)[dzɯ]

	1950	1971	1991
1881-1891	18.0		
1892-1902	10.0		
1903-1913	35.7	49.2	
1914-1924	45.7	62.3	
1925-1935	38.8	70.6	73.7
1936-1946		81.0	80.5
1947-1957		96.5	96.8
1958-1968			100.0
1969-1979			98.6

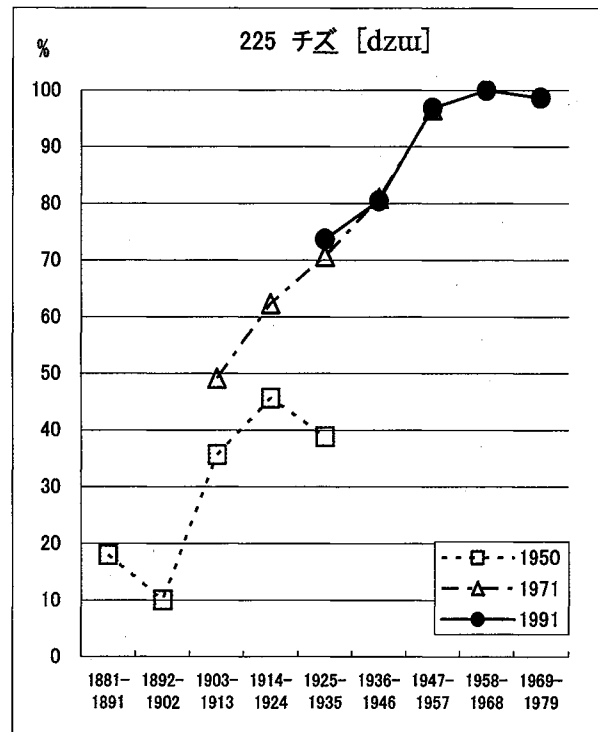
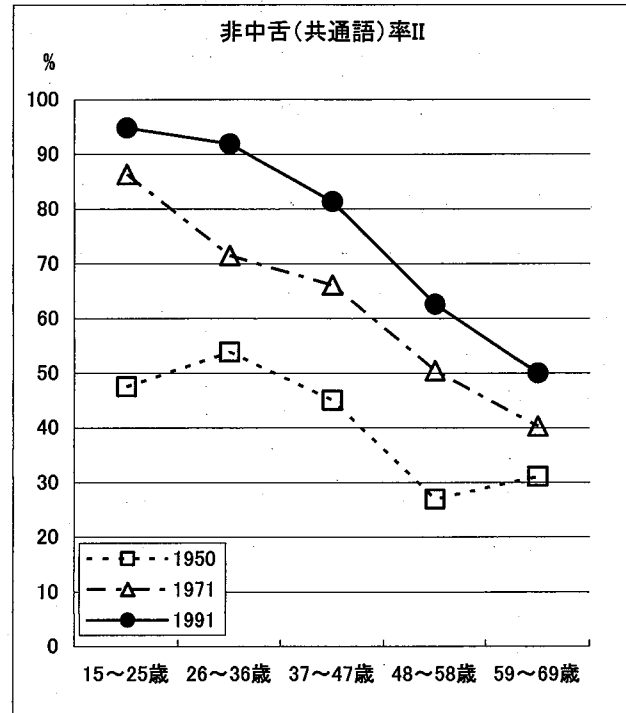


図 II-60 225.地図(チズ)[dzɯ]

・中舌化Ⅱ－イ段音における中舌化の有無を見る項目

表Ⅱ-61 非中舌(共通語)率Ⅱ (11年刻み)

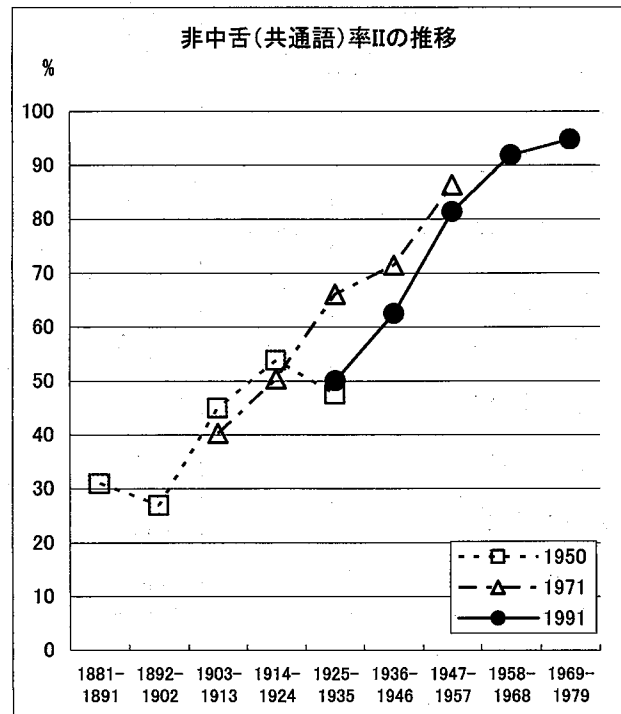
	1950	1971	1991
15～25歳	47.5	86.3	94.8
26～36歳	53.8	71.4	91.9
37～47歳	45.0	66.1	81.3
48～58歳	26.9	50.4	62.5
59～69歳	31.0	40.3	50.0



図Ⅱ-61 非中舌(共通語)率Ⅱ (11年刻み)

表Ⅱ-62 非中舌(共通語)率Ⅱ (生年別)

	1950	1971	1991
1881-1891	31.0		
1892-1902	26.9		
1903-1913	45.0	40.3	
1914-1924	53.8	50.4	
1925-1935	47.5	66.1	50.0
1936-1946		71.4	62.5
1947-1957		86.3	81.3
1958-1968			91.9
1969-1979			94.8



図Ⅱ-62 非中舌(共通語)率Ⅱ (生年別)

表 II-63 226.島(シマ)[ʃi]

	1950	1971	1991
15~25歳	55.3	87.0	98.6
26~36歳	60.9	81.0	93.8
37~47歳	51.9	78.0	84.2
48~58歳	36.7	62.3	74.4
59~69歳	32.0	45.8	57.9

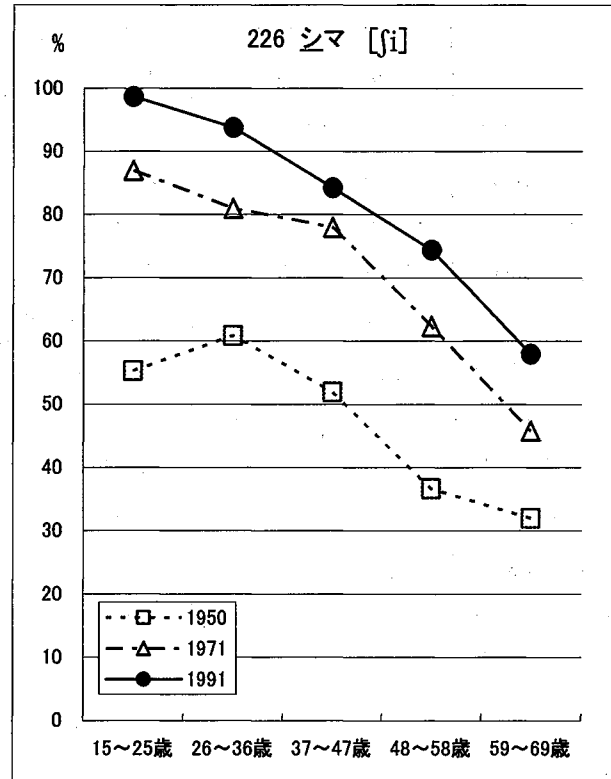


図 II-63 226.島(シマ)[ʃi]

表 II-64 226.島(シマ)[ʃi]

	1950	1971	1991
1881-1891	32.0		
1892-1902	36.7		
1903-1913	51.9	45.8	
1914-1924	60.9	62.3	
1925-1935	55.3	78.0	57.9
1936-1946		81.0	74.4
1947-1957		87.0	84.2
1958-1968			93.8
1969-1979			98.6

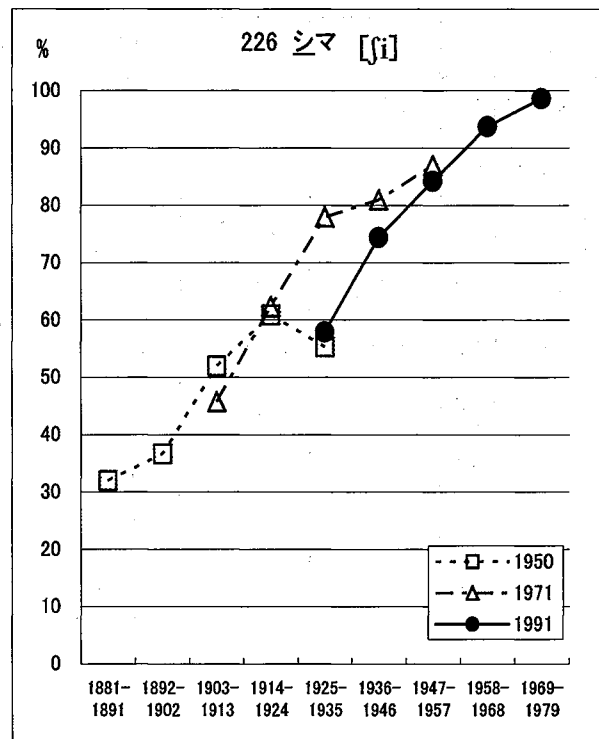


図 II-64 226.島(シマ)[ʃi]

表 II-65 231.団扇(ウチワ)[tji]

	1950	1971	1991
15～25歳	60.0	92.2	95.8
26～36歳	71.7	79.0	93.8
37～47歳	59.7	72.5	85.3
48～58歳	33.3	53.6	63.4
59～69歳	42.0	54.2	59.2

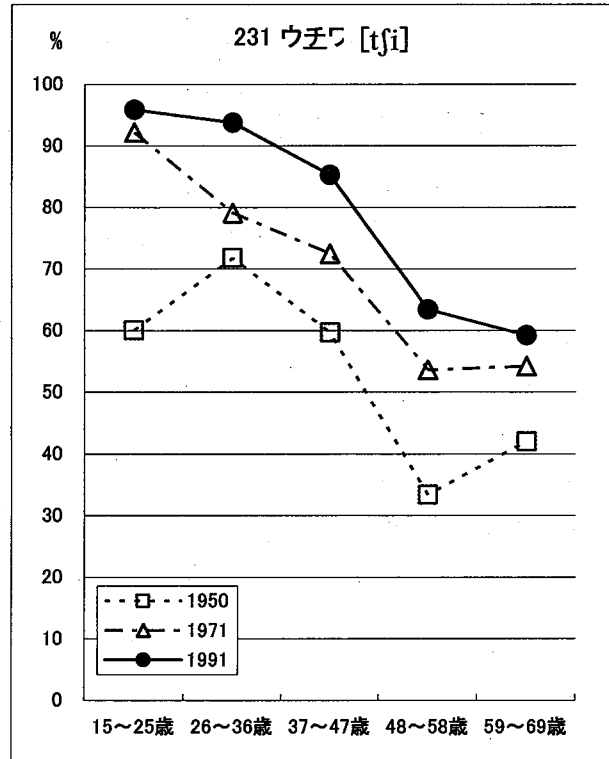


図 II-65 231.団扇(ウチワ)[tji]

表 II-66 231.団扇(ウチワ)[tji]

	1950	1971	1991
1881-1891	42.0		
1892-1902	33.3		
1903-1913	59.7	54.2	
1914-1924	71.7	53.6	
1925-1935	60.0	72.5	59.2
1936-1946		79.0	63.4
1947-1957		92.2	85.3
1958-1968			93.8
1969-1979			95.8

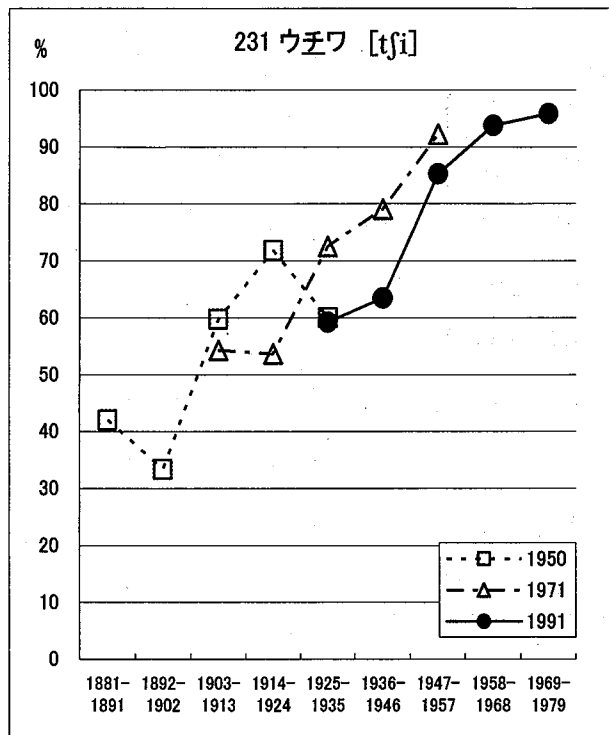


図 II-66 231.団扇(ウチワ)[tji]

表 II-67 224.知事(チジ)[dʒi]

	1950	1971	1991
15~25歳	39.4	86.1	88.9
26~36歳	41.3	67.6	87.5
37~47歳	36.4	59.6	77.9
48~58歳	11.1	42.0	54.9
59~69歳	22.0	30.5	39.5

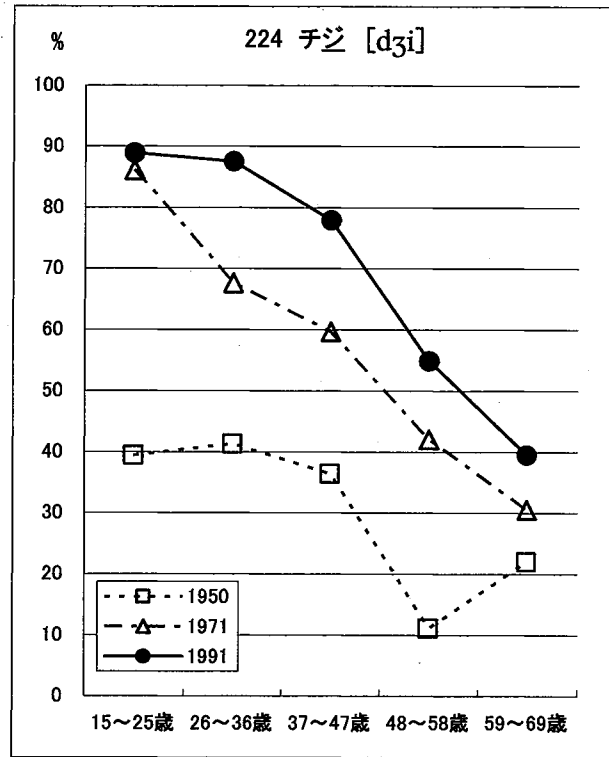


図 II-67 224.知事(チジ)[dʒi]

表 II-68 224.知事(チジ)[dʒi]

	1950	1971	1991
1881-1891	22.0		
1892-1902	11.1		
1903-1913	36.4	30.5	
1914-1924	41.3	42.0	
1925-1935	39.4	59.6	39.5
1936-1946		67.6	54.9
1947-1957		86.1	77.9
1958-1968			87.5
1969-1979			88.9

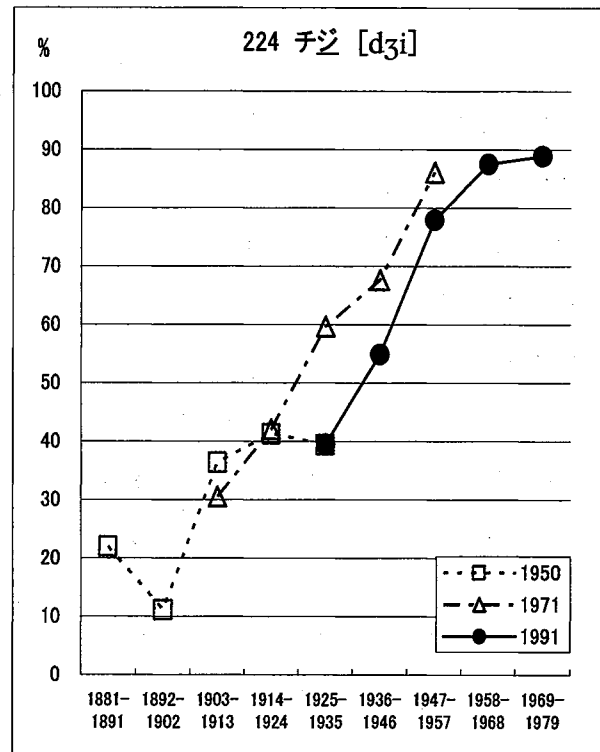


図 II-68 224.知事(チジ)[dʒi]

表 II-69 229.辛子(カラシ) [ʃi]

	1950	1971	1991
15~25歳	35.3	80.0	95.8
26~36歳	41.3	58.1	92.5
37~47歳	31.8	54.1	77.9
48~58歳	26.7	43.5	57.3
59~69歳	28.0	30.5	43.4

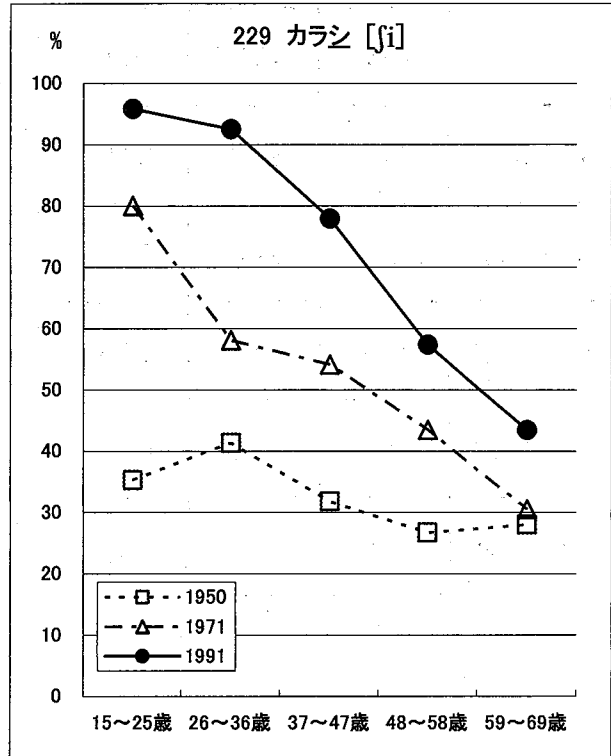


図 II-69 229.辛子(カラシ) [ʃi]

表 II-70 229.辛子(カラシ) [ʃi]

	1950	1971	1991
1881-1891	28.0		
1892-1902	26.7		
1903-1913	31.8	30.5	
1914-1924	41.3	43.5	
1925-1935	35.3	54.1	43.4
1936-1946		58.1	57.3
1947-1957		80.0	77.9
1958-1968			92.5
1969-1979			95.8

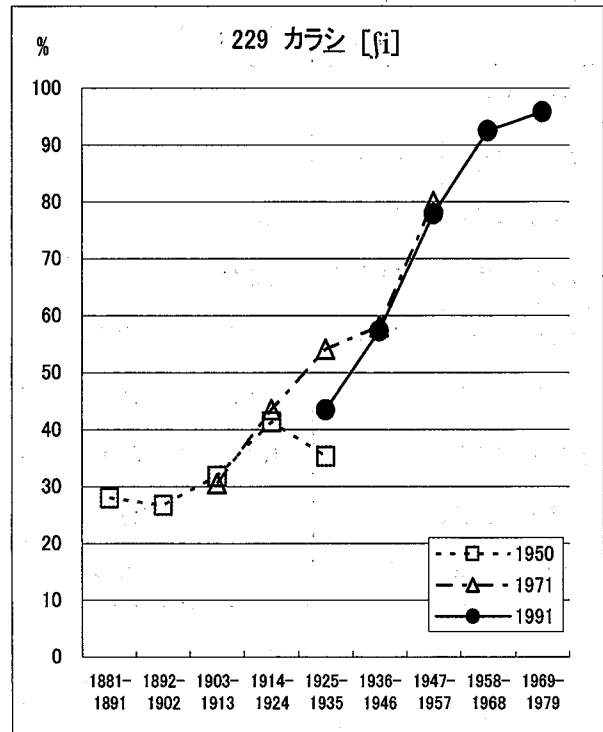


図 II-70 229.辛子(カラシ) [ʃi]

1.3.8 イとエ I (語頭の母音エにおける狭母音化の有無を見る項目)

この分野では、1991年調査で、47歳以下の年齢層では90%以上の共通語率を示している(表II-71)。

同一世代における変化は、すべての世代で(1903-1913と1914-1924の世代では1950年調査と1971年調査の間に、1925-1935、1936-1946、1947-1957の世代では1971年調査と1991年調査の間に)20年の間に共通語率が低下するという奇妙な現象が見られ、それは1903~1913生まれの世代でとくに顕著である(表II-72)。項目別に見ると、「煙突」の「エ」において、この世代で1950年調査と1971年調査の間に30ポイント以上の共通語率の低下が認められ、これが全体の結果に大きく影響していることが分かる(表II-74)。

「煙突」の項目では、すべての世代について大幅な共通語率の低下が認められる。

1.3.9 イとエ II (語頭の母音イにおける広母音化の有無を見る項目)

1991年調査で、47歳以下の年齢層で90%以上の共通語率を示している点は、「イとエ I」の調査結果と共通している。しかし、1950年調査と1971年調査においては、59~69歳の年齢層を除いて、「イとエ II」の方が「イとエ I」よりも共通語率が小さい。

同一世代における変化の有無を項目別に見ると、「糸」では1903~1913生まれの世代について1950年調査と1971年調査の間に約20ポイントの共通語率の低下が見られる(表II-80)。また、1925年~1935年生まれの世代については、「糸」と「息」(表II-82)の両項目とも20年間にやや大きな共通語率の上昇が認められる。

・イとエ I - 語頭の母音エにおける狭母音化の有無を見る項目

表 II-71 イとエ I (共通語) 率 I (11 年刻み)

	1950	1971	1991
15~25歳	68.5	99.1	97.2
26~36歳	69.2	86.7	96.9
37~47歳	62.0	79.8	90.5
48~58歳	33.9	58.0	79.9
59~69歳	29.0	38.1	70.4

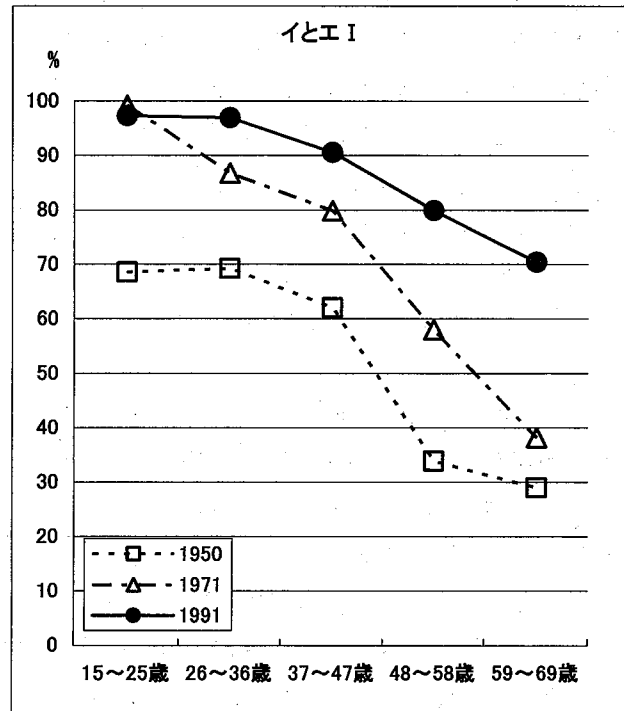


図 II-71 イとエ I (11 年刻み)

表 II-72 イとエ I (共通語) 率 I (生年別)

	1950	1971	1991
1881-1891	29.0		
1892-1902	33.9		
1903-1913	62.0	38.1	
1914-1924	69.2	58.0	
1925-1935	68.5	79.8	70.4
1936-1946		86.7	79.9
1947-1957		99.1	90.5
1958-1968			96.9
1969-1979			97.2

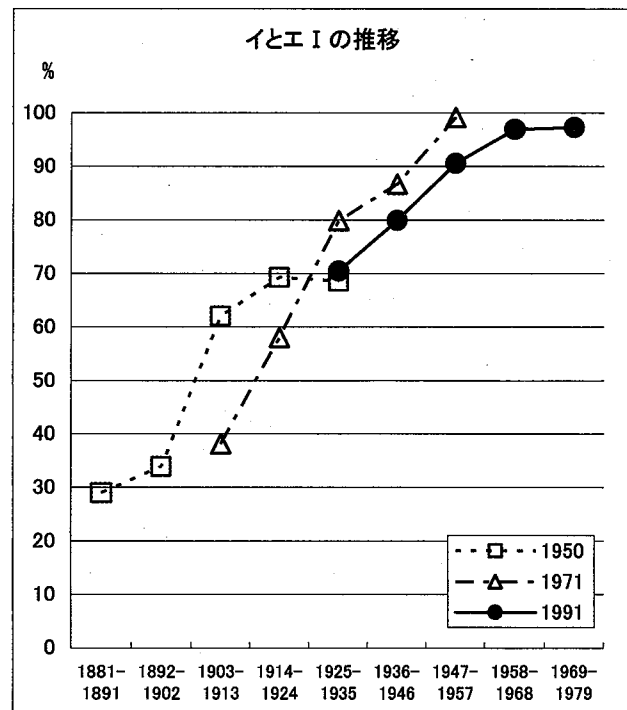


図 II-72 イとエ I (生年別)

表 II-73 223.煙突(エントツ)[e]

	1950	1971	1991
15~25歳	92.4	100.0	97.2
26~36歳	85.5	90.5	98.8
37~47歳	82.9	89.0	95.8
48~58歳	55.6	65.2	80.5
59~69歳	42.0	49.2	72.4

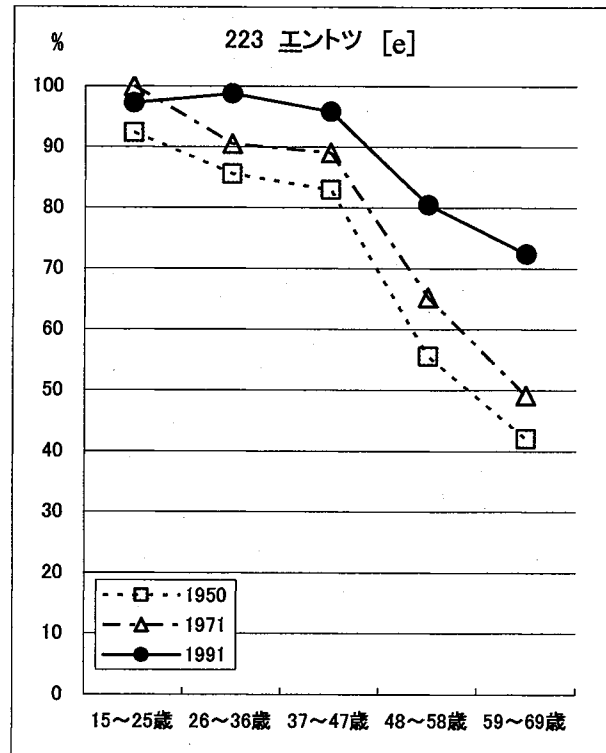


図 II-73 223.煙突(エントツ)[e]

表 II-74 223.煙突(エントツ)[e]

	1950	1971	1991
1881-1891	42.0		
1892-1902	55.6		
1903-1913	82.9	49.2	
1914-1924	85.5	65.2	
1925-1935	92.4	89.0	72.4
1936-1946		90.5	80.5
1947-1957		100.0	95.8
1958-1968			98.8
1969-1979			97.2

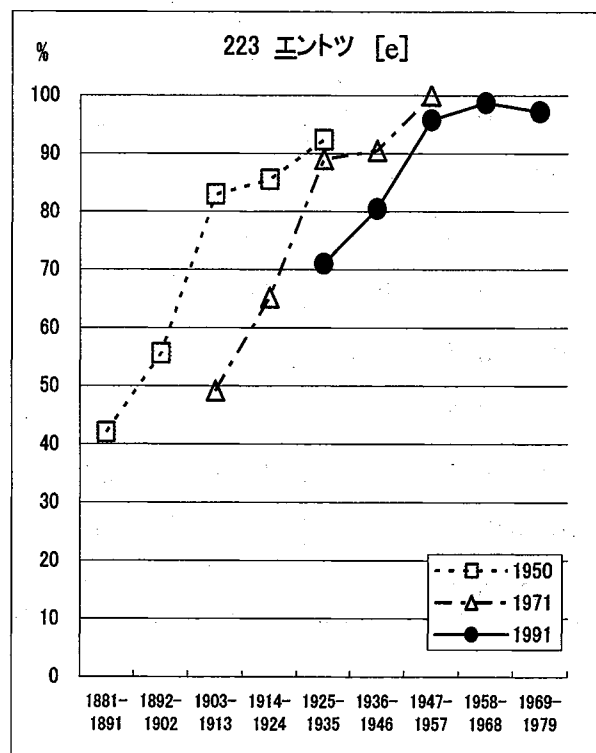
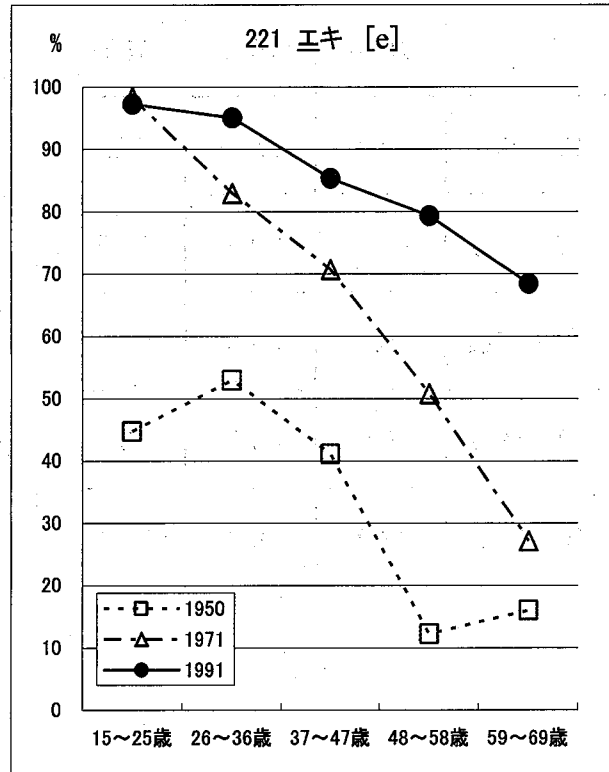


図 II-74 223.煙突(エントツ)[e]

表Ⅱ-75 221.駅(エキ)[e]

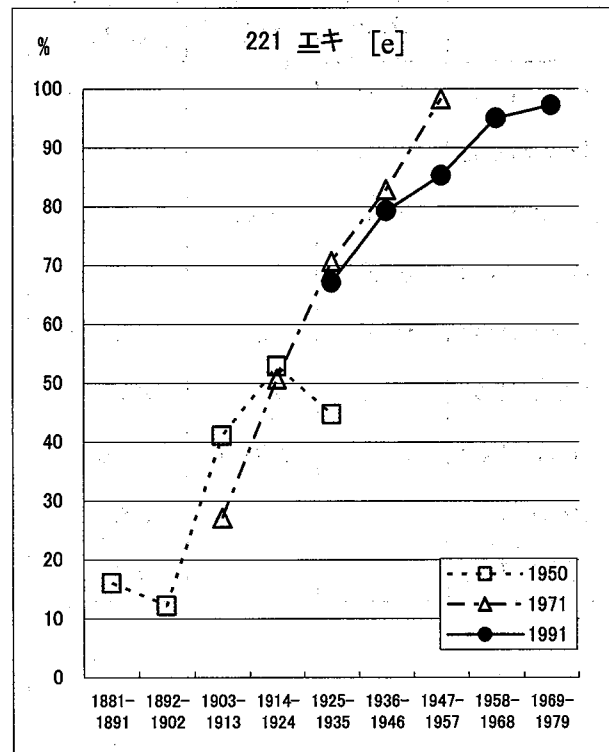
	1950	1971	1991
15~25歳	44.7	98.3	97.2
26~36歳	52.9	82.9	95.0
37~47歳	41.1	70.6	85.3
48~58歳	12.2	50.7	79.3
59~69歳	16.0	27.1	68.4



図Ⅱ-75 221.駅(エキ)[e]

表Ⅱ-76 221.駅(エキ)[e]

	1950	1971	1991
1881-1891	16.0		
1892-1902	12.2		
1903-1913	41.1	27.1	
1914-1924	52.9	50.7	
1925-1935	44.7	70.6	68.4
1936-1946		82.9	79.3
1947-1957		98.3	85.3
1958-1968			95.0
1969-1979			97.2



図Ⅱ-76 221.駅(エキ)[e]

・イとエ II - 語頭の母音イにおける広母音化の有無を見る項目

表 II-77 イとエ(共通語)率 II (11年刻み)

	1950	1971	1991
15~25歳	53.8	94.8	98.6
26~36歳	51.1	81.4	97.5
37~47歳	48.1	71.1	94.2
48~58歳	27.2	55.8	84.8
59~69歳	31.0	40.7	67.8

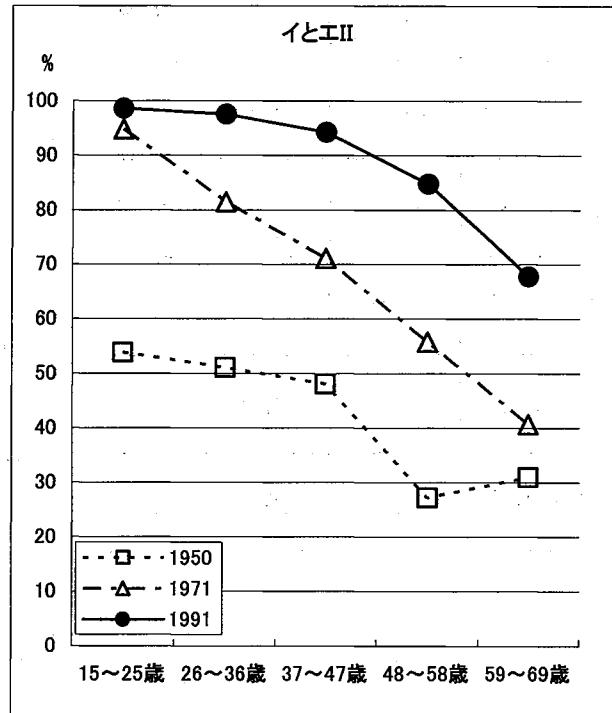


図 II-77 イとエ II (11年刻み)

表 II-78 イとエ(共通語)率 II (生年別)

	1950	1971	1991
1881-1891	31.0		
1892-1902	27.2		
1903-1913	48.1	40.7	
1914-1924	51.1	55.8	
1925-1935	53.8	71.1	67.8
1936-1946		81.4	84.8
1947-1957		94.8	94.2
1958-1968			97.5
1969-1979			98.6

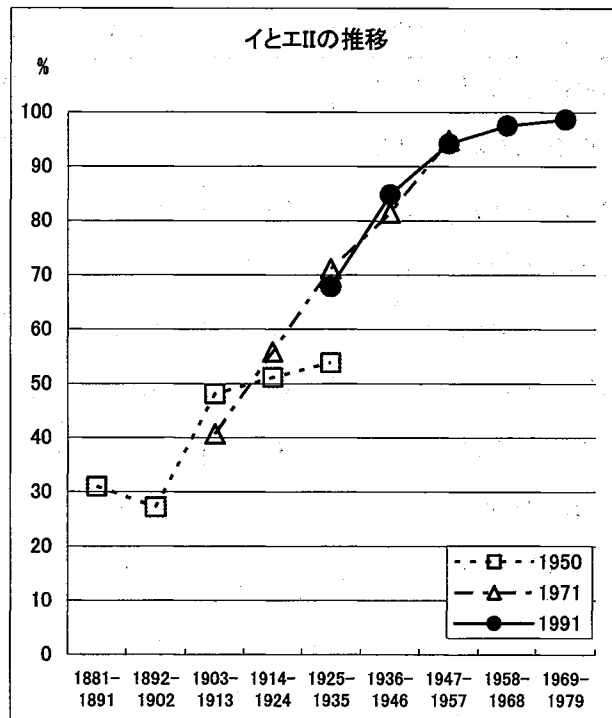
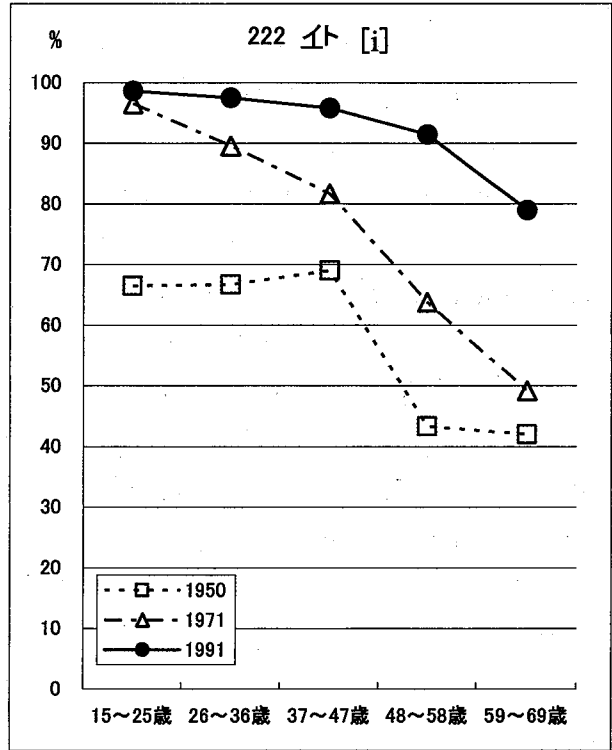


図 II-78 イとエ II (生年別)

表Ⅱ-79 222.糸(亾)[i]

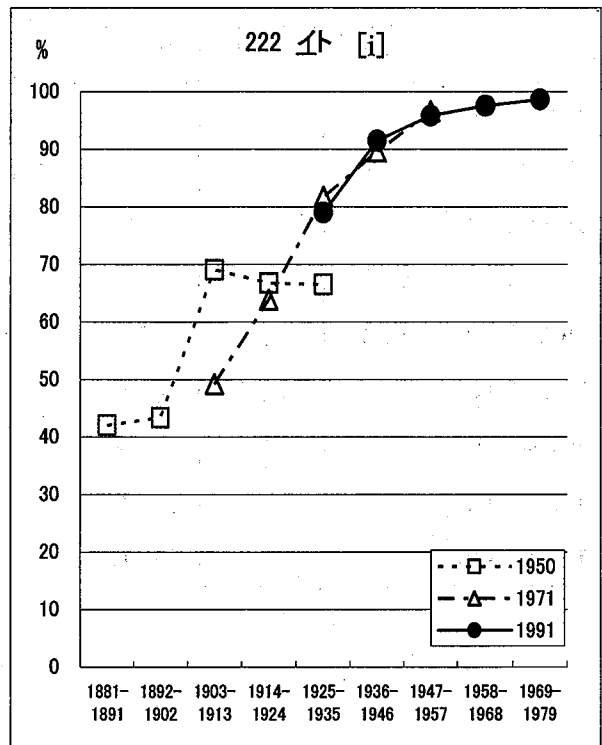
	1950	1971	1991
15~25歳	66.5	96.5	98.6
26~36歳	66.7	89.5	97.5
37~47歳	69.0	81.7	95.8
48~58歳	43.3	63.8	91.5
59~69歳	42.0	49.2	78.9



図Ⅱ-79 222.糸(亾)[i]

表Ⅱ-80 222.糸(亾)[i]

	1950	1971	1991
1881-1891	42.0		
1892-1902	43.3		
1903-1913	69.0	49.2	
1914-1924	66.7	63.8	
1925-1935	66.5	81.7	78.9
1936-1946		89.5	91.5
1947-1957		96.5	95.8
1958-1968			97.5
1969-1979			98.6



図Ⅱ-80 222.糸(亾)[i]

表 II-81 220.息(イキ)[i]

	1950	1971	1991
15~25歳	41.2	93.0	98.6
26~36歳	35.5	73.3	97.5
37~47歳	27.1	60.6	92.6
48~58歳	11.1	47.8	78.0
59~69歳	20.0	32.2	56.6

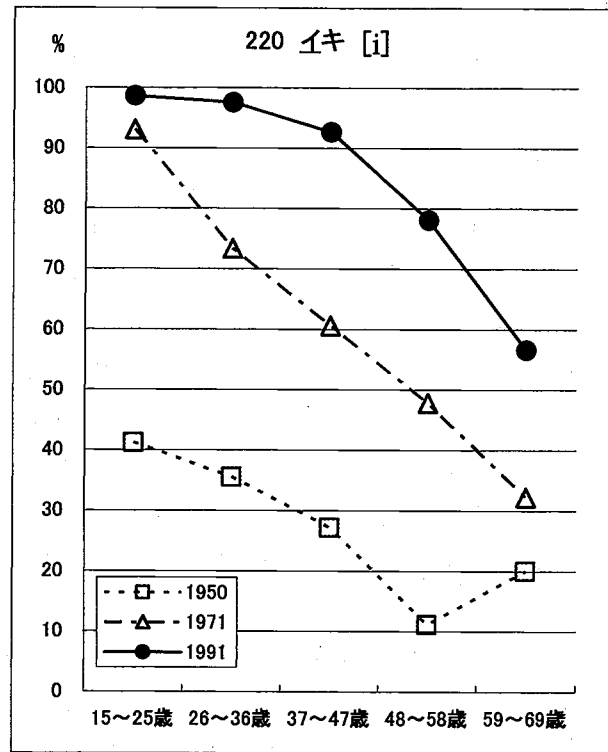


図 II-81 220.息(イキ)[i]

表 II-82 220.息(イキ)[i]

	1950	1971	1991
1881-1891	20.0		
1892-1902	11.1		
1903-1913	27.1	32.2	
1914-1924	35.5	47.8	
1925-1935	41.2	60.6	56.6
1936-1946		73.3	78.0
1947-1957		93.0	92.6
1958-1968			97.5
1969-1979			98.6

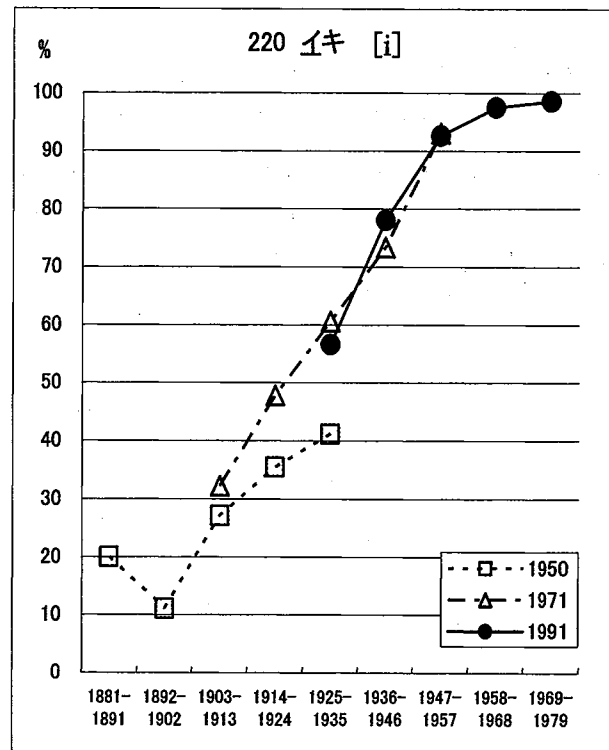


図 II-82 220.息(イキ)[i]

2. アクセント項目

アクセント項目は、「背中」(203)、「猫」(207)、「旗」(210)、「鳥」(228)、「団扇(うちわ)」(231)の5項目である。

それぞれの語の方言アクセントの型と共通語アクセントの型は以下のとおりである(「方」は方言アクセントの型、「共」は共通語アクセントの型。○は低い音調, ●は高い音調を表す)。

背中 (○●○=方・○●●=共), 猫 (○●=方・●○=共), 旗 (○○または●○=方・○●=共), 鳥 (○●○=方・●○○=共), 団扇 (○○●=方・○●○=共)

アクセント項目全体の共通語得点(満点は5点)を見ると, 1950年調査ではすべての年齢層が1.0以下であり, 年齢差は認められない。すなわち, すべての年齢層がほぼ方言アクセントで発音している(表Ⅱ-83)。

1971年調査では若年層を中心に共通語化の兆しが認められる。しかし, 最若年層でも1.8点(共通語率36%)であり, 共通語化の度合いは小さい。1991年調査では, さらに共通語化が進むが, 最若年層でも3.1点(共通語率62%)であり, 音声に比べると共通語化の度合いははるかに小さい。しかし, この傾向から, 将来, アクセントもすべての世代が共通語化すると推測される(ただし, これは後にのべるように共通語アクセント能力が増加しつつあるとみるべきであり, 方言会話におけるアクセントの共通語化はそれほど大きくないと推定される)。

なお, 同一世代における共通語率の上昇が, 5世代のすべてについて認められる(表Ⅱ-84)。とくに1925年~1935年生まれの世代(1950年調査における最若年層)について, 1950年調査と1971年調査の間における共通語率の上昇が目立っているが, これは, この世代における共通語率がその上の世代(1914-1924生まれ)よりやや低下したことが影響している。

項目別に見ると, 各世代を平均して, どの調査においても「猫」の共通語率が最も大きく(1951年調査12.3%・1972年調査37.0%・1991年調査63.7%), 「背中」の共通語率が最も小さい(1951年調査9.0%・1972年調査21.2%・1991年調査36.5%)。

同一世代における共通語率の上昇も, 「猫」について顕著に認められる。とくに1951年調査と1971年調査の間の上昇が大きい。

・アクセント得点—共通語アクセントの得点

表 II-83 アクセント得点 (11年刻み)

	1950	1971	1991
15～25歳	0.4	1.8	3.1
26～36歳	0.6	1.3	3.0
37～47歳	0.4	1.2	2.2
48～58歳	0.2	1.0	1.7
59～69歳	0.5	0.9	1.4

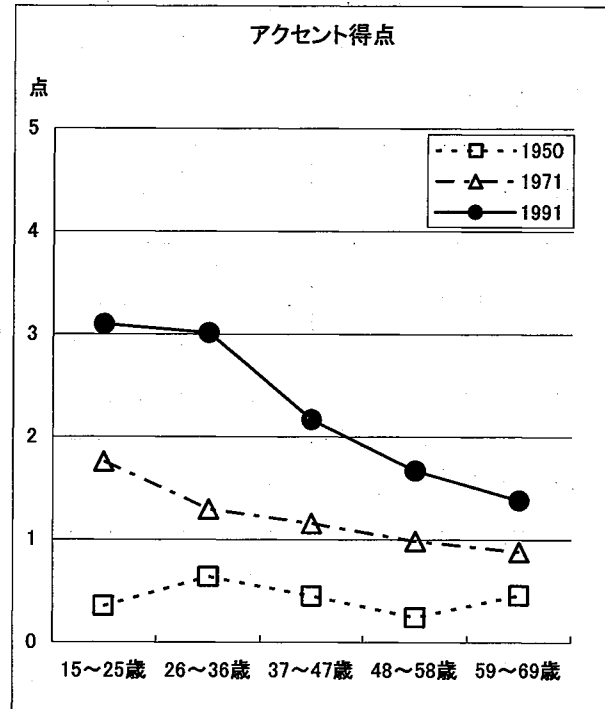


図 II-83 アクセント得点 (11年刻み)

表 II-84 アクセント得点 (生年別)

	1950	1971	1991
1881-1891	0.5		
1892-1902	0.2		
1903-1913	0.4	0.9	
1914-1924	0.6	1.0	
1925-1935	0.4	1.2	1.4
1936-1946		1.3	1.7
1947-1957		1.8	2.2
1958-1968			3.0
1969-1979			3.1

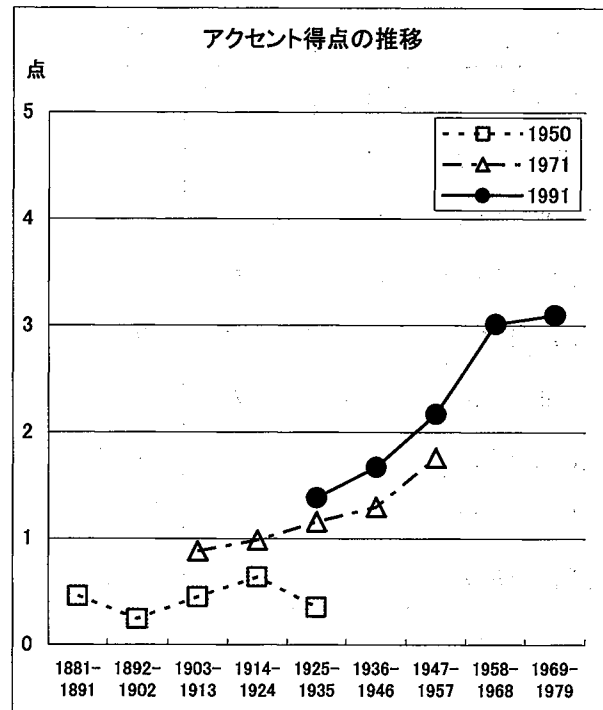
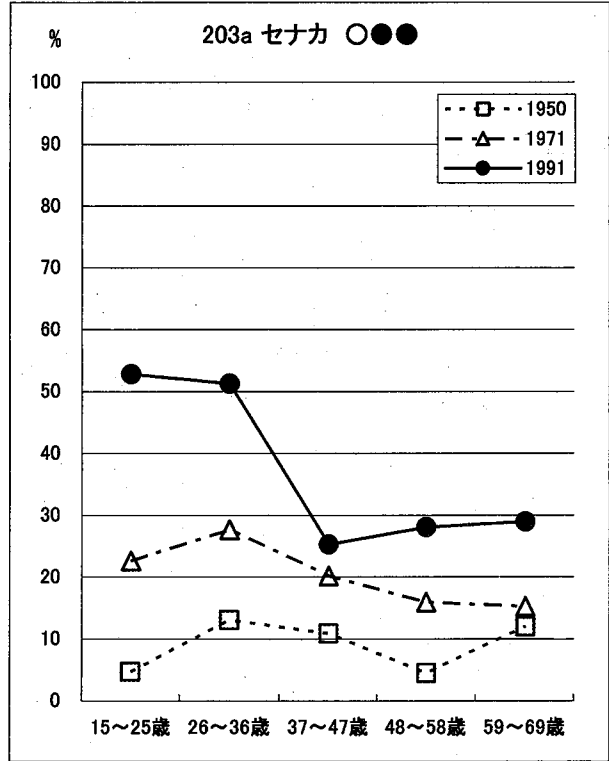


図 II-84 アクセント得点 (生年別)

表Ⅱ-85 203a.背中(セナカ)[○●●]

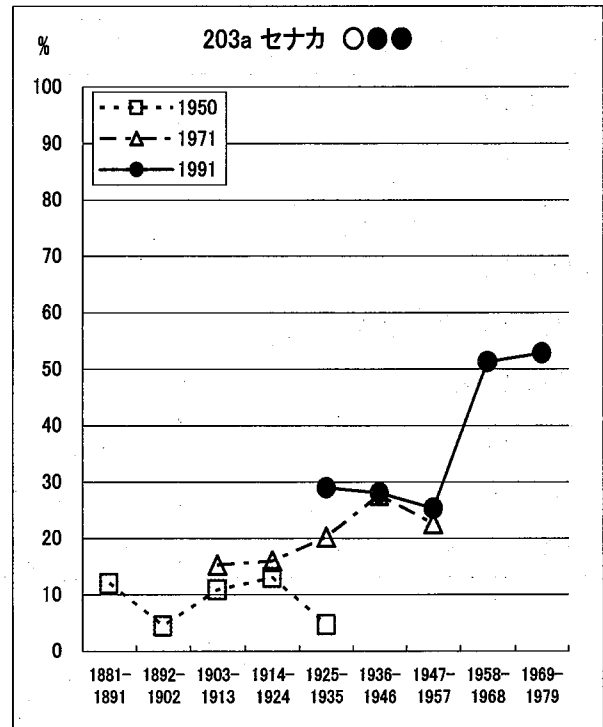
	1950	1971	1991
15~25歳	4.7	22.6	52.8
26~36歳	13.0	27.6	51.3
37~47歳	10.9	20.2	25.3
48~58歳	4.4	15.9	28.0
59~69歳	12.0	15.3	28.9



図Ⅱ-85 203a.背中(セナカ)[○●●]

表Ⅱ-86 203a.背中(セナカ)[○●●]

	1950	1971	1991
1881-1891	12.0		
1892-1902	4.4		
1903-1913	10.9	15.3	
1914-1924	13.0	15.9	
1925-1935	4.7	20.2	28.9
1936-1946		27.6	28.0
1947-1957		22.6	25.3
1958-1968			51.3
1969-1979			52.8



図Ⅱ-86 203a.背中(セナカ)[○●●]

表 II-87 207a.猫(ネコ)[●○]

	1950	1971	1991
15~25歳	8.8	48.7	88.9
26~36歳	14.5	33.3	83.8
37~47歳	12.4	35.8	61.1
48~58歳	8.9	33.3	41.5
59~69歳	8.0	25.4	46.1

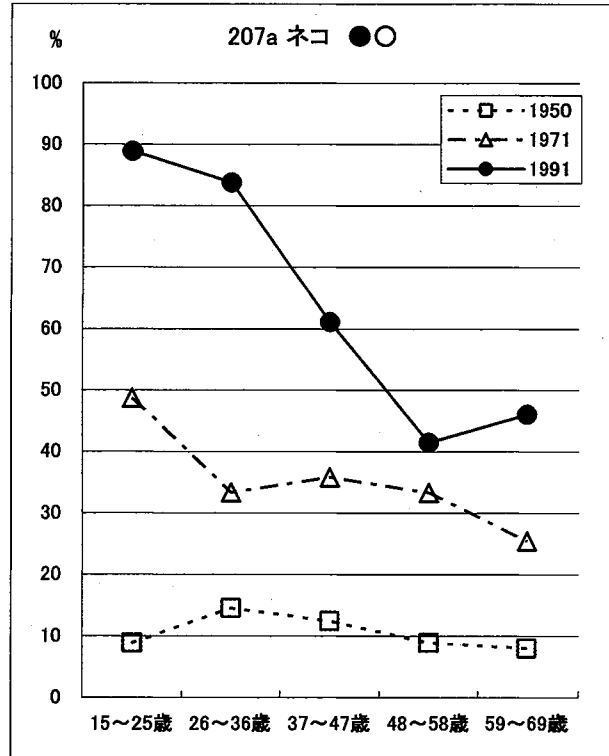


図 II-87 207a.猫(ネコ)[●○]

表 II-88 207a.猫(ネコ)[●○]

	1950	1971	1991
1881-1891	8.0		
1892-1902	8.9		
1903-1913	12.4	25.4	
1914-1924	14.5	33.3	
1925-1935	8.8	35.8	46.1
1936-1946		33.3	41.5
1947-1957		48.7	61.1
1958-1968			83.8
1969-1979			88.9

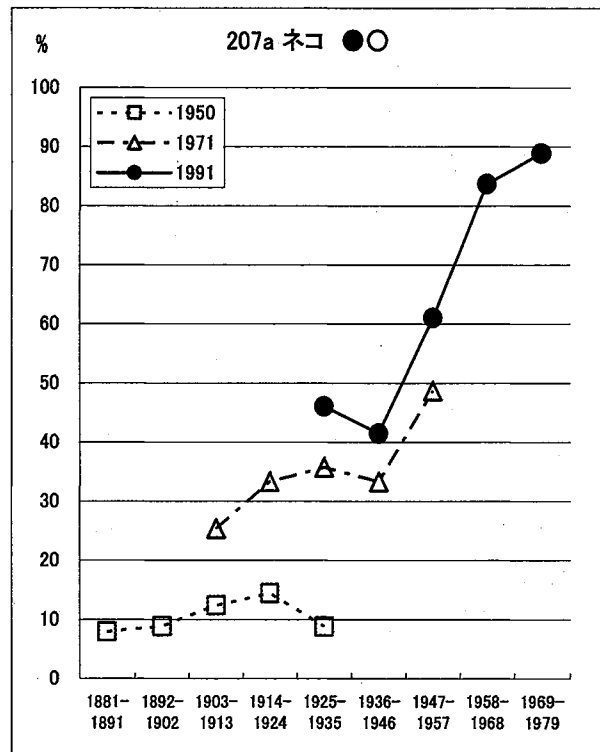
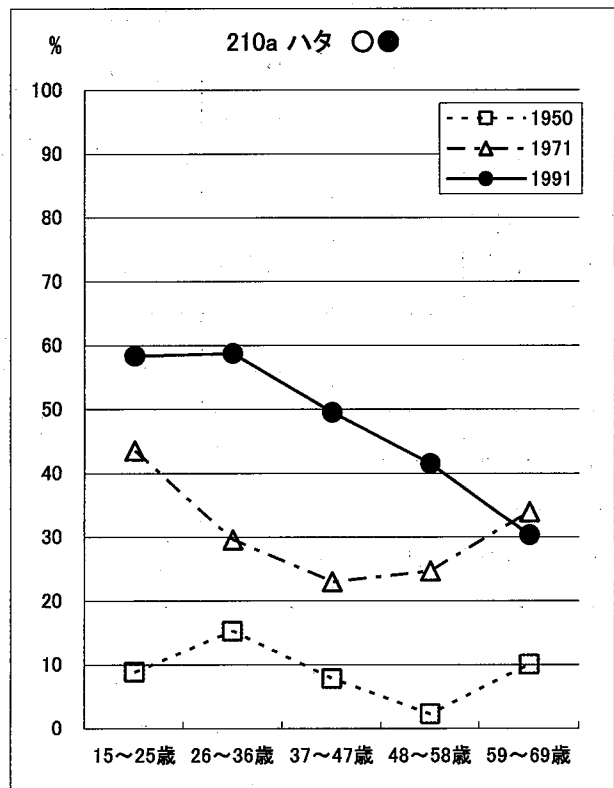


図 II-88 207a.猫(ネコ)[●○]

表Ⅱ-89 210a.旗(ハタ)[○●]

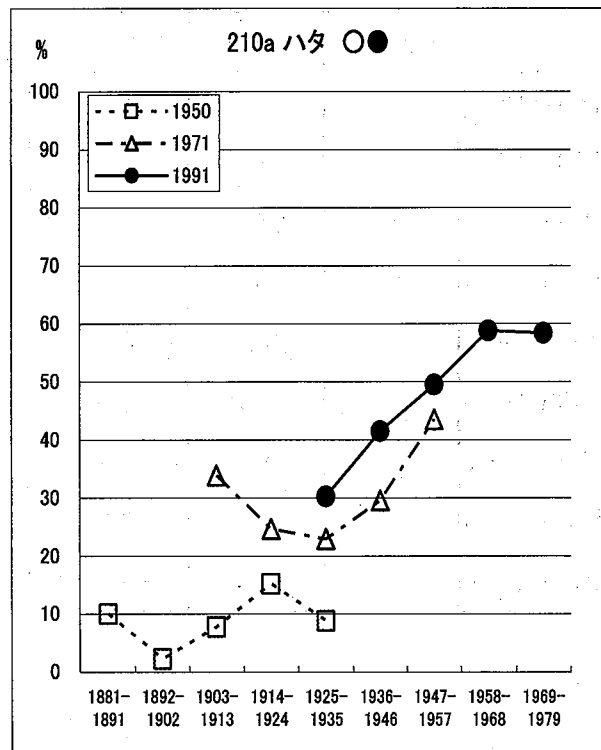
	1950	1971	1991
15~25歳	8.8	43.5	58.3
26~36歳	15.2	29.5	58.8
37~47歳	7.8	22.9	49.5
48~58歳	2.2	24.6	41.5
59~69歳	10.0	33.9	30.3



図Ⅱ-89 210a.旗(ハタ)[○●]

表Ⅱ-90 210a.旗(ハタ)[○●]

	1950	1971	1991
1881-1891	10.0		
1892-1902	2.2		
1903-1913	7.8	33.9	
1914-1924	15.2	24.6	
1925-1935	8.8	22.9	30.3
1936-1946		29.5	41.5
1947-1957		43.5	49.5
1958-1968			58.8
1969-1979			58.3



図Ⅱ-90 210a.旗(ハタ)[○●]

表 II-91 228a.鳥(カラス)[●○○]

	1950	1971	1991
15~25歳	7.1	41.7	86.1
26~36歳	13.8	25.7	73.8
37~47歳	7.8	22.0	54.7
48~58歳	3.3	13.0	39.0
59~69歳	10.0	8.5	21.1

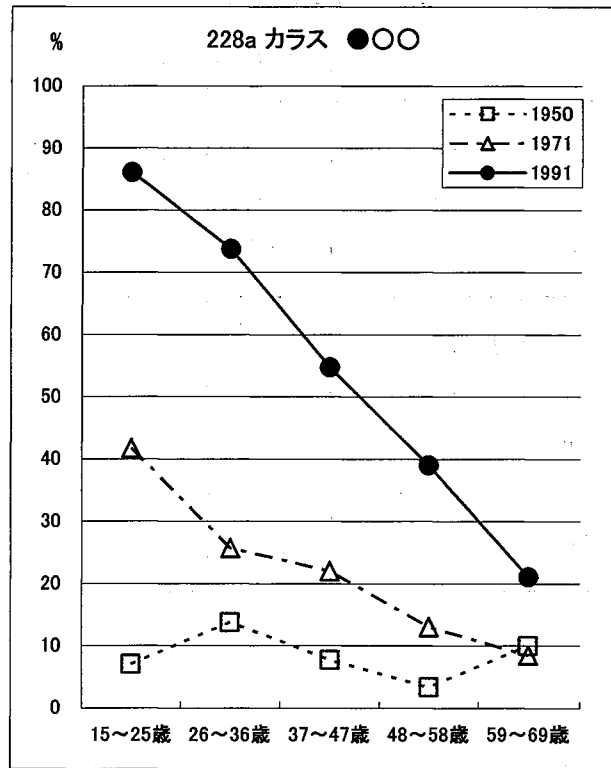


図 II-91 228a.鳥(カラス)[●○○]

表 II-92 228a.鳥(カラス)[●○○]

	1950	1971	1991
1881-1891	10.0		
1892-1902	3.3		
1903-1913	7.8	8.5	
1914-1924	13.8	13.0	
1925-1935	7.1	22.0	21.1
1936-1946		25.7	39.0
1947-1957		41.7	54.7
1958-1968			73.8
1969-1979			86.1

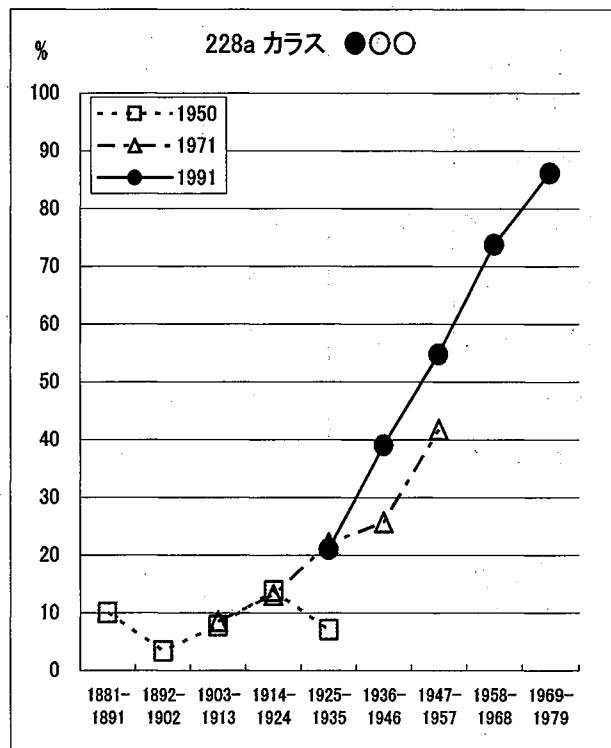


図 II-92 228a.鳥(カラス)[●○○]

表 II-93 231a.団扇(ウチワ)[○●○]

	1950	1971	1991
15~25歳	5.9	19.1	23.6
26~36歳	7.2	13.3	33.8
37~47歳	6.2	14.7	26.3
48~58歳	5.6	11.6	17.1
59~69歳	6.0	5.1	11.8

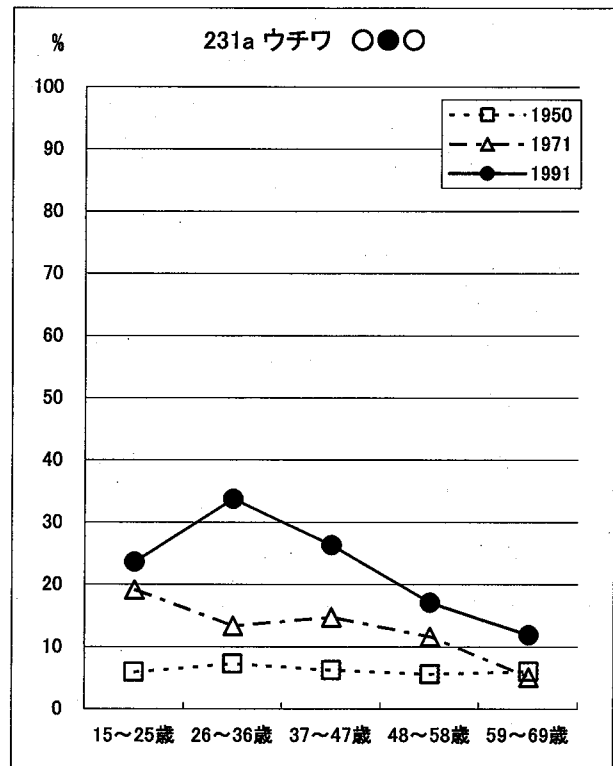


図 II-93 231a.団扇(ウチワ)[○●○]

表 II-94 231a.団扇(ウチワ)[○●○]

	1950	1971	1991
1881-1891	6.0		
1892-1902	5.6		
1903-1913	6.2	5.1	
1914-1924	7.2	11.6	
1925-1935	5.9	14.7	11.8
1936-1946		13.3	17.1
1947-1957		19.1	26.3
1958-1968			33.8
1969-1979			23.6

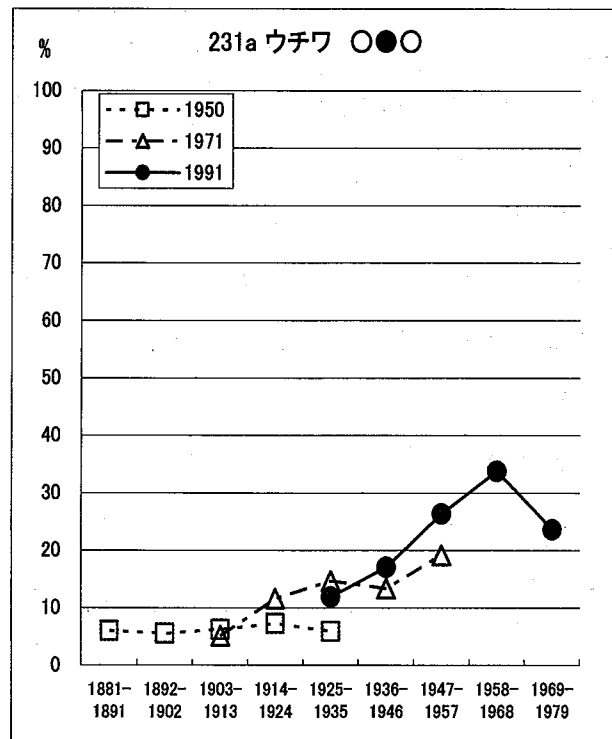


図 II-94 231a.団扇(ウチワ)[○●○]

3. 音声項目のまとめ

- (1) 全体として共通語化の度合いが著しく、1971年調査では25歳以下の年齢層で、1991年調査では47歳以下の年齢層で100%近く共通語化している（しかし、5で述べるように、これはむしろ「共通語使用能力を獲得している」とみるべきである）。
- (2) どの年齢層を見ても、1950年から1971年間の共通語得点の増加率が、1971年から1991年間の増加率よりも大きい。
- (3) 項目全体をとおして見れば、一部の世代を除いて、同一世代の20年間あるいは40年間における共通語得点の増加率は小さい。しかし、分野別に見ると、分野によっては、一部の世代について、20年あるいは40年間に共通語得点の増加（すなわち共通語化）や、共通語得点の減少（すなわち方言化）が認められる。後者の「加齢するにつれて方言化する」という一見奇妙な現象については、「各世代のインフォーマントの属性（性・学歴・性格など）の相違」「調査員の聴き取り能力の個人差」「項目による聴き取りの難易度」「調査法上の問題」（下記の5を参照）など、さまざまな要因がからんでいるのではないかと推測される。一方、同一世代・同一人物の音声の一部の項目（語）について方言化するという現象も、実際にはあり得るのではないかと考えられる。
- (4) 分野別の共通語率を1991年調査における各年齢層の平均値について見ると、「口蓋化」(97.5%)、「唇音性Ⅰ」(97.4%)、「唇音性Ⅱ」(94.0%)、「有声化」(93.9%)、「中舌化Ⅰ」(93.2%)、「鼻音化」(88.2%)、「イとエⅠ」(86.7%)、「イとエⅡ」(86.6%)、「中舌化Ⅱ」(76.1%)の順に大きい。
- (5) 分野別の共通語率を1991年調査における最高年齢層（59～69歳）について見ると、「口蓋化」(95.6%)、「唇音性Ⅰ」(93.4%)、「有声化」(90.1%)、「中舌化Ⅰ」(83.9%)、「唇音性Ⅱ」(74.6%)、「イとエⅠ」(70.4%)、「イとエⅡ」(67.8%)、「鼻音化」(62.7%)「中舌化Ⅱ」(50.0)の順に大きく、この順序は全体の平均値における順序とほぼ一致する。ただし、この順序は年齢層によって若干異なる。たとえば、共通語率が最も大きいのは、最若年齢層（15～25歳）では「鼻音化」(100%)、26～36歳では「唇音性Ⅰ」(100%)、37～47歳では「唇音性Ⅱ」(98.6%)、48～58歳では「唇音性Ⅰ」(97%)である。共通語率が最も小さい分野が「中舌化Ⅱ」であることは、すべての年齢層で共通である。

4. アクセント項目のまとめ

- (1) 音声に比べて、共通語化の度合いがはるかに小さく、最大の共通語率を示した年齢層は1950年調査では26～36歳の12%（5点満点中の0.6点）であり、1991年調査でも最若年齢層（15～25歳）の62%（5点満点中の3.1点）にすぎない（表Ⅱ-83）。アクセントは1991年の段階でも共通語化の途上にあると言える。
- (2) 同一世代における共通語率の上昇が5世代のすべてについて認められる。
- (3) 項目別に見ると、各年齢層を平均して、どの調査においても「猫」の共通語率が最も大きく、「背中」の共通語率が最も小さい。

5. 調査法に関する問題点

鶴岡調査の結果を見ると、音声項目において、1991年調査では若年層・中年層は100%近く共通語化している。しかし、鶴岡市民の日常会話を観察すると、中年層はもちろん、若年層の中にもかなりの方言音声認められ、この調査結果と矛盾している。

筆者は、国立国語研究所の鶴岡調査における音声・アクセント項目は、場面や対者（話す相手）を指定せず、「なぞなぞ式」で単語を発音させるという方式をとったために日常会話で使用している方言音声ではなく、インフォーマントが改まった場面やよその地方の人と話すときに用いる共通語的音声が発音された傾向があったのではないかと考える。

筆者はこの仮説を検証するために、鶴岡市の隣町である三川町において、「なぞなぞ式」で単語を発音させる方式と、その単語を含む方言文を（地元の親しい友人と話す場合という条件で）発話させるという方式で調査し、両方式の調査結果を比較したところ、調査項目全体・各年齢層を平均して、「なぞなぞ式」では方言音声の出現率が49%であったのに対し、（話し相手を地元の親しい友人と指定した）方言文の発話では72%の方言音声出現率を得た（佐藤 2000）。この調査はアクセントについても行ったが、同様の結果であった（佐藤 2005）。

鶴岡調査において音声項目が高い共通語化の数値を示したことについて、これがインフォーマントの共通語能力を示しているという解釈は国立国語研究所 1974 にも、次のように記されている。

音声・アクセントと文法・語彙とでは調査の観点が異なっている。すなわち、前者では被調査者の共通語使用能力に重点がおかれているのに対し、文法・語彙では使用の実態に力点がおかれている。この違いが音声・アクセントと文法・語彙との結果につながっていると言える（同書 134 ページ）。

しかし、国立国語研究所の鶴岡調査は、地域社会における方言使用の実態を見ようとしたものであり、1950年調査の段階から、調査項目によって調査の目的（観点）を変えているとは考えにくい。音声・アクセントも語彙・文法と同様に日常生活における方言使用の実態を調査するのが当初の目的であったと考えられる。

調査票を見ると、語彙項目では使用場面を「ふつうなんとおっしゃいますか」という表現で指定し、文法項目ではさらに話し相手を「あなたが親しい友達にむかっている時の言葉についていくつかお尋ねします」という表現で指定している（巻末の調査票参照）。音声・アクセント項目にこのような指定がないのは、1950年調査を企画した際に、語彙・文法についてはインフォーマントが場面によって方言と共通語を使い分ける可能性があるが、音声・アクセントは使い分ける可能性が小さいと考えたからではないだろうか。

しかし、現代では若いも若きも、音声・アクセントを含めて場面に応じて方言と共通語を使い分ける傾向があり、それは若年層・中年層についてとくに顕著である。国立国語研究所の鶴岡調査の結果を解釈するときには、この事実を認識することが重要であると筆者は考える。

この認識の下に、1992年の第3回の鶴岡調査では、従来の調査項目とは別に、調査法を変えると結果がどのように変化するかという「場面差調査」が行われた。その調

査の概要および結果については国立国語研究所 2006 に報告されている。

これらの検証調査の結果を踏まえて、今後、日常の言語生活における方言使用について社会言語学的観点から多人数調査を行う場合には、音声・アクセント項目の調査法について、従来行われている「なぞなぞ式」(音声項目)や「短文読み上げ方および式」(アクセント項目)以外の調査方法を開発する必要があるだろう。

【引用文献】

国立国語研究所 (1974) 『地域社会の言語生活—鶴岡における 20 年前との比較—』(秀英出版)

国立国語研究所 (2006) 『方言使用の場面的多様性—鶴岡市における場面差調査から—』(内部資料)

佐藤亮一 (2000) 「方言の調査法に関する一考察」『玉藻』第 36 号 (フェリス女学院大学国文学会)

佐藤亮一 (2005) 「アクセント調査における「読ませる調査」と「言わせる調査」—山形県三川町における小調査から—」『日本語学の蓄積と展望』(明治書院)

III 語彙・文法（語法）

語彙・文法（語法）に関する調査項目は、多種多様であり、また第1回調査から第3回調査まで同じく扱ったものと、第2回と第3回だけ取り上げた項目とが混在している。本章では、語彙項目、文法（語法）項目の順にみていく。また、それぞれにおいては最初に3回の調査結果が得られた項目群を取り上げ、次いで第2回調査から対象となった項目群について概観することとする。

本章では、原則として、「11年刻みの図」をもとに記述を行う。この11年刻みの図は被調査者の生年を11歳単位でまとめたもので、通常の刻み方からすれば違和感がないこともないが、「I 調査の概要」の中で記述されているように通時的な観点からデータを眺める場合の利点大きい。

なお、本章では語彙・文法（語法）項目の長期間の変化・変遷を概観するためのデータの利用法の一面に言及するという立場から、性別、学歴別、詳細な年齢別といった分析はあえて行っていない。

1. 語彙項目

1.1 3回の調査結果が得られた項目

(1) 質問文

第1回（1950年実施）、第2回（1971年実施）、第3回（1991年実施）のすべての調査で取り上げられた語彙項目は以下の6つあり、それぞれの質問文は次のようになっている。（質問文の前の3桁の数字は第3回調査の調査票に付された調査項目コード）

241. 「あの人はいつも遅れてくる」という時、「いつも」ということをふつう何とおっしゃいますか。
242. 「わたくしが留守番をしています」という時、「留守番」ということをふつう何とおっしゃいますか。
243. 「どうぞこちらへいらっしゃい」といねいにいう時、「いらっしゃい」ということをふつう何とおっしゃいますか。
244. 「くたびれたもう歩けない」という時の「もう」ということをふつう何とおっしゃいますか。
245. うしろから急にワッと大きい声をかけられた時の感じですが、「アッ、どうした」とおっしゃいますか。
246. みんなのしている前で失敗して、顔が赤くなるような感じをふつうどんなだとおっしゃいますか。

(2) 調査結果

これら 6 項目のそれぞれに対する調査結果を、以下に図示する。これらの図は、鶴岡において、ほぼ 100 年の言語変化の方向を雄弁に物語っていることは、「I 調査の概要」で述べたこととほぼ一致しているといえる。以下ではまず、本稿に示す図表について注記すべき事項を述べることとする。

① 前述の質問文との対応：

各図の最上段の見出し欄、たとえば最初の図（図Ⅲ-1）での「241. イツモ・ショツチュー」という記述の 3 桁の数値 241. は、先に示した調査項目コードと一致している。つまり、この図は(1)で示した 241. コードの質問文に対する調査結果を表すものであることを意味している。また、2 つ目の図（図Ⅲ-2）の見出し欄は「241. トース・トーシン」となっており、これも 1 つ目のグラフと同じ質問文に関係した図だということがわかる。つまり、この 2 つの図は『いつも遅れてくる』という時の『いつも』の部分はどう言うか』という問に対する被調査者の回答率の変化を示すものである。

② 回答語形の提示：

質問に対する被調査者の回答語形（を一定の観点からまとめたもの）が各図の見出し欄コードのあとのカタカナ表記である。最初の図は「イツモ」と「ショツチュー」を共通語形ということで合算して描いたものである。また、2 番目の図は共通語「イツモ」に対応する鶴岡方言「トース・トーシン」の使用度を示している。本章での多くの図は同じ項目コードを有する諸図においては、初めの図は共通語形の使用率を示すものとなっており、これに続く図あるいは諸図（方言形が複数存在する場合）は当該方言形の使用度を示す図である。

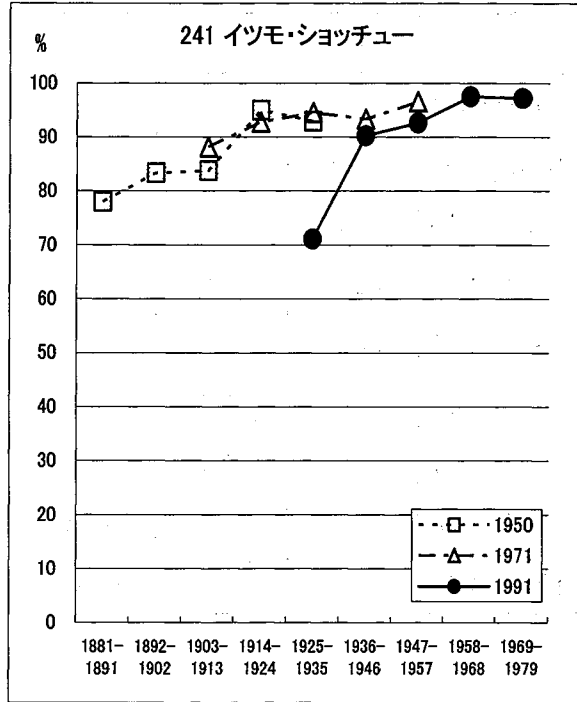
③ カテゴリーの統合：

最初の図（図Ⅲ-1）（「241. イツモ・ショツチュー」）を描くために用いたデータは、実査段階では「イツモ」と「ショツチュウ」とは別回答として記録されていたものを集計時に共通語使用という観点からあえて統合したものである。これに対して第 2（図Ⅲ-2）「241. トース・トーシン」のは調査票で 1 コード（カテゴリー）となっているものである。つまり、鶴岡方言の「トース」と「トーシン」の両形の音声上の差異は小さいと考えられたため、調査票設計段階から発音の細部の違いを無視してまとめられた 1 つのコードとなっている。なお、集計段階で統合されたカテゴリーかどうかは巻末に資料として収められた「面接調査票」の回答カテゴリーを見れば区別がつかずである。

241.「あの人はいつも遅れてくる」という時、「いつも」ということをふつう何とおっしゃいますか。

表III-1 241.「イツモ・ショツチュー」

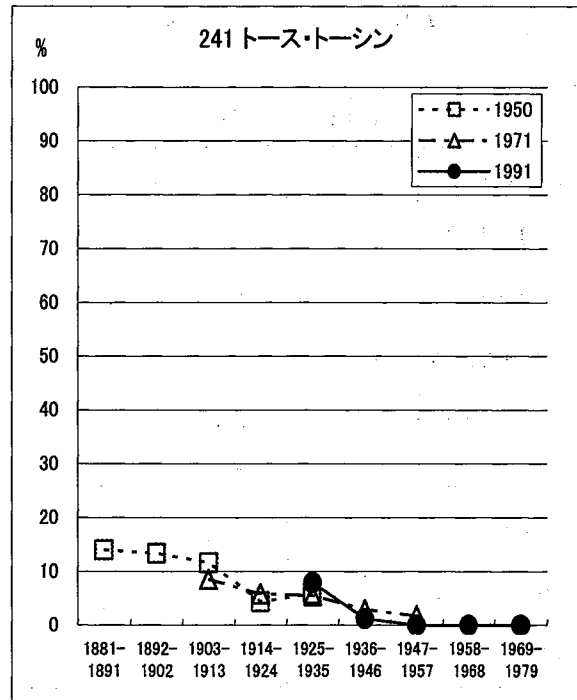
イツモ・ショツチュー	1950	1971	1991
1881-1891	78.0		
1892-1902	83.3		
1903-1913	83.7	88.1	
1914-1924	94.9	92.8	
1925-1935	92.9	94.5	71.1
1936-1946		93.3	90.2
1947-1957		96.5	92.6
1958-1968			97.5
1969-1979			97.2



図III-1 241.「イツモ・ショツチュー」

表III-2 241.「トース・トーシン」

トース・トーシン	1950	1971	1991
1881-1891	14.0		
1892-1902	13.3		
1903-1913	11.6	8.5	
1914-1924	4.3	5.8	
1925-1935	5.9	5.5	7.9
1936-1946		2.9	1.2
1947-1957		1.7	0.0
1958-1968			0.0
1969-1979			0.0

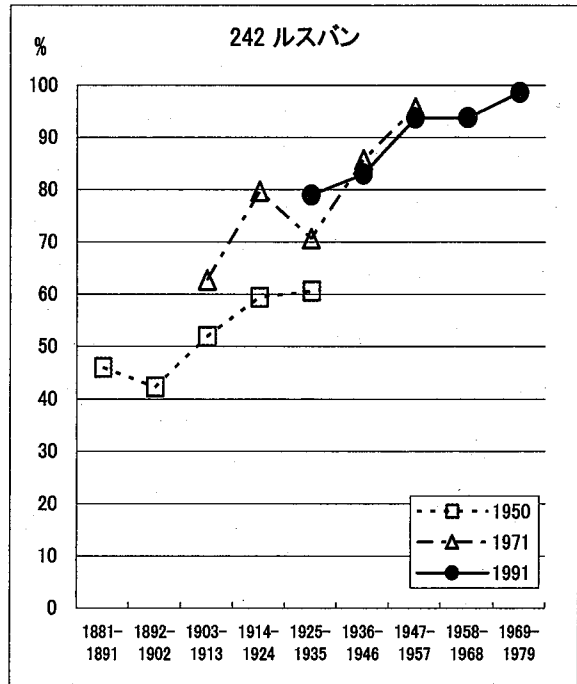


図III-2 241.「トース・トーシン」

242.「わたくしが留守番をしています」という時、「留守番」ということをふつう何とおっしゃいますか。

表Ⅲ-3 242.「ルスバン」

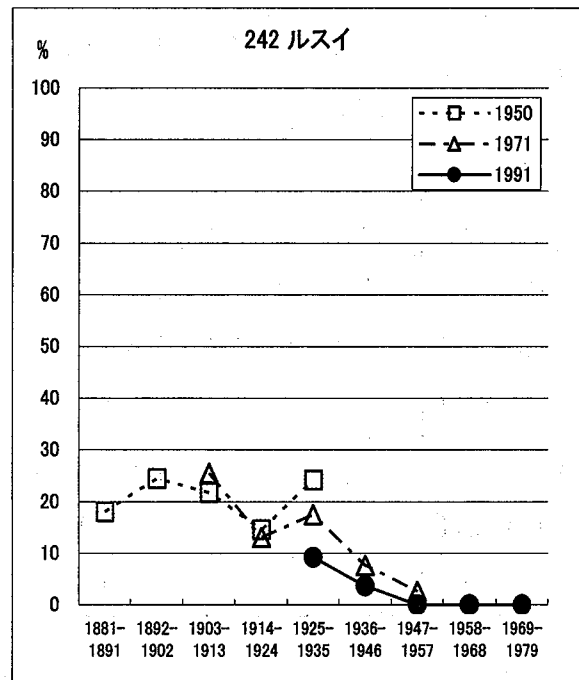
ルスバン	1950	1971	1991
1881-1891	46.0		
1892-1902	42.2		
1903-1913	51.9	62.7	
1914-1924	59.4	79.7	
1925-1935	60.6	70.6	78.9
1936-1946		85.7	82.9
1947-1957		95.7	93.7
1958-1968			93.8
1969-1979			98.6



図Ⅲ-3 242.「ルスバン」

表Ⅲ-4 242.「ルスイ」

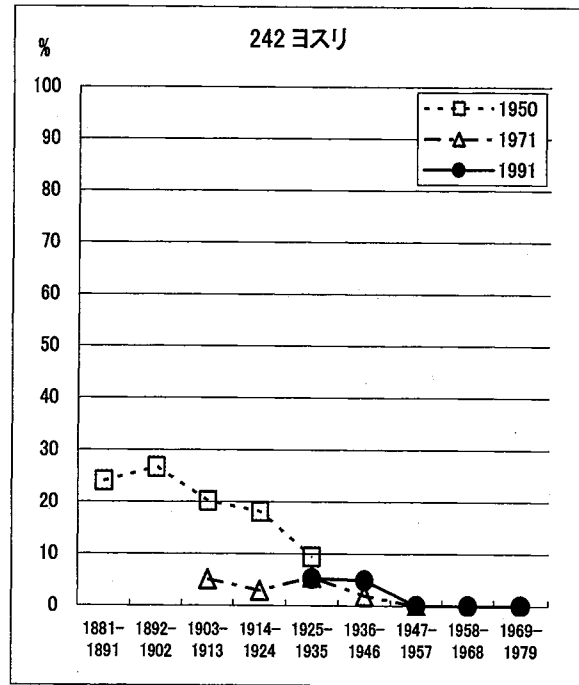
ルスイ	1950	1971	1991
1881-1891	18.0		
1892-1902	24.4		
1903-1913	21.7	25.4	
1914-1924	14.5	13.0	
1925-1935	24.1	17.4	9.2
1936-1946		7.6	3.7
1947-1957		2.6	0.0
1958-1968			0.0
1969-1979			0.0



図Ⅲ-4 242.「ルスイ」

表Ⅲ-5 242.「ヨスリ」

ヨスリ	1950	1971	1991
1881-1891	24.0		
1892-1902	26.7		
1903-1913	20.2	5.1	
1914-1924	18.1	2.9	
1925-1935	9.4	5.5	5.3
1936-1946		1.9	4.9
1947-1957		0.0	0.0
1958-1968			0.0
1969-1979			0.0

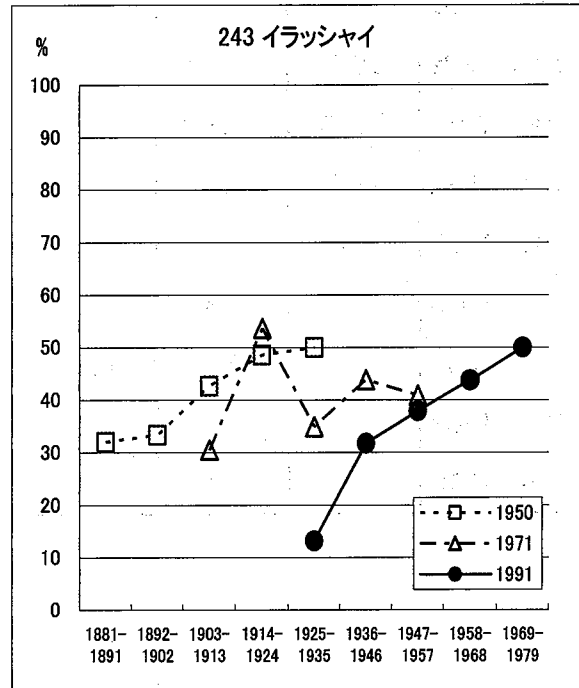


図Ⅲ-5 242.「ヨスリ」

243.「どうぞこちらへいらっしゃい」といねいという時、「いらっしゃい」ということをふつう何とおっしゃいますか。

表Ⅲ-6 243.「イラっしゃい」(イラっしゃテクダサイを含む)

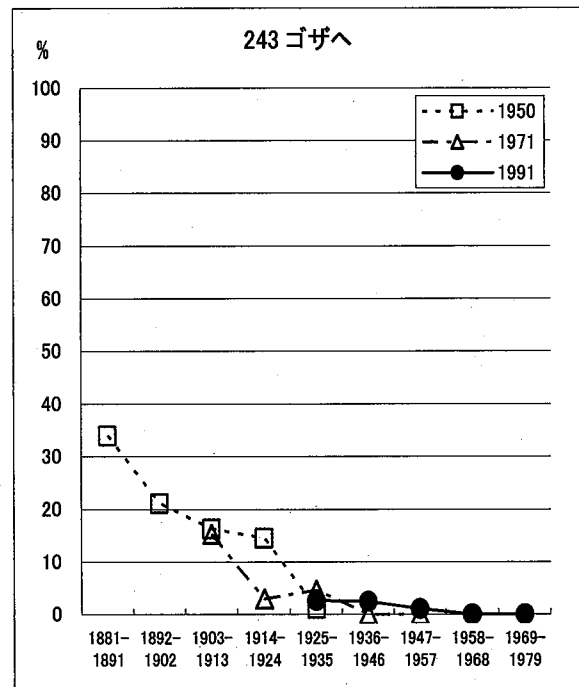
イラっしゃい	1950	1971	1991
1881-1891	32.0		
1892-1902	33.3		
1903-1913	42.6	30.5	
1914-1924	48.6	53.6	
1925-1935	50.0	34.9	13.2
1936-1946		43.8	31.7
1947-1957		40.9	37.9
1958-1968			43.8
1969-1979			50.0



図Ⅲ-7 243.「イラっしゃい」(イラっしゃテクダサイを含む)

表Ⅲ-8 243.「ゴザへ」

ゴザへ	1950	1971	1991
1881-1891	34.0		
1892-1902	21.1		
1903-1913	16.3	15.3	
1914-1924	14.5	2.9	
1925-1935	1.2	4.6	2.6
1936-1946		0.0	2.4
1947-1957		0.0	1.1
1958-1968			0.0
1969-1979			0.0

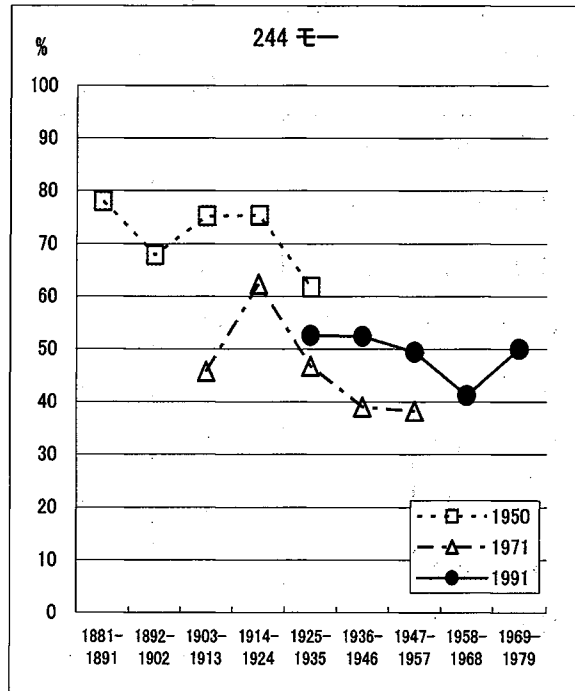


図Ⅲ-8 243.「ゴザへ」

244.「くたびれたもう歩けない」という時の「もう」ということをふつう何とおっしゃいますか。

表Ⅲ-9 244.「モー」

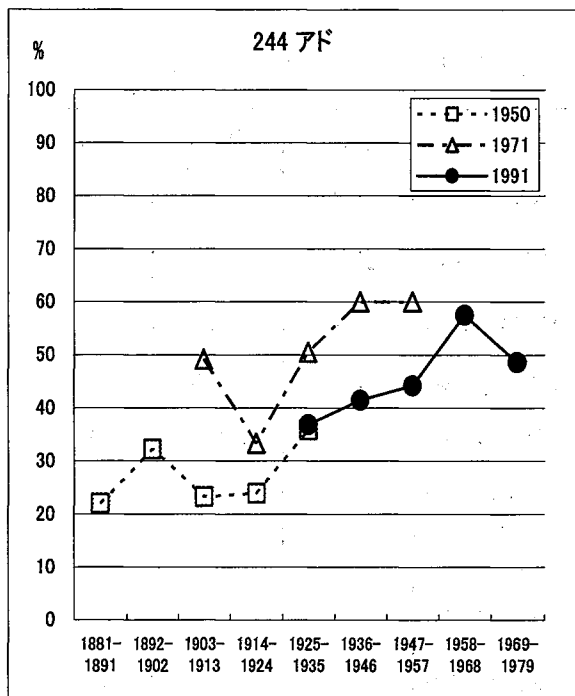
モー	1950	1971	1991
1881-1891	78.0		
1892-1902	67.8		
1903-1913	75.2	45.8	
1914-1924	75.4	62.3	
1925-1935	61.8	46.8	52.6
1936-1946		39.0	52.4
1947-1957		38.3	49.5
1958-1968			41.3
1969-1979			50.0



図Ⅲ-9 244.「モー」

表Ⅲ-10 244.「アド」

アド	1950	1971	1991
1881-1891	22.0		
1892-1902	32.2		
1903-1913	23.3	49.2	
1914-1924	23.9	33.3	
1925-1935	35.9	50.5	36.8
1936-1946		60.0	41.5
1947-1957		60.0	44.2
1958-1968			57.5
1969-1979			48.6

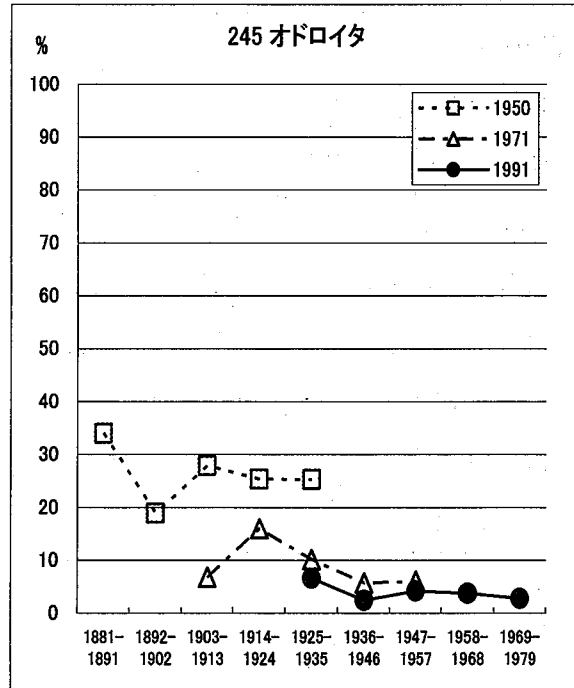


図Ⅲ-10 244.「アド」

245.うしろから急にワッと大きい声をかけられた時の感じですが、「アッ、どうした」とおっしゃいますか。

表Ⅲ-11 245.「オドロイタ」

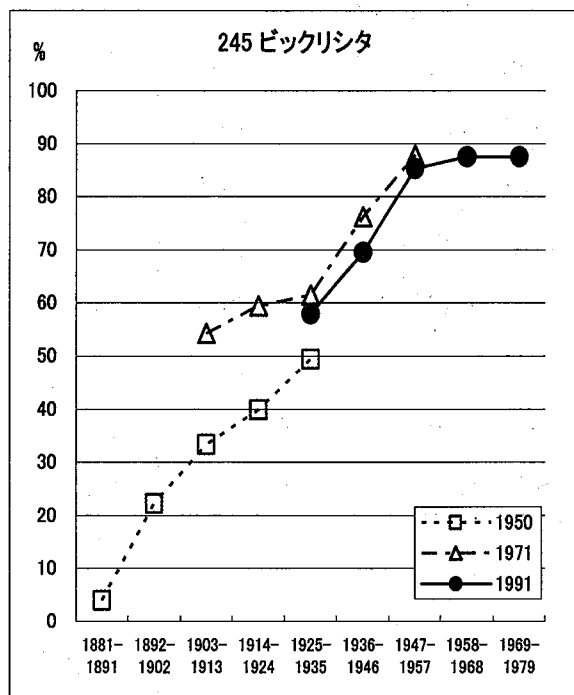
オドロイタ	1950	1971	1991
1881-1891	34.0		
1892-1902	18.9		
1903-1913	27.9	6.8	
1914-1924	25.4	15.9	
1925-1935	25.3	10.1	6.6
1936-1946		5.7	2.4
1947-1957		6.1	4.2
1958-1968			3.8
1969-1979			2.8



図Ⅲ-11 245.「オドロイタ」

表Ⅲ-12 245.「ビックリシタ」

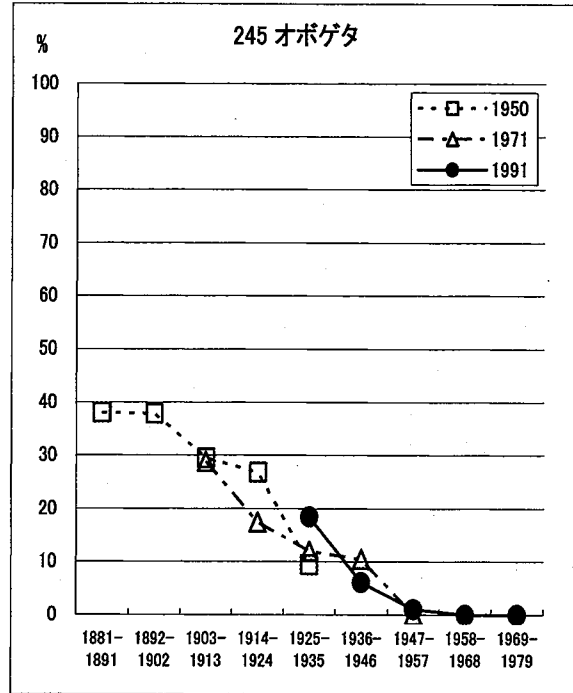
ビックリシタ	1950	1971	1991
1881-1891	4.0		
1892-1902	22.2		
1903-1913	33.3	54.2	
1914-1924	39.9	59.4	
1925-1935	49.4	61.5	57.9
1936-1946		76.2	69.5
1947-1957		87.8	85.3
1958-1968			87.5
1969-1979			87.5



図Ⅲ-12 245.「ビックリシタ」

表Ⅲ-13 245.「オボゲタ」

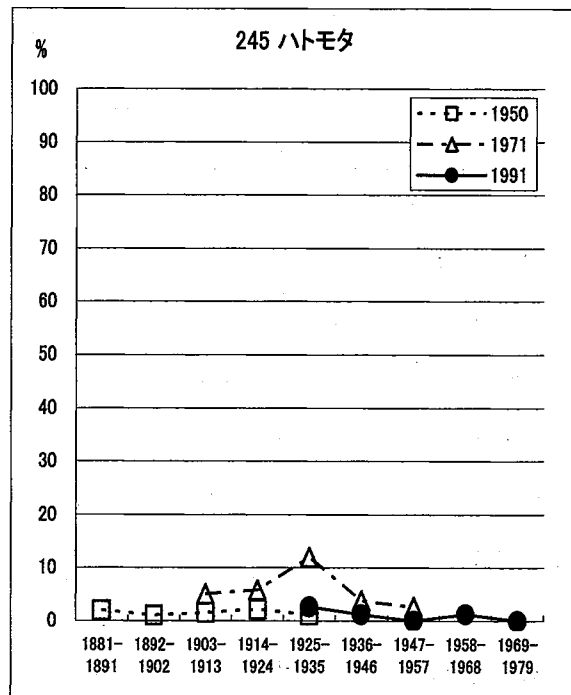
オボゲタ	1950	1971	1991
1881-1891	38.0		
1892-1902	37.8		
1903-1913	29.5	28.8	
1914-1924	26.8	17.4	
1925-1935	9.4	11.9	18.4
1936-1946		10.5	6.1
1947-1957		0.0	1.1
1958-1968			0.0
1969-1979			0.0



図Ⅲ-13 245.「オボゲタ」

表Ⅲ-14 245.「ハトモタ」

ハトモタ	1950	1971	1991
1881-1891	2.0		
1892-1902	1.1		
1903-1913	1.6	5.1	
1914-1924	2.2	5.8	
1925-1935	1.2	11.9	2.6
1936-1946		3.8	1.2
1947-1957		2.6	0.0
1958-1968			1.3
1969-1979			0.0

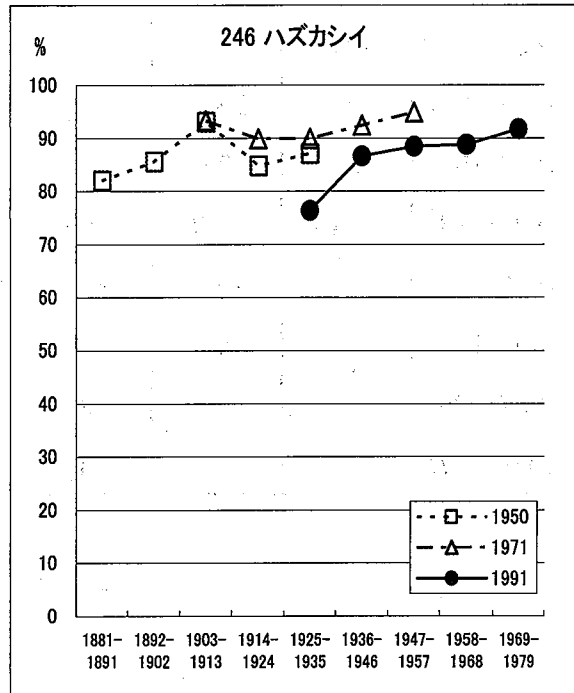


図Ⅲ-14 245.「ハトモタ」

246. みんなの見ている前で失敗して、顔が赤くなるような感じをふつうどんなだとおっしゃいますか。

表Ⅲ-15 246.「ハズカシイ」

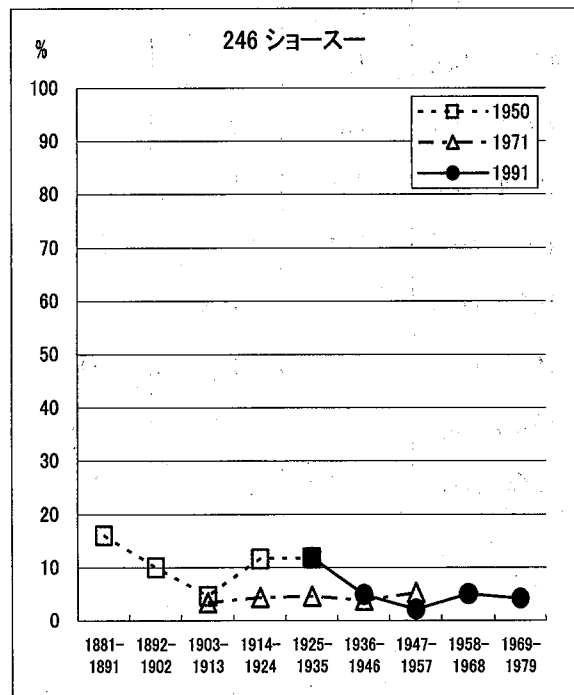
ハズカシイ	1950	1971	1991
1881-1891	82.0		
1892-1902	85.6		
1903-1913	93.0	93.2	
1914-1924	84.8	89.9	
1925-1935	87.1	89.9	76.3
1936-1946		92.4	86.6
1947-1957		94.8	88.4
1958-1968			88.8
1969-1979			91.7



図Ⅲ-15 246.「ハズカシイ」

表Ⅲ-16 246.「ショースー」

ショースー	1950	1971	1991
1881-1891	16.0		
1892-1902	10.0		
1903-1913	4.7	3.4	
1914-1924	11.6	4.3	
1925-1935	11.8	4.6	11.8
1936-1946		3.8	4.9
1947-1957		5.2	2.1
1958-1968			5.0
1969-1979			4.2



図Ⅲ-16 246.「ショースー」

(3) 共通語化のタイプ分け

図の見方の解説の最後（P.80）に述べたような観点から本節で列挙した諸図をみてみよう。

タイプⅠ： 3回の調査の折れ線グラフがほぼズレがなく繋がるものである。

「241. トース・トーシン」はその典型とでもいえるもので、3回の調査の結果がおおむね重なっており、あたかも1つの調査で得られたもののようにみえる。つまり、同じ世代の人々の間での方言形（あるいは共通語形）の使用率は、その集団のその後の年齢変化（加齢）や社会状況の変化とは無関係にほぼ同率が保たれているが、隣り合う世代で使用率が漸減ないしは増加するので地域社会全体では共通語化が進むとみられるものである。そして、「241. トース・トーシン」だけから考えれば、鶴岡では「トース・トーシン」という方言形は消滅しているといえようか。「245. オボゲタ」も同類である。

一方「241. イツモ・ショツチュー」は、鶴岡において使用率が漸増している（スタートの78%から97%へ）。そのこと自体は、この図（図Ⅲ-2）のペアである方言形（「241. トース・トーシン」）の使用率の減少を補完する形で共通語使用率の増加が起こっているというごく当然のことといえる。ただし、この項目では複数回答の割合が約10%と高く、しかも共通語形と方言形の併用者が大半を占めていることを心得ておく必要がある。「243. イラッシャイ」も共通語形と方言形の併用が多い項目である。

タイプⅡ： 3回の調査で折れ線は一定の方向に動いており、大局的にはタイプⅠに類似しているが、それでも調査時期による何らかの時代的影響が強く反映していると思われるデータである。

典型例が「242. ルスバン」である。この図（図Ⅲ-3）の折れ線は各調査時点において大略右上がりになっている。つまり、どの調査時点にあっても、若い年代ほど共通語化しているわけである。しかし、タイプⅠとは違って、1回目と2回目との間に共通語化のかさ上げとでも呼べるような上昇が認められる。おそらく1回目の調査時点と2目のそれとの間の社会状況の変化がこれを引き起こしたのはだと考えられる。なお、第2回目と第3回目との間にはかさ上げは認められなく、むしろタイプⅠ型化している。「ルスバン」の方言形の1つである「242. ヨスリ」は、第1回調査では一定の使用率があった年齢層（「1903-1913」「1914-1924」）が、第2回調査では使用率がほぼゼロになっている。「243. ゴザへ」も同類といえるだろう。

「245. ビックリシタ」も、第1回目と第2回目との間の変化は典型的なタイプⅡである。第2回調査でかさあげ上げされた使用率を保った形で、第2回目と第3回目のグラフはほぼ連続的になっている。この裏返しだが、もう1つの共通語形「オドロイタ」である。このことから鶴岡での「オボゲタ」（これはタイプⅠ）の共通語形は、かなり早い時期から「オドロイタ」から「ビックリシタ」に変化したことを物語っている。

タイプⅢ： 第1回目と第2回目で使用率分布に大きな変動がみられたものの、第3回目の調査結果は1回目と2回目との中間的位置付けとなり、1回目と3回目とを繋ぐとほぼタイプⅠとなるように見えるものである。

「244. モー」とその相方の「244. アド」の分布がこれに相当する。この項目は、第2回目の調査結果を除いた、1回目と3回目のデータをみると、連続的に繋がっている。つまり、細かな変動はみられるものの、大略、時代が進むにつれて共通語形が減り、方言形が増大する方向に動いている。他の項目はおおむね共通語化の方向に向かっているのに対して、この項目だけが方言使用率が上昇している。

この項目の質問文は、『くたびれたもう歩けない』という時の『もう』ということをつつう何とおっしゃいますか。』であるが、これは2回目からのものである。1回目の調査では『おなかがいっぱいになった。もうたくさんです』と言うとき、『もう』ということをつつう何とおっしゃいますか。』であった。このような質問文の変更が2回目以降の調査で共通語使用率を低減させたのかもしれない。こういった視点からグラフを見直すと、2回目と3回目の結果は似ているといえないこともない。

タイプⅣ： 上のタイプと異なり第3回目の結果だけが他と違って見えるものである。

「243. イラッシャイ」はその例であり、3回目の結果だけが著しい年齢差をみせている。この項目は「241. イツモ・ショチュウ」と同様複数回答率が高く、かつ共通語形と方言形の併用が多いものである。複数回答・併用回答をどのように取り扱うかによってグラフの形が大きく変化する。なお、「246. ハズカシイ」はタイプⅠのところで取り上げたが、このタイプに属するものとみることも可能であろう。

1.2 第2回調査以降に実施された項目

ここで扱う項目は、第2回（1971年実施）調査時に新たに加えられ、第3回（1991年実施）でも項目とされたものである。追加項目は2種類に大別される。

最初の3項目（項目コード247.～249.）は共通語化の分析に直結する項目群である（ただし、249.の「コーデ」は第1回目の調査でも調査項目として取り上げられていたものであるが、第2回調査で質問文が大きく異なったため、ここでは新規項目扱いとした）。

これらに続く、あとの3項目（251.～253.）は共通語化には直接関与する事柄ではないが、第2回調査時においては耳慣れない新語の受容度と共通語化の程度との相関関係の分析（あるいは志向）を探る手がかりとしようとしたものである。

それぞれの具体的な質問文は次のようになっている。

(1) 質問文

①共通語化の分析に直結する項目群

247. 相手からお金をとって物を渡すのは「売る」と言いますが、お金をとらないで物を「与える」という時には、つつうどうするとおっしゃいますか。

248. 【絵】 冬，軒先などにさがるコオリの棒です。これを何とおっしゃいますか。
 249. 「このお菓子はコーデうめえちゃ」などのように，「コーデ」という言葉をお使いになりますか。（使わないと答えた人には「聞けばわかりますか」と尋ねる。）

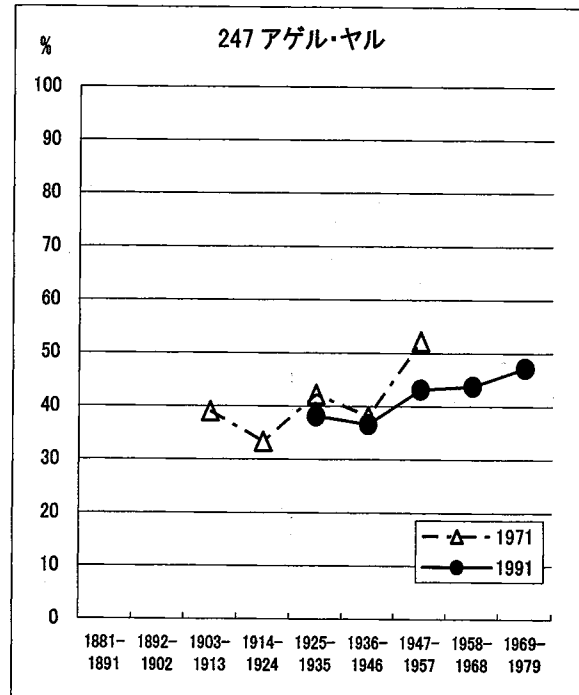
②共通語化の分析とは直結しない「新語」項目群

251. 【絵】 手に皮をはめてうちあうスポーツを何とおっしゃいますか。足でけったりはしません。
 252. 東京などのタクシーで，夜中など運転手がお客を乗せるのを断ることがありますが，これを何とおっしゃいますか。
 253. 【絵】 近頃の若い女の人のほく，この丈の短いのは何とおっしゃいますか。

247. 相手からお金をとって物を渡すのは「売る」と言いますが，お金をとらないで物を「与える」という時には，ふつうどうするとおっしゃいますか。

表Ⅲ-17 247.「アゲル・ヤル」

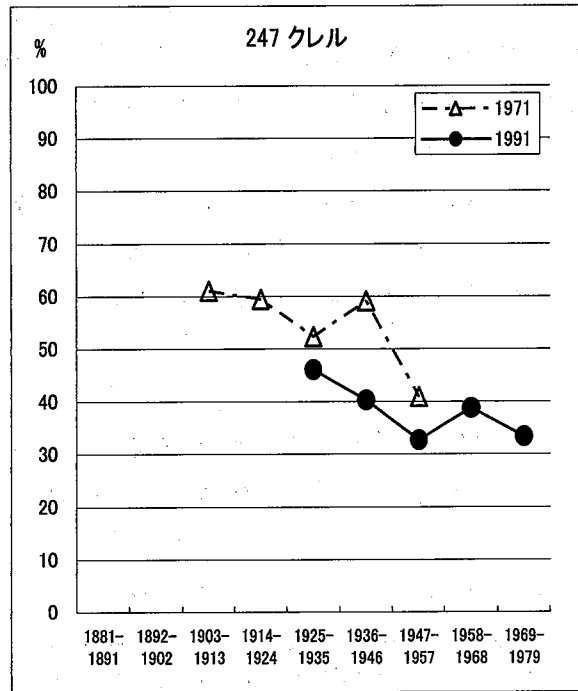
アゲル・ヤル	1950	1971	1991
1881-1891			
1892-1902			
1903-1913		39.0	
1914-1924		33.3	
1925-1935		42.2	38.2
1936-1946		38.1	36.6
1947-1957		52.2	43.2
1958-1968			43.8
1969-1979			47.2



図Ⅲ-17 247.「アゲル・ヤル」

表Ⅲ-18 247.「クレル」(クエル・ケルを含む)

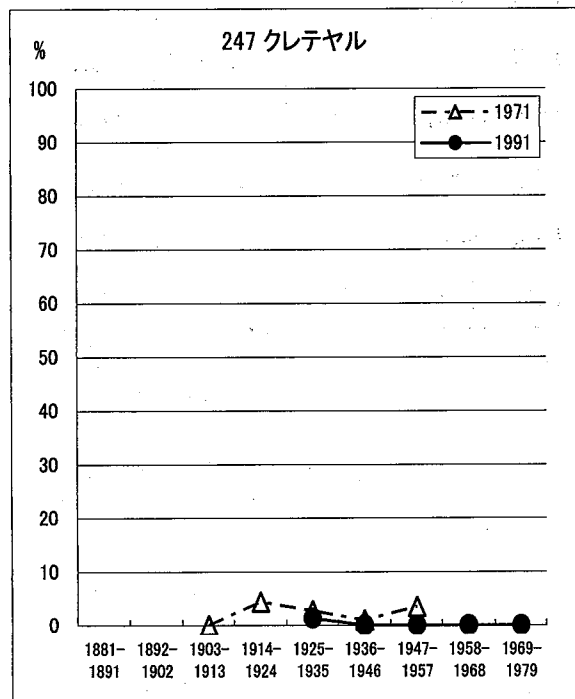
クレル	1950	1971	1991
1881-1891			
1892-1902			
1903-1913		61.0	
1914-1924		59.4	
1925-1935		52.3	46.1
1936-1946		59.0	40.2
1947-1957		40.9	32.6
1958-1968			38.8
1969-1979			33.3



図Ⅲ-18 247.「クレル」(クエル・ケルを含む)

表Ⅲ-19 247.「クレテヤル」

クレテヤル	1950	1971	1991
1881-1891			
1892-1902			
1903-1913		0.0	
1914-1924		4.3	
1925-1935		2.8	1.3
1936-1946		1.0	0.0
1947-1957		3.5	0.0
1958-1968			0.0
1969-1979			0.0

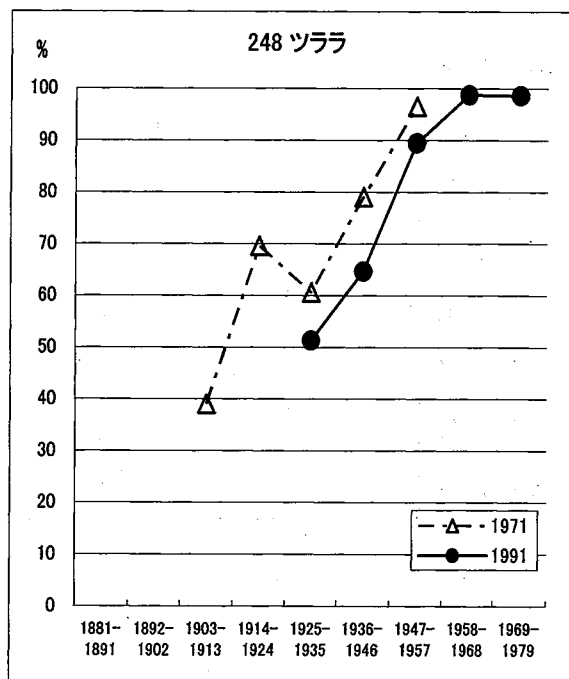


図Ⅲ-19 247.「クレテヤル」

248.【絵】冬，軒先などにさがるコオリの棒です。これを何とおっしゃいますか。

表Ⅲ-19 248.「ツララ」

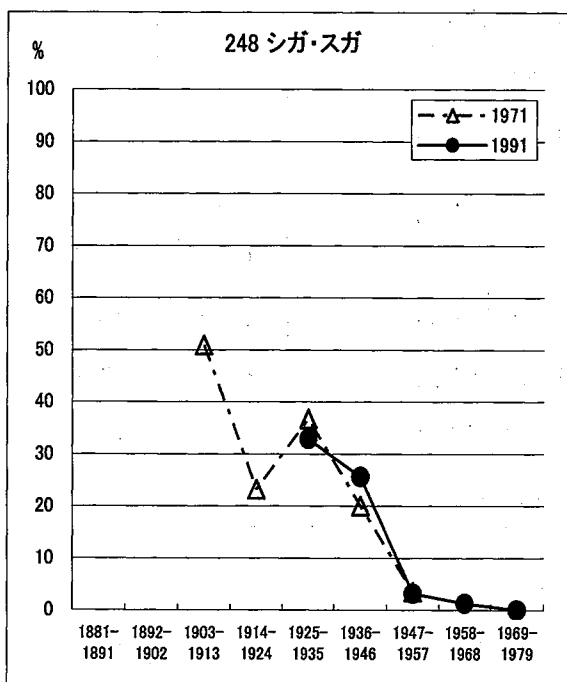
ツララ	1950	1971	1991
1881-1891			
1892-1902			
1903-1913		39.0	
1914-1924		69.6	
1925-1935		60.6	51.3
1936-1946		79.0	64.6
1947-1957		96.5	89.5
1958-1968			98.8
1969-1979			98.6



図Ⅲ-19 248.「ツララ」

表Ⅲ-20 248.「シガ・スガ」

シガ・スガ	1950	1971	1991
1881-1891			
1892-1902			
1903-1913		50.8	
1914-1924		23.2	
1925-1935		36.7	32.9
1936-1946		20.0	25.6
1947-1957		3.5	3.2
1958-1968			1.3
1969-1979			0.0

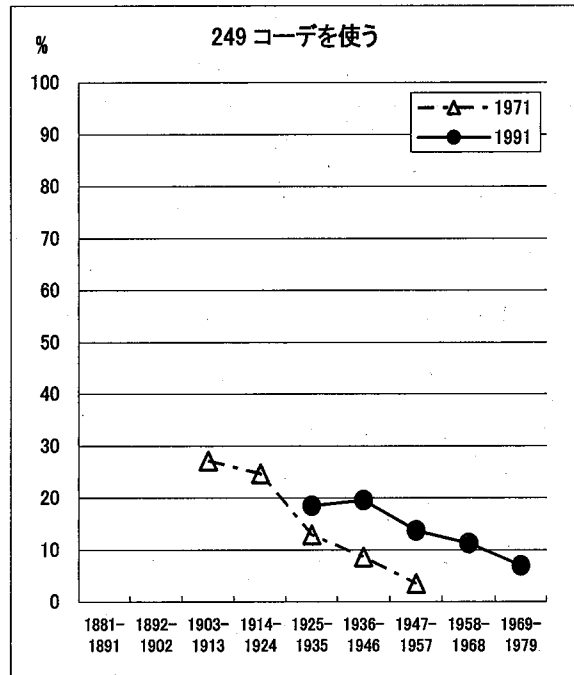


図Ⅲ-20 248.「シガ・スガ」

249.「このお菓子はコーデうめえちゃ」などのように、「コーデ」という言葉をお使いになりますか。

表Ⅲ-21 249.「コーデ」を使う

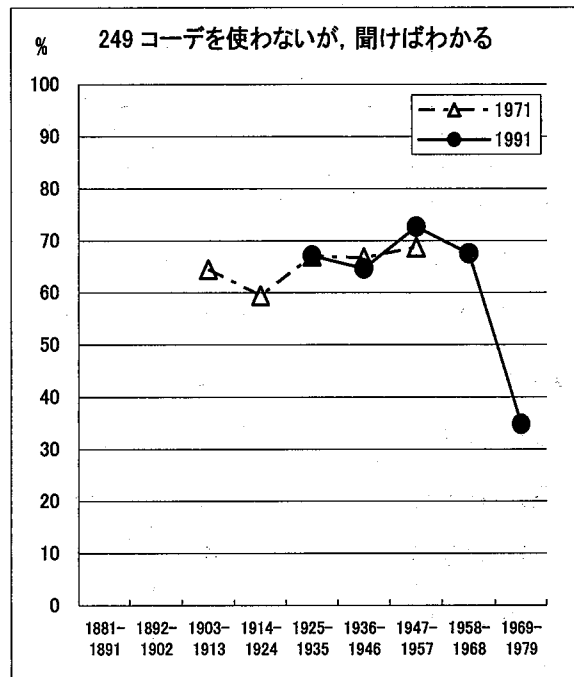
使う	1950	1971	1991
1881-1891			
1892-1902			
1903-1913		27.1	
1914-1924		24.6	
1925-1935		12.8	18.4
1936-1946		8.6	19.5
1947-1957		3.5	13.7
1958-1968			11.3
1969-1979			6.9



図Ⅲ-21 249.「コーデ」を使う

表Ⅲ-22 249.「コーデ」を使わないが、聞けばわかる

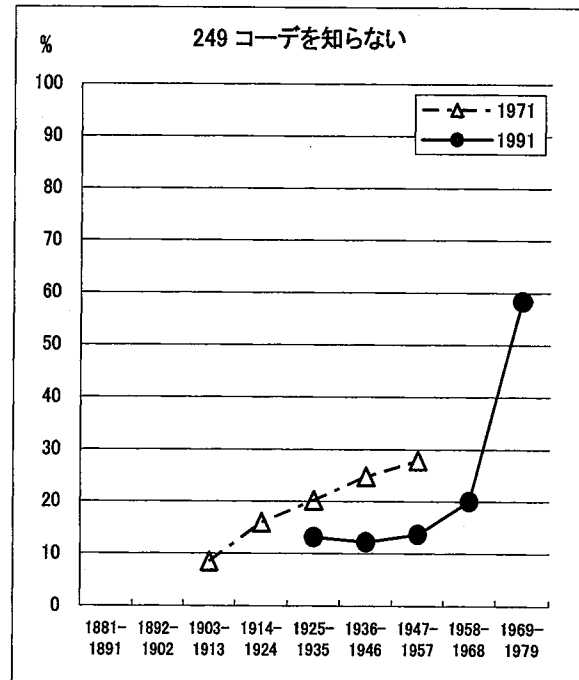
使わないが聞けばわかる	1950	1971	1991
1881-1891			
1892-1902			
1903-1913		64.4	
1914-1924		59.4	
1925-1935		67.0	67.1
1936-1946		66.7	64.6
1947-1957		68.7	72.6
1958-1968			67.5
1969-1979			34.7



図Ⅲ-22 249.「コーデ」を使わないが、聞けばわかる

表Ⅲ-23 249.「コーデ」を知らない

知らない	1950	1971	1991
1881-1891			
1892-1902			
1903-1913		8.5	
1914-1924		15.9	
1925-1935		20.2	13.2
1936-1946		24.8	12.2
1947-1957		27.8	13.7
1958-1968			20.0
1969-1979			58.3

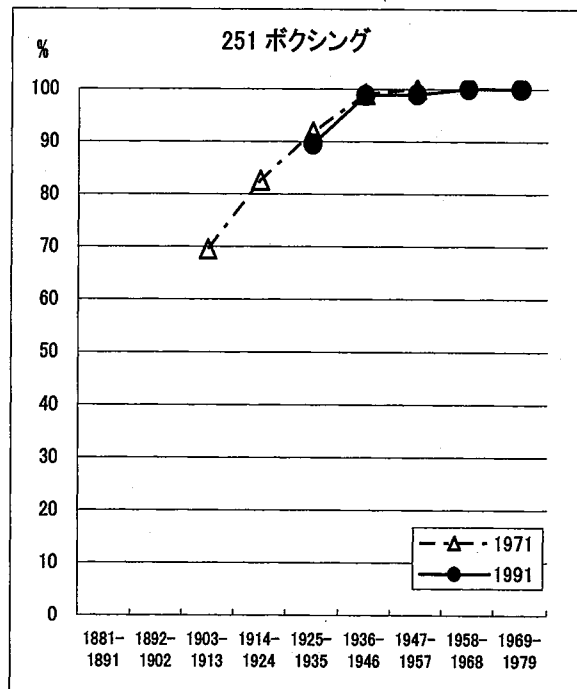


図Ⅲ-23 249.「コーデ」を知らない

251.【絵】手に皮をはめてうちあうスポーツを何とおっしゃいますか。足でけったりはしません。

表Ⅲ-24 251.「ボクシング」

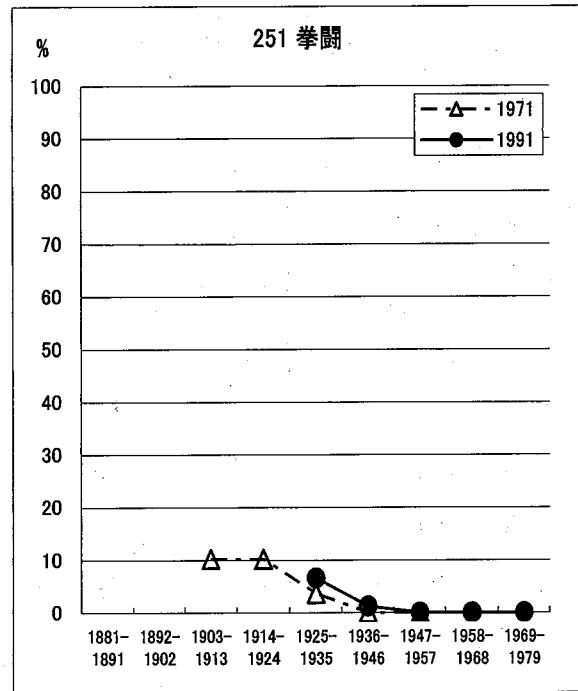
ボクシング	1950	1971	1991
1881-1891			
1892-1902			
1903-1913		69.5	
1914-1924		82.6	
1925-1935		91.7	89.5
1936-1946		99.0	98.8
1947-1957		100.0	98.9
1958-1968			100.0
1969-1979			100.0



図Ⅲ-24 251.「ボクシング」

表Ⅲ-25 251.「拳闘」

拳闘	1950	1971	1991
1881-1891			
1892-1902			
1903-1913		10.2	
1914-1924		10.1	
1925-1935		3.7	6.6
1936-1946		0.0	1.2
1947-1957		0.0	0.0
1958-1968			0.0
1969-1979			0.0

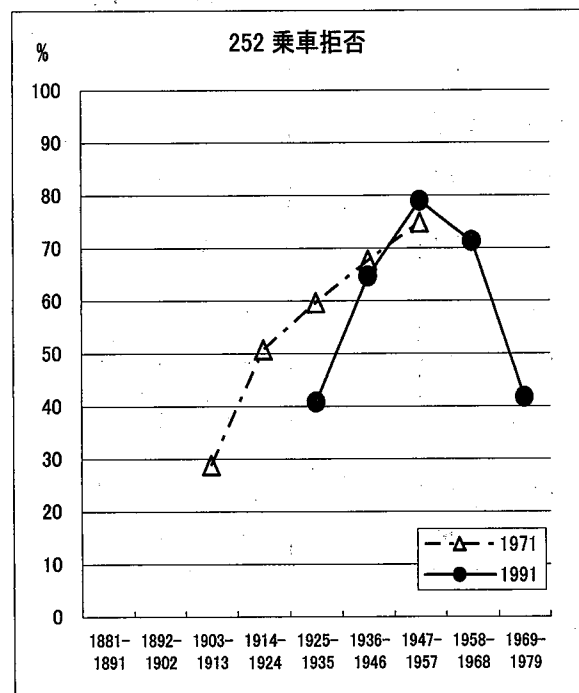


図Ⅲ-25 251.「拳闘」

252.東京などのタクシーで、夜中など運転手がお客を乗せるのを断ることがありますが、これを何とおっしゃいますか。

表Ⅲ-26 252.「乗車拒否」

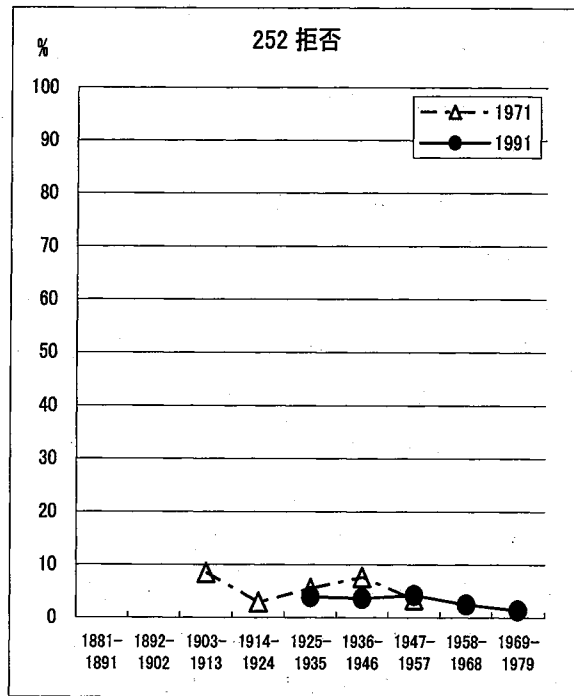
乗車拒否	1950	1971	1991
1881-1891			
1892-1902			
1903-1913		28.8	
1914-1924		50.7	
1925-1935		59.6	40.8
1936-1946		67.6	64.6
1947-1957		74.8	78.9
1958-1968			71.3
1969-1979			41.7



図Ⅲ-26 252.「乗車拒否」

表Ⅲ-27 252.「拒否」

拒否	1950	1971	1991
1881-1891			
1892-1902			
1903-1913		8.5	
1914-1924		2.9	
1925-1935		5.5	3.9
1936-1946		7.6	3.7
1947-1957		3.5	4.2
1958-1968			2.5
1969-1979			1.4

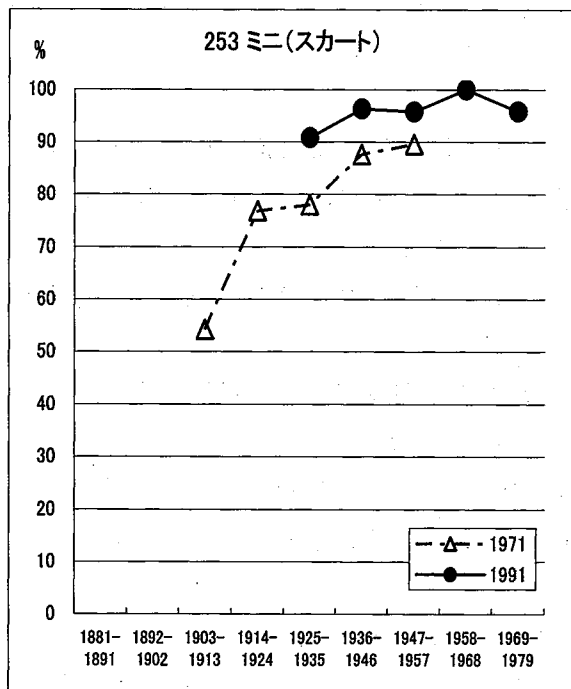


図Ⅲ-27 252.「拒否」

253.【絵】近頃の若い女の人はく、この丈の短いのは何とおっしゃいますか。

表Ⅲ-28 253.「ミニ(スカート)」

ミニ(スカート)	1950	1971	1991
1881-1891			
1892-1902			
1903-1913		54.2	
1914-1924		76.8	
1925-1935		78.0	90.8
1936-1946		87.6	96.3
1947-1957		89.6	95.8
1958-1968			100.0
1969-1979			95.8



図Ⅲ-28 253.「ミニ(スカート)」

(2) 調査結果

ここで取り上げられる被調査者は、最も早い者で1903年生まれ、最も遅い者で1979年生まれである。したがって、ここで得られたデータから最も大きく見積もった場合ではほぼ4分の3世紀、実質的には3分の2世紀の鶴岡での言語変化を検討することができるといえよう。

最初に共通語化に係る3項目について質問順にみてみよう。

「247. アゲル・ヤル」とその方言形「247. クレル」はほぼ反比例の動きである。大局的にみれば、方言形「クレル」の減少に対して共通語形「アゲル・ヤル」が増加しているといえるが、現時点でも方言形の使用率自体は共通語使用率と大差ない状況である。

「248. ツララ」と「248. シガ・スガ」は、共通語と方言との関係にあり、当然のことながら相補的分布を示している。この2図(図Ⅲ-19・図Ⅲ-20)をみる限り、鶴岡において方言形「シガ・スガ」は、近い将来、消滅するといえよう。

249. の「コーデ」は、これまで検討してきた項目とは違って、「使う」「使わないが聞けばわかる」「知らない」の3件法で質問されている。それぞれの回答選択肢の分布を見比べると、全般的に「使わないが聞けばわかる」という回答が6割から7割程度を維持している。しかし、第3回調査の若年層ではこのカテゴリーの回答率が3分の1と激減し、この年齢層の6割近くは聞いたこともないと答えている。今後、特別の事態が生じないならば鶴岡では「コーデ」が消滅すると目される。

なお、先にも述べたように「コーデ」は第1回調査の調査項目でもあった。そのときの質問文は以下のとおりである。

「『このおかしはずいぶん甘い』と言うとき、『ずいぶん』ということをつつ何とおっしゃいますか。」

この質問の回答は共通語形「ズイブン」が94%と圧倒的多数を得ていた。第2回の調査企画で、この項目については、第1回の結果からして同じ設問での調査を続けるのは意味がないだろうが、「コーデ」は今でもよく知られている方言であるので別の形で尋ねようということで第2回調査から設問が変更されたのである。

次に第2回調査時に「新語」項目として追加されたものをみてみる。

251. は「ボクシング」というか「拳闘」というかを尋ねたものである。この項目は第2回調査時点でも圧倒的多数が「ボクシング」であり、「拳闘」は少数派でしかなかった。この傾向が第3回調査ではより顕著化し、「拳闘」という語の使用率は皆無に近い。これは鶴岡に限ったことではなく、日本語としての用法でも、特別の場合(「○○拳闘倶楽部」といった固有名詞等)を除き死語化状況にあるといえる。

252. の「乗車拒否」は、第2回調査当時は大都會では日常茶飯事のことであり、よく知られた語であった。しかし、当時の鶴岡のような地方都市ではあまり経験しないことであった。というのは、(運転手による乗客の選択という)「乗車拒否」は流しのタクシー以

外ではまず発生しない社会現象であったからである。

実際に経験することのない鶴岡という地域社会でも、第2回調査時では「乗車拒否」という語は全体の6割程度の人を知っており、若い年齢層ほど認知している語であった。その後、乗車拒否に対する世論の非難、運転手が客を選ぶ状況ではなくなったという社会状況の変化に伴って「乗車拒否」という語が死語化している。これを如実に反映しているのが第3回目の調査結果だといえよう。第2回目と第3回目とを繋いでみると新語の発生から衰退の過程が垣間見られるという興味深いデータとなっている。

253. の「ミニ（スカート）」は、第2回調査時に新語項目として加えられたものである。ちなみに、「ミニスカート」はイギリス出身のツイッギーがブームを生み出し、彼女が来日した1967年10月に日本で流行語になったということである。それから僅か3年半に過ぎない第2回調査当時の鶴岡市民の8割もの人を知っている大流行語であった。20年後の第3回目の調査時点では、「ミニ（スカート）」はさらに多くの人々に認知され、今や一般語となっている。

2. 文法（語法）項目

2.1 3回の調査結果が得られた項目

(1) 質問文

第1回（1950年実施）、第2回（1971年実施）、第3回（1991年実施）のすべての調査で取り上げられた語彙項目は以下の8つあり、それぞれの質問文は次のようになっている。

261. こども（弟・妹）にむかって「朝寝坊をしないで早く起きろ」という時、ふつう何とおっしゃいますか。（実査時に調査対象者によって、「こども」「弟」「妹」など適宜読み替える）
262. あなたが親しい友達にむかっていう時の言葉についていくつかお尋ねいたします。「わたくしたちもいっしょに行こう」という時、「わたくしたち」ということをつつう何とおっしゃいますか。
263. では、「おもしろい映画だってね。いっしょに見に行かないか」という時、「見に行かないか」ということをふつう何とおっしゃいますか。」
264. では、「おれも行くから、ちょっと待ってくれ」という時、「行くから」ということをつつう何とおっしゃいますか。
265. 同じように、親しい友達にむかっていう時の言葉についてもう少しお尋ねしますが、「おれも行くけれども早くは行けない」という時「行くけれども」ということをつつう何とおっしゃいますか。
266. では、「あの人はずいぶんすもうが強かったなあ」と昔のことを話す時、「強かったなあ」ということをふつう何とおっしゃいますか。
267. では、「どうも、この子（弟・妹）は勉強しないで困る」という時、「勉強しないで」ということをつつう何とおっしゃいますか。
268. では、「もっと海が静かならいいだがなあ」という時、「静かなら」ということをつつう

つう何とおっしゃいますか」。

(2) 扱われる文法事象

この調査で取り上げられた文法事象は次のとおりである。なお、説明の都合上、2. 2で取り上げる項目も含めてここで記述する。

- ①動詞の活用に関するもの：「261. 起きる」の命令形，「267. する」の否定形
- ②形容詞の活用に関するもの：「266. 強い」の連用形（「ツヨカツ」か「ツイエツ」か）
- ③人称代名詞に関するもの：「262. わたしたち」「269. あなたを」（2. 2参照）
- ④格助詞に関するもの：「263. 見に行く」，「269. あなたを」（2. 2参照）
- ⑤接続助詞に関するもの：「264. 行くから」，「265. 行くけれども」「268. 静かなら」
- ⑥助動詞に関するもの：「266. 強かった」
- ⑦敬語法に関するもの：「271. 書いたのか」の「かいた」部分と「のか」部分（2. 2参照）
- ⑧応答詞に関するもの：「270. 『そうです』と答える」ときの表現（2. 2参照）

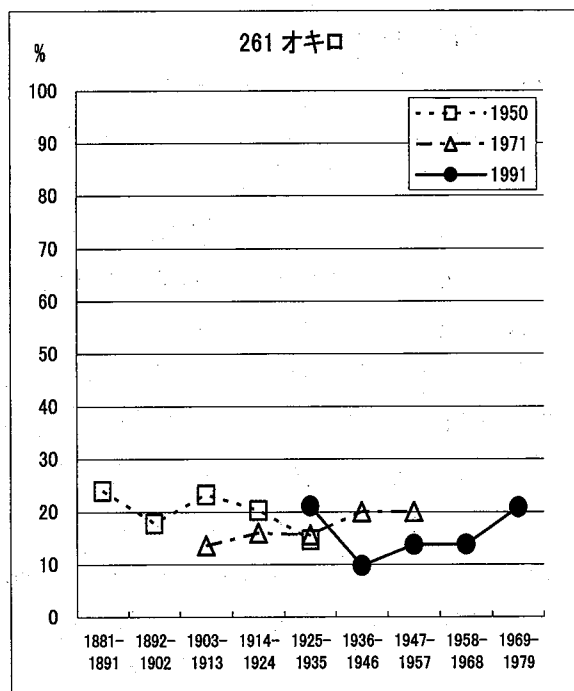
(3) 調査結果

図の見方については、1. 1の(2)で述べたところと異ならないのでここでは省略に従う。

261. ども(弟・妹)にむかって「朝寝坊をしないで早く起きろ」という時、ふつう何とおっしゃいますか。

表Ⅲ-29 261.「オキロ」

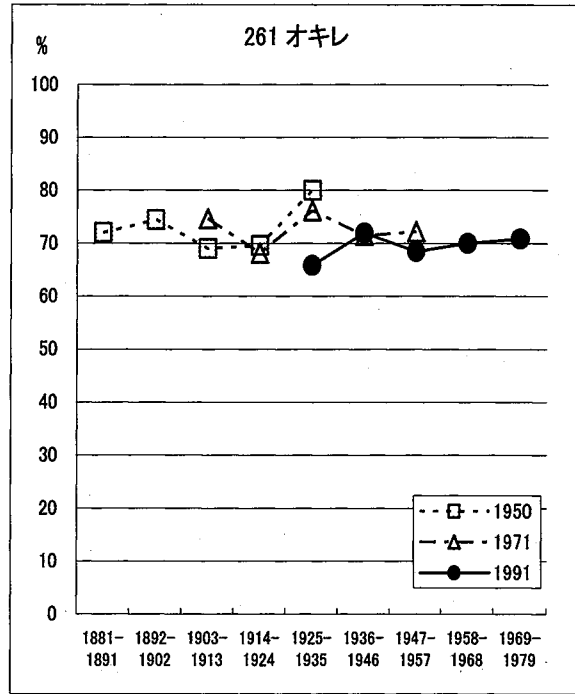
オキロ	1950	1971	1991
1881-1891	24.0		
1892-1902	17.8		
1903-1913	23.3	13.6	
1914-1924	20.3	15.9	
1925-1935	14.7	15.6	21.1
1936-1946		20.0	9.8
1947-1957		20.0	13.7
1958-1968			13.8
1969-1979			20.8



図Ⅲ-29 261.「オキロ」

表Ⅲ-30 261.「オキレ」

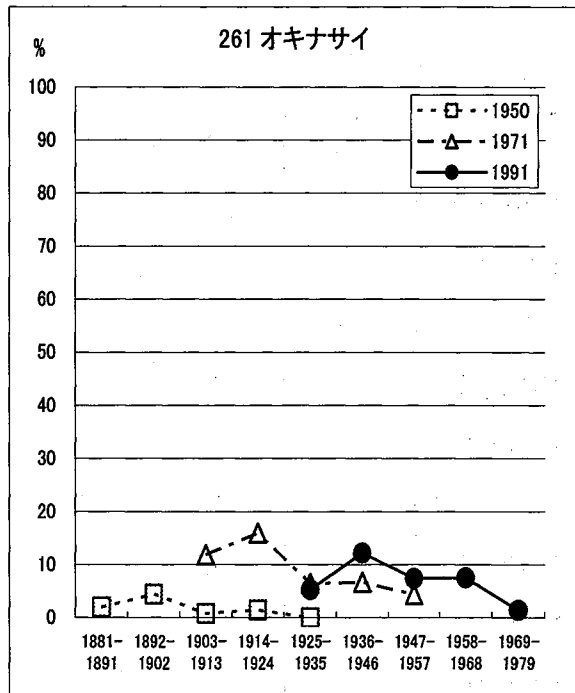
オキレ	1950	1971	1991
1881-1891	72.0		
1892-1902	74.4		
1903-1913	69.0	74.6	
1914-1924	69.6	68.1	
1925-1935	80.0	76.1	65.8
1936-1946		71.4	72.0
1947-1957		72.2	68.4
1958-1968			70.0
1969-1979			70.8



図Ⅲ-30 261.「オキレ」

表Ⅲ-31 261.「オキナサイ」

拳闘	1950	1971	1991
1881-1891			
1892-1902			
1903-1913		10.2	
1914-1924		10.1	
1925-1935		3.7	6.6
1936-1946		0.0	1.2
1947-1957		0.0	0.0
1958-1968			0.0
1969-1979			0.0

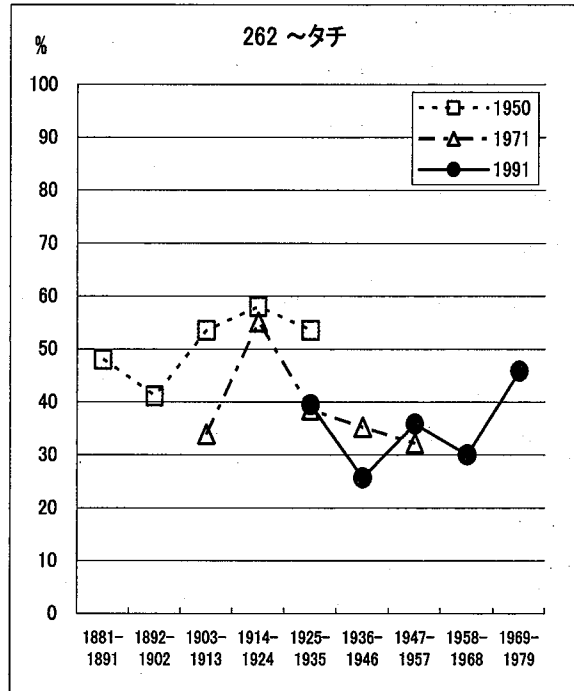


図Ⅲ-31 261.「オキナサイ」

262.あなたが親しい友達にむかっていう時の言葉についていくつかお尋ねいたします。「わたくし
 たちもいっしょに行こう」という時、「わたくしたち」ということをふつう何とおっしゃいますか。

表Ⅲ-32 262.「～タチ」

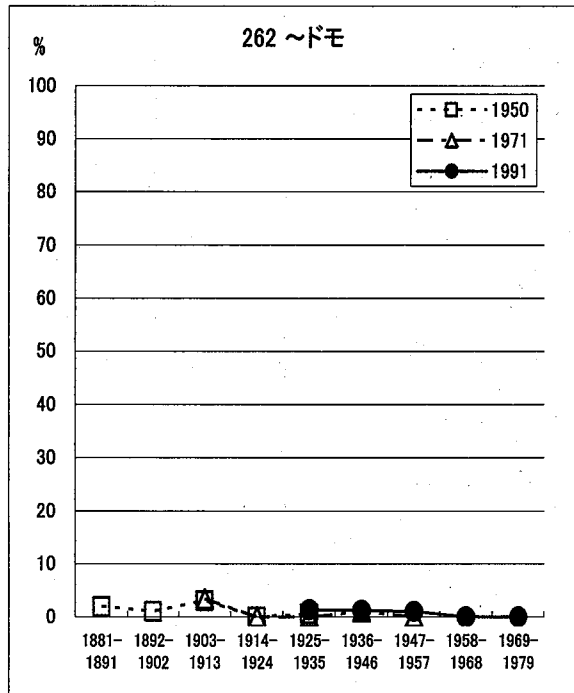
～タチ	1950	1971	1991
1881-1891	48.0		
1892-1902	41.1		
1903-1913	53.5	33.9	
1914-1924	58.0	55.1	
1925-1935	53.5	38.5	39.5
1936-1946		35.2	25.6
1947-1957		32.2	35.8
1958-1968			30.0
1969-1979			45.8



図Ⅲ-32 262.「～タチ」

表Ⅲ-33 262.「～ドモ」

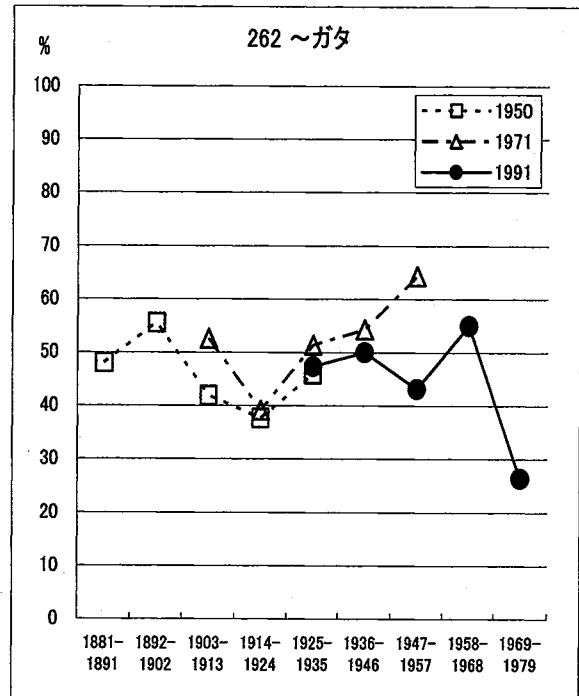
～ドモ	1950	1971	1991
1881-1891	2.0		
1892-1902	1.1		
1903-1913	3.1	3.4	
1914-1924	0.0	0.0	
1925-1935	0.6	0.0	1.3
1936-1946		1.0	1.2
1947-1957		0.0	1.1
1958-1968			0.0
1969-1979			0.0



図Ⅲ-33 262.「～ドモ」

表Ⅲ-34 262.「～ガタ」

～ガタ	1950	1971	1991
1881-1891	48.0		
1892-1902	55.6		
1903-1913	41.9	52.5	
1914-1924	37.7	39.1	
1925-1935	45.9	51.4	47.4
1936-1946		54.3	50.0
1947-1957		64.3	43.2
1958-1968			55.0
1969-1979			26.4

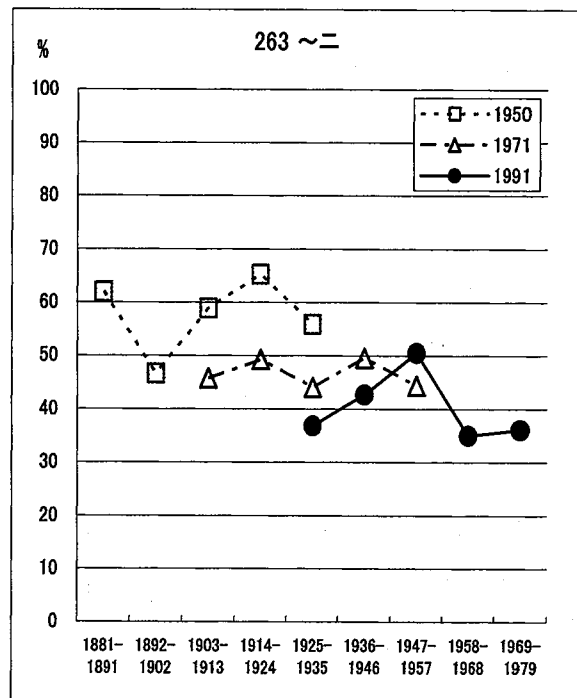


図Ⅲ-34 262.「～ガタ」

263.では、「おもしろい映画だっね。いっしょに見に行かないか」という時、「見に行かないか」ということをふつう何とおっしゃいますか。」

表Ⅲ-35 263.「～ニ」

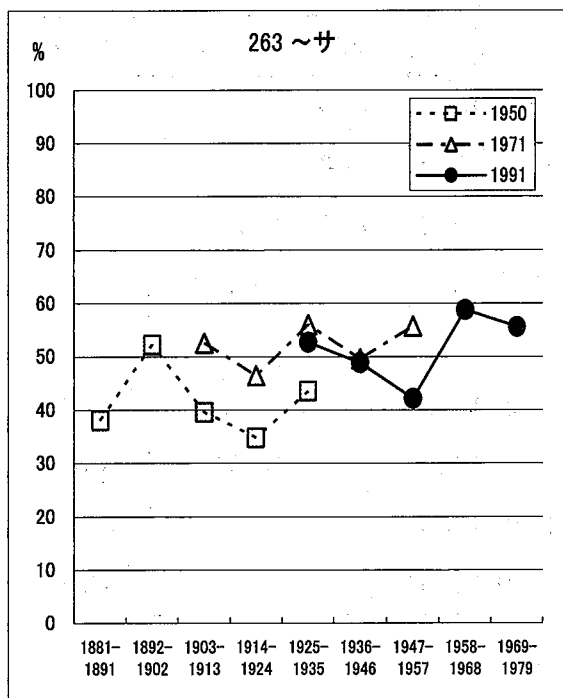
～ニ	1950	1971	1991
1881-1891	62.0		
1892-1902	46.7		
1903-1913	58.9	45.8	
1914-1924	65.2	49.3	
1925-1935	55.9	44.0	36.8
1936-1946		49.5	42.7
1947-1957		44.3	50.5
1958-1968			35.0
1969-1979			36.1



図Ⅲ-35 263.「～ニ」

表Ⅲ-36 263.「～サ」

～サ	1950	1971	1991
1881-1891	38.0		
1892-1902	52.2		
1903-1913	39.5	52.5	
1914-1924	34.8	46.4	
1925-1935	43.5	56.0	52.6
1936-1946		49.5	48.8
1947-1957		55.7	42.1
1958-1968			58.8
1969-1979			55.6

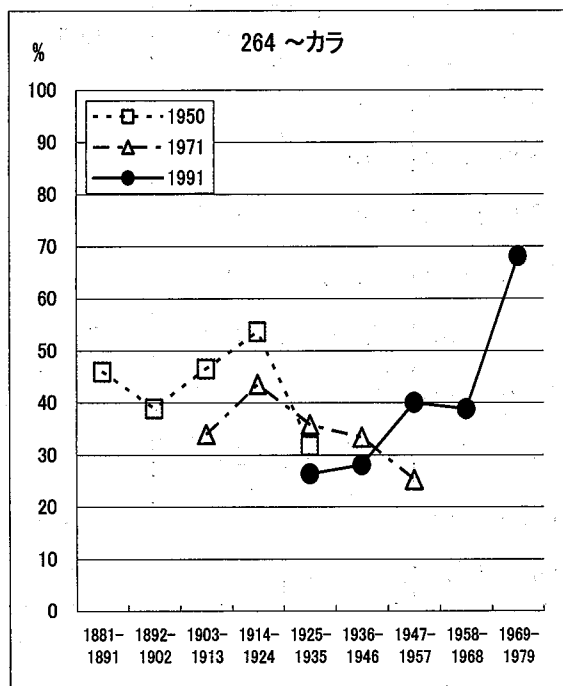


図Ⅲ-36 263.「～サ」

264. では、「おれも行くから、ちょっと待ってくれ」という時、「行くから」ということをふつつ何とおっしゃいますか。

表Ⅲ-37 264.「～カラ」

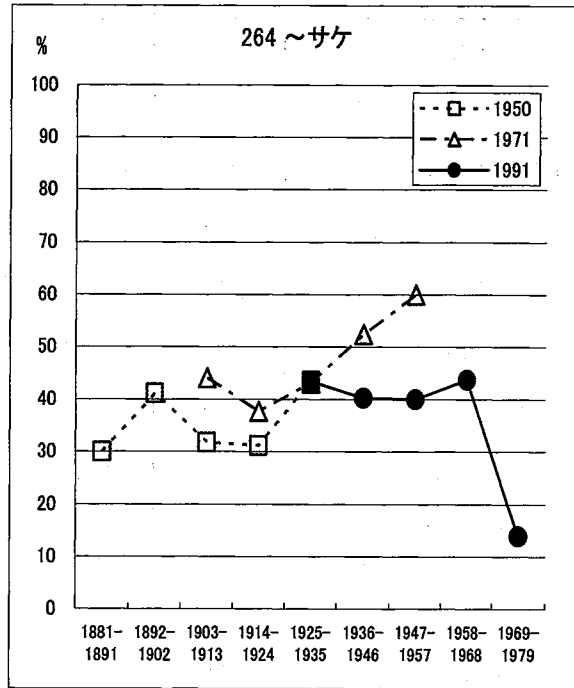
～カラ	1950	1971	1991
1881-1891	46.0		
1892-1902	38.9		
1903-1913	46.5	33.9	
1914-1924	53.6	43.5	
1925-1935	31.8	35.8	26.3
1936-1946		33.3	28.0
1947-1957		25.2	40.0
1958-1968			38.8
1969-1979			68.1



図Ⅲ-37 264.「～カラ」

表III-38 264.「～サケ」

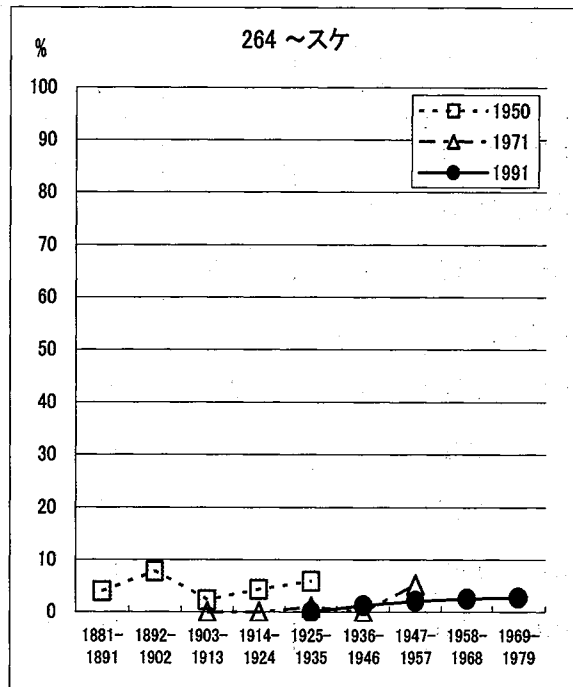
～サケ	1950	1971	1991
1881-1891	30.0		
1892-1902	41.1		
1903-1913	31.8	44.1	
1914-1924	31.2	37.7	
1925-1935	43.5	43.1	43.4
1936-1946		52.4	40.2
1947-1957		60.0	40.0
1958-1968			43.8
1969-1979			13.9



図III-38 264.「～サケ」

表III-39 264.「～スケ」

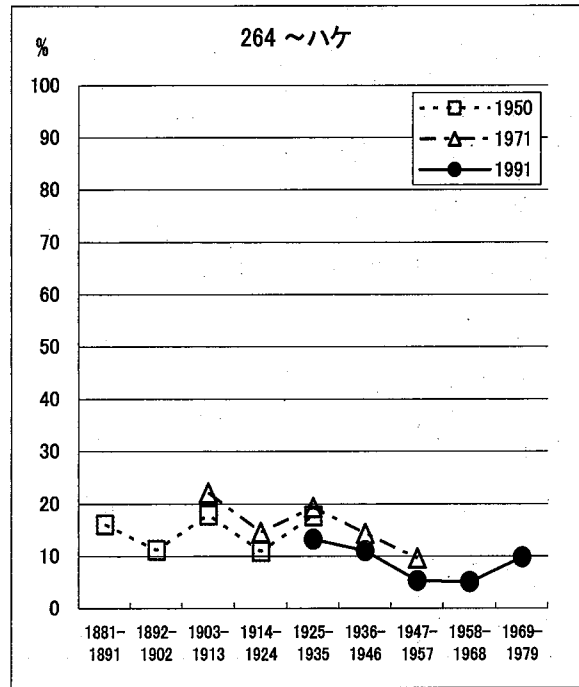
～スケ	1950	1971	1991
1881-1891	4.0		
1892-1902	7.8		
1903-1913	2.3	0.0	
1914-1924	4.3	0.0	
1925-1935	5.9	0.9	0.0
1936-1946		0.0	1.2
1947-1957		5.2	2.1
1958-1968			2.5
1969-1979			2.8



図III-39 264.「～スケ」

表Ⅲ-40 264.「～ハケ」

～ハケ	1950	1971	1991
1881-1891	16.0		
1892-1902	11.1		
1903-1913	17.8	22.0	
1914-1924	10.9	14.5	
1925-1935	17.6	19.3	13.2
1936-1946		14.3	11.0
1947-1957		9.6	5.3
1958-1968			5.0
1969-1979			9.7

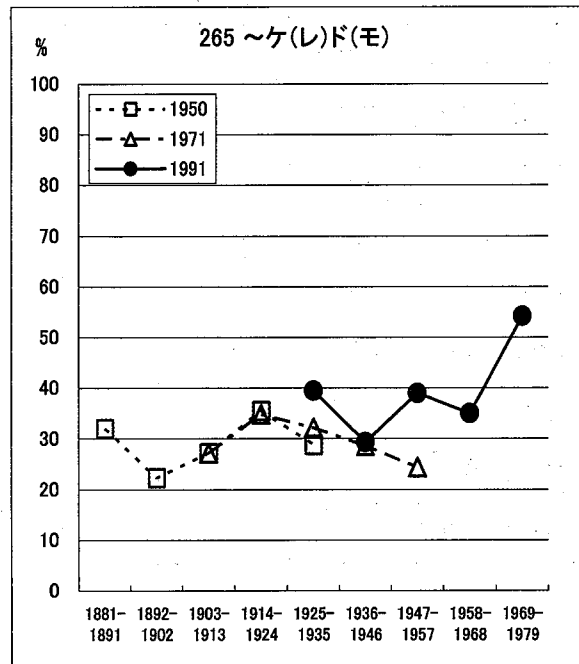


図Ⅲ-40 264.「～ハケ」

265. 同じように、親しい友達にむかっていう時の言葉についてもう少しお尋ねしますが、「おれも行くけれども早くは行けない」という時「行くけれども」ということをふつう何とおっしゃいますか。

表Ⅲ-41 265.「～ケ(レ)ド(モ)」

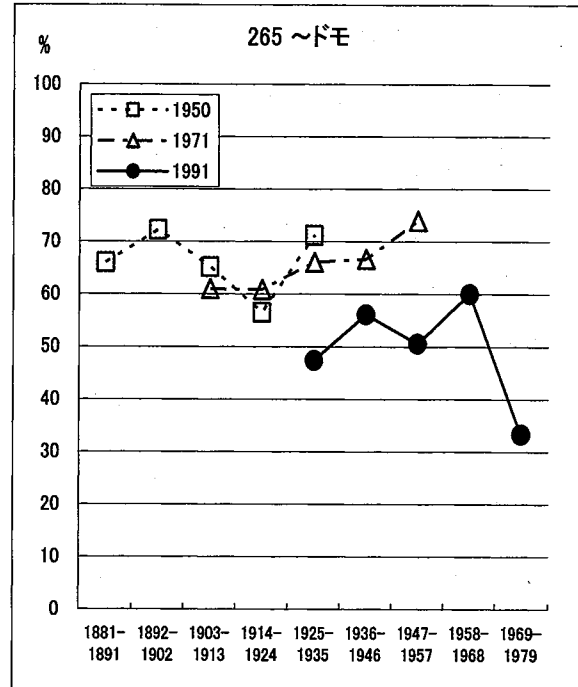
～ケ(レ)ド(モ)	1950	1971	1991
1881-1891	32.0		
1892-1902	22.2		
1903-1913	27.1	27.1	
1914-1924	35.5	34.8	
1925-1935	28.8	32.1	39.5
1936-1946		28.6	29.3
1947-1957		24.3	38.9
1958-1968			35.0
1969-1979			54.2



図Ⅲ-41 265.「～ケ(レ)ド(モ)」

表III-42 265.「～ドモ」

～ドモ	1950	1971	1991
1881-1891	66.0		
1892-1902	72.2		
1903-1913	65.1	61.0	
1914-1924	56.5	60.9	
1925-1935	71.2	66.1	47.4
1936-1946		66.7	56.1
1947-1957		73.9	50.5
1958-1968			60.0
1969-1979			33.3

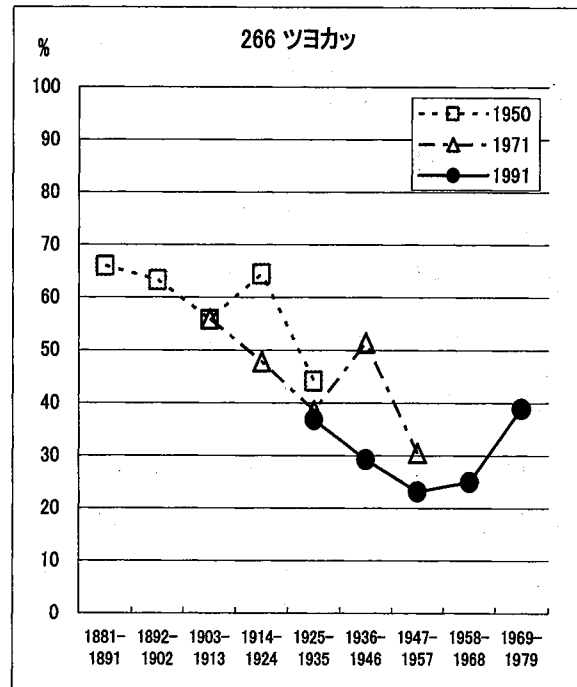


図III-42 265.「～ドモ」

266.では、「あの人はずいぶんすもうが強かったなあ」と昔のことを話す時、「強かったなあ」ということをふつつ何とおっしゃいますか。

表III-43 266.「ツヨカッ」(ツヨカッタ・ツヨカッタケ(ノオ・ノー)を含む)

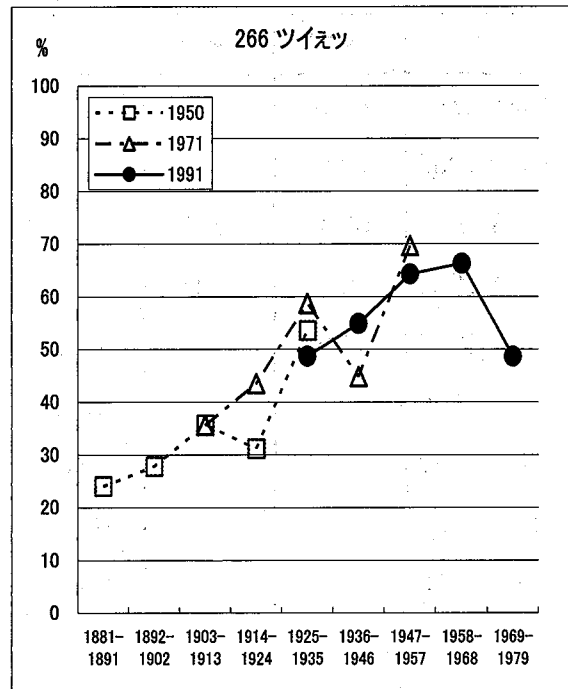
ツヨカッ	1950	1971	1991
1881-1891	66.0		
1892-1902	63.3		
1903-1913	55.8	55.9	
1914-1924	64.5	47.8	
1925-1935	44.1	38.5	36.8
1936-1946		51.4	29.3
1947-1957		30.4	23.2
1958-1968			25.0
1969-1979			38.9



図III-43 266.「ツヨカッ」(ツヨカッタ・ツヨカッタケ(ノオ・ノー)を含む)

表Ⅲ-44 266.「ツイエツ」(ツイエツ・ツヨイッケ・ツイエケ・ツエケ・ツヨイッケを含む)

ツイエツ	1950	1971	1991
1881-1891	24.0		
1892-1902	27.8		
1903-1913	35.7	35.6	
1914-1924	31.2	43.5	
1925-1935	53.5	58.7	48.7
1936-1946		44.8	54.9
1947-1957		69.6	64.2
1958-1968			66.3
1969-1979			48.6

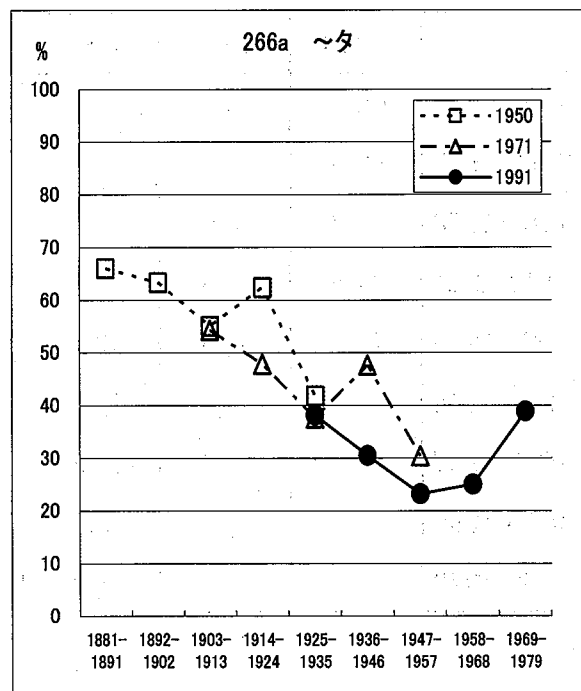


図Ⅲ-44 266.「ツイエツ」(ツイエツ・ツヨイッケ・ツイエケ・ツエケ・ツヨイッケを含む)

266.では、「あの人はずいぶんすもうが強かったなあ」と昔のことを話す時、「強かったなあ」ということをふつつ何とおっしゃいますか。

表Ⅲ-45 266a.「強かったなあ」助動詞「～タ」

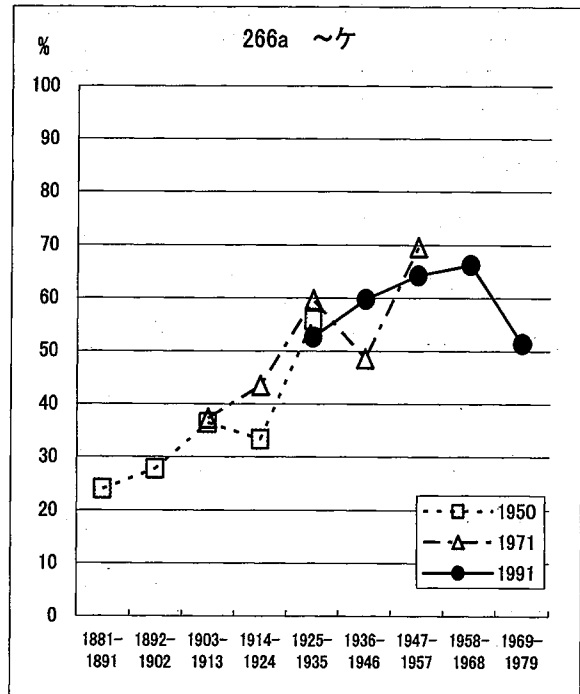
～タ	1950	1971	1991
1881-1891	66.0		
1892-1902	63.3		
1903-1913	55.0	54.2	
1914-1924	62.3	47.8	
1925-1935	41.8	37.6	38.2
1936-1946		47.6	30.5
1947-1957		30.4	23.2
1958-1968			25.0
1969-1979			38.9



図Ⅲ-45 266a.「強かったなあ」助動詞「～タ」

表III-46 266a. 「強かったなあ」助動詞「～ケ」

～ケ	1950	1971	1991
1881-1891	24.0		
1892-1902	27.8		
1903-1913	36.4	37.3	
1914-1924	33.3	43.5	
1925-1935	55.9	59.6	52.6
1936-1946		48.6	59.8
1947-1957		69.6	64.2
1958-1968			66.3
1969-1979			51.4

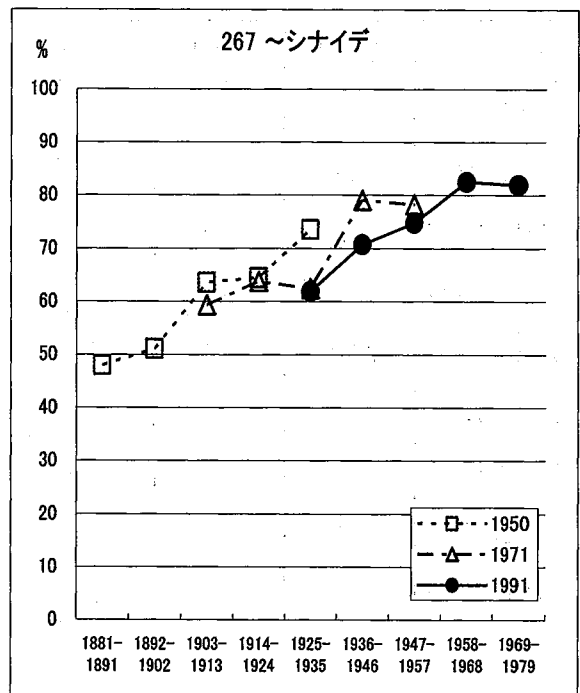


図III-46 266a. 「強かったなあ」助動詞「～ケ」

267. では、「どうも、この子(弟・妹)は勉強しないで困る」という時、「勉強しないで」ということをふつう何とおっしゃいますか。

表III-47 267. 「～シナイデ」(～シナクテを含む)

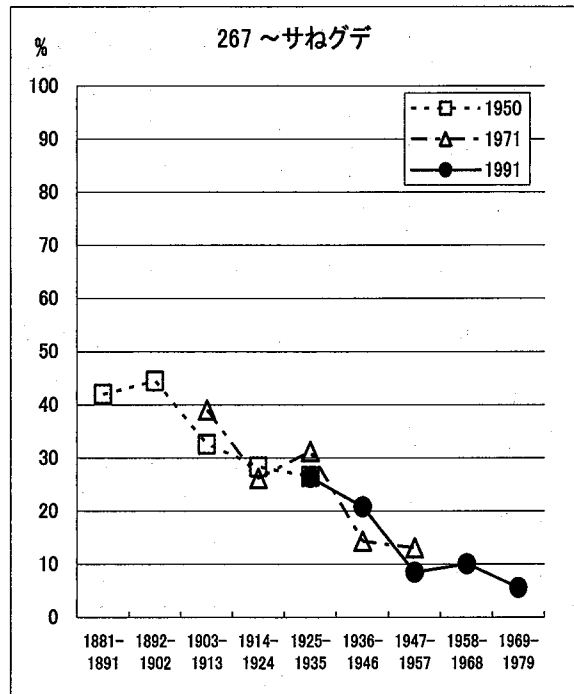
～シナイデ	1950	1971	1991
1881-1891	48.0		
1892-1902	51.1		
1903-1913	63.6	59.3	
1914-1924	64.5	63.8	
1925-1935	73.5	62.4	61.8
1936-1946		79.0	70.7
1947-1957		78.3	74.7
1958-1968			82.5
1969-1979			81.9



図III-47 267. 「～シナイデ」(～シナクテを含む)

表Ⅲ-48 267.「～サねグデ」(～サナグデ・～サねデ・～サねクテ・～サナクテを含む)

～サねグデ	1950	1971	1991
1881-1891	42.0		
1892-1902	44.4		
1903-1913	32.6	39.0	
1914-1924	28.3	26.1	
1925-1935	26.5	31.2	26.3
1936-1946		14.3	20.7
1947-1957		13.0	8.4
1958-1968			10.0
1969-1979			5.6

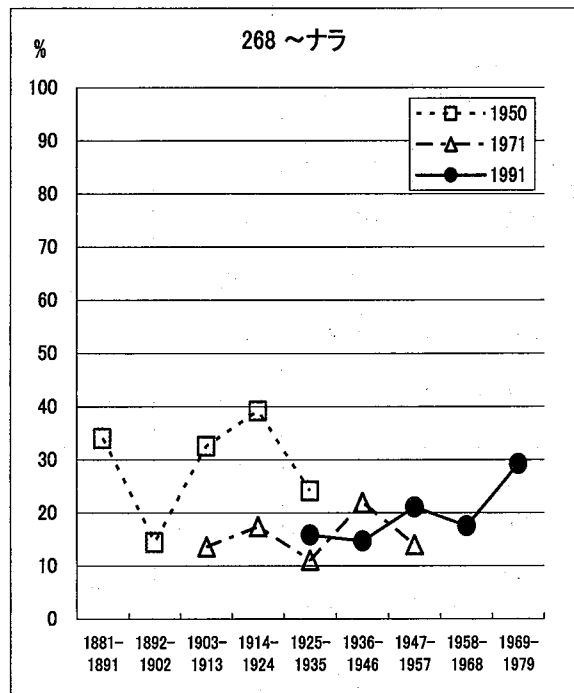


図Ⅲ-48 267.「～サねグデ」(～サナグデ・～サねデ・～サねクテ・～サナクテを含む)

268. では、「もっと海が静かならいいだがなあ」という時、「静かなら」ということをふっう何とおっしゃいますか。

表Ⅲ-49 268.「～ナラ」(～ナラバ・～ダッタラを含む)

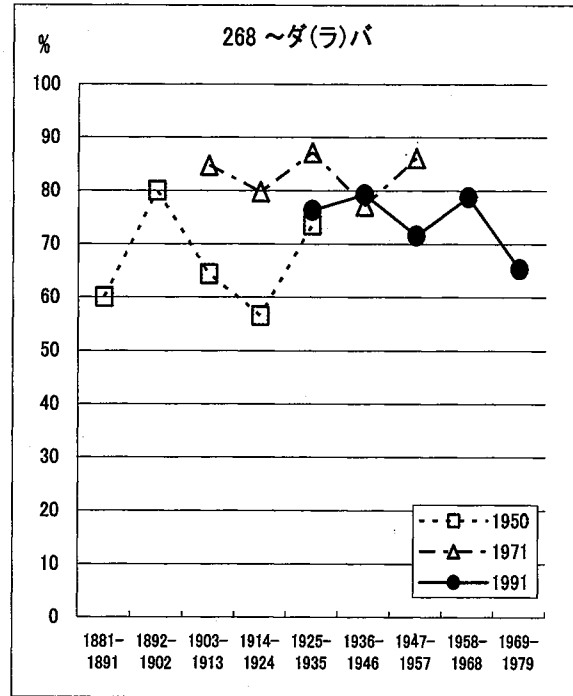
～ナラ	1950	1971	1991
1881-1891	34.0		
1892-1902	14.4		
1903-1913	32.6	13.6	
1914-1924	39.1	17.4	
1925-1935	24.1	11.0	15.8
1936-1946		21.9	14.6
1947-1957		13.9	21.1
1958-1968			17.5
1969-1979			29.2



図Ⅲ-49 268.「～ナラ」(～ナラバ・～ダッタラを含む)

表Ⅲ-50 268.「～ダ(ラ)バ」(～ダラ・～ダト・～ダドを含む)

～ダ(ラ)バ	1950	1971	1991
1881-1891	60.0		
1892-1902	80.0		
1903-1913	64.3	84.7	
1914-1924	56.5	79.7	
1925-1935	73.5	87.2	76.3
1936-1946		77.1	79.3
1947-1957		86.1	71.6
1958-1968			78.8
1969-1979			65.3



図Ⅲ-50 268.「～ダ(ラ)バ」(～ダラ・～ダト・～ダドを含む)

(4) 共通語化のタイプ分け

語彙項目で検討したときと同様のタイプ分けを行うこととする。

タイプⅠ： 3回の調査の折れ線グラフがほぼズレがなく繋がるものである。

「264. ～ハケ」がその典型である。また、「267. ～シナイデ」「267. ～サねグデ」もこのタイプに属するといえよう。なお、「～サねグデ」では、ひらがなの「ね」などが使われているが、方言的な発音の母音[e]など広いエであることを示すものである。

「266. ツヨカッ」とその方言形「ツイェッ」もここに属する。また「266 a. ～タ」とその方言形「～ケ」も同様である。これらは共に共通語使用率が年々低下傾向にあることを物語っているが、3回目の調査の若年層で共通語使用率の回復傾向が認められている点で注目される。

タイプⅡ： 大局的にはタイプⅠに類似しているが、調査時期による何らかの時代的影響が強く反映しているものであるが、今回の文法項目においては該当するものは認められなかった。語彙的なものと文法的なものとの違いかも知れない。

タイプⅢ： 第1回目と第2回目で使用率分布に大きな変動がみられたものの、第3回目の調査結果は1回目と2回目との中間的位置付けとなり、1回目と3回目とを繋ぐとほぼタイプⅠとなるものである。「268. ～ナラ」とその相方の「～ダ(ラ)バ」がこのタイプに属する。この項目は共通語、方言ともに多種の変異形が認められるので、語形のまとめ方によっては様相を異にすることとなろう。

タイプIV: 上のタイプと異なり、第3回の結果だけが他と違ってみえるものである。「264. ~カラ」とその相方の「~サケ」がその例である。

タイプV: 使用率がほぼ一定しているものである。一定以上の使用率を有するものとしては「261. オキレ」がその典型である。この共通語形である「261. オキロ」も大局的にみれば、このタイプといえる。また、「262. ~ガタ」「263. ~サ」も変動幅が多少認められるものの、ここに属すものといえよう。

タイプVI: 上記のいずれにも含まれないもの。

2.2 第2回調査以降に実施された項目

(1) 質問文

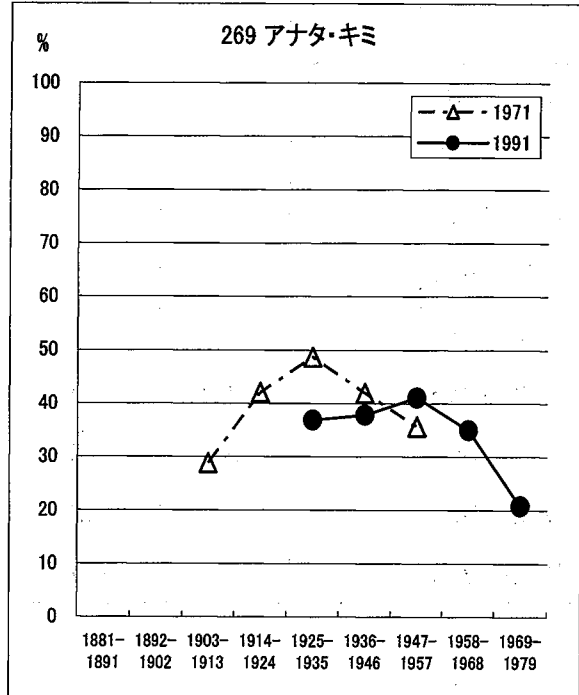
ここで扱われる項目は、第2回調査（1971年実施）で敬語の使用状況をみようという観点から加えられ、第3回調査（1991年実施）でも調査された項目である。とは言うものの調査時間の制約上、追加項目は3項目のみであり、敬語使用を垣間見たものにすぎない。質問文は次のとおりである。

269. もうひとつ、親しい友達にむかっていう時の言葉ですが、「(〇〇先生が) あなたを ほめていた」という時、ふつう何とおっしゃいますか。(2人称部分と助詞「を」とが分析対象となっている。)
270. 小学校時代の先生から「あなたは～年生まれですね」ときかれて、「そうです」と答える時、ふつう何とおっしゃいますか。(回答は応答詞、その丁寧形、うなずきなど。また終助詞の有無や使用形も分析対象となっているが、今回の報告では省略する。)
271. 尊敬している先生にむかっていう時の言葉についてお尋ねします。「この絵はあなたがかいたのか」と尋ねる時、ふつう何と」おっしゃいますか。('カイタ'相当部、「ノカ」相当部分にわけて分析されるが、今回の報告では省略する。)

269.もうひとつ、親しい友達にむかっていう時の言葉ですが、「(〇〇先生が)あなたをほめていた」という時、ふつう何とおっしゃいますか。(人称代名詞の部分)

表Ⅲ-51 269.「アナタ・キミ」(アンタを含む)

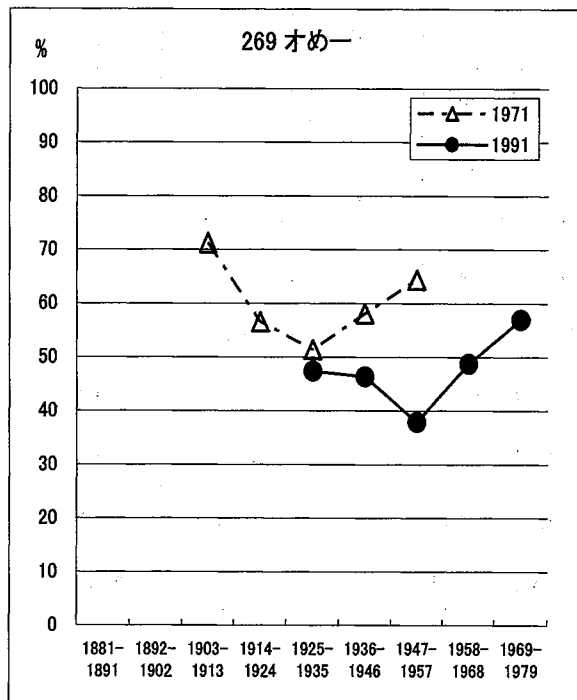
アナタ・キミ	1950	1971	1991
1881-1891			
1892-1902			
1903-1913		28.8	
1914-1924		42.0	
1925-1935		48.6	36.8
1936-1946		41.9	37.8
1947-1957		35.7	41.1
1958-1968			35.0
1969-1979			20.8



図Ⅲ-51 269.「アナタ・キミ」(アンタを含む)

表Ⅲ-52 269.「オメー」(オメを含む)

オメー	1950	1971	1991
1881-1891			
1892-1902			
1903-1913		71.2	
1914-1924		56.5	
1925-1935		51.4	47.4
1936-1946		58.1	46.3
1947-1957		64.3	37.9
1958-1968			48.8
1969-1979			56.9

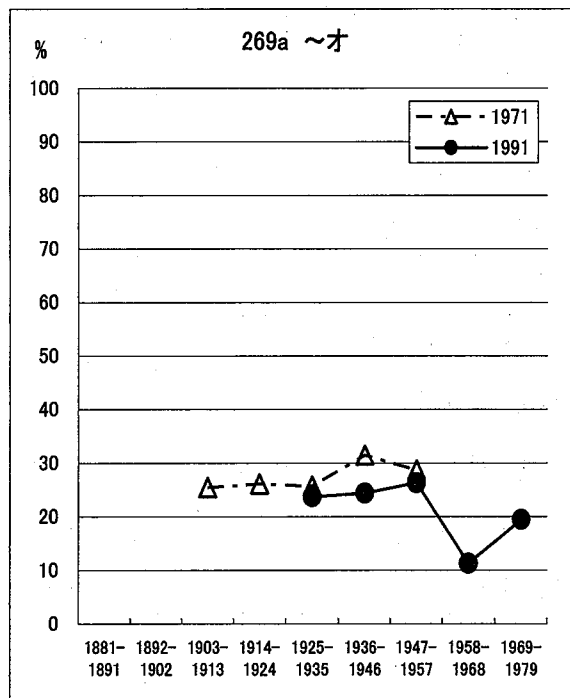


図Ⅲ-52 269.「オメー」(オメを含む)

269.もうひとつ、親しい友達にむかっていう時の言葉ですが、「(○○先生が)あなたをほめていた」という時、ふつう何とおっしゃいますか。(格助詞の部分)

表Ⅲ-53 269a.「～オ」

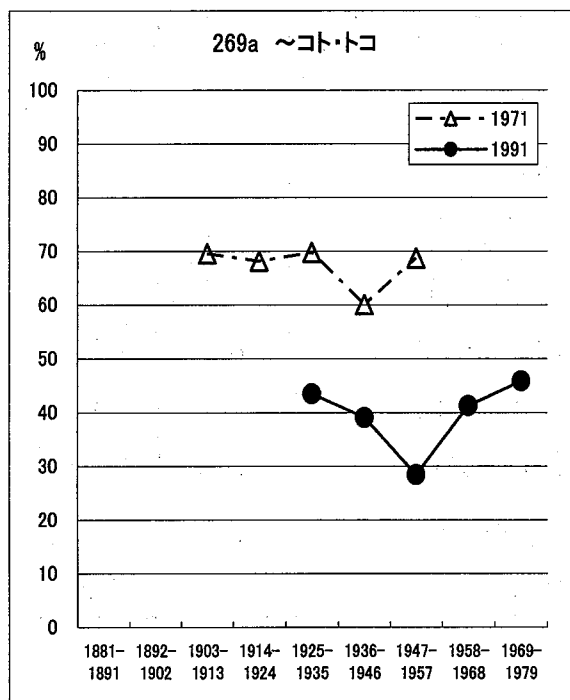
～オ	1950	1971	1991
1881-1891			
1892-1902			
1903-1913		25.4	
1914-1924		26.1	
1925-1935		25.7	23.7
1936-1946		31.4	24.4
1947-1957		28.7	26.3
1958-1968			11.3
1969-1979			19.4



図Ⅲ-53 269a.「～オ」

表Ⅲ-54 269a.「～コト・トコ」(～バを含む)

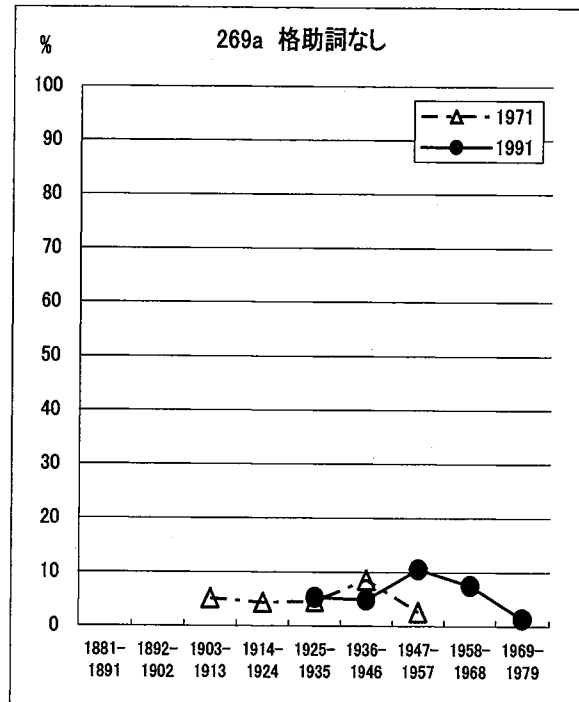
～コト・トコ	1950	1971	1991
1881-1891			
1892-1902			
1903-1913		69.5	
1914-1924		68.1	
1925-1935		69.7	43.4
1936-1946		60.0	39.0
1947-1957		68.7	28.4
1958-1968			41.3
1969-1979			45.8



図Ⅲ-54 269a.「～コト・トコ」(～バを含む)

表Ⅲ-55 269a.「格助詞なし」

格助詞なし	1950	1971	1991
1881-1891			
1892-1902			
1903-1913		5.1	
1914-1924		4.3	
1925-1935		4.6	5.3
1936-1946		8.6	4.9
1947-1957		2.6	10.5
1958-1968			7.5
1969-1979			1.4



図Ⅲ-55 269a.「格助詞なし」

(2) 調査結果

269. は 2 人称代名詞の「あなた」に相当する部分と格助詞「を」相当部分に注目してそれぞれ布図が描かれている。

「269. アナタ・キミ」と「269. オめー」が代名詞の使用率の図(図Ⅲ-51・図Ⅲ-52)である(人称代名詞は文法現象ではないが、記述の便宜上ここで扱うこととする)。質問文で「親しい友達にむかっている時の言葉」という場面設定から、くだけた表現である「オめー」が「アナタ・キミ」等のやや改まった表現を上回っている。「269. オめー」の図(図Ⅲ-52)をみると、第 2 回目の調査と第 3 回目の調査の双方とも、くだけた表現は真ん中の年代層での使用率を底とする V 字型の分布となっている。この種の分布は敬語関係のデータでしばしばみかけるものである。この図(図Ⅲ-52)で興味深いのが 2 回の調査を繋いでみた場合、くだけた表現は時代とともに社会全体では大幅に減少している。しかし、どの時代にあっても高齢者はあまり丁寧な物言いをしないということできよう。

269. の格助詞の部分についてみると、方言が出やすい場面での設問であったこともあって、「269 a. ~コト・トコ」の使用率が高くなっている。

IV. 第3回調査における追加項目

1. 鶴岡 1991 (追加質問) 説明

・音韻 (追跡)

301.胃 302.絵 303.しみ 304.鏡 305.障子

・音韻 (外来語音)

306.チケット 307.電電公社 308.PTA 309.ジェット機

310.フォーク 311.フィルム

・アクセント

312.クマ (熊) 313.テレビ 314.チャンネル 315.アメリカ

・文法

316.「分かりません」 317.「朝寝をしたい」 318.「どこへ行くのか」

319.「学校へ行く」 320.「高く (なった)」

・語彙

321.大きい 322.「赤ん坊がかわいい」

・方言音

323.「面白い」 324.「教える」

2. 研究方法の概観

ここで扱う項目は、第2回調査にはなく、第3回調査で付け加えたものである。(1) まず第1回調査で取り上げられたが、第2回調査で省かれた音声項目を、第3回調査で復活した。ただしここでは第1回調査のグラフは掲げない。(2) 第3回調査でまったく新たに加えられたアクセント専用の項目がある(第1回調査ではアクセント項目は音声項目と同じ語について、2種の記入をする方式だった)。(3) また鶴岡市近郊の山添やまぞえ地区での2回の面接調査と、庄内地方(鶴岡市内・酒田市内)の4高校での2回のアンケート調査での項目が加わった。外来語音、文法、語彙、方言音に関わる項目である。鶴岡方言の地理的広がりを位置づけるために加えられた。この(3)の項目は、「庄内4高校調査」(井上

1994a),「山添やまぞえ調査」(井上 2005)の報告書の調査結果グラフとして公にされている。ここにグラフは再掲しないが、参照して、解説文としてできるだけ挿入した。

3. 結果の概観

各項目の解説に入る前に、結論を先取りする形で全体を概観しよう。まず年齢差からみる。グラフから見て年齢差があきらかな項目と、そうでない項目が区別できる。もちろん中間もある。

年齢差があきらかな項目の大部分は、若い世代での共通語化の進行によるものである。ただ同じ現象が近郊の山添地区では急な年齢カーブ、つまり最近の急速な変化として観察されるのに、この鶴岡市ではゆるやかなカーブとしてしか現れないことがある。小さな等質的集団としての農業集落と、さまざまな経歴の人が集まった中都市とで、社会階層の複雑さが違うためだと考えられる。

変化の S カーブをなす言語現象も、異なった集団の異なったカーブを足し合わせるとゆるやかなカーブになることは、(井上 2000)で論じた。またいくつかの項目では「新方言」にあたる現象が若い世代にみられる(井上 1985)。そのうちのいくつかは、のちに進出した共通語形によって勢いを失い、「中興方言」と化した。

以下の各項目ごとの解説では、まず年齢差からみて、変化の過程を推定する。そのあと性差・学歴差をみる。ほとんどの項目で、年齢差は激しいが、性差・学歴差は小さい。

以下、表とグラフは 1 項目ごとに 1 ページにまとめた。三つの折れ線グラフは年齢差と性差・学歴差を示す。

この項目は、鶴岡市近郊山添地区の全数調査の結果(井上 2005)と対比できる。音声項目 31 語については、鶴岡調査 3 回(1950, 1972, 1991)の結果と山添調査 2 回(1976, 1991)を照合できる(井上 2000, 第 26 章)。全体として山添第 2 回調査(1991)が鶴岡第 1 回調査(1950)の結果と似ており、ここから、中都市と近郊とで約 40 年の差がある(1 世代以上遅れている)と、とらえることができる。ただし、音韻項目以外では、各事象で事情が違うので、保留が必要である。

山添地区と鶴岡との距離は、市役所から下山添までだと約 4 km, 1950 年ころの鶴岡市街地のはずれから外内島との間までだと約 2 km である。言語の差が 40 年として、仮に年速を計算すると、0.1 km/y または 0.05 km/y である。普及の年速の典型 1 km/y に比べると(井上 2003), かなり遅い。ただし事象による遅速の違いは大きい。

3.1 音韻 (第 1 回調査の追跡)

以下では音韻関係の追加 5 項目について解説する。この結果を位置づけるためには、第 1 回から継続している音韻 31 項目全体の傾向を踏まえる必要がある(本書「II. 音声項目」参照)。また鶴岡市近郊山添地区の全数調査(井上 2005)と照合することが可能である。本書「II. 音声項目」では山添調査の結果を参照していないので、ここで補うと、近郊農村山添の調査結果は、中都市鶴岡の結果と、よく対応する。総合して何十年かの共通語化の遅れが見られる。一方現象ごとの違いはそれほど大きくない。

なお山添調査では、「朗読・呼び出し項目」として、教科書を読むような調子で、また「運動会で呼び出し係になって、マイクの前でしゃべるような調子で」読んでもらった。その結果は、鶴岡音韻 31 項目に比べるとずっと共通語化が進んでおり、さらに語彙や文法の方言形を尋ねる項目に比べると、はるかに共通語的な答えだった。数量的に分析してはいないが、調査場面での雑談では、中年以上はほぼ完全に方言的発音になるので、1 個人内の場面的・文体的使い分けは、明瞭である。鶴岡音韻 31 項目の結果は、この連続性 continuum の中に位置づけられるべきである。

301. 「胃」

まず年齢差からみて、変化の過程を推定する。

共通語音イ[i]が中年以下では 9 割を越え、10 代では普及し尽くした。中舌母音のイ[i]に取って代わった。語頭でのイ・エ混同によるエ[e]は、60 歳前後にわずかに残るのみ。小林(1996)の角筆資料分析によれば、明治期にイ・エ混同が起こっていたらしいが、痕跡はわずかである。

学歴とのかかわりでは、中高学歴に共通語音イ[i]が多く、低学歴に中舌母音のイ[i]が多い。一般の共通語化の傾向と合致する。若い世代ほど高学歴になった傾向の反映なのか、それとも学歴自体が発音に作用するかは、このグラフだけから判断できない。性別では、女性に共通語音イ[i]が多く、男性に中舌母音のイ[i]が多い。一般の共通語化の傾向と合致する。以下の項目でも同様である。

第 1 回調査から尋ねている 222「糸」220「息」の共通語化(本書「II. 音声項目」参照、以下同様)に比べると、301「胃」のカーブは大局的には一致する。音韻環境の影響が少ないことを示す。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では(井上 2005)、中舌母音のイ[i]の使用率が 1922 年以前生まれの世代で 5 割を越え、1938-1952 年生まれの世代でも 3 割以上である。鶴岡の老年層よりずっと古い段階の共通語化を示す。この単語では、山添には 50 年以上遅れて共通語音が普及しているようである。

302. 「絵」

共通語音エ[e]が中年以下では 9 割を越え、エの狭い母音[e]に取って代わった。年齢パターンは前項 301「胃」に似る。

学歴とのかかわりでは、中高学歴に共通語音エ[e]が多い。低学歴にその他が多い。性別はわずかである。

301, 302 を比べると、イ・エの区別は、ほぼ完全になされている。

第 1 回調査から尋ねている 223「煙突」221「駅」に比べると、302「絵」のカーブはやや食い違う。調査場面で、ミニマルペアとして尋ねられたためかも知れない。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では、エの狭い母音[e]の使用率が 1937 以前生まれの世代で 5 割近く、1938-1952 年生まれの世代でも 3 割近い。鶴岡の老年層よりずっと古い段階の共通語化を示す。この単語でも 50 年以上遅れて共通語音が普及しているようである。

表 IV-1 301. 「胃」

301 胃	無記入	i	ε	i	その他
全体	0.2	84.7	3.0	9.4	2.7
男性	0.6	76.2	4.4	14.4	4.4
女性	0.0	91.5	1.8	5.4	1.3
15-19歳	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
20-24歳	0.0	95.2	0.0	4.8	0.0
25-34歳	0.0	95.4	0.0	4.6	0.0
35-44歳	0.0	93.0	2.0	2.0	3.0
45-54歳	1.6	77.0	0.0	16.4	4.9
55-69歳	0.0	66.7	9.0	19.8	4.5
低学歴	0.0	62.9	7.6	22.9	6.7
中学歴	0.0	91.0	2.0	5.5	1.5
高学歴	1.0	95.0	0.0	3.0	1.0

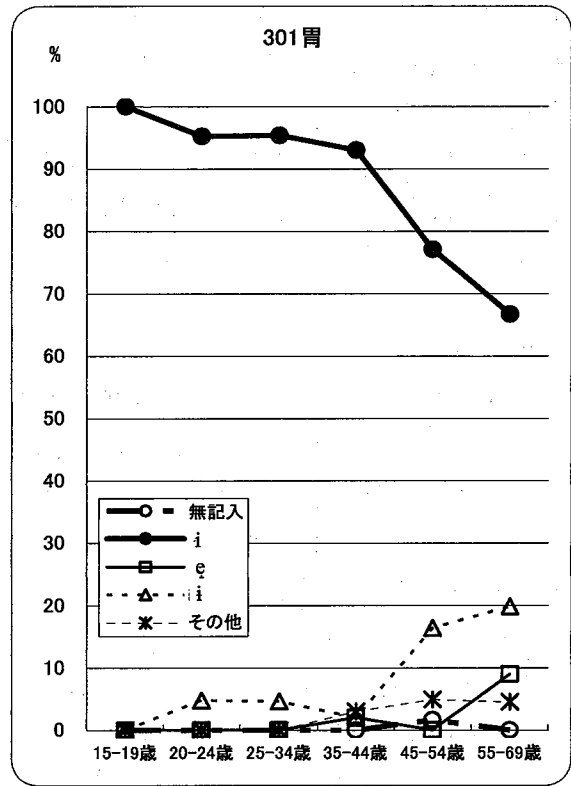


図 IV-1 301 「胃」 年齢別

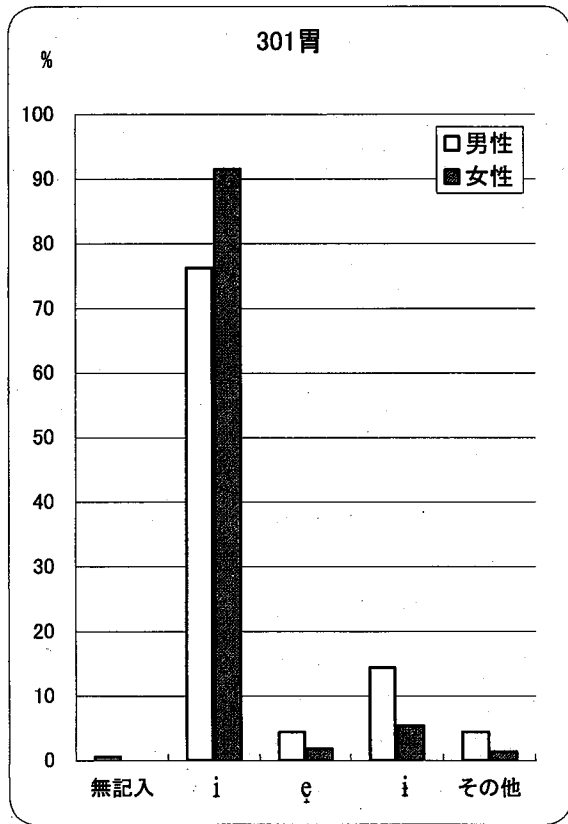


図 IV-2 301. 「胃」 性別

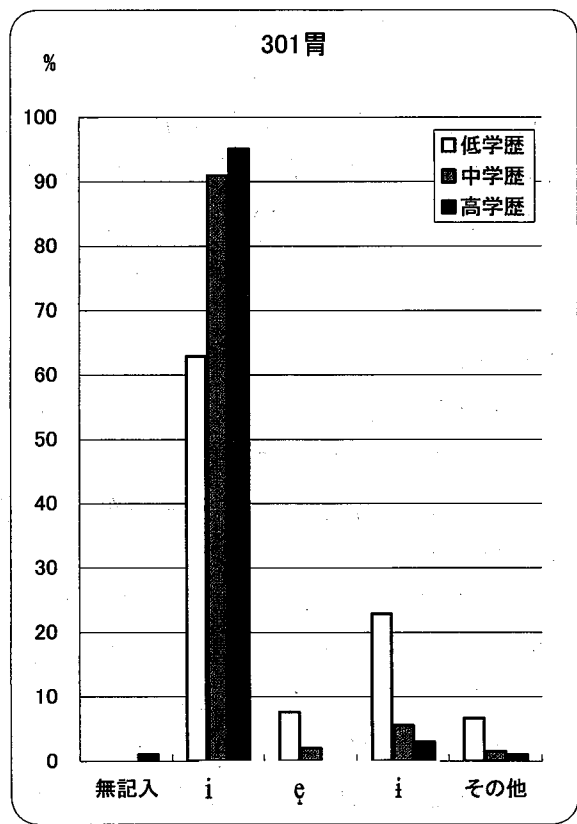


図 IV-3 301. 「胃」 学歴別

表 IV-2 302. 「絵」

302 絵	無記入	e	ɛ	i	その他
全体	0.7	89.4	5.9	0.7	3.2
男性	0.6	87.8	6.6	0.6	4.4
女性	0.9	90.6	5.4	0.9	2.2
15-19歳	0.0	97.9	2.1	0.0	0.0
20-24歳	0.0	90.5	9.5	0.0	0.0
25-34歳	0.0	98.5	1.5	0.0	0.0
35-44歳	0.0	98.0	1.0	0.0	1.0
45-54歳	1.6	91.8	3.3	0.0	3.3
55-69歳	1.8	71.2	15.3	2.7	9.0
低学歴	1.9	75.2	10.5	2.9	9.5
中学歴	0.0	93.0	5.5	0.0	1.5
高学歴	1.0	97.0	2.0	0.0	0.0

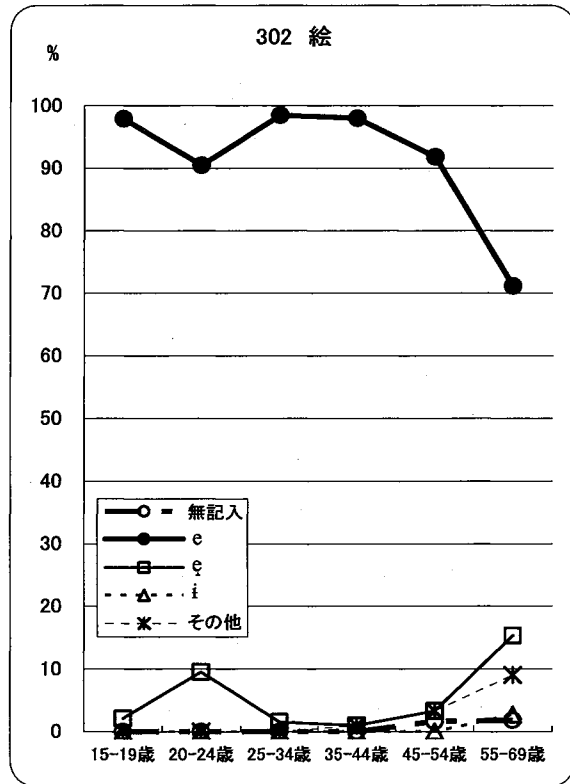


図 IV-4 302. 「絵」 年齢別

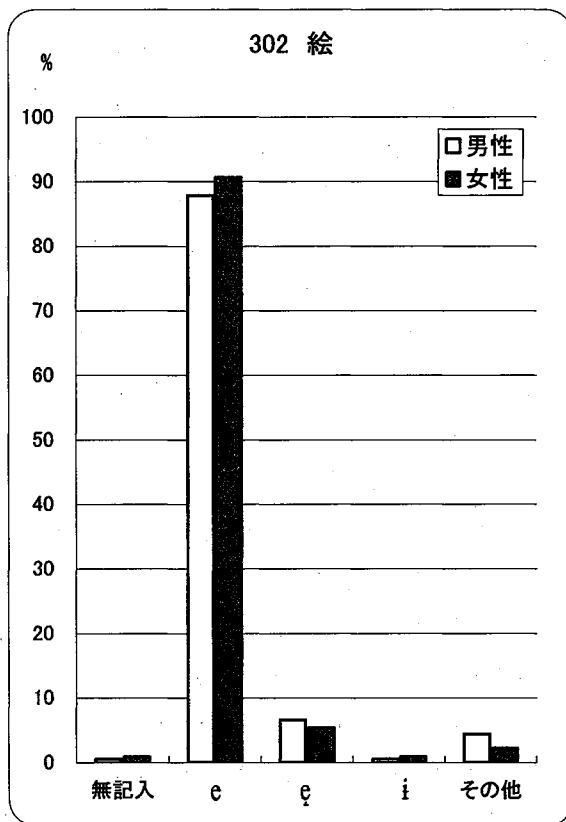


図 IV-5 302. 「絵」 性別

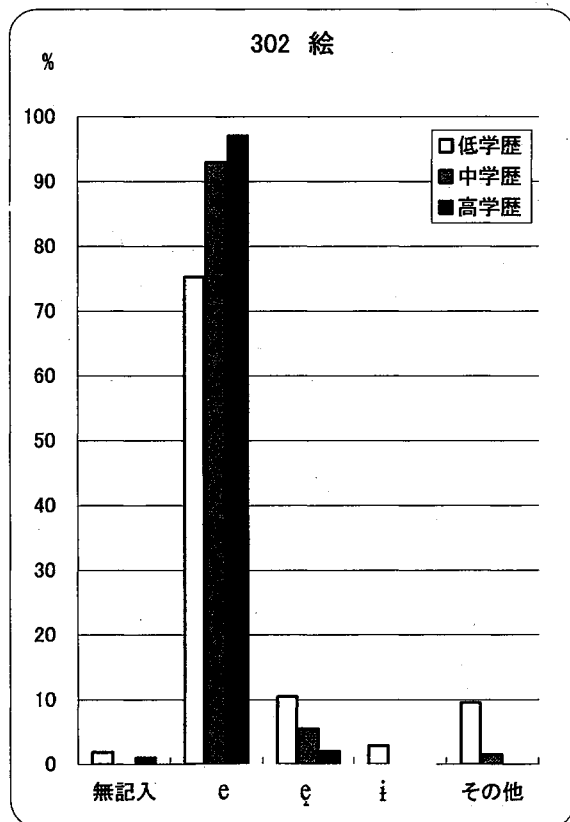


図 IV-6 302. 「絵」 学歴別

303. 「しみ」

東北方言の特徴として有名なシ・スの混同にかかわる項目である。第1回調査から尋ねている227「墨」とミニマルペアをなすが、省かれた。アクセントも同時に分かる228「烏」が第2回調査で優先されたのだろう。

共通語化の過程が年齢差としてきれいに反映している。55歳以上でほぼ同数のスイ[si]・シ[ji]のうち、方言発音スイ[si]が衰え、共通語発音シ[ji]が10代でほぼ全員に普及するまで伸びた。共通語化の最後の過程である。

学歴差が大きい。中高学歴に共通語音シ[ji]が多く、低学歴にスイ[si]が多い。性別では、男性に中舌母音のスイ[si]が多く、女性に共通語音シ[ji]が多い。共通語化が高学歴、女性で早く進むというパターンがきれいに観察された。

第1回調査から尋ねている228「烏」227「墨」などに比べると、303「しみ」のほうがSカーブの角度が急であり、変化の最中であることを示す。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では、1952年以前生まれの世代で中舌母音のスイ[si]が多く、6割近い。それより若い世代で急に共通語音シ[ji]が多くなり、9割近くになる。鶴岡の中年層以下のパターンと山添の全年齢層のパターンが似ている。この単語では、30年程度遅れて共通語音が普及しているようである。

304. 「鏡」

語中のガ行鼻濁音の項目である。東京はじめ全国の若い世代で語中のガ行鼻濁音は失われつつある。第1回調査では大部分がガ行鼻濁音で、ほとんど年齢差がみられなかったために、第2回調査で分析対象外とされた。鶴岡第3回の調査結果では、ほぼ7割以上がガ行鼻濁音を発音した。しかし若い世代で使用率がやや下がる。20代で鼻にかからない濁音が4割に増えるのは、社会的活躍層がまず新形を取り入れたと解釈できる。つまり鶴岡でもガ行鼻濁音は、やや遅れて衰退の道を歩みつつある。東京の発音が変わると、それを追いかける形で鶴岡の変化が起きる。NHKのアナウンサーが「標準語」としてニュースなどで使っても、「共通語」または「東京語」として鼻濁音を使わない発音がマスコミで流れると、地方にも普及するようである。

第1回から繰り返している項目のうちの207「猫」214「柿」のグラフで分かるように、語中のカ行子音の有声化についての共通語化は、第3回調査でほぼ完成した。そのあと、一段階おいて、ガ行鼻濁音はゆっくり衰退しはじめている。東北では語中のカ行子音の有声化があるので、「鍵」「柿」などの区別のために、ガ行鼻濁音は保たれやすいはずである(井上2000)。しかし2006年の山形県西北部の中学生の調査では、ガ行鼻濁音を失い、しかし語中カ行の有声化を保つために「鍵」「柿」双方がカギ[kagi]になる生徒が観察された。

学歴差は小さい。中高学歴に新しい非鼻濁音のガ[ga]が多く、低学歴に鼻濁音がやや多い。性差は、わずかである。他の共通語化と違った傾向で、江川・野元の共通語化のSカーブモデルによれば、音変化としても初期の普及状況を示すのだろう(江川1977)。今後

の共通語化進行が予想される。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では、全年齢層ほぼ7～9割がガ行鼻濁音で、鼻にかからない濁音は若い世代で1割前後である。50年以上遅れて新しい発音が普及しているようである。

305. 「障子」

「障子」は、ハ行の「表紙」などに観察される「フョ」にあたる発音との区別のために1950年の第1回調査に採用されたが、ほぼ共通語化していたので、第2回調査では削除された。40年後の調査では、55歳以上に1割ほど共通語的でない発音が報告されている。[s'wo:] [çwo:]は、共通語のショにあたる発音に唇音の加わった音に聞こえたものであろう。

学歴差は小さい。性差はないに等しい。

第1回調査から尋ねているハ行唇音の208「蛇」218「百」202「髭」で唇音がきれいなSカーブを描いて減少しているのに比べると、305「障子」の変化はないに等しい。むしろ、サ行・ザ行口蓋化の219「税務署」203「背中」204「汗」の、共通語化の行き着いたパターンに似ている。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では、共通語音が1992年以前生まれでは6割である。やや遅れて新しい発音が普及している。

表 IV-3 303. 「しみ」

303 しみ	無記入	i	i	ju	その他
全体	1.0	77.3	20.5	0.5	0.7
男性	1.7	66.9	29.3	1.1	1.1
女性	0.4	85.7	13.4	0.0	0.4
15-19歳	0.0	97.9	2.1	0.0	0.0
20-24歳	0.0	95.2	4.8	0.0	0.0
25-34歳	0.0	92.3	6.2	1.5	0.0
35-44歳	1.0	82.0	14.0	1.0	2.0
45-54歳	1.6	72.1	26.2	0.0	0.0
55-69歳	1.8	55.0	42.3	0.0	0.9
低学歴	1.0	48.6	49.5	0.0	1.0
中学歴	0.0	87.9	10.1	1.0	1.0
高学歴	3.0	86.1	10.9	0.0	0.0

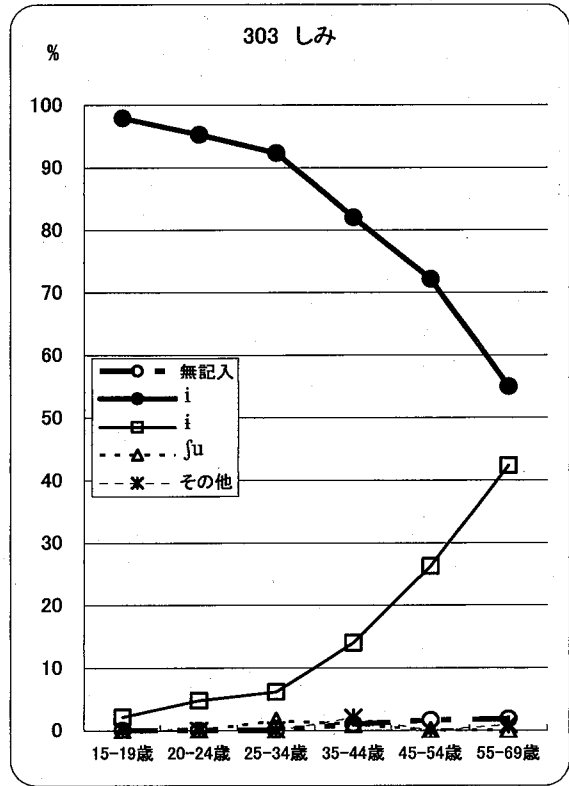


図 IV-7 303. 「しみ」 年齢別

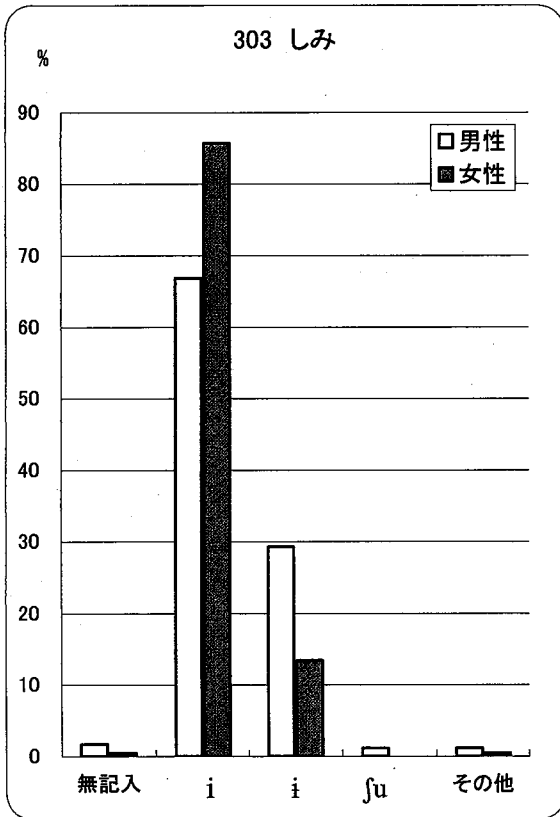


図 IV-8 303. 「しみ」 性別

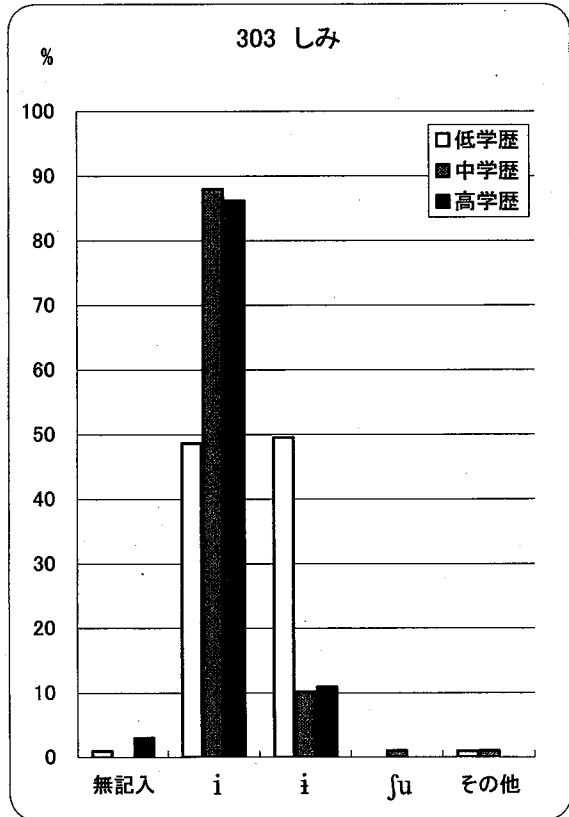


図 IV-9 303. 「しみ」 学歴別

表 IV-4 304. 「鏡」

304 鏡	無記入	ga	ŋa	~ga	~ŋa	その他
全体	0.2	18.0	76.0	0.2	3.5	2.0
男性	0.6	20.4	74.0	0.6	3.3	1.1
女性	0.0	16.1	77.7	0.0	3.6	2.7
15-19歳	0.0	23.4	72.3	0.0	2.1	2.1
20-24歳	0.0	38.1	61.9	0.0	0.0	0.0
25-34歳	0.0	13.8	86.2	0.0	0.0	0.0
35-44歳	0.0	19.0	76.0	1.0	3.0	1.0
45-54歳	1.6	14.8	77.0	0.0	3.3	3.3
55-69歳	0.0	15.3	73.9	0.0	7.2	3.6
低学歴	0.0	8.6	81.0	1.0	6.7	2.9
中学歴	0.0	20.6	73.9	0.0	3.0	2.5
高学歴	1.0	22.8	75.2	0.0	1.0	0.0

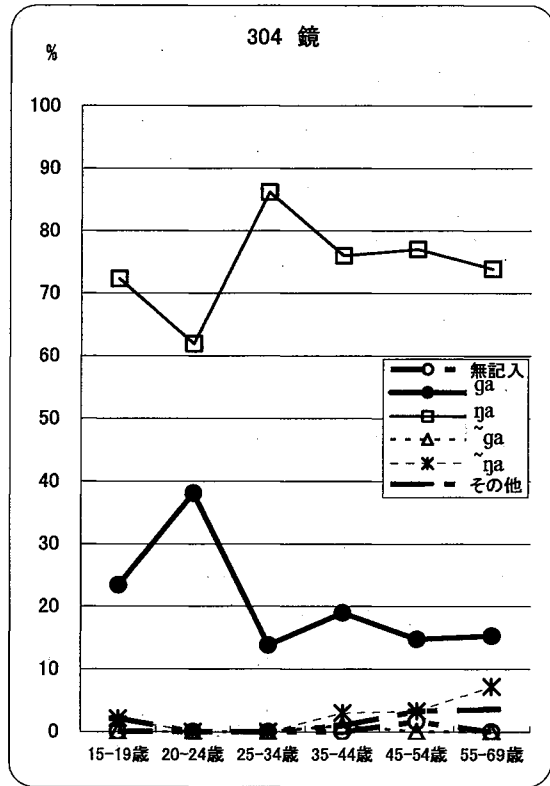


図 IV-10 304. 「鏡」 年齢別

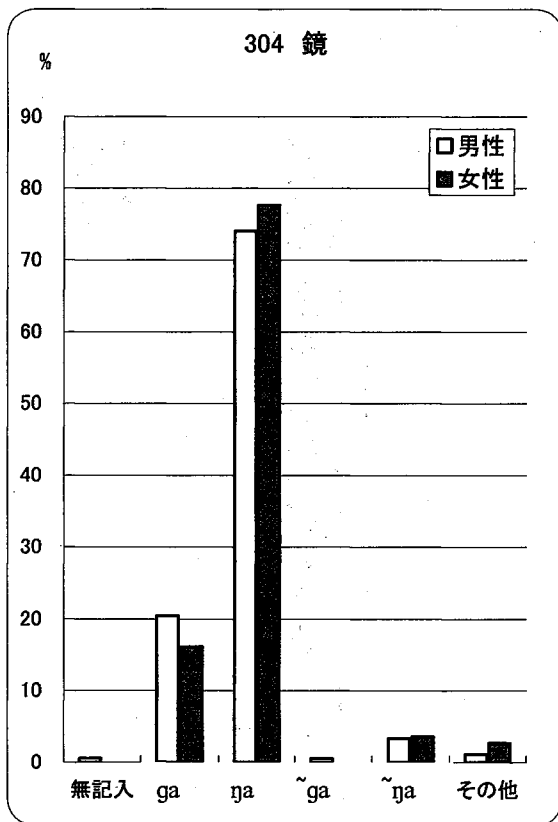


図 IV-11 304. 「鏡」 性別

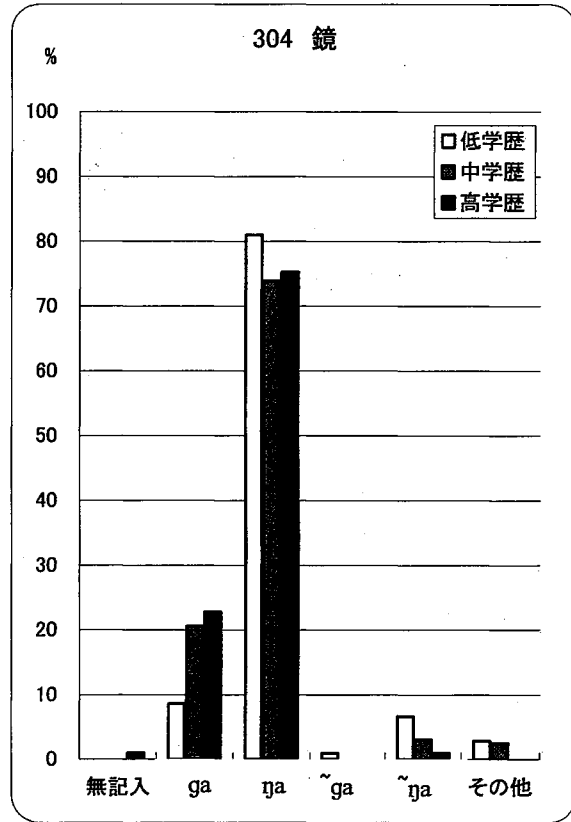


図 IV-12 304. 「鏡」 学歴別

表 IV-5 305. 「障子」

305 障子	無記入	∫o:	s'wo:, qwo:	その他
全体	0.2	93.8	3.2	2.7
男性	0.6	92.3	4.4	2.8
女性	0.0	95.1	2.2	2.7
15-19歳	0.0	97.9	0.0	2.1
20-24歳	0.0	100.0	0.0	0.0
25-34歳	0.0	98.5	0.0	1.5
35-44歳	0.0	98.0	2.0	0.0
45-54歳	1.6	93.4	1.6	3.3
55-69歳	0.0	84.7	9.0	6.3
低学歴	0.0	88.6	4.8	6.7
中学歴	0.0	95.5	2.5	2.0
高学歴	1.0	96.0	3.0	0.0

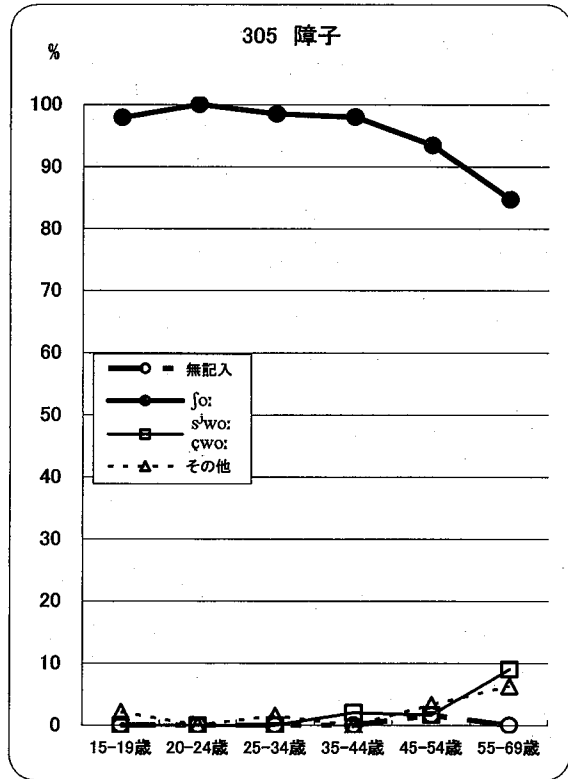


図 IV-13 305. 「障子」 年齢別

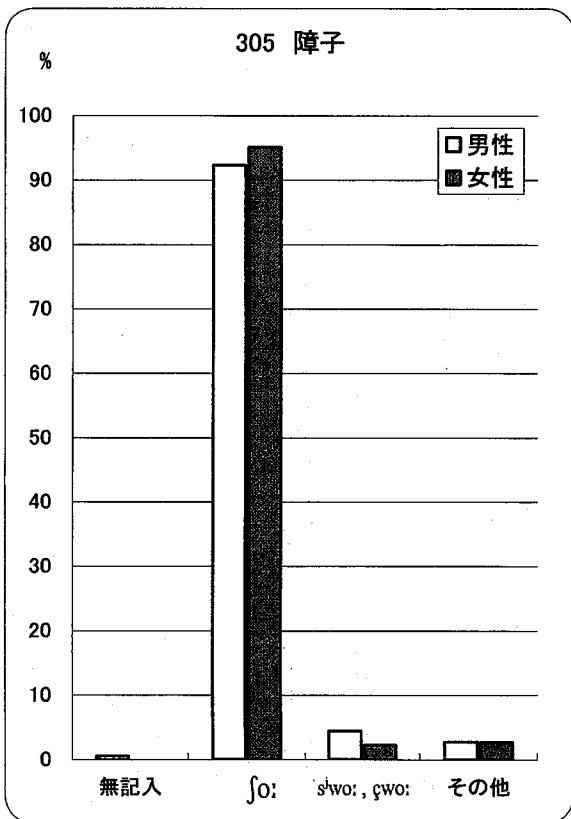


図 IV-14 305. 「障子」 性別

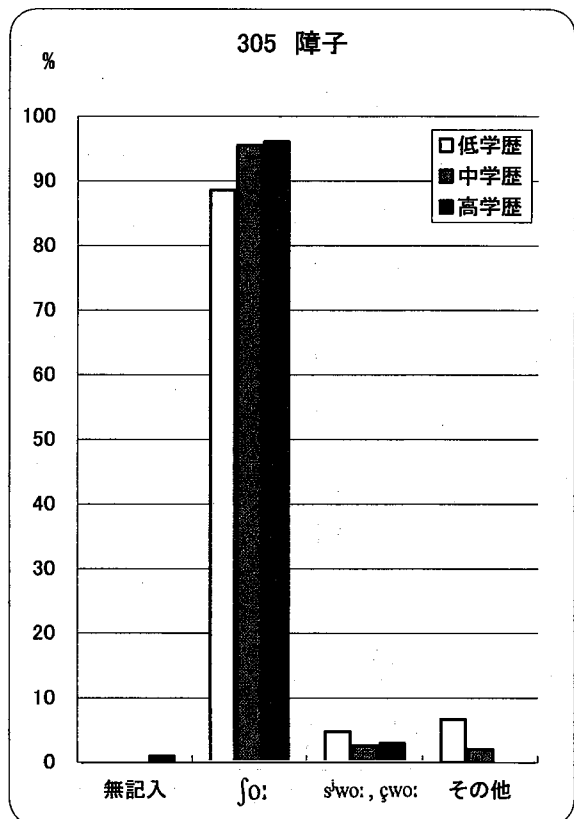


図 IV-15 305. 「障子」 学歴別

3.2 音韻（外来語音）

306. 「チケット」

新来の外来語と在来の和語・漢語との使い分けについての問いである（調査相手が答えやすいように、次の項と並べて配列した。外来語音チ[tʃi]とティ[ti]の違いが問題になるほどの使用率を占めるわけではないが、調査票の配列どおりに解説する）。調査の際、挿絵として、展覧会の実物入場券を用いた。

共通語では外来語「チケット」は、当初は航空券などに限って使われたが、最近適用される範囲が広がりつつある。鶴岡でも「チケット」は、20～30代の社会的活躍層がピークというパターンを示した。衰えが目立つのは「入場券」、ついで「切符」である。「券」やその他は中年以上に多い。これらを繰り入れるとグラフのパターンはもっとはっきりするだろう。ただ意味分野を考えると、「チケット」は、「券」に相当し、「入場・券」より意味分野が広い。つまり意味を限定しない単語が多く使われるようになってきているわけだ。

学歴差が少しある。中高学歴に外来語「チケット」が多く、低学歴に在来の漢語「入場券」、ついで在来の和語の「切符」が多い。他の世論調査でも語種と学歴とは関連を見せる。性別では、男性に外来語「チケット」が多く、女性に在来の和語の「切符」が多い。他と異なった傾向である。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では、外来語「チケット」が1953年以降生まれの若い層で7割前後の使用率で、鶴岡と変わらない。中都市と近郊農村で、個々の単語については発音ほどには普及時期が違わないようである。

表 IV-6 306. 「チケット」

306 チケット	無記入	チケット	切符	入場券	券	複数回答	その他
全体	0.5	40.7	17.3	27.2	7.2	6.2	1.0
男性	0.6	44.8	12.7	27.1	6.1	7.7	1.1
女性	0.4	37.5	21.0	27.2	8.0	4.9	0.9
15-19歳	0.0	66.0	4.3	8.5	19.1	2.1	0.0
20-24歳	0.0	71.4	4.8	4.8	14.3	4.8	0.0
25-34歳	0.0	73.8	6.2	10.8	6.2	3.1	0.0
35-44歳	0.0	45.0	15.0	24.0	5.0	9.0	2.0
45-54歳	1.6	21.3	19.7	41.0	4.9	9.8	1.6
55-69歳	0.9	11.7	32.4	44.1	4.5	5.4	0.9
低学歴	1.0	18.1	29.5	36.2	8.6	4.8	1.9
中学歴	0.0	45.7	12.6	26.6	9.0	5.5	0.5
高学歴	1.0	54.5	13.9	18.8	2.0	8.9	1.0

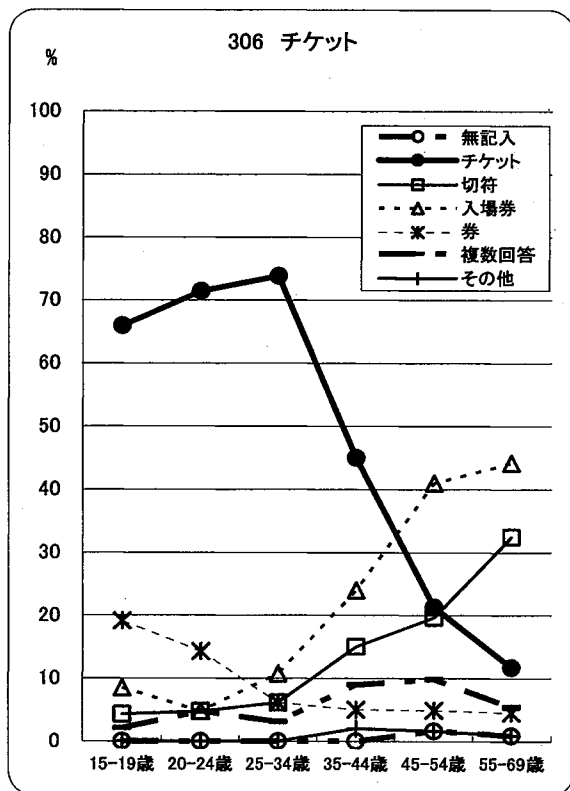


図 IV-16 306. 「チケット」年齢別

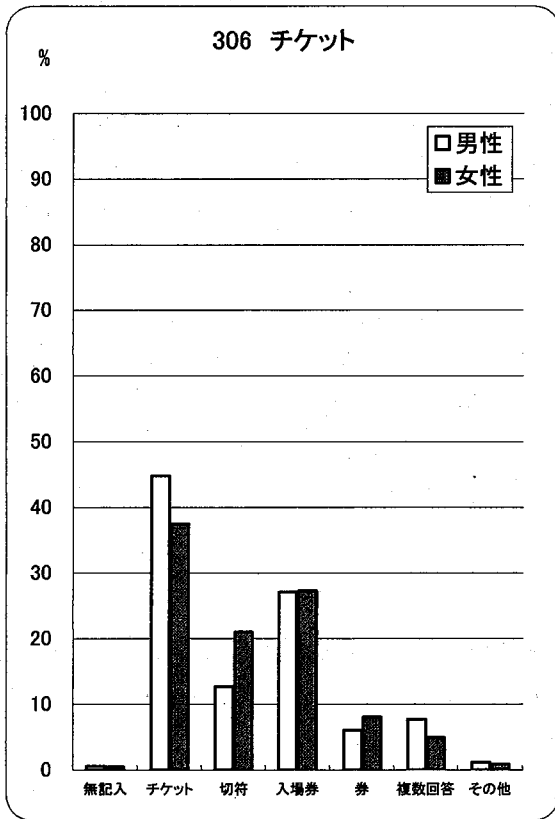


図 IV-17 306. 「チケット」 性別

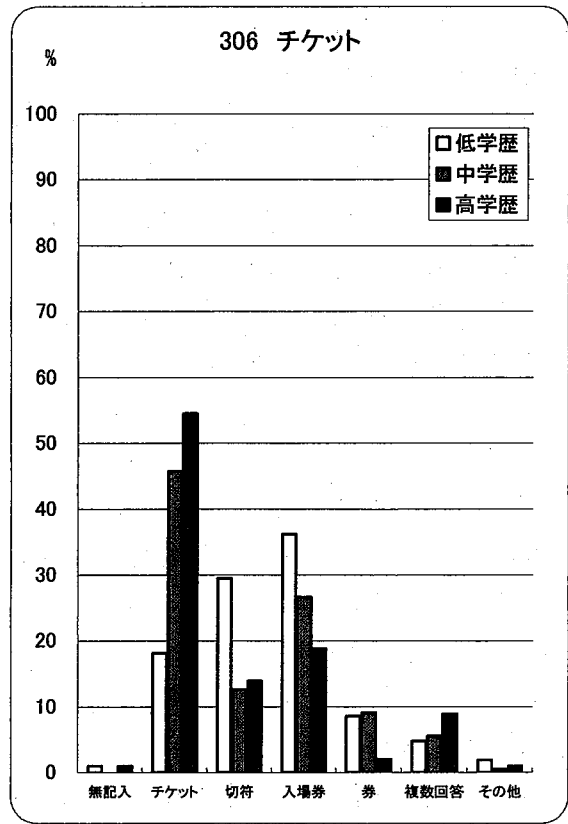


図 IV-18 306. 「チケット」 学歴別

307. 「電電公社」

外来語音ティ [ti] の定着に関する問いである。年齢差が激しい。60 代前後は、「エヌターター」でテ [te] が多い。「エヌティーティー」のティ [ti] が下の世代で急増して、55 歳以上の 1 割から、20 代、30 代の 9 割以上になる。50% を越えるのは、40 歳前後と読みとれる。調査が 1991 年なので、1950 年前後に生まれた人たちがティ半数の線を越えることになる。10 代後半で普及率がやや落ちるのは、社会的活躍層が先に採用するという、普及中期の状況である。ここを除くと「普及の S カーブ」(井上 2000) のかなりを構成する。なお複数回答やその他の回答も多い。「電電公社」から「NTT」に名称を変更したのがこの時期であり、まだ十分定着していなかったためである。

NHK の全国調査、茨城県玉造町の調査とくらべて、似た傾向を示す (井上 2007)。外来語によって入ってきた音節ティ [ti] は、共通語化にともなって若い世代で地位を確立しつつある。

学歴差が大きく、予想どおりの数値をみせる。中高学歴にティ [ti] の「エヌティーティー」が多く、低学歴にテ [te] の「エヌターター」が多い。性差は少ないが、ティ [ti] は女性にやや多く、テ [te] は男性にやや多い。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では、外来語音ティ [ti] が 1953 年以降生まれの若い層で 8 割以上の使用率で、若い世代が鶴岡に追いついて使う形である。この外来語発音については、中都市と近郊農村で普及時期が 10 年か 20 年違うようである。

308. 「PTA」

同じく外来語音ティの定着に関する問い。NHKの世論調査や茨城県玉造町の調査と照合できる項目である。テ[te]の「ピーターエー」が中年層以上に多く、ティ[ti]の「ピーティーエー」は若年層に多い。前項NTTに比べてテ[te]の「ピーターエー」の割合が多いのは、この単語の成立が戦後まもなくだからだろう。茨城県玉造町の調査結果などと合致する(井上2007)。複数回答もかなりあり、住民が変化を意識している段階を示す。

学歴差が大きい。高学歴ではティ[ti]の「ピーティーエー」のほうが多い。中低学歴にはテ[te]の「ピーターエー」が多い。性差は、男性に新形ティ[ti]の「ピーティーエー」が多く、女性に在来のテ[te]の「ピーターエー」が多い。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では、外来語音ティ[ti]は1968年以降生まれの一番若い層でも4割の使用率で、鶴岡の40代に相当する。この外来語発音についても、中都市と近郊農村で普及時期が10年か20年違うようである。

309. 「ジェット機」

「セ・ゼ」[se][ze]が「シェ・ジェ」[ʃe][ʒe]と発音される口蓋化(実は室町以前の古い日本語音の残存)が、新語の中でどう実現されるかを知るための項目である。第1回から繰り返している項目のうちの204「汗」203「背中」219「税務署」のグラフと照合できる。また鶴岡近郊山添地区の調査で採用されているので、対比できる(井上2000, p.551のグラフ参照)。

この鶴岡第3回調査では、55歳以上を除きほぼ全年齢層で7割以上が「ジェ」[ʒe]の「ジェットキ」と答えている。山添1976と山添1991では、1937年以前生まれの3割以下から1938年以降生まれの8割以上への大変化があった。それに比較すると平板である。学歴差が大きいので、早く「ジェ」[ʒe]に変化した層と遅く変化した層が、鶴岡市内で重なったためだろう。「ゼット機」という古めかしい語形、海軍の「ゼット旗」と同じ発音は、鶴岡では55歳以上で3割となり、山添の1907年以前生まれの4割より少ない。鶴岡の方が山添よりやや早く「ジェ」に変化していたようである。また方言音の「ジェ」[ʒe]を活用せずに「ジエ」[ʒie]という2音節にする発音は、各世代に少しずつ聞かれるが、若い世代でやや少なくなる。ちょうど次項で「フオーク」「フエルト」と発音する現象に似ている。

学歴差が少しある。中高学歴に新しい発音の「ジェットキ」が多く、低学歴に「ゼットキ」という古めかしい発音が多い。性差もあり、男性に新しい「ジェットキ」が多い。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では、1976年、1991年の2度調べてある。新しい発音の「ジェットキ」が1907年以前生まれの世代では1割程度で、1968年以降生まれの一番若い層で9割ちかくなる。鶴岡より急速な変化を示す。

表 IV-7 307. 「電電公社」

307 電電公社	無記入	エヌディーティー	エヌデーデー	電電公社	複数回答	その他
全体	7.2	58.8	29.9	0.5	2.2	1.5
男性	6.6	56.4	32.6	0.6	1.7	2.2
女性	7.6	60.7	27.7	0.4	2.7	0.9
15-19歳	2.1	95.7	2.1	0.0	0.0	0.0
20-24歳	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
25-34歳	0.0	96.9	0.0	0.0	3.1	0.0
35-44歳	5.0	73.0	21.0	0.0	0.0	1.0
45-54歳	8.2	32.8	55.7	0.0	3.3	0.0
55-69歳	16.2	14.4	58.6	1.8	4.5	4.5
低学歴	17.1	21.9	52.4	1.0	3.8	3.8
中学歴	3.5	67.8	26.6	0.0	1.0	1.0
高学歴	4.0	79.2	12.9	1.0	3.0	0.0

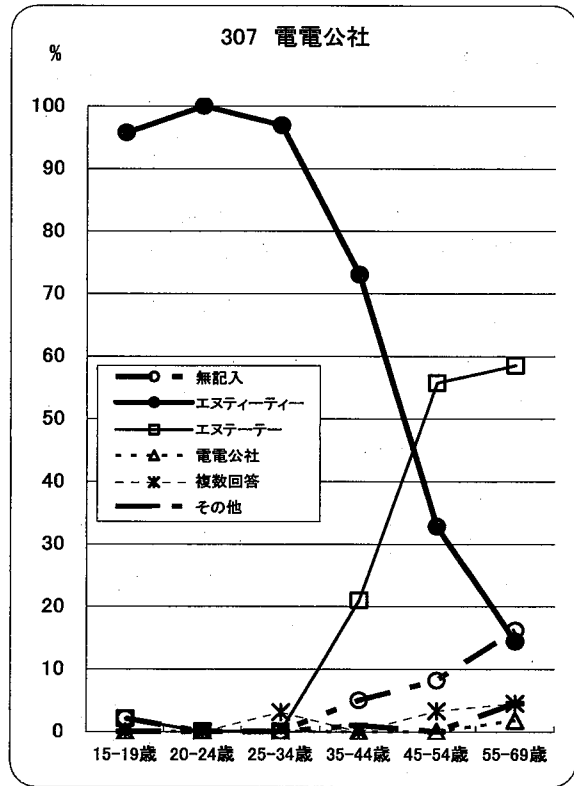


図 IV-19 307. 「電電公社」 年齢別

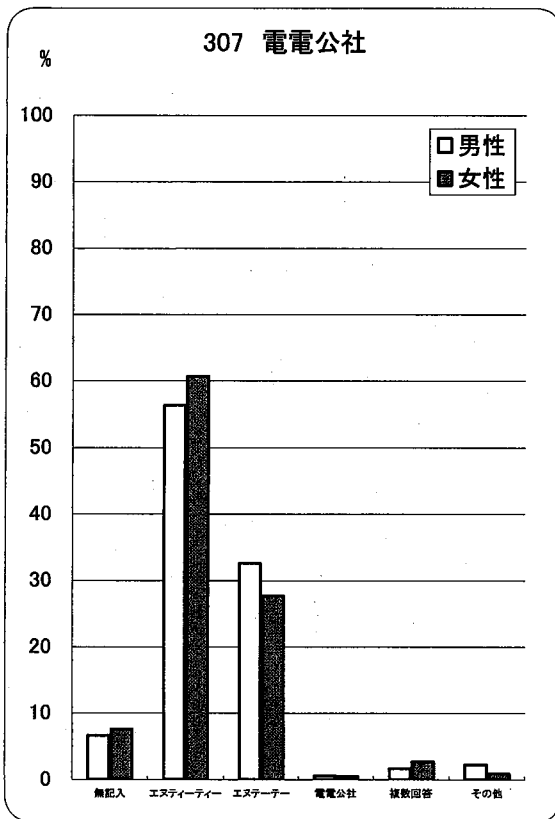


図 IV-20 307. 「電電公社」 性別

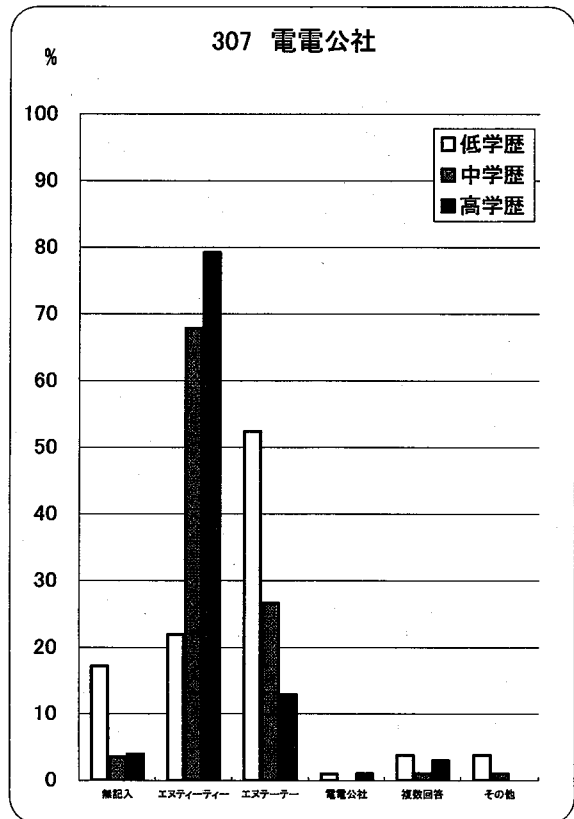


図 IV-21 307. 「電電公社」 学歴別

表 IV-8 308. 「PTA」

308 PTA	無記入	ピーティーエー	ピーターエー	父兄会	父母会	保護者会	複数回答
全体	0.7	26.2	50.1	1.5	0.5	1.5	19.5
男性	1.1	29.8	48.1	1.1	0.0	0.6	19.3
女性	0.4	23.2	51.8	1.8	0.9	2.2	19.6
15-19歳	0.0	48.9	25.5	2.1	0.0	4.3	19.1
20-24歳	0.0	47.6	33.3	0.0	4.8	0.0	14.3
25-34歳	0.0	49.2	35.4	0.0	0.0	1.5	13.8
35-44歳	0.0	27.0	48.0	1.0	0.0	1.0	23.0
45-54歳	1.6	4.9	55.7	1.6	0.0	3.3	32.8
55-69歳	1.8	9.9	71.2	2.7	0.9	0.0	13.5
低学歴	1.9	9.5	61.9	3.8	0.0	0.0	22.9
中学歴	0.0	24.1	51.3	1.0	1.0	2.5	20.1
高学歴	1.0	47.5	35.6	0.0	0.0	1.0	14.9

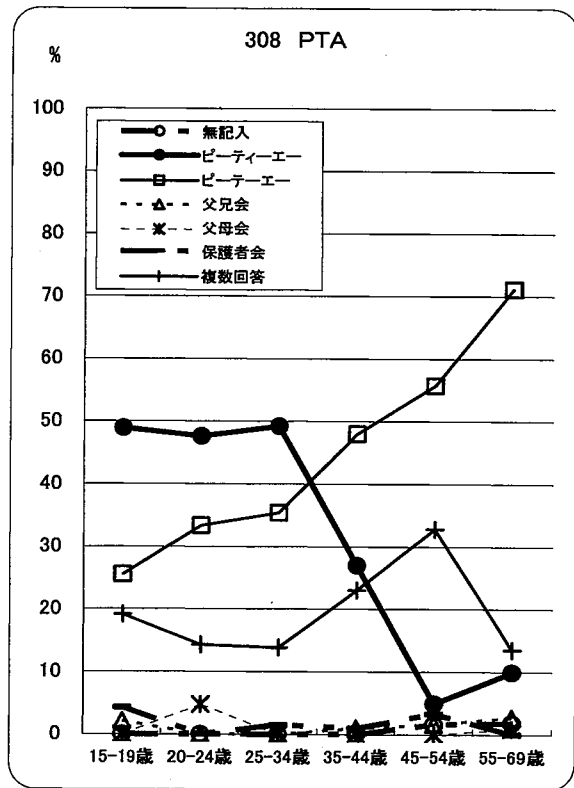


図 IV-22 308. 「PTA」 年齢別

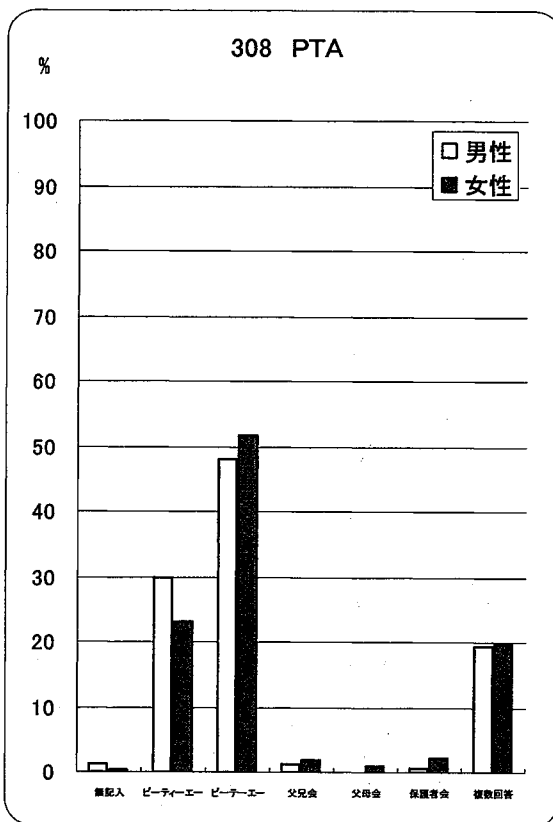


図 IV-23 308. 「PTA」 性別

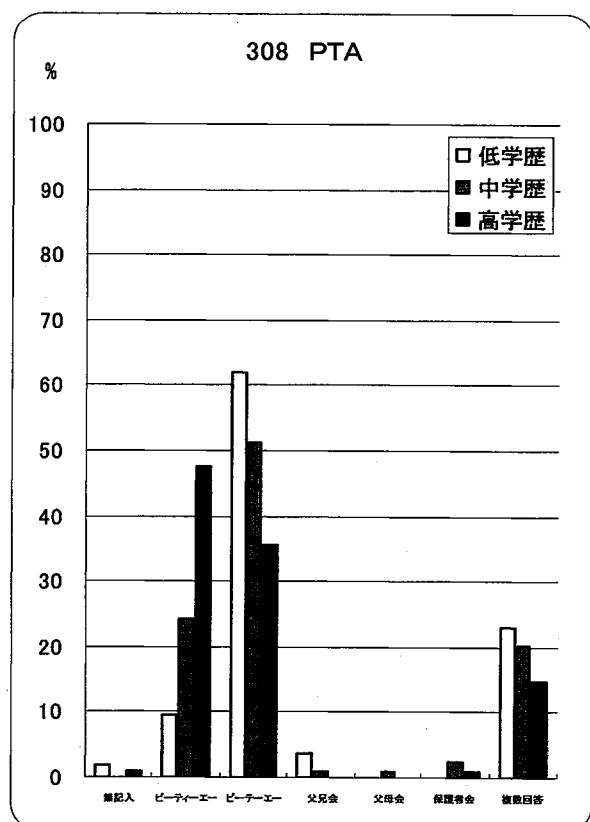


図 IV-24 308. 「PTA」 学歴別

表 IV-9 309. 「ジェット機」

309 ジェット機	無記入	ジェット	ゼット	ジェット	複数回答	その他(-機)
全体	3.0	65.2	12.1	4.7	0.2	14.8
男性	0.6	71.8	10.5	5.0	0.0	12.2
女性	4.9	59.8	13.4	4.5	0.4	17.0
15-19歳	2.1	78.7	2.1	2.1	0.0	14.9
20-24歳	9.5	71.4	4.8	4.8	0.0	9.5
25-34歳	3.1	73.8	1.5	0.0	0.0	21.5
35-44歳	0.0	74.0	5.0	7.0	0.0	14.0
45-54歳	1.6	67.2	13.1	4.9	1.6	11.5
55-69歳	5.4	44.1	29.7	6.3	0.0	14.4
低学歴	4.8	52.4	25.7	4.8	0.0	12.4
中学歴	3.0	68.8	9.0	4.0	0.5	14.6
高学歴	1.0	71.3	4.0	5.9	0.0	17.8

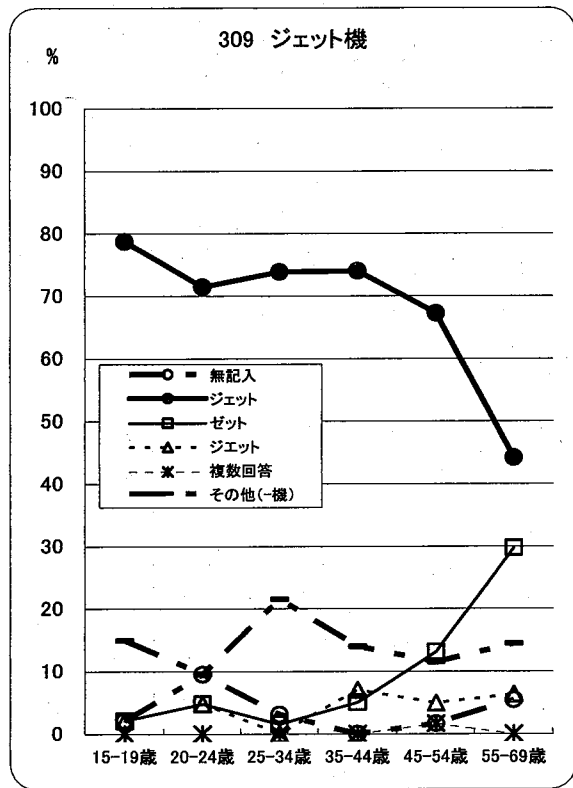


図 IV-25 309. 「ジェット機」 年齢別

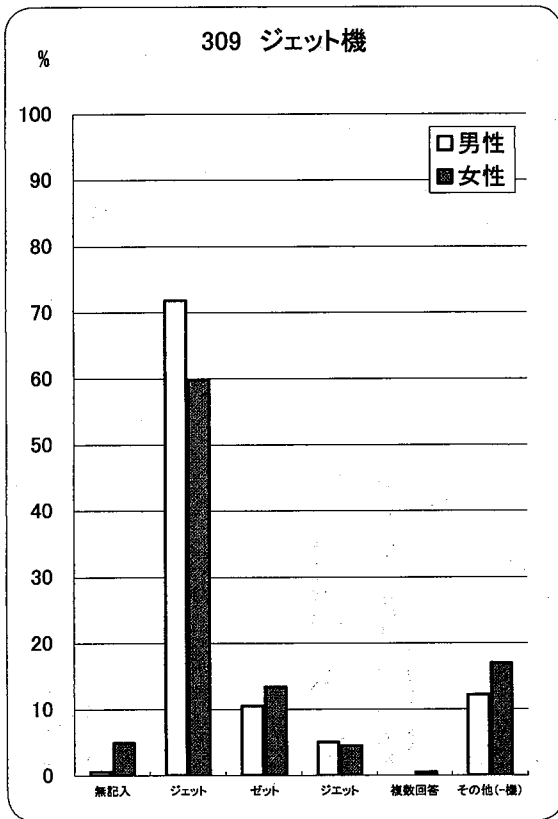


図 IV-26 309. 「ジェット機」 性別

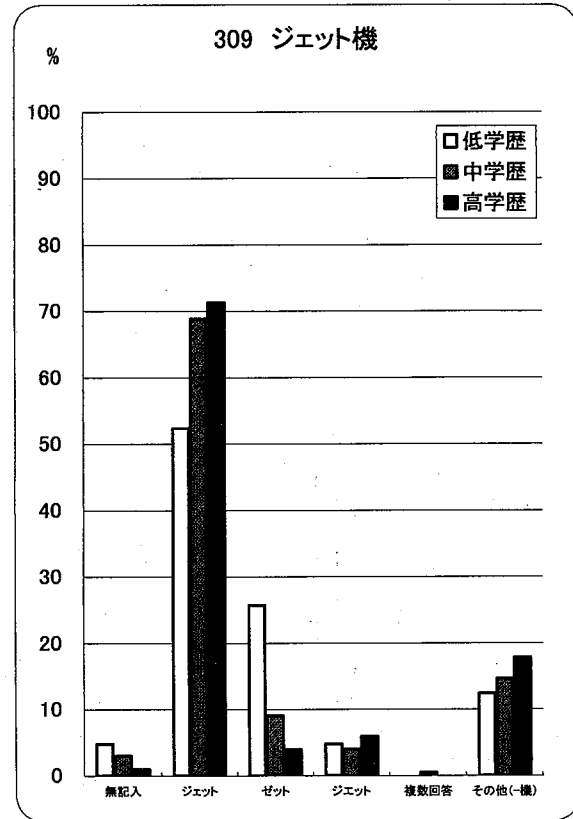


図 IV-27 309. 「ジェット機」 学歴別

310. 「フォーク」

「フォーク」は、ハ行音の外来語についての問いである。鶴岡ではかつてハ行子音に唇音[ɸ]が使われていた。第1回調査の208「蛇」218「百」202「髭」から分かるとおりである。この発音を老年層が有効に活用して外来語に適用することは、なかったようである。

310「フォーク」ではきれいな年齢差が観察された。唇音[ɸ]を使った新しい発音「フォーク」は、55歳以上の2割から30代以下の8割へと増加した。もともとの発音は唇音[ɸ]を使わない「ホーク」だったらしく、55歳以上では6割が使う。4拍になる「フォーク」は、1割程度で推移している。新しく登場した「フォーク」という文字に引かれて、唇音[ɸ]を活用せずに発音したとも考えられる。(スポーツの)「ファン」や「オフィス」「フィルム」「フェルト」などで観察された古めかしい発音である。

鶴岡近郊山添地区の調査では、唇音[ɸ]を使った発音「フォーク」は、年齢差が激しい。1910年代生まれは約1割に過ぎない。1960年前後生まれがピークで約8割。鶴岡とほぼ一致した線を示す。ただ山添では1970年代生まれの若い世代の使用率が5割に下がる点があるが、鶴岡と違う。近郊農村では、鶴岡市内に働きに出る世代が、他の世代に先駆けて鶴岡の新しい言語現象を採用するようである。

学歴とのかかわりでは、低学歴にもともとの発音「ホーク」が多く、高中学歴に新しい発音「フォーク」が多い。性差は少ないが、新しい発音「フォーク」は女性に多い。

311. 「フィルム」

これもハ行音の外来語についての問い。「写真用のフィルム」の意味の質問文だった。「フィ」[ɸi]を2拍として受容した「フィ」[ɸui]が大多数を占め、7割から8割である。もともとの方言音の両唇音を活用できたはずの「フィ」[ɸi]は、年齢差がゆるやかで、老年の2割から中年以下の3割に増える程度である。単語として確立したので、原語との対応による変化が遅れているのだろう。1950年代に鶴岡市内で「フィロム」という発音を聞いた覚えがあるが、調査結果には出ていない。

鶴岡近郊山添地区の調査でも「フィ」[ɸui]が圧倒的で、方言音の両唇音を活用できたはずの「フィ」[ɸi]が一番若い世代で2割に達する程度で、鶴岡より導入がやや遅れている。なおNHK『日本語発音アクセント辞典』では、戦後まもなくの版ですでに「フィルム」のみを載せている。しかし商標名で「フィルム」が使われていることが象徴するように、「フィ」[ɸi]という音節は、確立が遅かった。

学歴とのかかわりでは、中低学歴には以前からのフィルムが多い。高学歴は他よりも、フィルムの割合が多い。性別では、女性に以前からのフィルムが多い。男性は女性よりも新形フィルムが多い。

表 IV-10 310. 「フォーク」

310 フォーク	無記入	フォーク	フォーク	ホーク	複数回答	その他
全体	0.5	55.3	6.9	36.3	0.7	0.2
男性	1.1	50.8	7.2	40.3	0.6	0.0
女性	0.0	58.9	6.7	33.0	0.9	0.4
15-19歳	0.0	85.1	2.1	12.8	0.0	0.0
20-24歳	0.0	76.2	9.5	14.3	0.0	0.0
25-34歳	0.0	86.2	1.5	12.3	0.0	0.0
35-44歳	0.0	63.0	8.0	29.0	0.0	0.0
45-54歳	1.6	39.3	9.8	47.5	1.6	0.0
55-69歳	0.9	22.5	9.0	64.9	1.8	0.9
低学歴	1.0	33.3	6.7	57.1	1.0	1.0
中学歴	0.0	61.8	6.0	32.2	0.0	0.0
高学歴	1.0	65.3	8.9	22.8	2.0	0.0

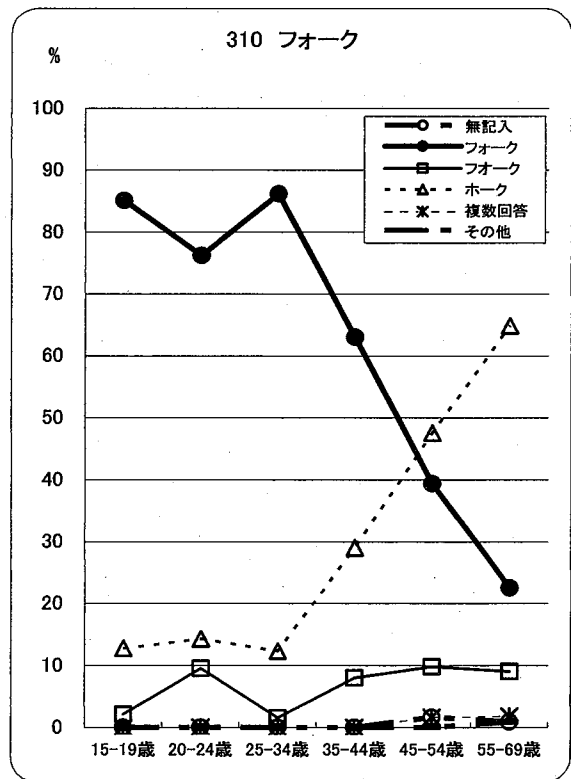


図 IV-28 310. 「フォーク」 年齢別

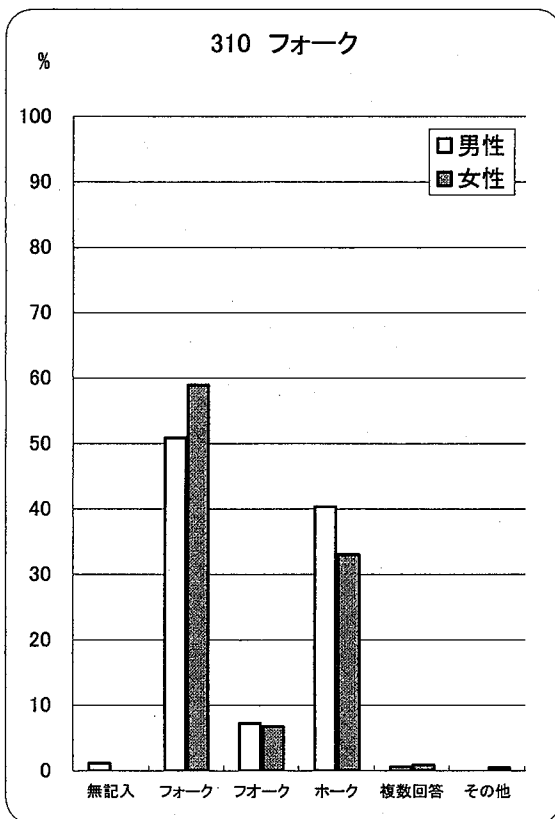


図 IV-29 310. 「フォーク」 性別

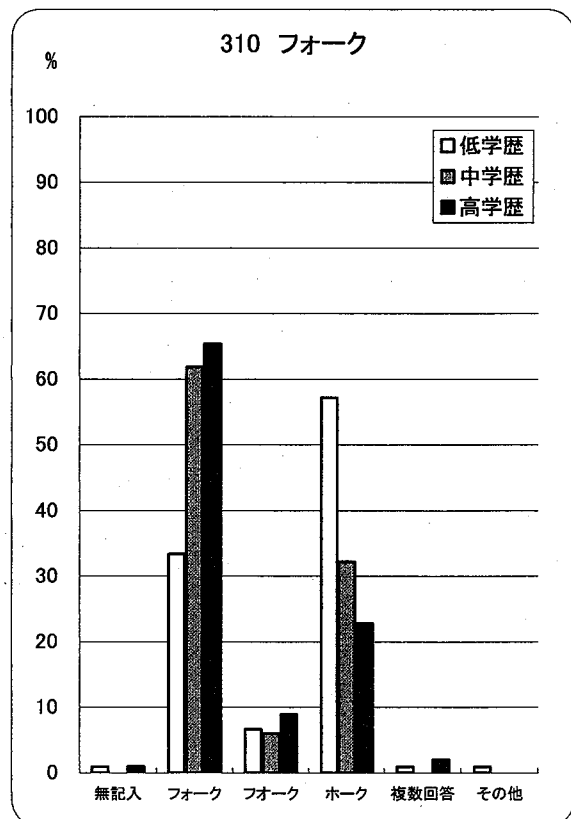


図 IV-30 310. 「フォーク」 学歴別

表 IV-11 311. 「フィルム」

311 フィルム	無記入	フィルム	フィルム	複数回答	その他
全体	0.7	19.3	78.5	0.7	0.7
男性	0.6	27.6	70.7	1.1	0.0
女性	0.9	12.5	84.8	0.4	1.3
15-19歳	0.0	29.8	68.1	2.1	0.0
20-24歳	0.0	19.0	76.2	0.0	4.8
25-34歳	0.0	27.7	70.8	1.5	0.0
35-44歳	0.0	21.0	78.0	1.0	0.0
45-54歳	1.6	11.5	86.9	0.0	0.0
55-69歳	1.8	12.6	83.8	0.0	1.8
低学歴	1.9	7.6	88.6	1.0	1.0
中学歴	0.0	15.1	83.4	0.5	1.0
高学歴	1.0	39.6	58.4	1.0	0.0

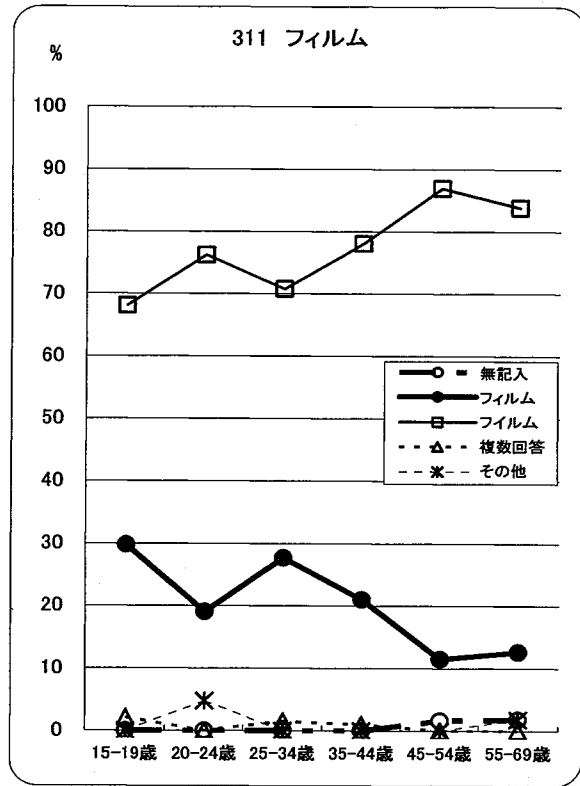


図 IV-31 311. 「フィルム」 年齢別

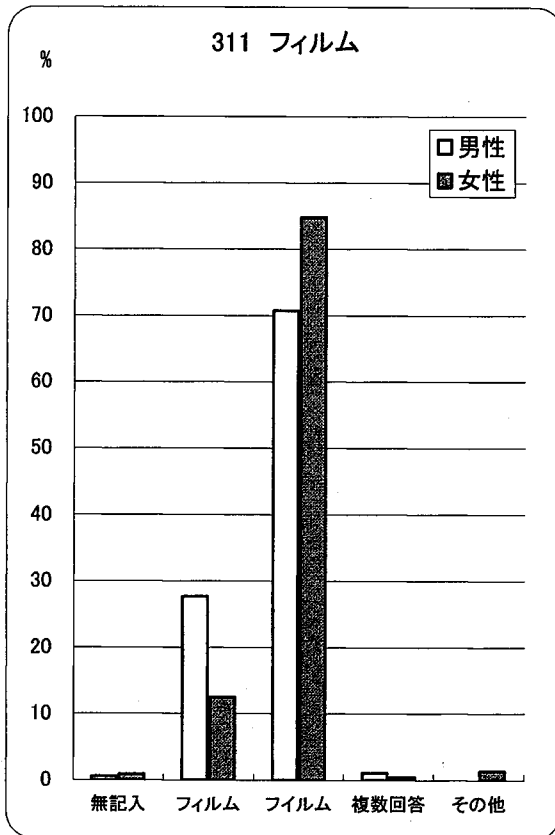


図 IV-32 311. 「フィルム」 性別

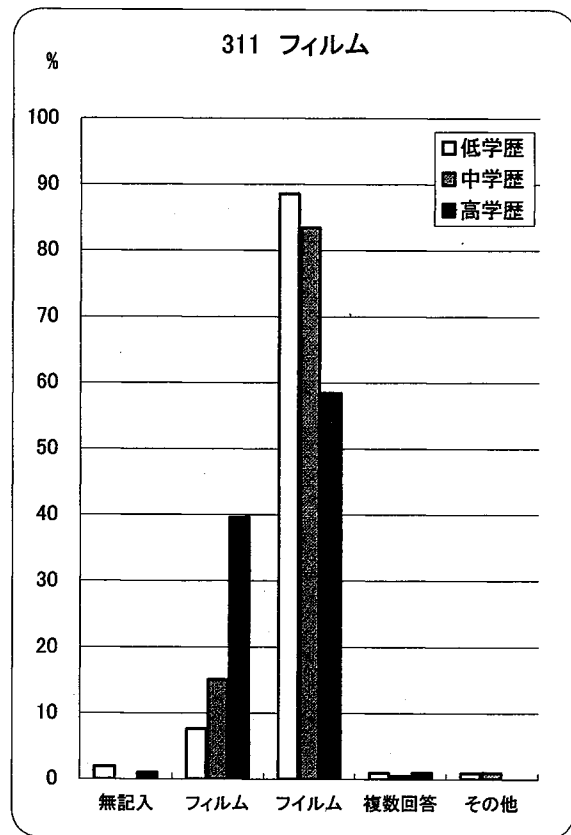


図 IV-33 311. 「フィルム」 学歴別

3.3 アクセント

以下のアクセント項目については、第1回調査から尋ねているアクセント5項目の総合的变化パターンを基本において考察すべきである。「アクセント得点」の約100年間の推移は急速で、第3回調査では、「変化のSカーブ」のちょうど半ばあたりをとらえたようである。その目で見ると、以下の4項目はいずれもSカーブの途中段階で、普及率にわずかの差がある程度と位置づけることができる。また、どのアクセントが広がったかをみると、鶴岡の若い世代に入ってきているアクセントが、NHKアナウンサーが使うような標準アクセントでなく、東京の若者（または若いテレビタレント）の使う新しいアクセントであることが、以下の調査結果から読み取れる。

なお国語研（1997）の「北海道調査」でも「熊」「テレビ」「チャンネル」「アメリカ」が取り上げられたので、対照することができる。

312. 「クマ（熊）」（アクセント）

アクセントを知るためだけの項目である。共通語発音としては「クマ」（低高，LH，○●）だったが、近年東京の若い世代に「クマ」（高低，HL，●○）が広がり、全国に波及しつつある。アクセント変化がどんなことばをモデルにし、どのようなルートから広がるかを知るのに、いい手がかりになる。馬瀬（1981）がテレビの普及と時期が一致することから「テレビアクセント」と名づけた現象の1例にあたる。NHKアナウンサーが使うような「標準語」のアクセントがモデルになるわけではなさそうである。

年齢差グラフはちょうどX字のパターンで新旧が交代している。中年以上はクマ（低高，LH，○●）が多く、5～7割を占める。これは従来の東京方言のアクセントであり、したがって共通語アクセントだった。20代以下で勢力が交代し、新しい東京方言のクマ（高低，HL，●○）が多く、6割になる。30代、40代あたりで勢力が交代した。調査が1991年なので、1950年、60年前後に生まれた人たちにあたる。鶴岡のクマ（高低，HL，●○）普及は、テレビ普及時期より遅いようである。

学歴とのかかわりでは、低学歴に方言形の○●（低高，LH）が多く、高学歴に共通語アクセント●○（高低，HL）が多いが。性差は、ないに等しい。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では、新しい東京方言のクマ（高低，HL，●○）が1968年以降生まれの一番若い層でも4割以下である。鶴岡よりの遅れは10-20年程度で、差が少ない。

313. 「テレビ」（アクセント）

戦後普及した「テレビ」のアクセントは、アクセントの全国分布からみると、特別な地理的分布を示し、アクセントのいわゆる東西差と対応しない。さらに、外来語アクセントは、初期は「後ろから3音節目」に下がり目（アクセント核）が置かれ、普及して身近になると下がり目（アクセント核）を失って平板化する傾向があるが、「テレビ」のアクセントは、このパターンに合わない。鶴岡の在来のアクセントも東京の共通語アクセントと顕著に違っていたので、その共通語化の過程をみるために調査項目に入れた。

東京の共通語である頭高の●○○(高低低, HLL)は, 中年以下に多く, 10代では8割に達する。鶴岡在来のアクセントの○●○(低高低, LHL)は, 老年層では半数を超えるが, 中年以下で減り, 20代以下では2割程度になる。前項「クマ」に比べると, 新形のアクセントの流入が一步早い。

学歴の差が意外に大きく, 低学歴に方言形の○●○(低高低, LHL)が多く, 高学歴に共通語アクセント●○○(高低低, HLL)が多い。性差は少ないが, 共通語アクセント●○○(高低低, HLL)は女性に多い。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では, 新しい頭高の●○○(高低低, HLL)が1953年以降生まれの層で急に増えた。鶴岡よりの遅れは20-30年程度とみられる。

表 IV-12 312. 「クマ (熊)」 (アクセント)

312 熊	無記入	○●	●○	複数回答	その他
全体	0.2	55.3	41.0	0.2	3.2
男性	0.6	55.8	39.2	0.0	4.4
女性	0.0	54.9	42.4	0.4	2.2
15-19歳	0.0	31.9	61.7	0.0	6.4
20-24歳	0.0	28.6	61.9	0.0	9.5
25-34歳	0.0	53.8	46.2	0.0	0.0
35-44歳	0.0	54.0	42.0	0.0	4.0
45-54歳	1.6	62.3	32.8	1.6	1.6
55-69歳	0.0	68.5	28.8	0.0	2.7
低学歴	0.0	64.8	31.4	0.0	3.8
中学歴	0.0	54.8	40.7	0.5	4.0
高学歴	1.0	46.5	51.5	0.0	1.0

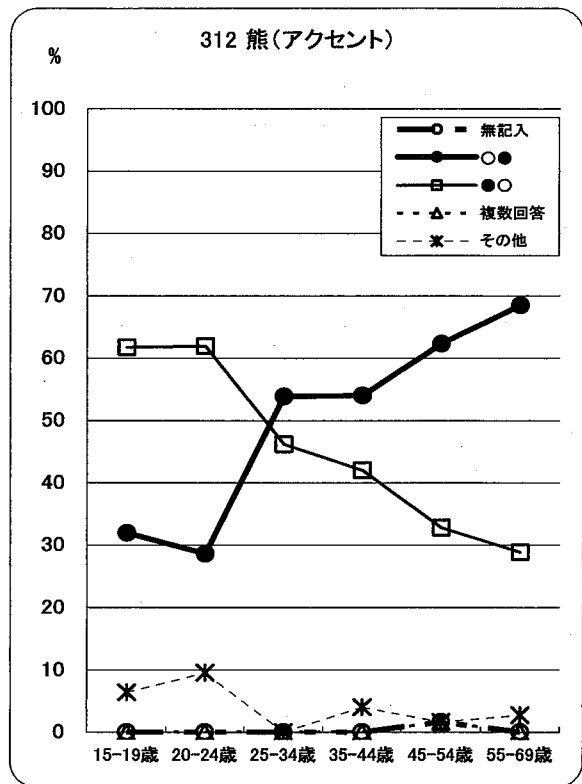


図 IV-34 312. 「クマ (熊)」 年齢別

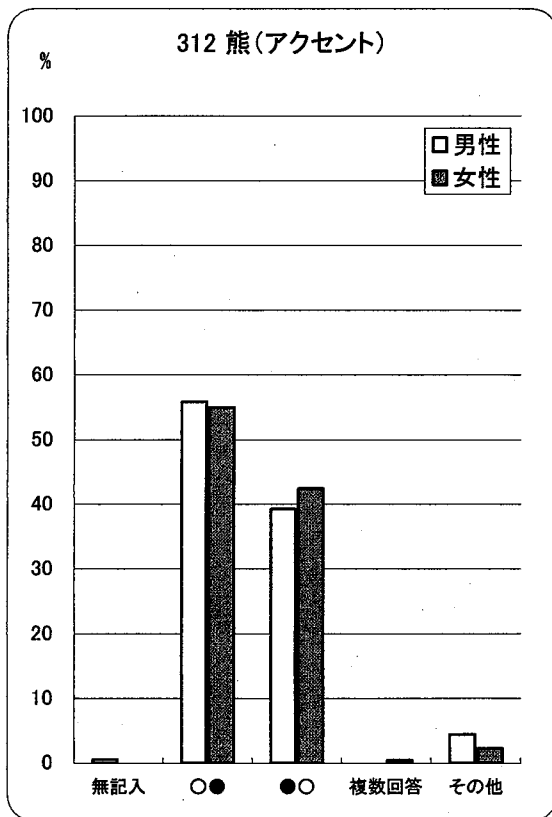


図 IV-35 312. 「クマ (熊)」 性別

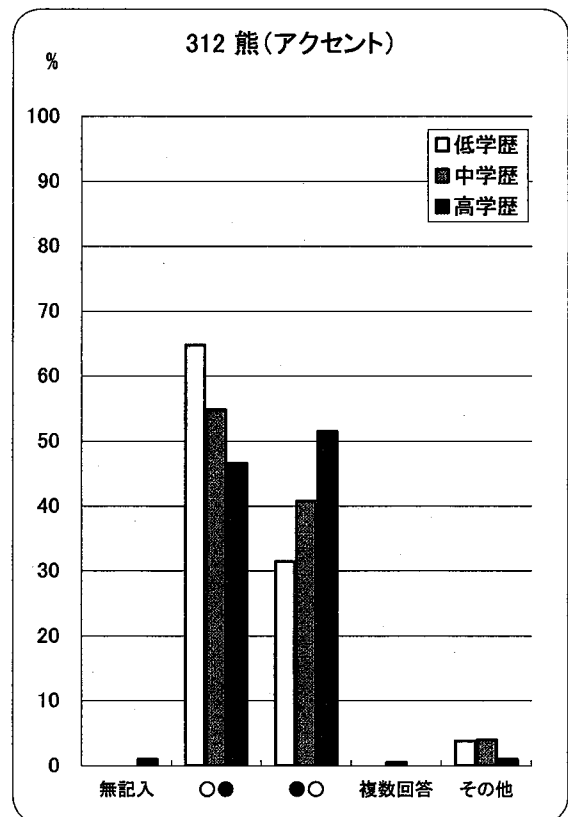


図 IV-36 312. 「クマ (熊)」 学歴別

表 IV-13 313. 「テレビ」 (アクセント)

313 テレビ	無記入	●○○	○○○	複数回答	その他
全体	0.2	55.8	38.8	0.2	4.9
男性	0.6	52.5	43.1	0.0	3.9
女性	0.0	58.5	35.3	0.4	5.8
15-19歳	0.0	78.7	21.3	0.0	0.0
20-24歳	0.0	71.4	28.6	0.0	0.0
25-34歳	0.0	67.7	29.2	1.5	1.5
35-44歳	0.0	57.0	38.0	0.0	5.0
45-54歳	1.6	50.8	37.7	0.0	9.8
55-69歳	0.0	37.8	55.0	0.0	7.2
低学歴	0.0	35.2	57.1	0.0	7.6
中学歴	0.0	58.3	37.2	0.5	4.0
高学歴	1.0	72.3	22.8	0.0	4.0

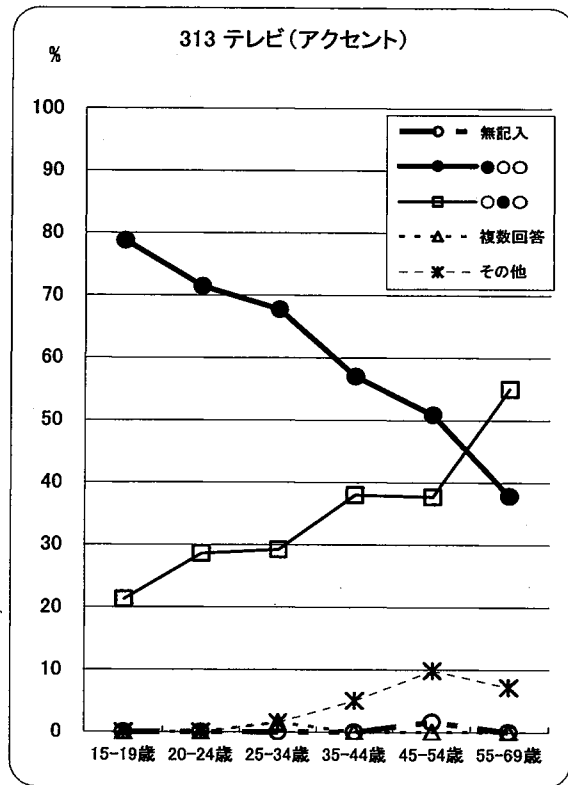


図 IV-37 313. 「テレビ」 年齢別

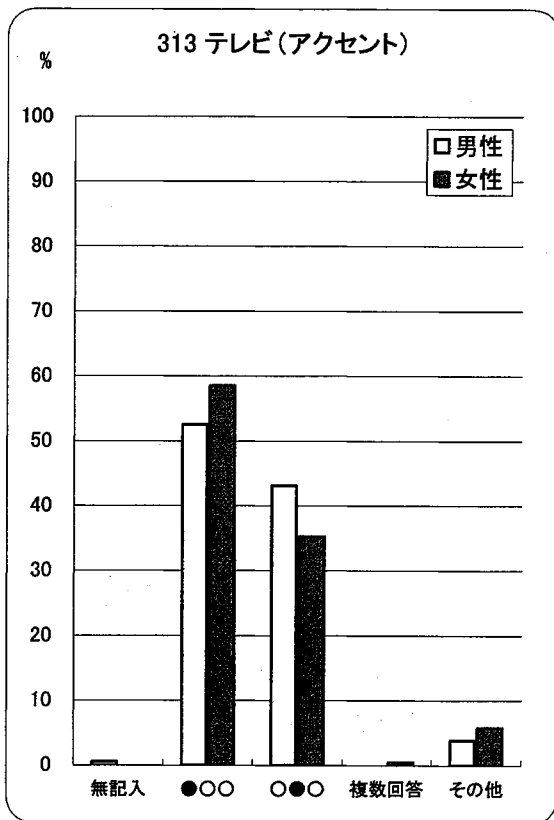


図 IV-38 313. 「テレビ」 性別

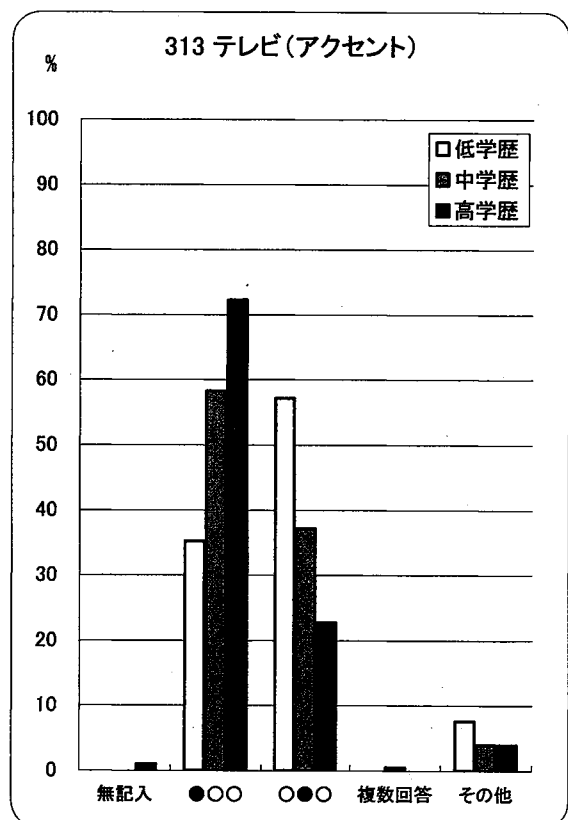


図 IV-39 313. 「テレビ」 学歴別

314. 「チャンネル」(アクセント)

「チャンネル」のアクセントは、共通語化の位置づけに役立つ。鶴岡市に普及するアクセントが、アナウンサーが使うような「標準語」アクセントなのか、東京の若い人に普及しつつある「東京語」アクセントなのかを、知る手がかりになるからである。20世紀後半に多くの語で顕著になった外来語アクセントの平板化、いわゆる「専門家アクセント」(井上1994b)の1例の普及にあたる。現行のアクセント辞典でも2種類が出ている。

●○○○(高低低低, HLLL)は末尾から3音節目に下がり目(アクセント核)をおくという、新語のアクセント受容パターンにあてはめたもので、40代以上で優勢である。○●●●(低高高高, LHHH)は東京の専門家アクセントを採用したもので、20代以下に優勢である。共通語・方言どちらにも属さない○●●○(低高高低, LHHL)は、1割程度。その他も数パーセントあって若い世代にも多い。一時多様化したのだろう。

学歴とのかかわりでは、低学歴に方言形の●○○○(高低低低, HLLL)がとりわけ多く、高中学歴に共通語アクセント○●●●(低高高高, LHHH)が多い。年齢差の反映か実際に学歴が作用しているかは、グラフからは不明である。性差は、ないに等しい。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では、新しい平板アクセントの○●●●(低高高高, LHHH)が1953年以降生まれの層でさえも2割前後に過ぎない。鶴岡よりの遅れは40年前後とみられる。

315. 「アメリカ」(アクセント)

「アメリカ」のアクセントも、共通語化の内実をみるのに役立つ。外来語アクセントの平板化(いわゆる専門家アクセント)にあたるが、東京では早くから平板化していた。○●●●(低高高高, LHHH)は共通語アクセントを採用したもので、30代以下に優勢である。○●○○(低高低低, LHLL)は、末尾から3音節目に下がり目をおくという新語特有のアクセントパターンにあてはめたもので、40代以上で優勢である。その他は少ない。

学歴とのかかわりでは、低学歴に方言形の○●○○(低高低低, LHLL)が多く、高中学歴に共通語アクセント○●●●(低高高高, LHHH)が多い。年齢差の反映か実際に学歴が作用しているかは、グラフからは不明。性差は、ないに等しい。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では、新しい平板アクセントの○●●●(低高高高, LHHH)が1953年以降生まれの層で5~6割である。鶴岡よりの遅れは20年前後とみられる。

「熊」「テレビ」「チャンネル」「アメリカ」を通してみると、グラフではどれを共通語アクセントとみるかが一致していない。若い世代で増えているアクセントは、「熊」と「テレビ」では頭高アクセント、「チャンネル」と「アメリカ」では平板アクセントである。古形・新形がグラフ上でX状にクロスする年齢層の順に並べると、老年層に偏るのが「テレビ」、次が「アメリカ」、30代が「チャンネル」、20代が「熊」である。東京における変化の順番とほぼ対応しており、鶴岡のアクセントは、第1回調査の当時と違って、「東京語」(東京の(若い人の)日常語)のアクセントを(やや遅れた形で)反映しつつある。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では、新しいアクセントの導入の遅れは語によって違う。鶴岡よりの遅れは10年から40年前後とみられる。

表 IV-14 314. 「チャンネル」 (アクセント)

314 チャンネル	無記入	●○○○	○○●●	○○●○	複数回答	その他
全体	1.0	41.2	24.2	9.9	0.7	23.0
男性	0.6	40.9	25.4	8.3	0.6	24.3
女性	1.3	41.5	23.2	11.2	0.9	21.9
15-19歳	0.0	12.8	48.9	4.3	0.0	34.0
20-24歳	0.0	14.3	47.6	4.8	0.0	33.3
25-34歳	0.0	24.6	27.7	15.4	3.1	29.2
35-44歳	0.0	46.0	28.0	8.0	0.0	18.0
45-54歳	1.6	47.5	18.0	13.1	0.0	19.7
55-69歳	2.7	60.4	7.2	9.9	0.9	18.9
低学歴	1.9	55.2	12.4	10.5	0.0	20.0
中学歴	0.5	36.2	29.6	10.1	0.5	23.1
高学歴	1.0	36.6	25.7	8.9	2.0	25.7

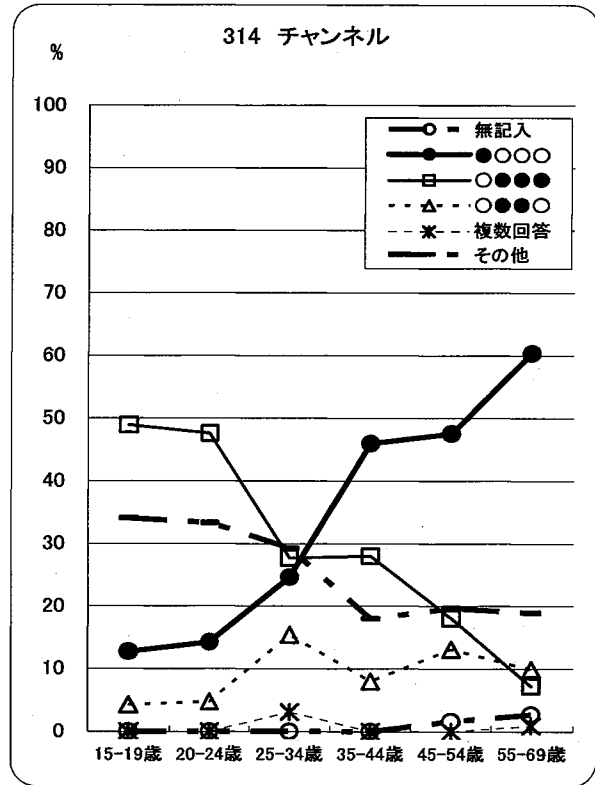


図 IV-40 314. 「チャンネル」 年齢別

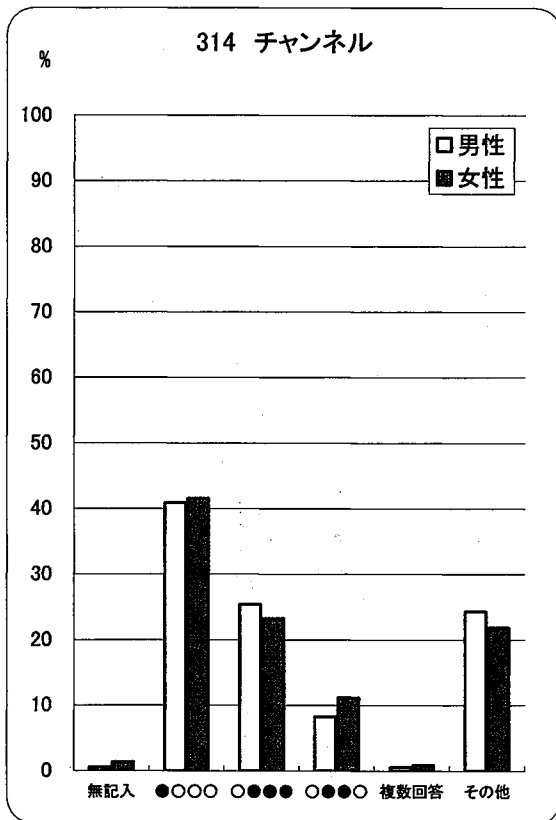


図 IV-41 314. 「チャンネル」 性別

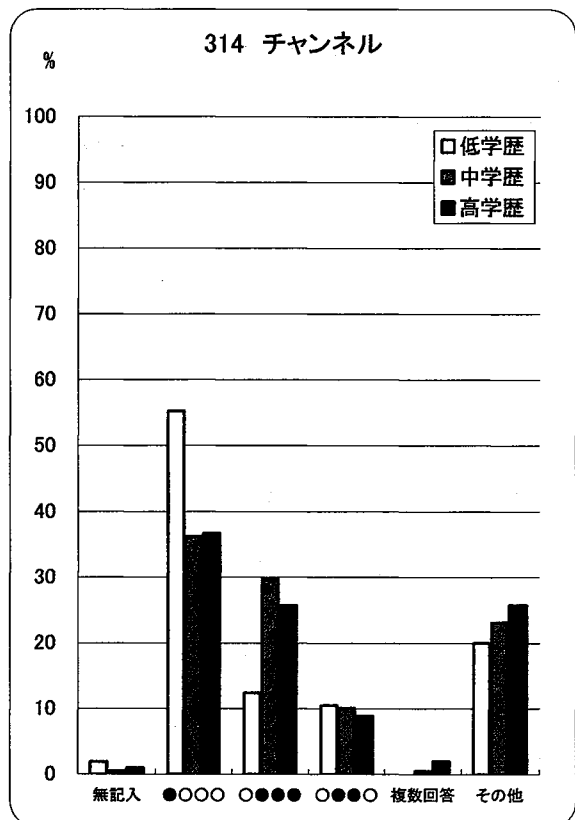


図 IV-42 314. 「チャンネル」 学歴別

表 IV-15 315. 「アメリカ」 (アクセント)

315 アメリカ	無記入	○●●●	○●○○	複数回答	その他
全体	0.2	44.9	49.9	0.5	4.4
男性	0.6	38.1	56.4	0.6	4.4
女性	0.0	50.4	44.6	0.4	4.5
15-19歳	0.0	78.7	17.0	0.0	4.3
20-24歳	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
25-34歳	0.0	61.5	32.3	0.0	6.2
35-44歳	0.0	47.0	51.0	0.0	2.0
45-54歳	1.6	26.2	67.2	1.6	3.3
55-69歳	0.0	25.2	66.7	0.9	7.2
低学歴	0.0	33.3	62.9	0.0	3.8
中学歴	0.0	48.2	45.7	0.5	5.5
高学歴	1.0	50.5	44.6	1.0	3.0

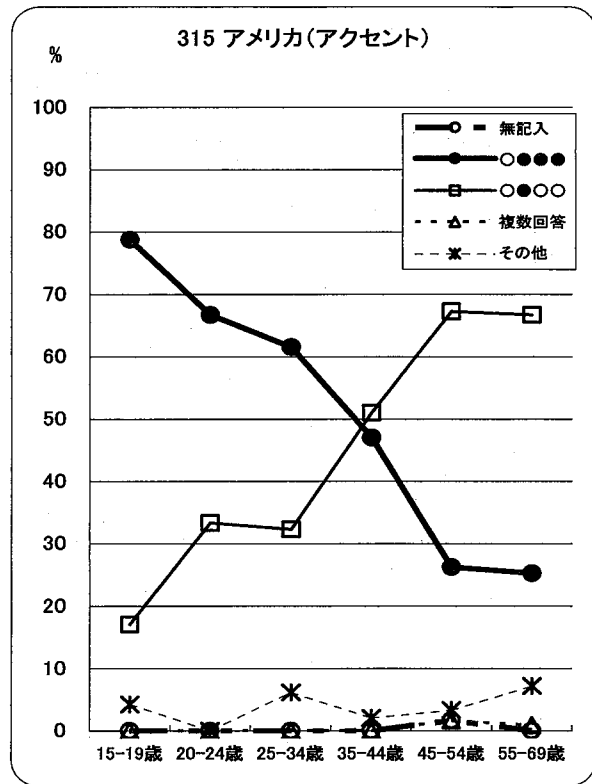


図 IV-43 315. 「アメリカ」 年齢別

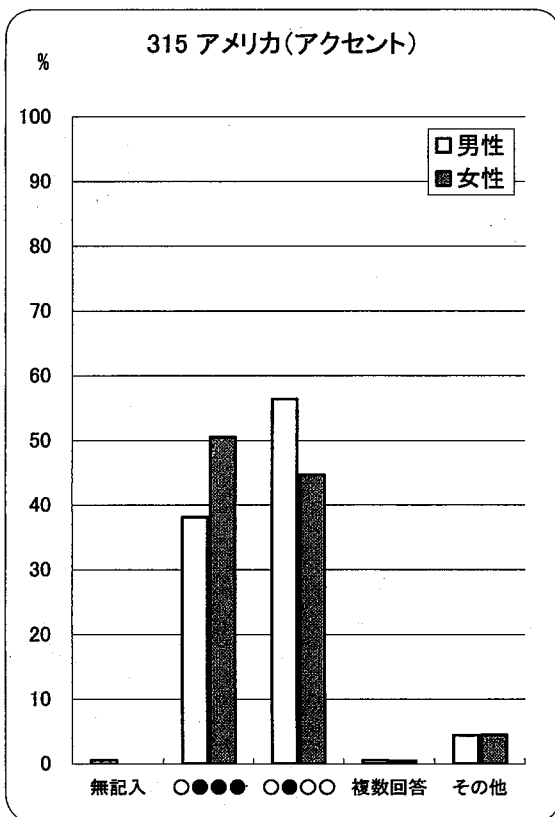


図 IV-44 315. 「アメリカ」 性別

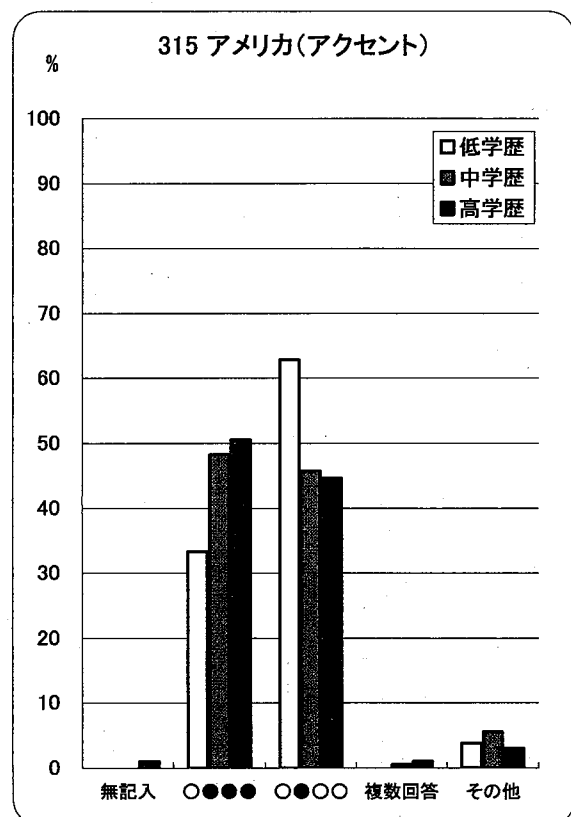


図 IV-45 315. 「アメリカ」 学歴別

3.4 文法

以下4項目は、鶴岡方言自体が変化を起こしている「新方言」に関わるものである。東北地方一帯、庄内一円、鶴岡近郊などの調査結果と照合できるので、共通語化でない（下からの）言語変化がどう進むかを、地理的広がりをもって確認できる。

316. 「分かりません」

文法項目は回答を得る技法が難しく、活用形を唱えてもらうわけにはいかない。「分からない」の「ら」が「ん」に変わるかどうかを確かめるために、丁寧語を添えた（共通語、敬体の）「分かりません」を、普段のことば（方言、常体）に直すという翻訳技法の質問文を使った。項目名も「分かりません」になっている。

「分かりません」では、共通語形「ワカラナイ」は、1割程度で推移しているが、方言形同士の年齢差が大きい。在来の鶴岡方言の「ワガラネ」は、老年層では5割近いが20代以下では1割以下に減る。代わって新方言の「ワガンネ」が若い世代で6割に達する。東京で起きているのと同じ、ラ行五段活用動詞の否定形で（rとnという舌先を使う発音が続くために）「ラ」が「ン」になる変化である。東北地方から関東北部にかけて広く分布している言い方だが、庄内は例外だった。井上（2000, 2003）のグロットグラム（地理×年齢図）で明らかのように、山形市付近から飛び火で普及した言い方だろう。鶴岡に隣接する酒田市にはそれほど普及していないので、他の共通語形とは別のメカニズムが働いていると考えられる。「ワガネ」は使用率が低い。東北地方北部の方言のラ行五段動詞にも同じ現象がみられ、古い言い方とみられる。

学歴とのかかわりでは、低学歴に方言形ワガラネが多く、中学歴に新方言ワガンネが多い。高学歴はその他がやや多い。性差は、ないに等しい。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では（井上2005）、「ワガンネ」の使用率が全世代で鶴岡よりやや低く、10年か20年遅れて新形が普及しているようである。

317. 「(朝寝を) したい」

助動詞「タイ」が「スル」に接続するときの語形についての項目である。方言形の「シデ」が一番多く、老年層の5割前後から若年層の7割近くに増加中である。方言形のうち「シッデ」は全年齢層で1割前後で、中年層で一時増える。共通語形「シタイ」はあまり普及しておらず、全年齢層で2割前後である。しかも若い世代でやや減る傾向を見せる。

井上2000 p.238によれば、「シッデ」は新方言として庄内中央部に広がりつつあった。井上1994a p.84によれば、高校生とその父兄では、「シッデ」が庄内北部の酒田市・飽海地方に多く、「シデ」は庄内南部の鶴岡市・田川地方に多く、高校生が父兄より多い。各データの変化傾向は矛盾しない。「シデ」は共通語形「シタイ」に音韻的・文法的に対応する語形として普及しつつあるのだろう。

学歴とのかかわりでは、低学歴に方言形「シデ」が多く、高学歴に共通語形「シタイ」が多い。性差では、方言形「シデ」が男性にやや多く、共通語形「シタイ」が女性にやや多く、共通語化の性差一般のパターンにあてはまる。

表 IV-16 316. 「分かりません」

316 分かりません	無記入	ワカラナイ	ワガラネ	ワガンネ	ワガネ	複数回答	その他
全体	0.2	9.1	40.0	38.3	1.2	4.0	7.2
男性	0.6	8.3	38.7	39.2	2.8	3.3	7.2
女性	0.0	9.8	41.1	37.5	0.0	4.5	7.1
15-19歳	0.0	2.1	8.5	83.0	0.0	0.0	6.4
20-24歳	0.0	0.0	4.8	76.2	0.0	0.0	19.0
25-34歳	0.0	9.2	21.5	55.4	1.5	3.1	9.2
35-44歳	0.0	10.0	38.0	38.0	1.0	5.0	8.0
45-54歳	1.6	8.2	54.1	24.6	1.6	4.9	4.9
55-69歳	0.0	13.5	64.9	9.9	1.8	5.4	4.5
低学歴	0.0	10.5	53.3	23.8	1.0	5.7	5.7
中学歴	0.0	8.0	33.7	46.7	2.0	3.5	6.0
高学歴	1.0	9.9	38.6	36.6	0.0	3.0	10.9

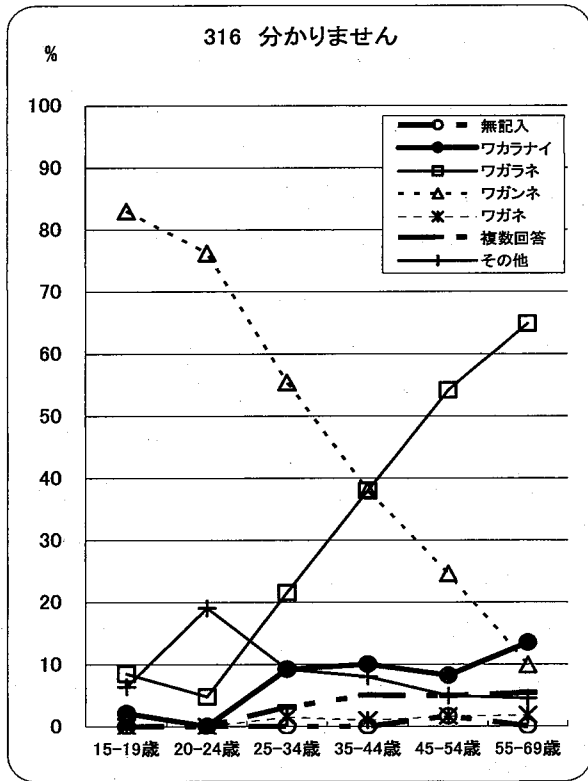


図 IV-46 316. 「分かりません」 年齢別

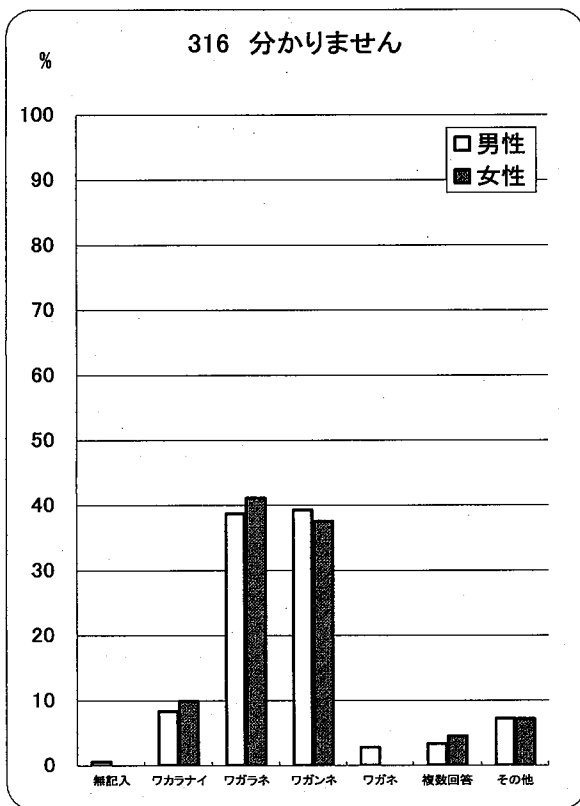


図 IV-47 316. 「分かりません」 性別

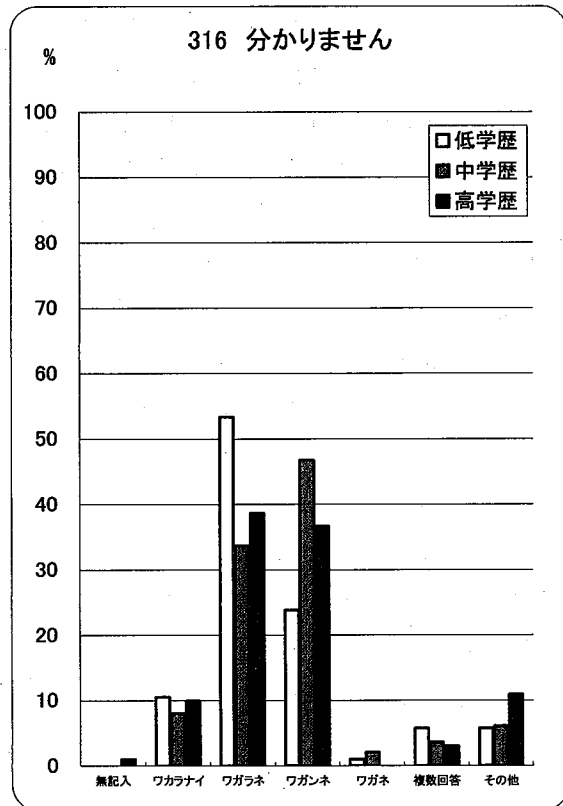


図 IV-48 316. 「分かりません」 学歴別

表 IV-17 317. 「朝寝をしたい」

317 ほしい	無記入	～シタイ	～シデ	～シッデ	複数回答	その他
全体	1.2	21.2	54.8	10.6	7.2	4.9
男性	1.1	17.7	58.6	7.7	7.2	7.7
女性	1.3	24.1	51.8	12.9	7.1	2.7
15-19歳	0.0	17.0	68.1	6.4	6.4	2.1
20-24歳	0.0	19.0	61.9	9.5	4.8	4.8
25-34歳	0.0	18.5	55.4	16.9	6.2	3.1
35-44歳	0.0	22.0	55.0	8.0	10.0	5.0
45-54歳	1.6	19.7	54.1	13.1	6.6	4.9
55-69歳	3.6	25.2	47.7	9.9	6.3	7.2
低学歴	2.9	15.2	55.2	10.5	6.7	9.5
中学歴	0.0	19.6	58.8	10.6	7.0	4.0
高学歴	2.0	30.7	46.5	10.9	7.9	2.0

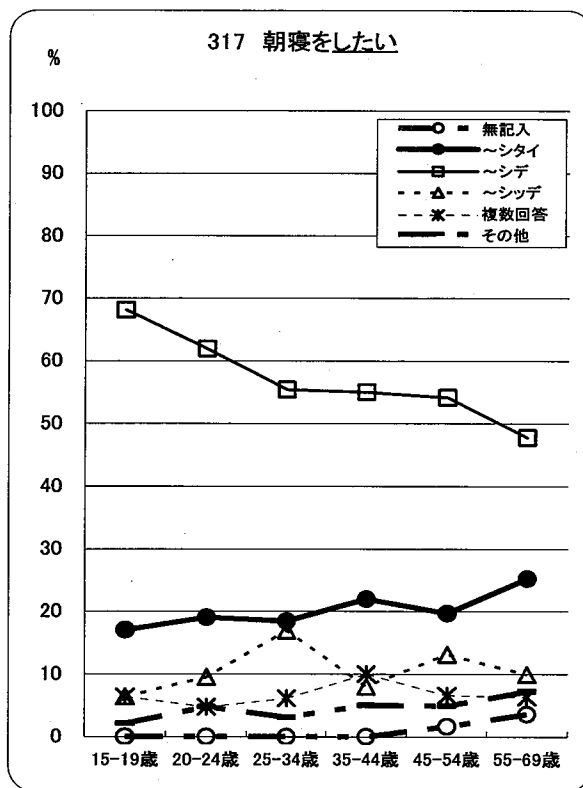


図 IV-49 317. 「朝寝をしたい」年齢別

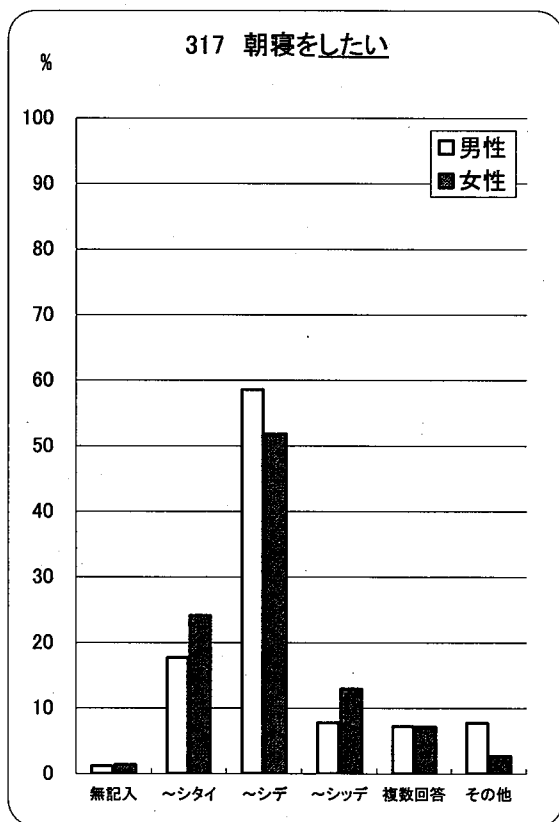


図 IV-50 317. 「朝寝をしたい」性別

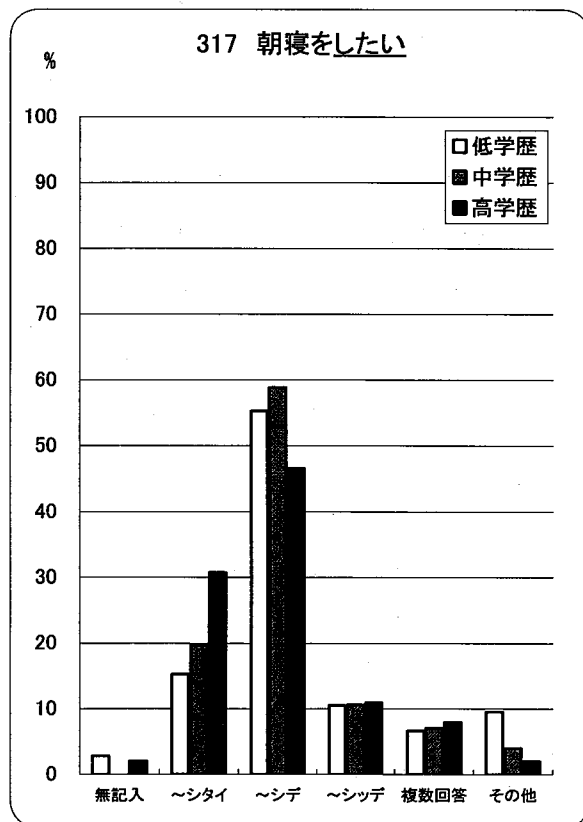


図 IV-51 317. 「朝寝をしたい」学歴別

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では、方言形「シデ」が若い世代で鶴岡と同じ程度に増えた。老年層に共通語形「シタイ」が多いことをみると、共通語形を訳させる質問文が災いした可能性もある。

318. 「(どこ)へ(行くのか)」

次項の「(学校)へ(行く)」と同様に、助詞「サ」の用法拡大に関する問いである。小林(2004)で論じられているように、東日本では助詞「サ」が「方向」を指すだけの用法から、「場所」「目標」「結果」などを指す用法へと今でも拡大中で、共通語の助詞「ニ」に相当するような広い用法を獲得しつつある。さらに、在来の鶴岡方言ではこの場合「ドサ」という短縮形も現れる。

グラフによれば、優勢なのは在来の鶴岡方言の「ドサ」であり、ほぼ3割。ことに若い世代で5割を占める。次は「ドコサ」で、コが発音としては共通語化し、助詞サは方言形を使う。老年層に多い。コが発音が有聲化(濁音化)した方言的な「ドゴサ」は、2割前後で、老年層にやや多い。共通語化の流れは「ドコニ」が20代前半に多いというパターンに見られる。社会的活躍層で目立つのは、鶴岡調査第1回以来観察される共通語化の初期段階である。

この項目はまた同時に「ハ」という発音の使用をみるためだった。「ハ」の使用は、選択肢に入れてあるのに、ほとんど報告がない。老年層で一時的に出た現象らしい。sがhになるのは鶴岡方言の特徴と、近郊の人にとらえられている。敬称で「酒井はん」のようにsがhになり、また文法項目264「から」で「サゲ」のほかに「ハゲ」が使われるのと、現象としては同じ系列になるが、品詞などにより、普及が違うようである。

学歴とのかかわりでは、低学歴に方言形「ドコサ」が多く、高学歴に共通語形「ドコニ」がやや多い。性差では、若い人に優勢な方言形「ドサ」が男性に目立ち、老年層に優勢な方言形「ドコサ」が女性に目立つ。共通語化の一般的パターンと一致しない。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では、方言形「ドサ」が多く、他に方言形「ドゴサ」「ドコサ」が多い。共通語形「ドコニ」はほとんど見られない。

319. 「(学校)へ(行く)」

前項と同じく、助詞「サ」に関する問いである。この問は「方向」を指す文脈で、「サ」の基本的用法である。方言形「サ」が全年齢層7~8割前後と圧倒的である。年齢差は目立たない。「エ」が老年層をはじめとして1割ほどでやや目立つが、庄内各地の会話資料などによると、これが在来の言い方だったと思われる。「ニ」は共通語形として20代以下でやや増えている。井上(1994a)で高校生の調査をしたのは、「(学校)ハ」の使用をみるためだった。鶴岡付近でわずかに報告されたのみだった。この集計では「その他」の中に入っている。20代前半の使用率が1割以上になっているので、この中に「ハ」が含まれている可能性がある。一時使用された新方言の例だろうか。

学歴とのかかわりでは、中低学歴に方言形「サ」が多い。性差では、共通語形「ニ」の使用が女性に目立つ。

表 IV-18 318. 「どこへ行くのか」

318 どこへ	無記入	ドコニ	ドコエ	ドコサ	ドコハ	ドサ	複数回答	その他	
全体	0.2	4.0	6.2	28.6	18.3	0.2	30.1	4.7	7.7
男性	0.6	2.8	5.0	24.3	18.2	0.6	34.3	3.9	10.5
女性	0.0	4.9	7.1	32.1	18.3	0.0	26.8	5.4	5.4
15-19歳	0.0	6.4	2.1	21.3	17.0	0.0	46.8	2.1	4.3
20-24歳	0.0	0.0	4.8	19.0	14.3	0.0	33.3	4.8	23.8
25-34歳	0.0	4.6	3.1	27.7	16.9	0.0	30.8	4.6	12.3
35-44歳	0.0	6.0	5.0	30.0	18.0	0.0	27.0	7.0	7.0
45-54歳	1.6	1.6	9.8	28.5	24.6	0.0	26.2	1.6	4.9
55-69歳	0.0	2.7	9.0	32.4	17.1	0.9	27.0	5.4	5.4
低学歴	0.0	2.9	6.7	35.2	16.2	1.0	31.4	4.8	1.9
中学歴	0.0	3.0	6.0	27.1	19.6	0.0	31.2	6.0	7.0
高学歴	1.0	6.9	5.9	24.8	17.8	0.0	26.7	2.0	14.9

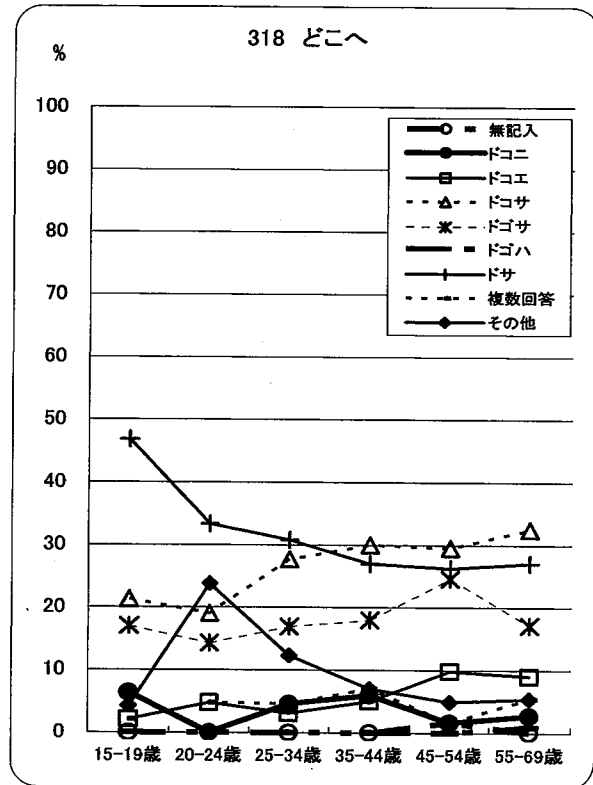


図 IV-52 318. 「どこへ行くのか」年齢別

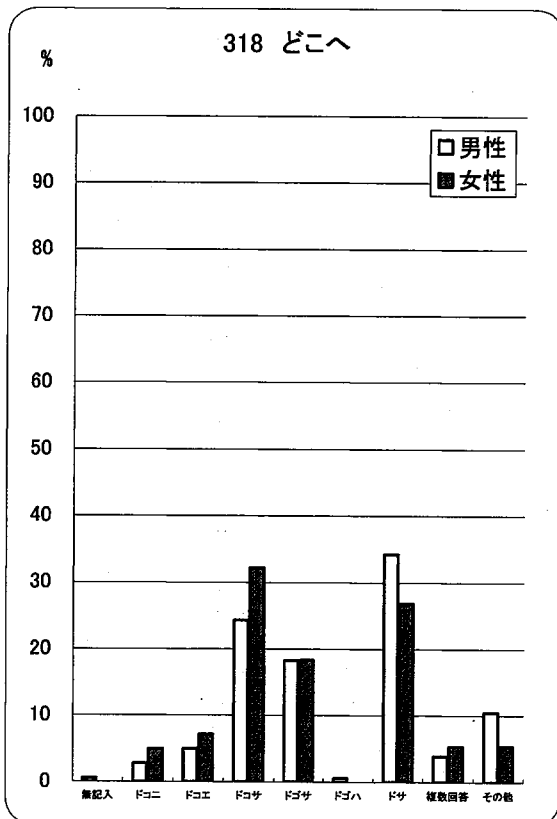


図 IV-53 318. 「どこへ行くのか」性別

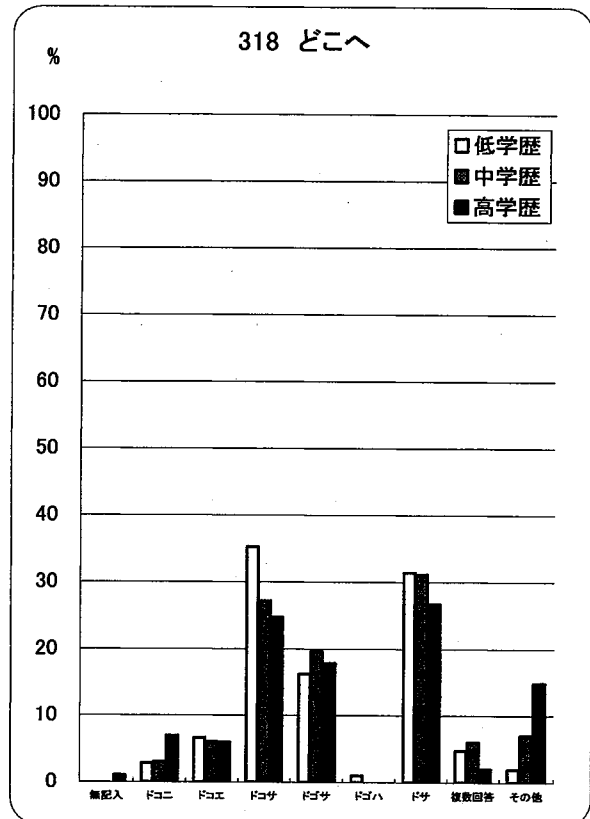


図 IV-54 318. 「どこへ行くのか」学歴別

表 IV-19 319. 「学校へ行く」

319 学校へ	無記入	～ニ	～エ	～サ	複数回答	その他
全体	0.2	7.4	6.7	77.8	3.5	4.4
男性	0.6	5.5	8.3	76.2	3.9	5.5
女性	0.0	8.9	5.4	79.0	3.1	3.6
15-19歳	0.0	10.6	6.4	78.7	0.0	4.3
20-24歳	0.0	9.5	4.8	71.4	0.0	14.3
25-34歳	0.0	7.7	6.2	78.5	1.5	6.2
35-44歳	0.0	6.0	6.0	81.0	4.0	3.0
45-54歳	1.6	4.9	11.5	78.7	1.6	1.6
55-69歳	0.0	8.1	5.4	74.8	7.2	4.5
低学歴	0.0	8.6	6.7	79.0	4.8	1.0
中学歴	0.0	6.0	8.0	80.4	3.0	2.5
高学歴	1.0	8.9	4.0	71.3	3.0	11.9

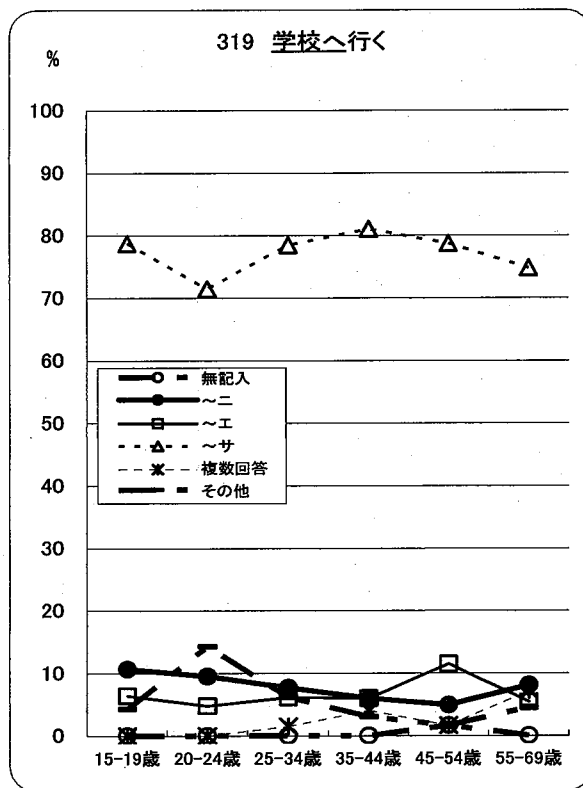


図 IV-55 319. 「学校へ行く」 年齢別

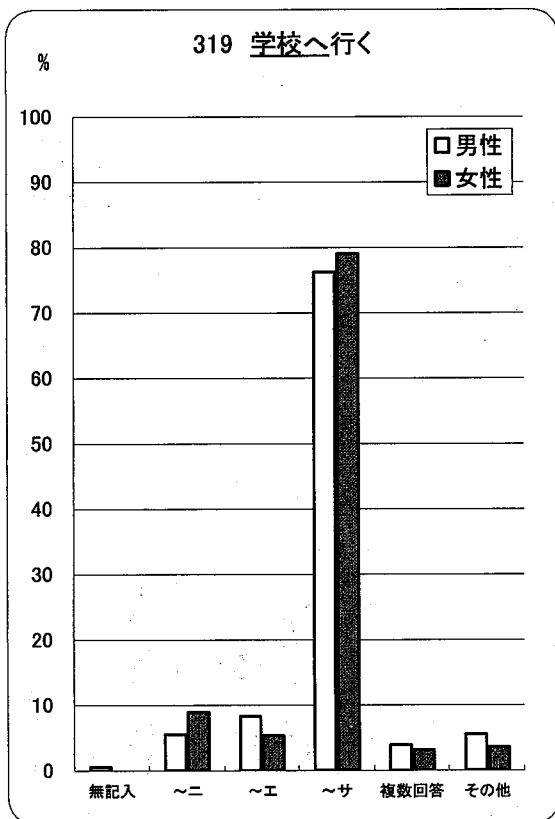


図 IV-56 319. 「学校へ行く」 性別

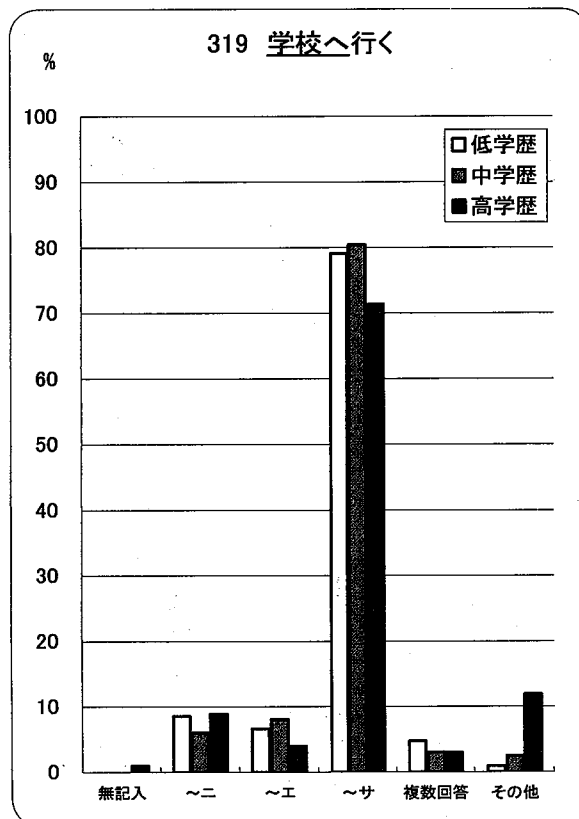


図 IV-57 319. 「学校へ行く」 学歴別

これに対し、文法項目 263 で「見に行く」という「目的」の用法の「サ」を尋ねている。方言形の「サ」の使用率は、この 319 より低い。用法が「方向」と違うためだろう。しかし 3 回の調査を通じて（約 100 年かけてほぼ 5 割以下から 6 割近くに）やや増えている。

「サ」の用法拡大という観点から比較できる（小林 2004）。これに反して共通語形の「ニ」は、3 回の調査を通じて（約 100 年かけて 6 割前後から 4 割以下に）やや減少気味である。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では（井上 2005）、方言形「サ」が全年齢層 8～9 割前後と圧倒的である。老年層にわずかに「エ」があり、古い方言形である可能性を示す。

320. 「高く（なった）」

東北方言各地に見られる形容詞連用形の無活用化に関する問いである。新方言「タツゲク」の普及過程が観察されると期待して、調査項目に入れた（この項目では「ク」の有声化については表記し分けない）。グラフをみると、共通語形「タカク」は中年以上の 3 割前後から若年層の 2 割以下に減少している。それに対応する有声化をとまなう「タガク」は 2～3 割で安定しないが、55 歳以上で最高の使用率であることに注意しよう。終止形と同じエ段音をとって無活用化した「タゲク」は、中年以上では 1 割以上だが、中年以下ではやや少ない。共通語形に近い「タツガク」は 40 代前後で少し使われるだけ。その無活用化にあたる「タツゲク」は、新方言で、老年層ではないに等しいが、中年以下で 3 割近くに増える。形容詞語幹に促音を入れた形は、山形県付近に分布が限られる。恐らく活用語尾の「アイ、オイ、ウイ、イイ」などの母音が融合して短くなり、エ段、イ段の母音で終わり、形容詞が短くなったために、補強する形で語幹部分を長くしたのである。

学歴とのかかわりでは、低学歴に有声化をとまなうタガクが多く、高学歴に共通語形タカクと促音を入れたタツゲクが多い。性差では、共通語形タカクが女性に多い。

井上（1994a, p.90f）によると、「タガク」は鶴岡に多く 5 割近くで、年齢差なし；「タゲク」はほとんど使われず；「タツガク」は田川地方に多く（つまり古い）、2 割ほど；「タツゲク」は酒田と飽海地方に多く 7 割ほど、しかも鶴岡の父兄よりも高校生で増えている。つまり、鶴岡では本来は「タガク」だったが、その後形容詞無活用化に向かう「タゲク」が普及し、今形容詞語幹に促音を入れた新方言「タツゲク」が進出を図りつつある、と読みとれる。庄内北部の言い方が入ってきたらしい。この新方言は、他の形容詞にも関連するもので、単独・孤立のものではない。新方言普及の初期だが、共通語形が控えているので、今後の増え方は予測が難しい。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では、方言形「タガク」系統が全年齢層 6～7 割前後と圧倒的である。新方言「タツゲク」系統は中年以上ではほとんど使われず、若い世代で 1 割近くに増える。新方言の普及が鶴岡市内より遅れることを示す。なお老年層に無回答が多く、文法項目の調査の難しさを示す。

表 IV-20 320. 「高く (なった)」

320 高く	無記入	タカク	タガク	タゲク	タツガク	タツゲク	複数回答	その他
全体	0.2	28.9	37.5	11.6	2.7	10.6	4.4	4.0
男性	0.6	24.9	37.6	14.4	2.2	12.2	4.4	3.9
女性	0.0	32.1	37.5	9.4	3.1	9.4	4.5	4.0
15-19歳	0.0	17.0	36.2	12.8	2.1	21.3	4.3	6.4
20-24歳	0.0	33.3	23.8	9.5	0.0	28.6	4.8	0.0
25-34歳	0.0	24.6	36.9	6.2	3.1	24.6	0.0	4.6
35-44歳	0.0	34.0	31.0	11.0	8.0	6.0	6.0	4.0
45-54歳	1.6	32.8	36.1	19.7	0.0	3.3	3.3	3.3
55-69歳	0.0	28.8	47.7	10.8	0.0	2.7	6.3	3.6
低学歴	0.0	22.9	48.6	10.5	1.0	7.6	4.8	4.8
中学歴	0.0	28.1	36.2	11.6	4.0	10.1	5.0	5.0
高学歴	1.0	36.6	28.7	12.9	2.0	14.9	3.0	1.0

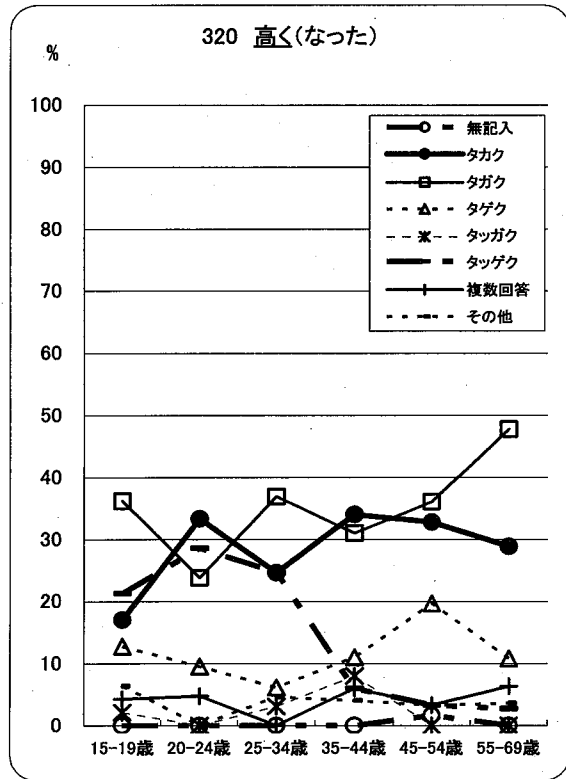


図 IV-58 320. 「高く (なった)」 年齢別

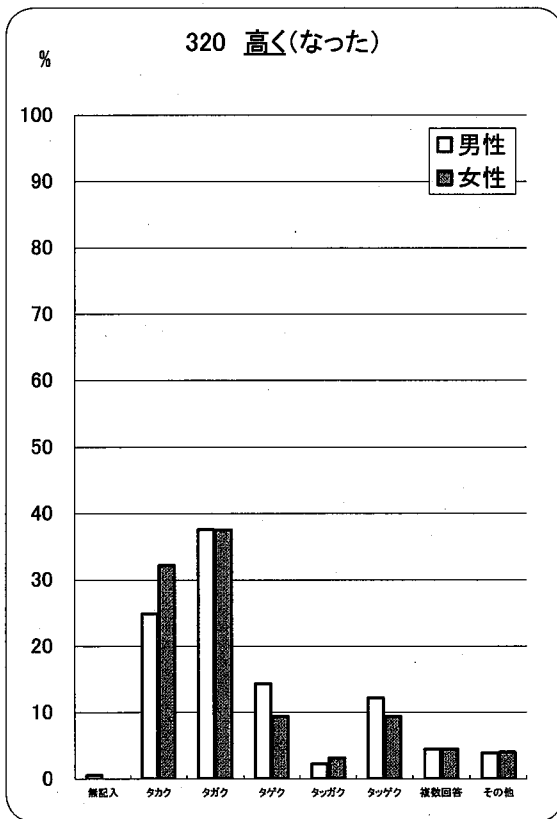


図 IV-59 320. 「高く (なった)」 性別

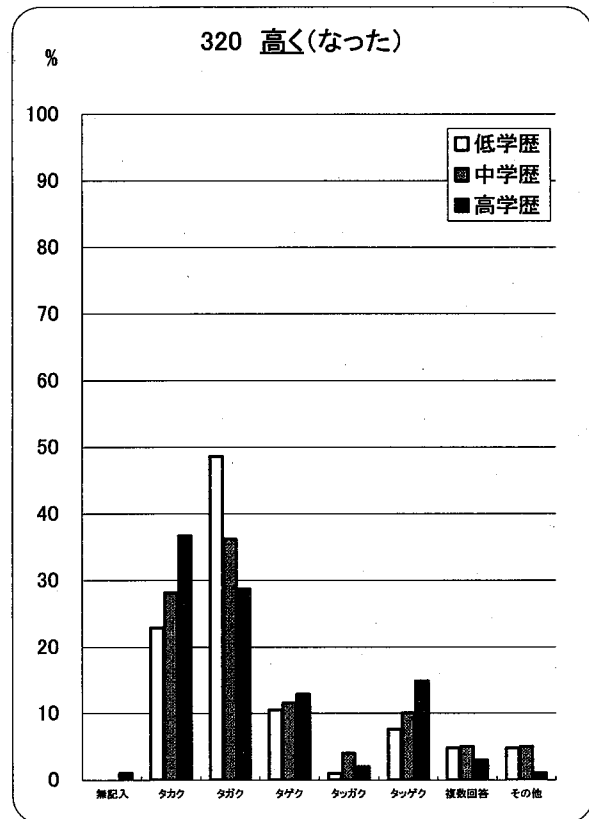


図 IV-60 320. 「高く (なった)」 学歴別

3.5 語彙

321. 「大きい」

「大きい」は語形としての共通語化をみるためだった。『日本言語地図』以来の諸調査によれば、文章語として使われるような「標準語」としての「オオキイ」のほかに、「共通語」または「口語・俗語」として、「デッカイ」が全国に普及する傾向が観察されている。鶴岡の「共通語化」が文章語をモデルにするのか、東京の口語、話しことばをモデルにするのかをみるための、手がかりになりうる項目である。

「オオキイ」が全世代で多い。次に「オッキー」が多い。年齢差があまりみられないが、「オッキー」が20代前半に多く、「オオキイ」と補い合う分布を示すことをみると、「オッキー」が今進出中とみられる。

「オッキ」、「デカイ」、「デッケ」は1割以下である。これらの語形は、文体差(丁寧さの違い)を伴い、場面により使い分けられているのだろう。予想語形を出して使うかどうかを尋ねる形にすると、多くの語形の併用が認められるだろう。

学歴とのかかわりでは、低学歴に方言形オッキーが多く、高中学歴に共通語形オオキイがやや多い。性差は、少ない。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では、「オオキイ」が多いが、次に「オッキー」が多い。「デッカイ」はほとんどなく、若年層でも1割以下である。

322. 「(赤ん坊が) かわいい」

「(赤ん坊が) かわいい」も語形としての共通語化をみるためだった。新方言の進出(方言形同士の交代)もあり、年齢差がある。共通語形「カワイイ」は、若い世代で4割以上に増える。方言形「メッコイ」は30代あたりがピークで5割近くに達する。新方言の進出である(井上1985)。東北方言として有名な「メンコイ」は20代で2割近くになる程度で勢力が弱い。唄の「メンコイ仔馬」などに影響され一時使われた語形と考えられる。在来の方言形「メンゴイ」は55歳以上で5割だが、それ以下では減って、若い世代ではゼロになる。

以上のカーブから、以下の変化があったと思われる。

メンゴイ → メッコイ → カワイイ

学歴とのかかわりでは、低学歴に在来の方言形メンゴイが多く、中学歴に共通語形カワイイが多く、高学歴に新方言形メッコイが多い。性差は、男性に方言形メッコイが多く、女性に別の方言形メンコイおよび複数回答が多い。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では、在来の方言形「メンゴイ」は中年以上で3~4割で、新方言形「メッコイ」が若い世代で5割を占める。共通語形「カワイイ」は、鶴岡より全世代で使用率が低い。鶴岡の一時代前の状況を示す。

表 IV-21 321. 「大きい」

321 大きい	無記入	オオキイ	オッキ	オッキー	デカイ	デッケ	複数回答
全体	0.2	68.9	2.5	22.7	0.5	1.0	4.2
男性	0.6	66.9	2.8	21.5	1.1	1.7	5.5
女性	0.0	70.5	2.2	23.7	0.0	0.4	3.1
15-19歳	0.0	76.6	0.0	17.0	2.1	2.1	2.1
20-24歳	0.0	57.1	4.8	33.3	0.0	0.0	4.8
25-34歳	0.0	67.7	4.6	16.9	1.5	3.1	6.2
35-44歳	0.0	69.0	1.0	26.0	0.0	1.0	3.0
45-54歳	1.6	70.5	1.6	21.3	0.0	0.0	4.9
55-69歳	0.0	67.6	3.6	24.3	0.0	0.0	4.5
低学歴	0.0	65.7	3.8	26.7	0.0	0.0	3.8
中学歴	0.0	68.3	1.0	23.1	1.0	1.5	5.0
高学歴	1.0	73.3	4.0	17.8	0.0	1.0	3.0

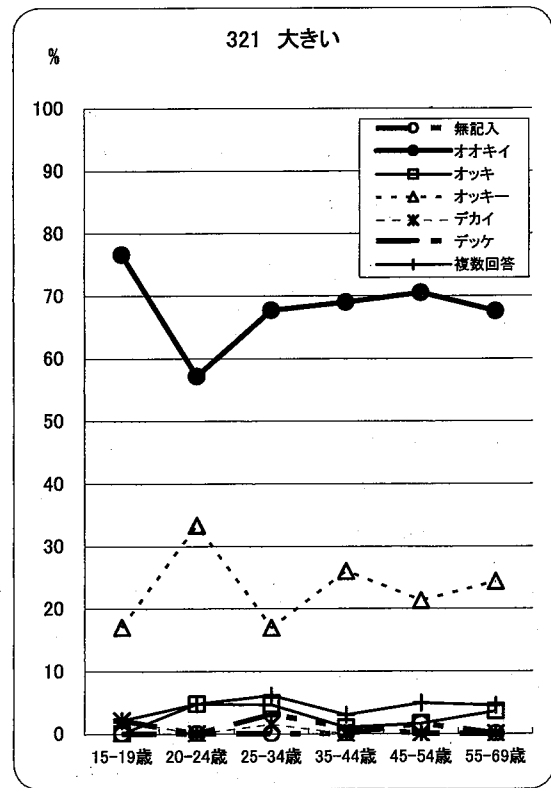


図 IV-61 321. 「大きい」 年齢別

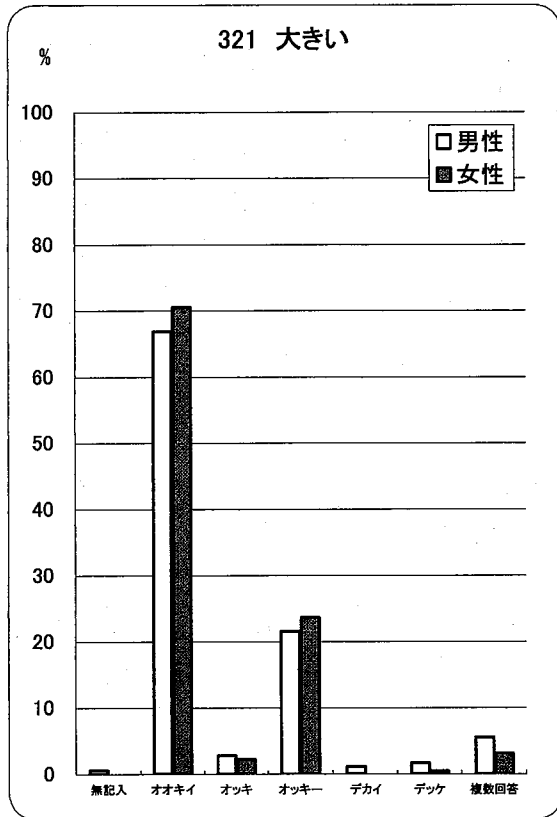


図 IV-62 321. 「大きい」 性別

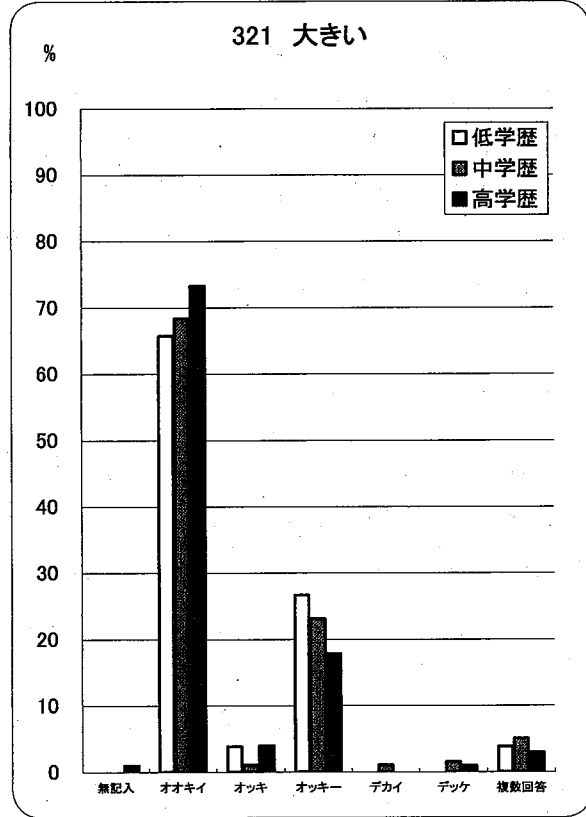


図 IV-63 321. 「大きい」 学歴別

表 IV-22 322. 「赤ん坊がかわいい」

322 かわいい	無記入	カワイイ	メッコイ	マンコイ	メンゴイ	メゴイ	複数回答	その他
全体	0.2	24.0	29.9	8.9	25.7	1.7	8.9	0.7
男性	0.6	23.8	34.3	5.5	27.1	1.7	6.1	1.1
女性	0.0	24.1	26.3	11.6	24.6	1.8	11.2	0.4
15-19歳	0.0	44.7	40.4	4.3	0.0	0.0	10.6	0.0
20-24歳	0.0	33.3	38.1	14.3	9.5	0.0	0.0	4.8
25-34歳	0.0	27.7	44.6	9.2	12.3	0.0	4.6	1.5
35-44歳	0.0	23.0	25.0	13.0	25.0	2.0	12.0	0.0
45-54歳	1.6	19.7	29.5	4.9	29.5	3.3	11.5	0.0
55-69歳	0.0	14.4	19.8	8.1	45.9	2.7	8.1	0.9
低学歴	0.0	17.1	27.6	11.4	37.1	1.0	4.8	1.0
中学歴	0.0	28.6	28.6	8.0	21.6	2.5	10.6	0.0
高学歴	1.0	21.8	34.7	7.9	21.8	1.0	9.9	2.0

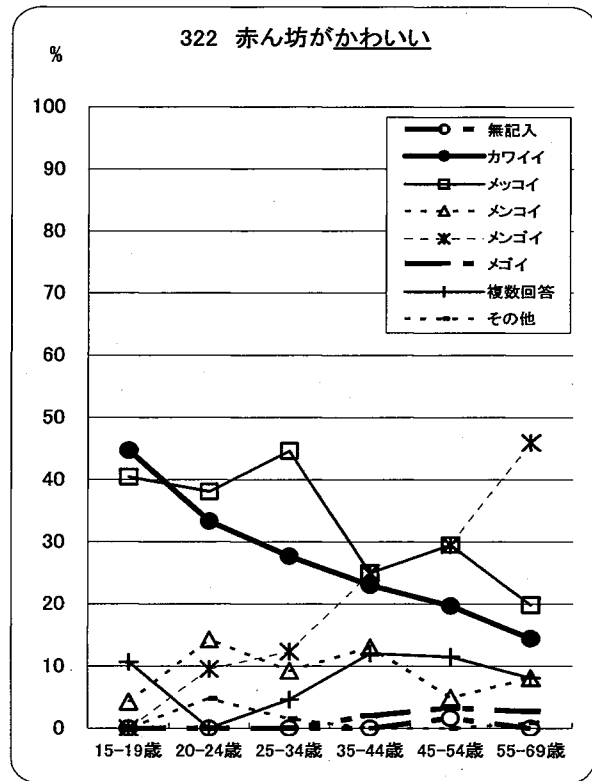


図 IV-64 322. 「赤ん坊がかわいい」年齢別

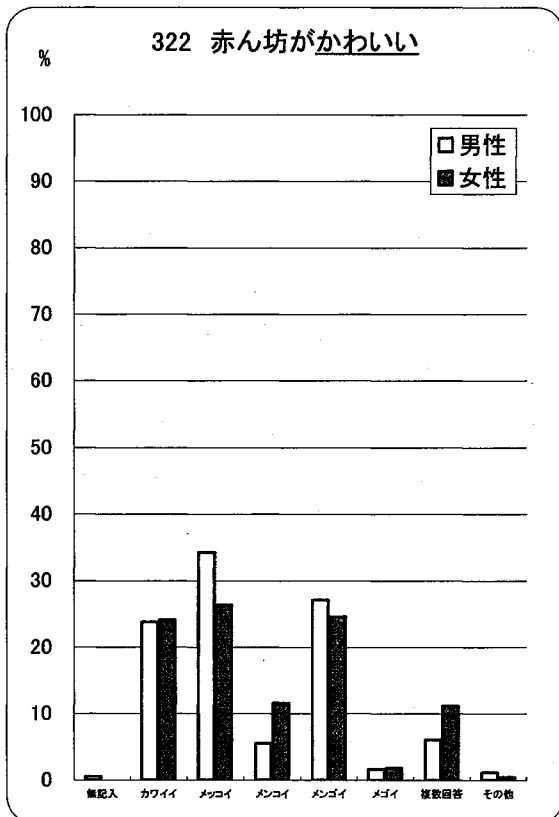


図 IV-65 322. 「赤ん坊がかわいい」性別

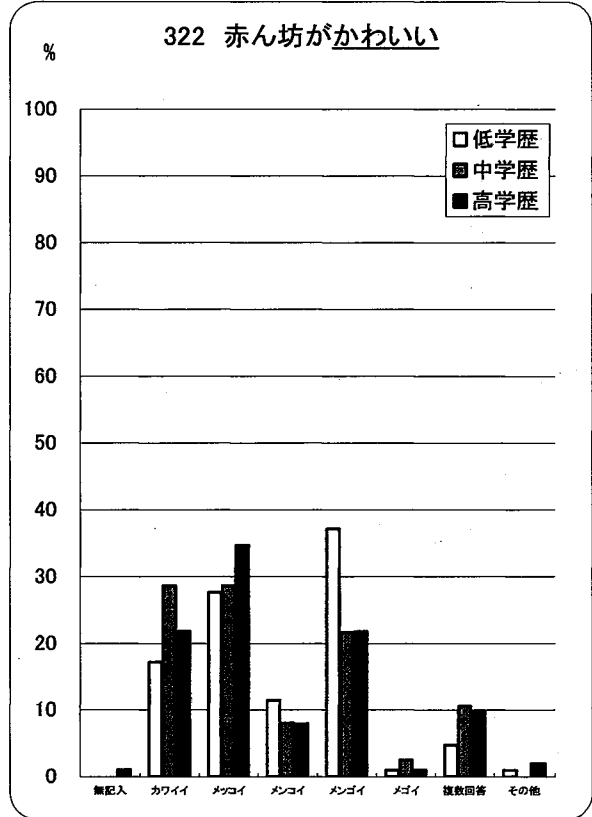


図 IV-66 322. 「赤ん坊がかわいい」学歴別

3.6 方言音

323. 「面白い」

以下の2項目は新方言に関わる。「面白い」の変化は、発音の変化のように見えるが、本来の方言音の変化を示す項目「教える」と対照することによって、実は語形の変化であることが分かる。(井上 2000) p.519 のグラフ参照。

グラフによると、古い方言発音の(共通語の「オモセ」に規則的に対応する)「オモシエ」が、中年以上の約5割から中年以下の約3割に減る。代わって新しい方言発音の(共通語の「オモシ」に規則的に対応する)「オモシ」が、中年以上の約2割から中年以下の約3割に増える。「オモセ」は古い方言発音「オモシエ」を共通語の「セ」に規則的に対応させた語形だが、ほぼ全年齢層で約1割。共通語形の「オモシロイ」はほぼ全年齢層で約1割に過ぎない。新方言の「オモシ」は、形容詞終止形の語尾が短くなるという庄内方言の規則が働いた語形と考えて、対応する共通語形を復元すると、「オモシイ」になる。若い人の方言発音で[omofi]という共通語的な発音が出るので意表をつくが、発音の変化でなく、語形の変化だととらえれば、説明できる(井上 2000)。

学歴とのかかわりでは、低学歴に古い方言発音「オモシエ」が多く、高中学歴に共通語形「オモシロイ」がやや多い。性差は、目立たない。

山添 1976 と山添 1991 の全数調査では(井上 2005)、「(オ)モシ」が、1937年以前生まれの3割以下から1938年以降生まれの8割以上への大変化があった。それに比較すると鶴岡は平板である。学歴差が大きいので、早く「シ」に変化した層と遅く変化した層が鶴岡市内では重なったためだろう。鶴岡の方が山添よりやや早く「シ」に変化していたようである。なお細かくいうと、旧鶴岡市内の外内島(とのじま)と旧櫛引町の山添とで普及率が違う。

324. 「教える」

「面白い」と同じく、共通語の「セ」に対応する方言音の不規則的な変化についての項目である。年齢差がくっきり出て、共通語の「オシエル」が老年層の2割から若年層の8割に大進出した。逆にこの地域の方言形の「オシエル」は老年の5割から若年の1割以下に急減した。「オセル」は方言形の「オシエル」を、音韻対応の規則に従って共通語的に直したもの。老年の2割から若年の1割以下に減少した。方言形の「シエ」を似た音の「シ」にした「オシル」の進出が興味を引くが、ここではその他に入っている。中年層が多い。

学歴とのかかわりでは、低学歴に古い方言発音「オシエル」が多く、高中学歴に共通語形「オシエル」が多い。性差は、男性に方言形「オシエル」が多く、女性に別の方言形共通語形「オシエル」が多い。

鶴岡市近郊山添地区の全数調査では、在来の方言形「オシエル」は中年以上で5割以上で、新方言形ともいべき「オシル」が若年層(1938-1967出生)で4割に進出したが、1968以降出生の世代では共通語形「オシエル」(4割)に勢力を奪われた。

井上(2000) p.454 のグロットグラムによれば、鶴岡市付近は「オシエル」が大部分で、数人「オシル」がいる程度だった。

表 IV-23 323. 「面白い」

323 面白い	無記入	オモシロイ	オモシエ	オモシ	オモセ	複数回答	その他
全体	1.0	11.9	38.5	31.4	8.1	4.9	4.2
男性	1.1	9.4	44.2	26.0	6.6	4.4	8.3
女性	0.9	13.8	33.9	35.7	9.4	5.4	0.9
15-19歳	0.0	6.4	38.3	38.3	6.4	6.4	4.3
20-24歳	4.8	9.5	19.0	42.9	9.5	0.0	14.3
25-34歳	1.5	13.8	32.3	29.2	10.8	7.7	4.6
35-44歳	1.0	11.0	31.0	39.0	10.0	5.0	3.0
45-54歳	1.6	9.8	50.8	24.6	8.2	1.6	3.3
55-69歳	0.0	15.3	45.9	24.3	5.4	5.4	3.6
低学歴	1.0	9.5	46.7	28.6	5.7	5.7	2.9
中学歴	0.0	11.6	37.2	34.7	8.5	4.0	4.0
高学歴	3.0	14.9	32.7	27.7	9.9	5.9	5.9

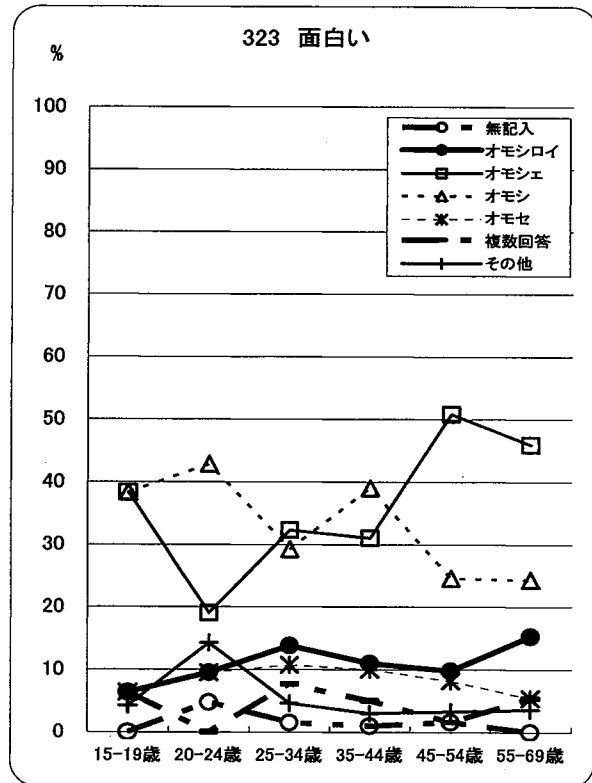


図 IV-67 323. 「面白い」 年齢別

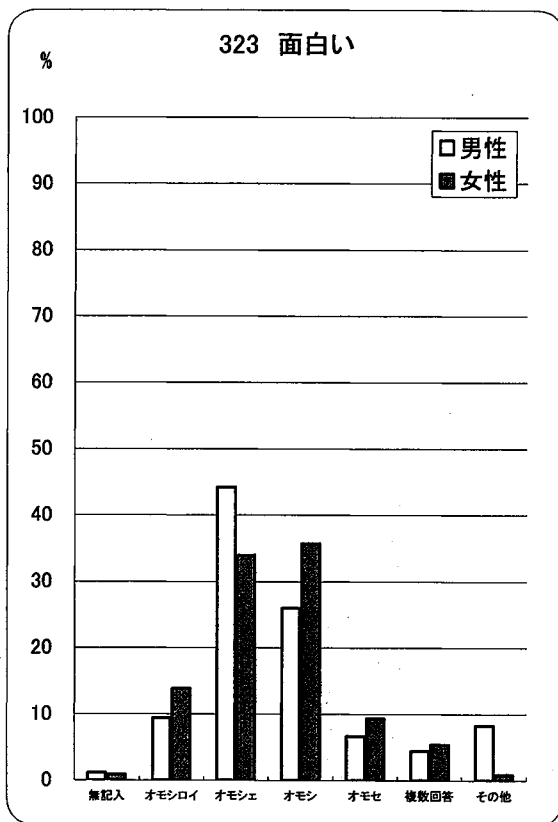


図 IV-68 323. 「面白い」 性別

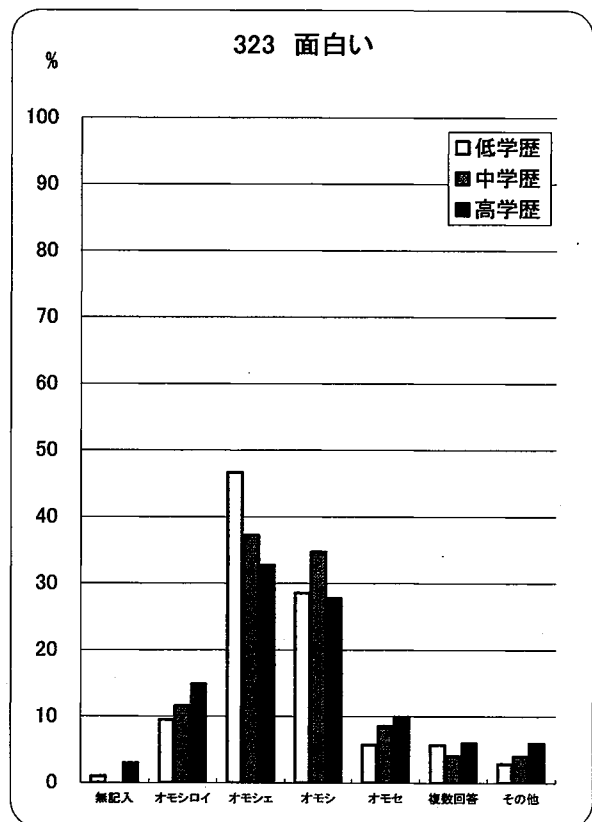


図 IV-69 323. 「面白い」 学歴別

表 IV-24 324. 「教える」

324 教える	無記入	オシエル	オシエル	オセル	オシル	複数回答	その他
全体	1.7	41.2	31.1	7.9	11.1	4.7	2.2
男性	1.7	35.9	37.0	7.2	8.8	6.1	3.3
女性	1.8	45.5	26.3	8.5	12.9	3.6	1.3
15-19歳	2.1	78.7	6.4	4.3	2.1	6.4	0.0
20-24歳	4.8	85.7	0.0	4.8	0.0	0.0	4.8
25-34歳	1.5	50.8	21.5	9.2	9.2	6.2	1.5
35-44歳	2.0	36.0	31.0	4.0	19.0	4.0	4.0
45-54歳	1.6	31.1	39.3	8.2	11.5	6.6	1.6
55-69歳	0.9	21.6	48.6	12.6	10.8	3.6	1.8
低学歴	2.9	27.6	36.2	13.3	13.3	5.7	1.0
中学歴	0.0	48.2	29.1	4.5	11.1	4.0	3.0
高学歴	4.0	41.6	29.7	8.9	8.9	5.0	2.0

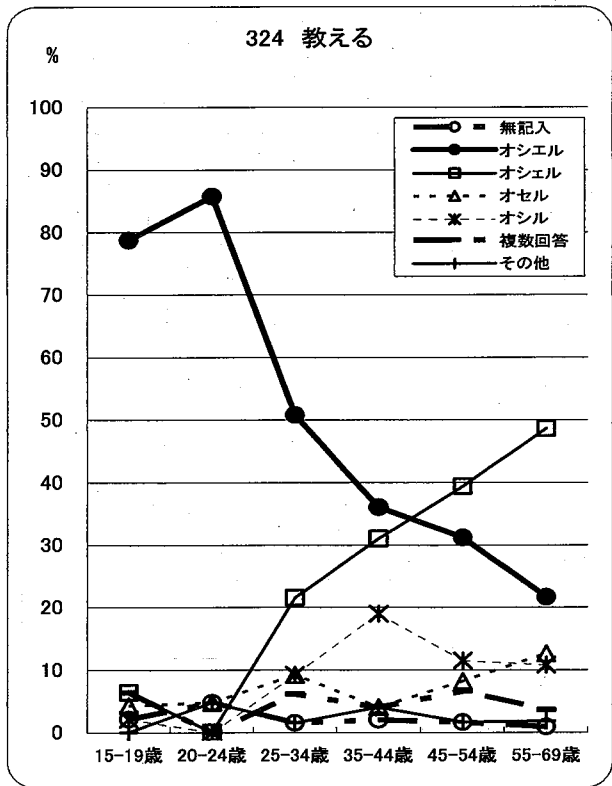


図 IV-70 324. 「教える」 年齢別

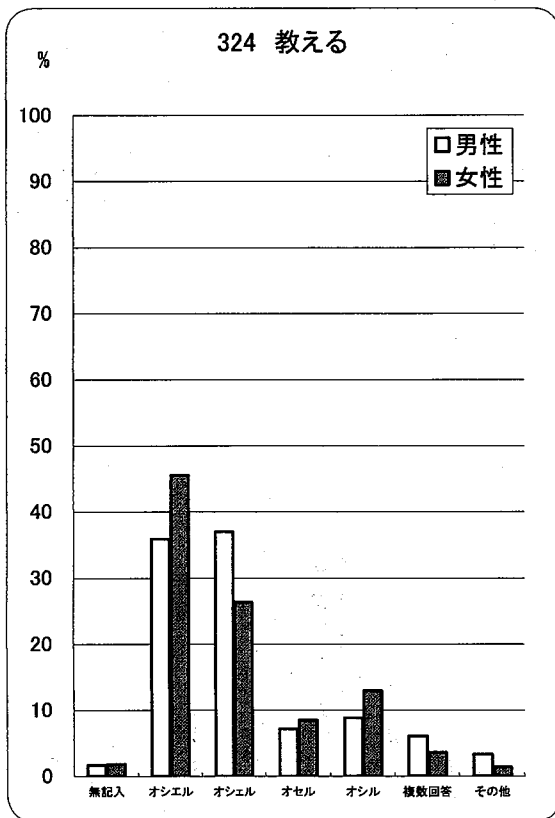


図 IV-71 324. 「教える」 性別

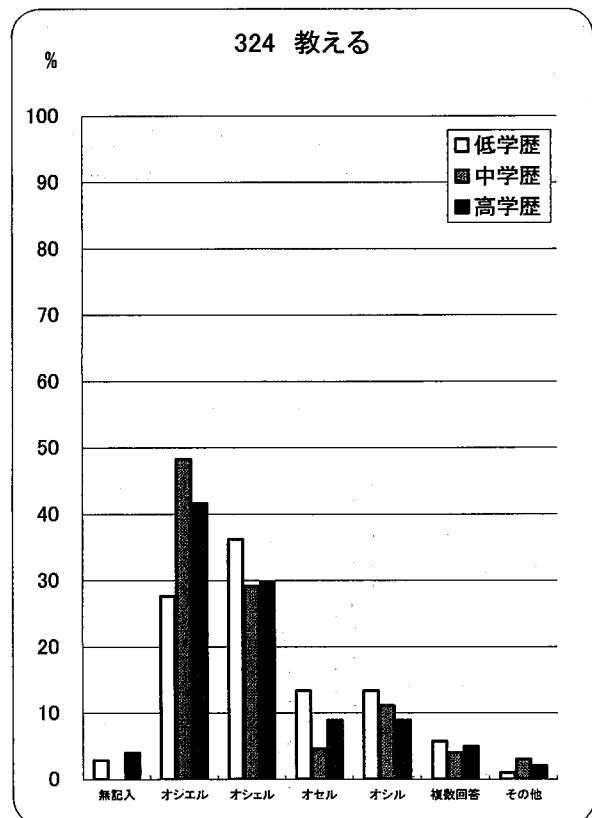


図 IV-72 324. 「教える」 学歴別

【引用文献】

- 井上史雄（1985）『新しい日本語－《新方言》の分布と変化－』（明治書院）
- 井上史雄（1994a）『庄内のサ行音と新方言－庄内四高校アンケート調査報告－』（自家版）
- 井上史雄（1994b）『方言学の新地平』（明治書院）
- 井上史雄（2000）『東北方言の変遷－庄内方言歴史言語学的貢献－』（秋山書店）
- 井上史雄（2003）『日本語は年速1キロで動く』講談社現代新書
- 井上史雄（2005）『鶴岡市山添地区の共通語化と新方言』（自家版）
- 井上史雄（2007）『変わる方言 動く標準語』（筑摩新書）
- 江川清（1977）「地域社会の言語生活の変化・変遷」（野元・野林編『ことばと社会』三省堂）
- 国立国語研究所（1997）『北海道における共通語化と言語生活の実態』（内部資料）
- 小林隆（2004）『方言学的日本語史の方法』ひつじ書房
- 小林芳規（1996）「近世の角筆文献研究の課題－（坤）庄内方言の角筆文献の解明と方言史の開拓－」文学・語学 152
- 馬瀬良雄（1981）「言語形成におよぼすテレビおよび都市の言語の影響」国語学 125 集

V 言語意識に関する項目

以上で見てきた音声、アクセント、語彙、文法など、日常使っている（あるいは日常使っていると意識している）ことばの言語的特徴を直接尋ねた質問項目の他に、共通語化の要因を知る手がかりを得るために行った言語意識に関する項目がいくつか見られる。

1. 鶴岡弁に対する意見（第2回調査で追加された項目）
2. 鶴岡弁、東京弁に対するイメージ（第2回調査で追加された項目）
3. 場面によることばの使い分け（第1回調査から質問している項目）
4. 道聞き（第1回調査から質問している項目）

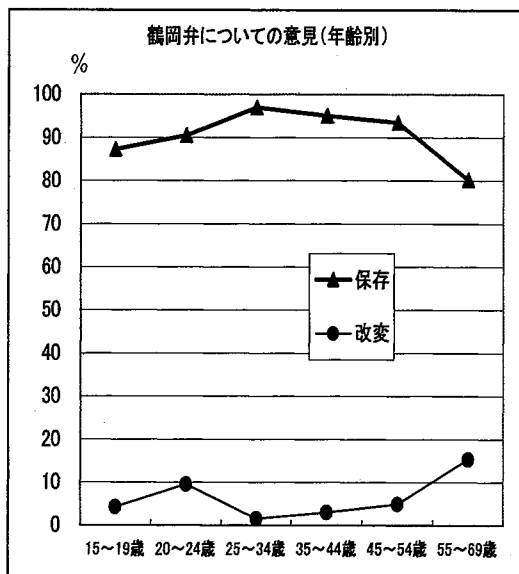
以下で、順を追ってこれら項目について結果を見ていくことにしよう。

1. 鶴岡弁に対する意見

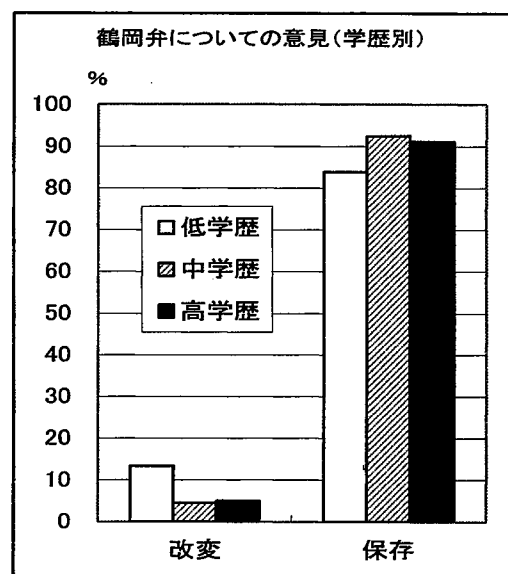
鶴岡弁を無くしてしまったほうがよいか、保存したほうがよいか、という意見を尋ねるための質問文と選択肢は以下のとおりであった。

413.<リスト> 鶴岡弁について次のような意見があります。あなたはどちらの意見に賛成なさいますか。

1. 世の中が開けてきたのだから、もう鶴岡弁をしゃべっている時代ではない。鶴岡弁は出来るだけ無くしてしまった方がよい。
2. 鶴岡弁は私たちの鶴岡の大事な文化遺産だから、できるだけ保存しておいたほうがよい。



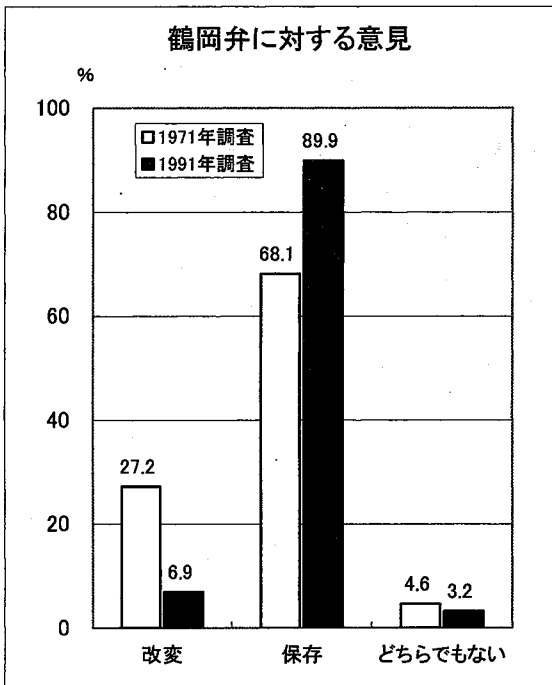
図V-1 鶴岡弁についての意見(年齢別)



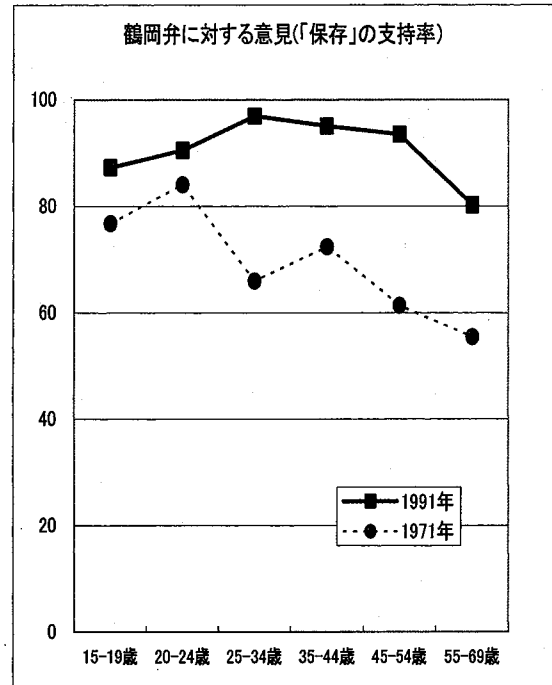
図V-2 鶴岡弁についての意見(学歴別)

この項目は第2回調査で新たに加えられた質問項目である。第2回調査の報告書にしたがって、1.を「改変」、2.を「保存」とよび、結果を見ることにする。

全体では「保存すべき」という意見が約9割に達している。性差は見られないが、年齢別では25～54歳の中間層の支持率が高く、若いグループ、高齢のグループの支持率が相対的に低くなっている。一方、学歴では低学歴と中学歴以上との間に差が見られ、中高学歴のほうがより保存に対する意識が高いことがわかる。年齢と学歴の相関が高いことから、中間年齢層（25～54歳）、つまりは学歴の高いグループがより強く鶴岡弁を保存すべきだと考えていることがわかる。



図V-3 鶴岡弁に対する意見



図V-4 「保存」の年齢別分布の比較

第2回調査の結果と今回調査の結果を比較すると、「改変」が減り、「保存」が増えた様子が鮮明に見られる（図V-3参照）。さらに、「保存」とする意見を年齢別に比較してみると、図V-4のようになる。24歳以下の層では比較的差が少ないが、25歳～34歳、45～54歳の層では30%以上の支持率増加となっている。前回調査では年齢層の低い方が保存の支持率が高くなる傾向が見られたが、中間以上の年齢層の「保存」に対する支持率増加の影響で、25～34歳をピークに25～54歳といった中間年齢層の支持率が高い、丘陵形とも言える分布になっている。

次に、鶴岡での伝統的な生活様式に従うべきか、それとも改変すべきかという意見のどちらを支持するのかを尋ねた質問項目の結果を見てみよう。この項目は言語意識とは直接的には関係がないが、生活様式に対する態度と方言使用に対する意識との関連を見た興味深い質問項目になっている。

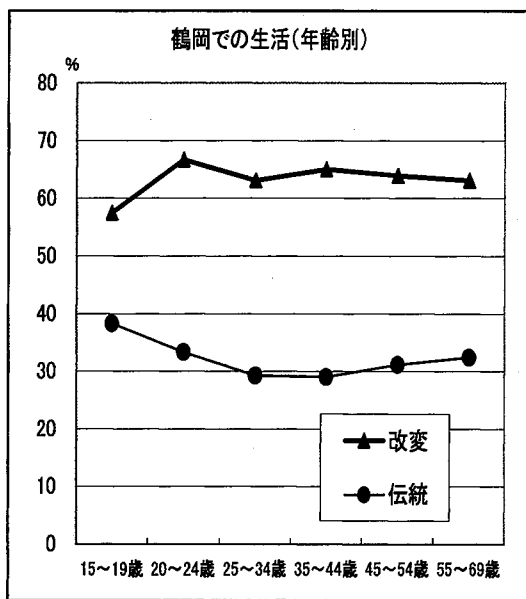
この項目に関する質問文と選択肢は以下のようなものである。

409.<リスト> あなたは次の2つの意見のうち、どちらに賛成ですか。

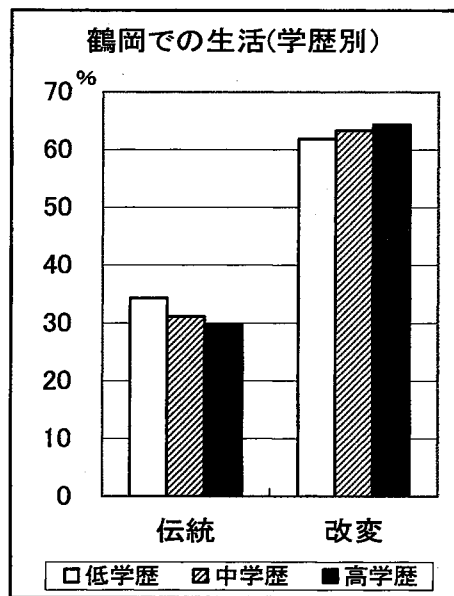
「どちらかといえば」という程度でも結構ですからお答え下さい。

1. 鶴岡には長い間に作りあげてきた生活の仕方(暮らし方)がある。これからもそれに従っていけばよい。
2. もっと新しい生活の仕方を積極的にとりいれて、生活をどんどん合理的にしてゆく必要がある。

前者を「伝統」、後者を「改変」と呼ぶことにする。図V-5, 図V-6には年齢別, 学歴別分布を示した。全体では60%強の人が改変を支持し, 30%強の人が伝統を支持している。わずかではあるが, 男性のほうが女性よりも伝統を好み, また若年層, また学歴の低い方に伝統を支持する者が多くなっている傾向が見える(205ページ, 表VI-89参照)。



図V-5 鶴岡での生活に対する意見(年齢別)



図V-6 鶴岡での生活に対する意見(学歴別)

次に, この鶴岡での生活様式に対する意見と鶴岡弁に対する意見との関係を見てみよう(表V-1)。生活を合理的にすべきだという意見(改変)の人でも鶴岡弁を出来るだけ保存すべきだとする意見が大多数になっているが, 長い間につくりあげてきた生活の仕方に従う(伝統)という考え方の人のほうが若干, 鶴岡弁を保存すべきだという意見を支持する傾向が強いことがわかる。

表V-1 鶴岡での生活に対する意見と鶴岡弁に対する意見のクロス集計(1991年調査)

鶴岡での生活	鶴岡弁			全体
	保存	改変	どちらでもない	
伝統	119 (93.0)	4 (3.1)	5 (3.9)	128
改変	225 (87.9)	24 (9.4)	7 (2.7)	256
どちらでもない	20 (95.2)	0 (0.0)	1 (4.8)	21
全体	364 (89.9)	28 (6.9)	13 (3.2)	405

注) 数値は人数。()内はパーセント。

2. 鶴岡弁・東京弁のイメージ

鶴岡弁と東京弁に対して、3対の形容詞・形容動詞を用意し、それらに対する意見を尋ねた（この項目も前回調査から取り入れられた項目である）。

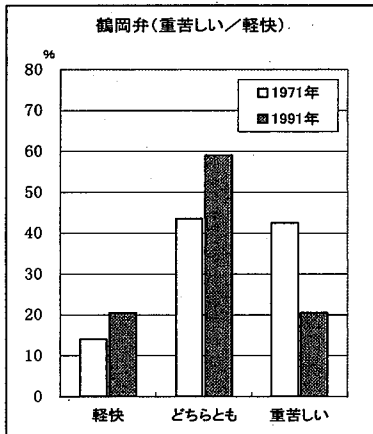
調査に用いた3対の評価語は以下のとおりであった（分析では左側を「プラス評価」、右側を「マイナス評価」としている）。

1. 軽快だー重苦しい
2. 深みがあるー薄っぺらだ
3. 好きだー嫌いだ

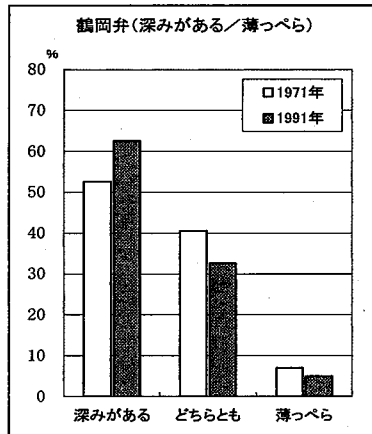
a) 単純集計での比較

回答比率をもとに結果を図示すると以下ようになる。上段の3図は鶴岡弁に対するイメージ（図V-7～9）、下段の3図は東京弁に関するイメージである（図V-10～12）。ともに1971年調査と1991年調査の結果を並べて表示してある。

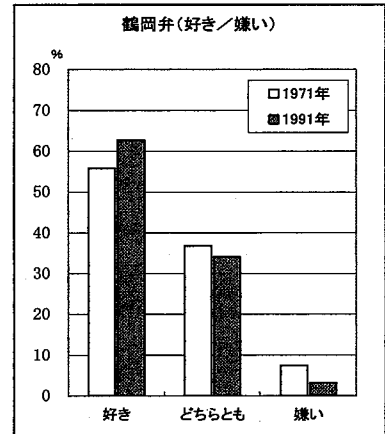
図からわかるように、鶴岡弁に対しては3対ともプラスイメージが増加しマイナスイメージの減少傾向が見られる。一方東京弁に関しては、重苦しいー軽快、深みがあるー薄っぺらでは、この20年間ほとんど変化が見られなかったが、好きー嫌いについてははっきりとプラスイメージの減少傾向が確認できる。



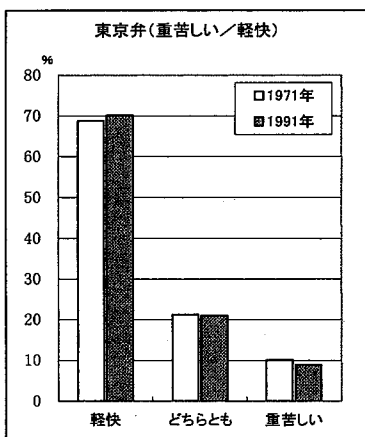
図V-7 鶴岡弁(重苦しいー軽快)



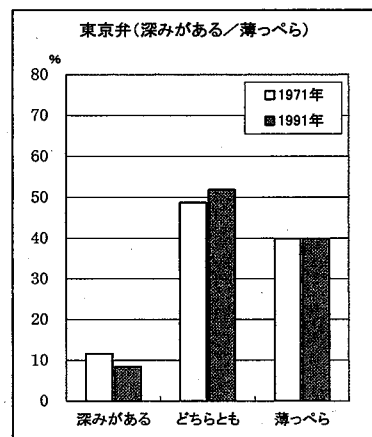
図V-8 鶴岡弁(深みー薄っぺら)



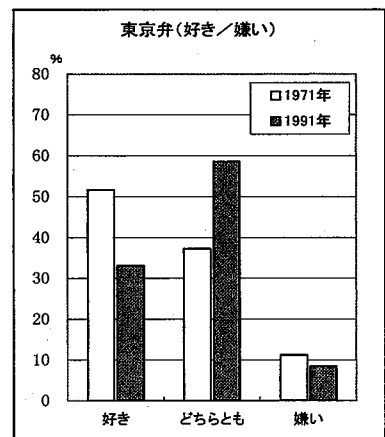
図V-9 鶴岡弁(好きー嫌い)



図V-10 東京弁(重苦しいー軽快)



図V-11 東京弁(深みー薄っぺら)



図V-12 東京弁(好きー嫌い)

鶴岡弁と東京弁をそれぞれの評価語ごとに比べてみると、東京弁は軽快であり（図V-10）、鶴岡弁は深みがあることば（図V-8）と受け取られていることになる。そして、好き嫌いに関しては、「鶴岡弁が好き」が上昇し（図V-9）、東京弁好きが減少した結果（図V-12）、前回調査時では鶴岡弁と東京弁の好きという比率が同等であったものが今回調査では30ポイントの差で「鶴岡弁が好き」が優勢になっている（図V-9, 図V-12）。

地域語としての鶴岡弁のイメージが上昇し、共通語としての東京弁のイメージが低下していることが、方言使用を下支えする一要因となっているのであろう。

b) 指標化による比較

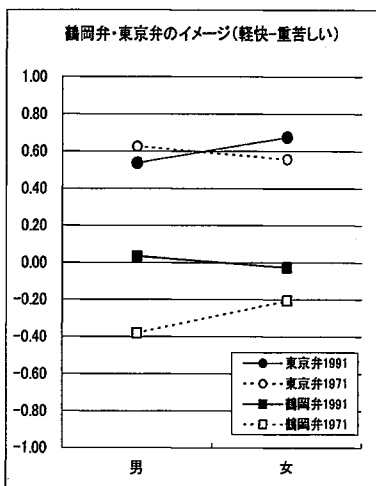
基本属性別に変化を見るため以下のような数量化を試みた。3対の形容詞、形容動詞のプラス評価（軽快だ、深みがある、好きだ）に対する回答に+1点を、マイナス評価（重苦しい、薄っぺらだ、嫌いだ）に対する回答に-1点を与え、それぞれの平均点を計算すると表V-2のようになる（どちらともいえないという回答は0点として計算した）。

前回調査では、鶴岡弁は重苦しいが深みがある、東京弁は軽快だが薄っぺらだという評価であったが、今回は鶴岡弁は軽快-重苦しいという観点では全く半々に別れマイナスイメージが無くなっている。

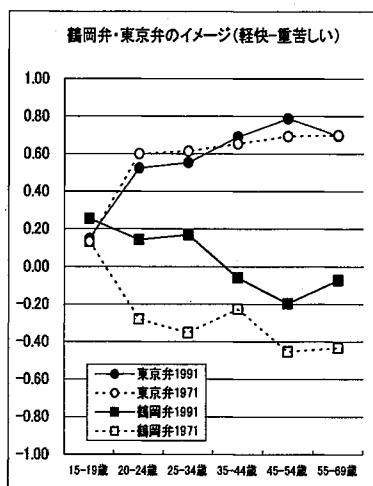
表V-2 鶴岡弁, 東京弁のイメージ点の比較

	鶴岡弁			東京弁		
	軽-重	深-薄	好-嫌	軽-重	深-薄	好-嫌
1971年調査	-0.28	0.46	0.48	0.59	-0.28	0.40
1991年調査	0.00	0.58	0.60	0.61	-0.31	0.25

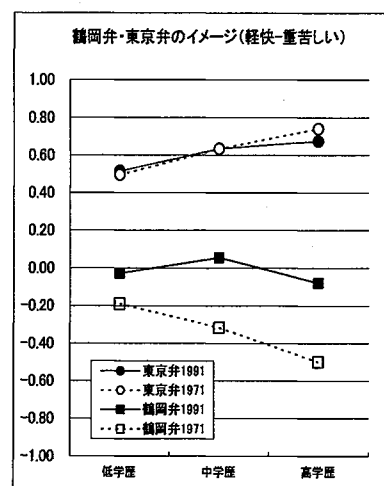
さらに、これらの平均点を性、年齢、学歴別に示したのが図V-13~21の9枚のグラフである（性別、学歴別グラフは、本来なら棒グラフで表現すべきであるが便宜的に折れ線グラフで統一した）。グラフでは鶴岡弁を□■で、東京弁を○●で表し、1971年調査の結果を点線で、1991年調査の結果を実線で表している。図からは男性、25~34歳、中高学歴が鶴岡弁のプラス評価に寄与している様子がうかがえる。



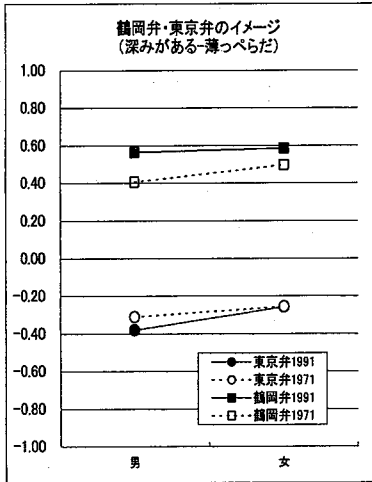
図V-13 重-軽(性別)



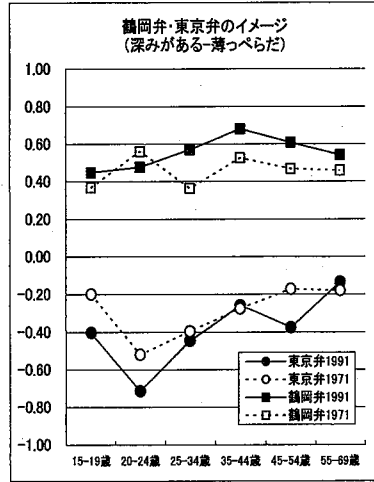
図V-14 重-軽(年齢別)



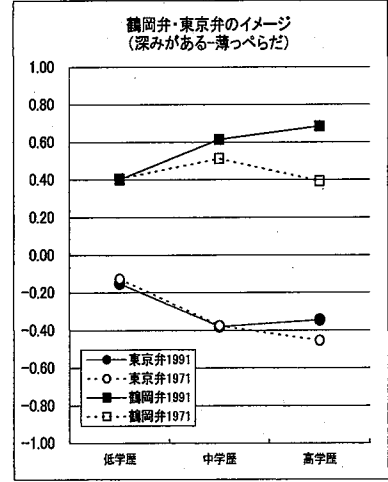
図V-15 重-軽(学歴別)



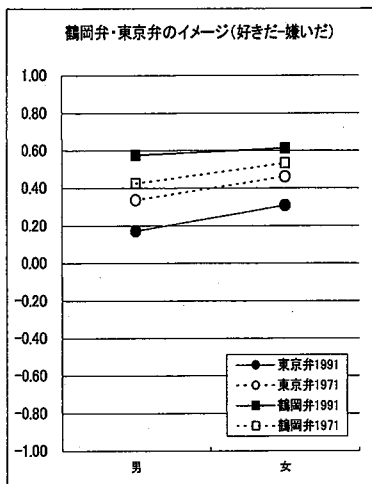
図V-16 深-薄(性別)



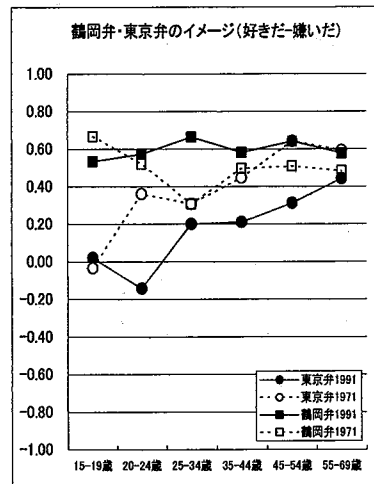
図V-17 深-薄(年齢別)



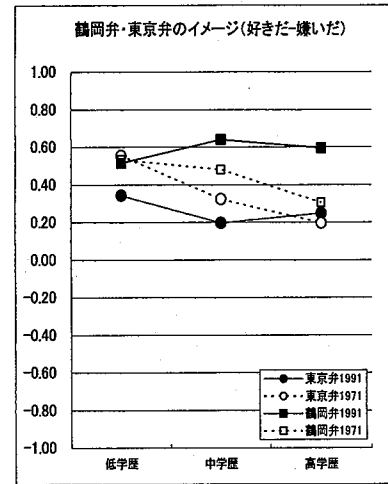
図V-18 深-薄(学歴別)



図V-19 好き-嫌い(性別)



図V-20 好き-嫌い(年齢別)

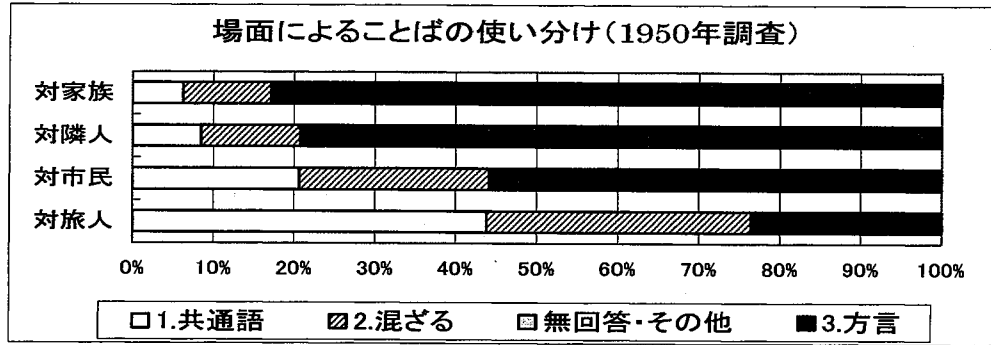


図V-21 好き-嫌い(学歴別)

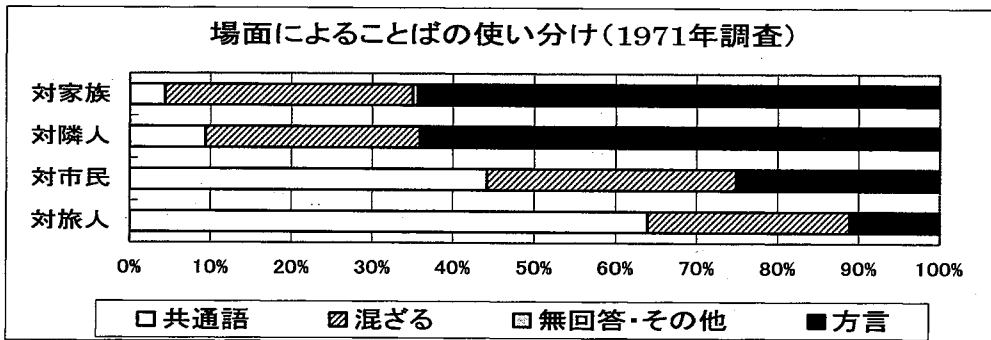
3. 場面によることばの使い分け

話し相手との親疎関係を軸とした次の4つの場面で話をするとき、共通語を使うのか、方言を使うのか、あるいは共通語と方言が混ざるのかを、被調査者の内省によって尋ねた調査項目である。

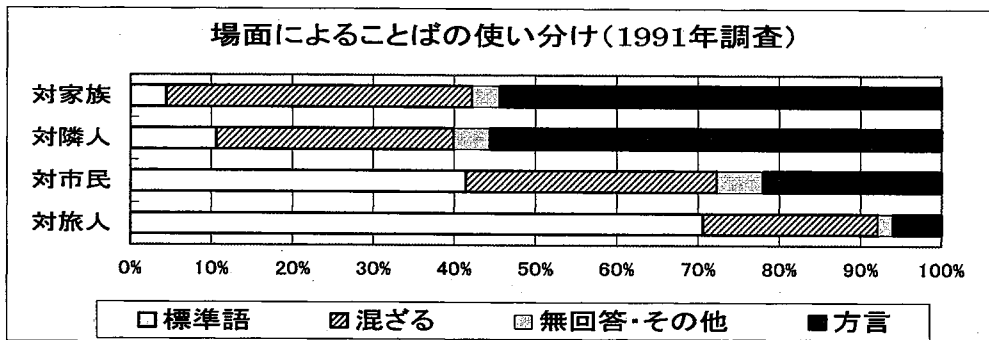
1. 家族同士で話をするとき (以下「対家族」と呼ぶ)
2. 近所の顔見知りの人と話をするとき (「対隣人」)
3. 鶴岡の町の人で顔見知りでない人と話をするとき (「対市民」)
4. 旅の人に話をするとき (対旅人)



図V-22 場面によることばの使い分け(1950年調査)



図V-23 場面によることばの使い分け(1971年調査)

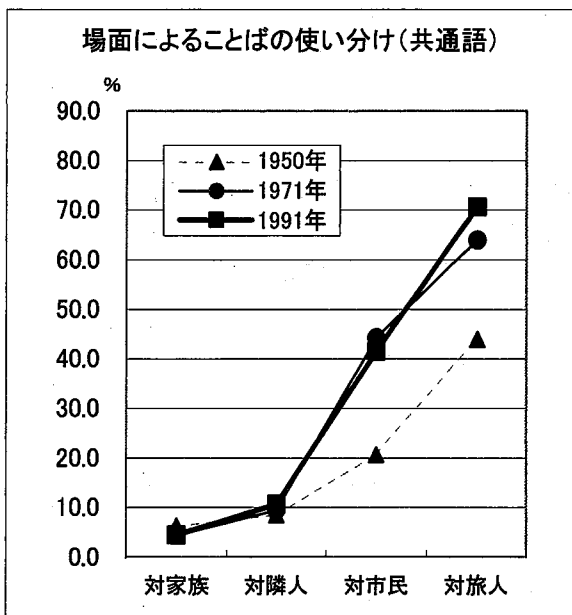


図V-24 場面によることばの使い分け(1991年調査)

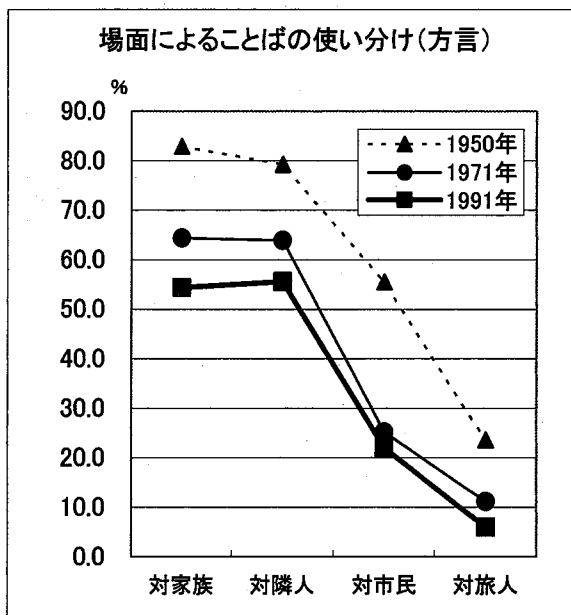
図V-25は4つの場面における共通語の使用について3回の調査結果を比較したものである。対家族、対隣人に対しては3回の調査結果がほぼ同じような数値を示している(10%程度ないしはそれ以下)。対市民と対旅人の場面では1971年調査と1991年調査は非常によく似た分布を示しているが、1950年調査の結果は明らかに低くなっている。

図V-26は方言の使用について3回の調査を比較したものである。対家族、対隣人の場面では、調査回が進むとともに方言を使う人の割合が減ってはいるが、それぞれの調査内では、対家族と対隣人の間に差は見られない。対市民、対旅人は1971年と1991年の割合がよく似たものとなっていて、1950年との隔たりが大きく、方言使用の減少が明らかになっている。両図を比較してみると、家族や隣人に対しては1991年調査の時点でも半数以上

の人が方言によるコミュニケーションを行い、対市民ではこの20年間に方言から共通語でのコミュニケーションに移行し（共通語使用の割合が2倍ほどになっている）、対旅人では方言使用の割合が極端に少なくなって、7割以上の人々が共通語を使うと意識していることがわかる。家族や隣近所の顔見知りとは方言、顔見知りでない人とは共通語という、方言と共通語の使い分けが顕著になり、方言使用と共通語使用のバイリンガル化が進んでいるようである。この方言と共通語の使い分けの実際については、1992年の「場面差調査」において詳しく調べ、国立国語研究所(2006)として報告している。



図V-25 場面による共通語の使用



図V-26 場面による方言の使用

4. 道きき

調査が終了し、「どうもありがとうございました」と謝辞を述べた後で、「ところで、～さんのお宅（～駅，市役所，郵便局）はどちらでしょうか？」と質問し、被調査者の反応が標準語か方言か、あるいは標準語と方言が混ざることばであったかを調査員の主観により、選択肢を用いて判定した（これを「道きき」と呼ぶ）。

調査員自身を旅の人（見ず知らずの人）と見立て、先に示した4場面のうちの「旅の人」との異同に着目して、意識と実際の行動とのずれの有無や度合いを調べようと試みたものである。「道きき」を実際の行動，場面によることばの使い分けにおける「旅人」を意識面での回答と考えた実験である。

結果は表V-3のようになった（無回答，記入漏れ等が合計で26名いたが，このクロス表では集計から除外した）。

表V-3 意識と行動

道さき 旅の人	標準語	混ざる	方言	合計
標準語	134	116	24	274
混ざる	21	38	22	81
方言	4	12	8	24
合計	159	166	54	379

1971年調査報告書では χ^2 検定の結果、意識と行動の間にはほとんどずれが無いと報告されている。今回も同様の方法で χ^2 値を計算すると、値は33.706となり、帰無仮説（意識と行動との間には何の関連もないという仮説）が棄却されるという結果になった（有意水準0.1%）。従って、場面によることばの使い分けで尋ねた結果（意識）は、現実の行動との間に強い関連性があると解釈できる。

VI. 単純集計表

(性, 年齢, 学歴別分布表)

1. フェイスシート関連項目
表VI-1 ~ 表VI-31
2. 音声項目
表VI-32 ~ 表VI-62
3. アクセント項目
表VI-63 ~ 表VI-67
4. 語彙・文法（語法）項目
表VI-68 ~ 表VI-87
5. 言語意識項目
表VI-88 ~ 表VI-100

(注) 各表のキャプションの右側に[]で示した番号は設問番号である。
調査票を参照する際にはこれを利用されたい。

表中、実数は人数、括弧内の小数点付き数字は構成比（パーセント）を表している。各設問の質問文や選択肢については内容が把握しやすいと思われるような略式の記述としたが、より正確に内容を確認したい場合は、巻末に掲載した調査票のワーディングないしは提示リストを適宜参照していただきたい。

年齢は報告書刻み（15～19歳、20～24歳、25～34歳、35～44歳、45～54歳、55～69歳の6段階）を用いた。

なお、「無回答」とか「無記入」とは、次のような内容を示している。当該調査項目に対して答えられなかったり回答を拒否した場合に「無回答」とし、調査員が本来記録しておくべきところに記述がなかった場合（調査票に記入漏れで、録音を聞き直しても回答を確認できなかった場合など）に「無記入」とした。「無回答」は、調査票に「D.K. (Don't know)」「N.A. (No Answer)」などと書かれていた場合もあったが、本報告書では標記を統一した。

表 目 次

フェイスシート関連項目

表VI-1	被調査者の居住経歴 [102.]	173
表VI-2	被調査者の出生地 [102.]	173
表VI-3	被調査者の居住地 (直前地) [102.]	173
表VI-4	被調査者の生育地 (被調査者の出身地) [102.]	174
表VI-5	被調査者の本籍地 [103.]	174
表VI-6	被調査者の父親の出身地 [104.-1]	174
表VI-7	被調査者の母親の出身地 [104.-2]	175
表VI-8	被調査者の配偶者の出身地 [104.-3]	175
表VI-9	住んでみたいところ [401.]	175
表VI-10	東京にいる親戚や知り合いとの付き合い [402.]	176
表VI-11	テレビの視聴時間 [404.]	176
表VI-12	ラジオの聴取時間 [405.]	176
表VI-13	地元のニュースと全国ニュースのどちらが好きか [406.]	177
表VI-14	新聞を毎日読むか [407.]	177
表VI-15	スポーツやレクリエーションなどに入っているか [412.]	177
表VI-16	関心のある選挙 [414.]	178
表VI-17	支持政党 [415.]	178
表VI-18	昔、士族であったか [416.]	178
表VI-19	被調査者の性	179
表VI-20	被調査者の年齢	179
表VI-21	被調査者の学歴 [418.]	179
表VI-22	被調査者の職業 [417.]	180
表VI-23	職業 (職業分類) [414.]	180
表VI-24	職業 (産業分類) [414.]	181
表VI-25	調査全般の被調査者のことば [調査員判定] [503.]	182
表VI-26	調査に対する態度 [調査員判定] [504.-1.]	182
表VI-27	調査した場所(1) [504.-2.]	182
表VI-28	調査した場所(2) [504.-2.]	183
表VI-29	調査への同席者 [504.-3.]	183
表VI-30	反応までの時間 [調査員判定] [504.-4.]	183
表VI-31	質問に対する問い返し [調査員判定] [504.-5.]	184
音声項目		
表VI-32	口 (クチ) [201.]	185
表VI-33	髭 (ヒゲ) [202.]	185
表VI-34	背中 (セナカ) [203.]	185
表VI-35	汗 (アセ) [204.]	186
表VI-36	蜂 (ハチ) [205.]	186
表VI-37	鳩 (ハト) [206.]	186
表VI-38	猫 (ネコ) [207.]	187
表VI-39	蛇 (ヘビ) [208.]	187
表VI-40	窓 (マド) [209.]	187
表VI-41	旗 (ハタ) [210.]	188
表VI-42	鈴 (スズ) [211.]	188
表VI-43	帯 (オビ) [212.]	188
表VI-44	靴 (クツ) [213.]	189
表VI-45	柿 (カキ) [214.]	189
表VI-46	松 (マツ) [215.]	189
表VI-47	西瓜 (スイカ) [216.]	190
表VI-48	火曜日 (カヨウビ) [217.]	190
表VI-49	百 (ヒャク) [218.]	190
表VI-50	税務署 (ゼイムシヨ) [219.]	191

表VI-51	息 (イキ)	[220.]	191
表VI-52	駅 (エキ)	[221.]	191
表VI-53	糸 (イト)	[222.]	192
表VI-54	煙突 (エントツ)	[223.]	192
表VI-55	知事 (チジ)	[224.]	192
表VI-56	地図 (チズ)	[225.]	193
表VI-57	島 (シマ)	[226.]	193
表VI-58	墨 (スミ)	[227.]	193
表VI-59	烏 (カラス)	[228.]	194
表VI-60	辛子 (カラシ)	[229.]	194
表VI-61	狐 (キツネ)	[230.]	194
表VI-62	団扇 (ウチワ)	[231.]	195
アクセント項目			
表VI-63	背中 (セナカ)	[203a.]	196
表VI-64	猫 (ネコ)	[207a.]	196
表VI-65	旗 (ハタ)	[210a.]	196
表VI-66	烏 (カラス)	[228a.]	197
表VI-67	団扇 (ウチワ)	[231a.]	197
語彙・文法 (語法) 項目			
表VI-68	「いつも」遅れてくる	[241.]	198
表VI-69	「留守番」	[242.]	198
表VI-70	「いらっしゃい」	[243.]	198
表VI-71	「もう (歩けない)」	[244.]	199
表VI-72	急に声を掛けられたとき	[245.]	199
表VI-73	人前で失敗したとき	[246.]	199
表VI-74	物を「与える」	[247.]	200
表VI-75	冬, 軒先に下がる氷の棒	[248.]	200
表VI-76	「コーデ」を使うか	[249.]	200
表VI-77	手に皮をはめて打ちあうスポーツ	[251.]	201
表VI-78	タクシーが客を断る	[252.]	201
表VI-79	女性のはく丈の短いもの	[253.]	201
表VI-80	「起きろ」	[261.]	202
表VI-81	「わたしたち」	[262.]	202
表VI-82	「見に行かないか」	[263.]	202
表VI-83	「行くから」	[264.]	203
表VI-84	「行くけれども」	[265.]	203
表VI-85	「強かったなあ」	[266.]	203
表VI-86	「勉強しないで」	[267.]	204
表VI-87	「静かなら」	[268.]	204
表VI-88	「あなたをほめていた」	[269.]	204
言語意識項目			
表VI-89	あなたは次の2つの意見のうち, どちらに賛成ですか。[409.]		205
表VI-90	鶴岡弁について, あなたはどちらの意見に賛成ですか。[413.]		205
表VI-91	鶴岡弁のイメージ (軽快-重苦しい)	[411.]	206
表VI-92	鶴岡弁のイメージ (深みがある-薄っぺらだ)	[411.]	206
表VI-93	鶴岡弁のイメージ (好き-嫌い)	[411.]	206
表VI-94	東京弁のイメージ (軽快-重苦しい)	[411.]	207
表VI-95	東京弁のイメージ (深みがある-薄っぺらだ)	[411.]	207
表VI-96	東京弁のイメージ (好き-嫌い)	[411.]	207
表VI-97	場面によることばの使い分け・対家族	[410.]	208
表VI-98	場面によることばの使い分け・対隣人	[410.]	208
表VI-99	場面によることばの使い分け・対市民	[410.]	208
表VI-100	場面によることばの使い分け・対旅人	[410.]	209

[]内は設問番号

表VI-1 被調査者の居住経歴 [102.]

	計	無回答		ずっと鶴岡		鶴岡以外2年未満		庄内以外2年未満		庄内以外2年以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	1	(0.2)	140	(34.6)	12	(3.0)	65	(16.0)	187	(46.2)
男	181	1	(0.6)	61	(33.7)	8	(4.4)	26	(14.4)	85	(47.0)
女	224	0	(0.0)	79	(35.3)	4	(1.8)	39	(17.4)	102	(45.5)
15～19歳	47	0	(0.0)	27	(57.4)	2	(4.3)	3	(6.4)	15	(31.9)
20～24歳	21	0	(0.0)	9	(42.9)	1	(4.8)	1	(4.8)	10	(47.6)
25～34歳	65	0	(0.0)	20	(30.8)	2	(3.1)	8	(12.3)	35	(53.8)
35～44歳	100	1	(1.0)	29	(29.0)	2	(2.0)	17	(17.0)	51	(51.0)
45～54歳	61	0	(0.0)	16	(26.2)	3	(4.9)	10	(16.4)	32	(52.5)
55～69歳	111	0	(0.0)	39	(35.1)	2	(1.8)	26	(23.4)	44	(39.6)
低学歴	105	1	(1.0)	38	(36.2)	5	(4.8)	26	(24.8)	35	(33.3)
中学歴	199	0	(0.0)	91	(45.7)	4	(2.0)	28	(14.1)	76	(38.2)
高学歴	101	0	(0.0)	11	(10.9)	3	(3.0)	11	(10.9)	76	(75.2)

表VI-2 被調査者の出生地 [102.]

	計	鶴岡市		庄内地方		東北地方		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	236	(58.3)	88	(21.7)	40	(9.9)	41	(10.1)
男	181	113	(62.4)	35	(19.3)	17	(9.4)	16	(8.8)
女	224	123	(54.9)	53	(23.7)	23	(10.3)	25	(11.2)
15～19歳	47	31	(66.0)	4	(8.5)	6	(12.8)	6	(12.8)
20～24歳	21	14	(66.7)	1	(4.8)	3	(14.3)	3	(14.3)
25～34歳	65	37	(56.9)	12	(18.5)	8	(12.3)	8	(12.3)
35～44歳	100	63	(63.0)	24	(24.0)	7	(7.0)	6	(6.0)
45～54歳	61	33	(54.1)	14	(23.0)	8	(13.1)	6	(9.8)
55～69歳	111	58	(52.3)	33	(29.7)	8	(7.2)	12	(10.8)
低学歴	105	61	(58.1)	32	(30.5)	6	(5.7)	6	(5.7)
中学歴	199	126	(63.3)	37	(18.6)	19	(9.5)	17	(8.5)
高学歴	101	49	(48.5)	19	(18.8)	15	(14.9)	18	(17.8)

表VI-3 被調査者の居住地(直前地) [102.]

	計	鶴岡市		庄内地方		東北地方		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	152	(37.5)	78	(19.3)	59	(14.6)	116	(28.6)
男	181	67	(37.0)	28	(15.5)	25	(13.8)	61	(33.7)
女	224	85	(37.9)	50	(22.3)	34	(15.2)	55	(24.6)
15～19歳	47	27	(57.4)	4	(8.5)	9	(19.1)	7	(14.9)
20～24歳	21	10	(47.6)	1	(4.8)	4	(19.0)	6	(28.6)
25～34歳	65	22	(33.8)	11	(16.9)	14	(21.5)	18	(27.7)
35～44歳	100	33	(33.0)	22	(22.0)	10	(10.0)	35	(35.0)
45～54歳	61	17	(27.9)	11	(18.0)	10	(16.4)	23	(37.7)
55～69歳	111	43	(38.7)	29	(26.1)	12	(10.8)	27	(24.3)
低学歴	105	42	(40.0)	29	(27.6)	9	(8.6)	25	(23.8)
中学歴	199	96	(48.2)	31	(15.6)	26	(13.1)	46	(23.1)
高学歴	101	14	(13.9)	18	(17.8)	24	(23.8)	45	(44.6)

表VI-4 被調査者の生育地（被調査者の出身地） [102.]

	計	鶴岡市		庄内地方		東北地方		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	262	(64.7)	84	(20.7)	36	(8.9)	23	(5.7)
男	181	120	(66.3)	33	(18.2)	16	(8.8)	12	(6.6)
女	224	142	(63.4)	51	(22.8)	20	(8.9)	11	(4.9)
15～19歳	47	40	(85.1)	2	(4.3)	5	(10.6)	0	(0.0)
20～24歳	21	15	(71.4)	0	(0.0)	3	(14.3)	3	(14.3)
25～34歳	65	41	(63.1)	11	(16.9)	9	(13.8)	4	(6.2)
35～44歳	100	65	(65.0)	23	(23.0)	6	(6.0)	6	(6.0)
45～54歳	61	40	(65.6)	14	(23.0)	5	(8.2)	2	(3.3)
55～69歳	111	61	(55.0)	34	(30.6)	8	(7.2)	8	(7.2)
低学歴	105	63	(60.0)	31	(29.5)	7	(6.7)	4	(3.8)
中学歴	199	143	(71.9)	34	(17.1)	16	(8.0)	6	(3.0)
高学歴	101	56	(55.4)	19	(18.8)	13	(12.9)	13	(12.9)

表VI-5 被調査者の本籍地 [103.]

	計	鶴岡市		庄内地方		東北地方		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	342	(84.4)	27	(6.7)	18	(4.4)	18	(4.4)
男	181	153	(84.5)	10	(5.5)	8	(4.4)	10	(5.5)
女	224	189	(84.4)	17	(7.6)	10	(4.5)	8	(3.6)
15～19歳	47	35	(74.5)	4	(8.5)	3	(6.4)	5	(10.6)
20～24歳	21	14	(66.7)	1	(4.8)	2	(9.5)	4	(19.0)
25～34歳	65	50	(76.9)	2	(3.1)	9	(13.8)	4	(6.2)
35～44歳	100	89	(89.0)	7	(7.0)	1	(1.0)	3	(3.0)
45～54歳	61	56	(91.8)	4	(6.6)	1	(1.6)	0	(0.0)
55～69歳	111	98	(88.3)	9	(8.1)	2	(1.8)	2	(1.8)
低学歴	105	90	(85.7)	11	(10.5)	3	(2.9)	1	(1.0)
中学歴	199	177	(88.9)	8	(4.0)	7	(3.5)	7	(3.5)
高学歴	101	75	(74.3)	8	(7.9)	8	(7.9)	10	(9.9)

表VI-6 被調査者の父親の出身地 [104-1]

	計	鶴岡市		庄内地方		東北地方		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	203	(50.1)	121	(29.9)	47	(11.6)	34	(8.4)
男	181	96	(53.0)	51	(28.2)	18	(9.9)	16	(8.8)
女	224	107	(47.8)	70	(31.3)	29	(12.9)	18	(8.0)
15～19歳	47	27	(57.4)	7	(14.9)	8	(17.0)	5	(10.6)
20～24歳	21	12	(57.1)	2	(9.5)	2	(9.5)	5	(23.8)
25～34歳	65	30	(46.2)	16	(24.6)	11	(16.9)	8	(12.3)
35～44歳	100	55	(55.0)	31	(31.0)	5	(5.0)	9	(9.0)
45～54歳	61	31	(50.8)	20	(32.8)	9	(14.8)	1	(1.6)
55～69歳	111	48	(43.2)	45	(40.5)	12	(10.8)	6	(5.4)
低学歴	105	52	(49.5)	43	(41.0)	6	(5.7)	4	(3.8)
中学歴	199	108	(54.3)	52	(26.1)	26	(13.1)	13	(6.5)
高学歴	101	43	(42.6)	26	(25.7)	15	(14.9)	17	(16.8)

表VI-7 被調査者の母親の出身地 [104.2]

	計	鶴岡市		庄内地方		東北地方		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	174	(43.0)	159	(39.3)	42	(10.4)	30	(7.4)
男	181	78	(43.1)	72	(39.8)	20	(11.0)	11	(6.1)
女	224	96	(42.9)	87	(38.8)	22	(9.8)	19	(8.5)
15～19歳	47	22	(46.8)	16	(34.0)	5	(10.6)	4	(8.5)
20～24歳	21	9	(42.9)	3	(14.3)	5	(23.8)	4	(19.0)
25～34歳	65	23	(35.4)	27	(41.5)	10	(15.4)	5	(7.7)
35～44歳	100	44	(44.0)	38	(38.0)	8	(8.0)	10	(10.0)
45～54歳	61	26	(42.6)	30	(49.2)	5	(8.2)	0	(0.0)
55～69歳	111	50	(45.0)	45	(40.5)	9	(8.1)	7	(6.3)
低学歴	105	53	(50.5)	44	(41.9)	4	(3.8)	4	(3.8)
中学歴	199	90	(45.2)	81	(40.7)	18	(9.0)	10	(5.0)
高学歴	101	31	(30.7)	34	(33.7)	20	(19.8)	16	(15.8)

表VI-8 被調査者の配偶者の出身地 [104.3]

	計	鶴岡市		庄内地方		東北地方		その他		配偶者なし	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	173	(42.7)	85	(21.0)	20	(4.9)	34	(8.4)	93	(23.0)
男	181	68	(37.6)	44	(24.3)	7	(3.9)	13	(7.2)	49	(27.1)
女	224	105	(46.9)	41	(18.3)	13	(5.8)	21	(9.4)	44	(19.6)
15～19歳	47	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	9	(19.1)	38	(80.9)
20～24歳	21	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	4	(19.0)	17	(81.0)
25～34歳	65	26	(40.0)	9	(13.8)	7	(10.8)	3	(4.6)	20	(30.8)
35～44歳	100	45	(45.0)	30	(30.0)	4	(4.0)	8	(8.0)	13	(13.0)
45～54歳	61	29	(47.5)	19	(31.1)	6	(9.8)	4	(6.6)	3	(4.9)
55～69歳	111	73	(65.8)	27	(24.3)	3	(2.7)	6	(5.4)	2	(1.8)
低学歴	105	51	(48.6)	32	(30.5)	4	(3.8)	4	(3.8)	14	(13.3)
中学歴	199	82	(41.2)	35	(17.6)	7	(3.5)	20	(10.1)	55	(27.6)
高学歴	101	40	(39.6)	18	(17.8)	9	(8.9)	10	(9.9)	24	(23.8)

表VI-9 住んでみたいところ [401.]

	計	無回答		鶴岡		庄内		山形県		東北地方		なし		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	4	(1.0)	112	(27.7)	36	(8.9)	9	(2.2)	38	(9.4)	6	(1.5)	200	(49.4)
男	181	2	(1.1)	54	(29.8)	15	(8.3)	2	(1.1)	11	(6.1)	3	(1.7)	94	(51.9)
女	224	2	(0.9)	58	(25.9)	21	(9.4)	7	(3.1)	27	(12.1)	3	(1.3)	106	(47.3)
15～19歳	47	0	(0.0)	3	(6.4)	0	(0.0)	1	(2.1)	8	(17.0)	0	(0.0)	35	(74.5)
20～24歳	21	0	(0.0)	4	(19.0)	2	(9.5)	2	(9.5)	1	(4.8)	1	(4.8)	11	(52.4)
25～34歳	65	1	(1.5)	14	(21.5)	6	(9.2)	3	(4.6)	11	(16.9)	0	(0.0)	30	(46.2)
35～44歳	100	2	(2.0)	30	(30.0)	2	(2.0)	2	(2.0)	8	(8.0)	0	(0.0)	56	(56.0)
45～54歳	61	0	(0.0)	17	(27.9)	14	(23.0)	0	(0.0)	6	(9.8)	1	(1.6)	23	(37.7)
55～69歳	111	1	(0.9)	44	(39.6)	12	(10.8)	1	(0.9)	4	(3.6)	4	(3.6)	45	(40.5)
低学歴	105	0	(0.0)	33	(31.4)	13	(12.4)	2	(1.9)	6	(5.7)	4	(3.8)	47	(44.8)
中学歴	199	3	(1.5)	55	(27.6)	13	(6.5)	5	(2.5)	23	(11.6)	1	(0.5)	99	(49.7)
高学歴	101	1	(1.0)	24	(23.8)	10	(9.9)	2	(2.0)	9	(8.9)	1	(1.0)	54	(53.5)

表VI-10 東京にいる親戚や知り合いとの付き合い [402.]

	計	行き来		電話		文通		つきあいなし		親戚なし	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	216	(53.3)	263	(64.9)	83	(20.5)	30	(7.4)	30	(7.4)
男	181	98	(54.1)	118	(65.2)	30	(16.6)	17	(9.4)	12	(6.6)
女	224	118	(52.7)	145	(64.7)	53	(23.7)	13	(5.8)	18	(8.0)
15~19歳	47	23	(48.9)	17	(36.2)	2	(4.3)	7	(14.9)	8	(17.0)
20~24歳	21	12	(57.1)	10	(47.6)	4	(19.0)	1	(4.8)	2	(9.5)
25~34歳	65	29	(44.6)	39	(60.0)	16	(24.6)	9	(13.8)	5	(7.7)
35~44歳	100	56	(56.0)	72	(72.0)	15	(15.0)	6	(6.0)	4	(4.0)
45~54歳	61	40	(65.6)	46	(75.4)	18	(29.5)	3	(4.9)	1	(1.6)
55~69歳	111	56	(50.5)	79	(71.2)	28	(25.2)	4	(3.6)	10	(9.0)
低学歴	105	49	(46.7)	65	(61.9)	16	(15.2)	7	(6.7)	12	(11.4)
中学歴	199	109	(54.8)	127	(63.8)	34	(17.1)	19	(9.5)	13	(6.5)
高学歴	101	58	(57.4)	71	(70.3)	33	(32.7)	4	(4.0)	5	(5.0)

表VI-11 テレビの視聴時間 [404.]

	計	0~60分		61~150分		151~240分		241分以上		その他・N.A.	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	67	(16.5)	123	(30.4)	121	(29.9)	90	(22.2)	4	(1.0)
男	181	31	(17.1)	60	(33.1)	53	(29.3)	36	(19.9)	1	(0.6)
女	224	36	(16.1)	63	(28.1)	68	(30.4)	54	(24.1)	3	(1.3)
15~19歳	47	6	(12.8)	16	(34.0)	15	(31.9)	10	(21.3)	0	(0.0)
20~24歳	21	6	(28.6)	7	(33.3)	5	(23.8)	3	(14.3)	0	(0.0)
25~34歳	65	10	(15.4)	17	(26.2)	21	(32.3)	17	(26.2)	0	(0.0)
35~44歳	100	22	(22.0)	40	(40.0)	26	(26.0)	11	(11.0)	1	(1.0)
45~54歳	61	12	(19.7)	23	(37.7)	16	(26.2)	10	(16.4)	0	(0.0)
55~69歳	111	11	(9.9)	20	(18.0)	38	(34.2)	39	(35.1)	3	(2.7)
低学歴	105	15	(14.3)	20	(19.0)	27	(25.7)	41	(39.0)	2	(1.9)
中学歴	199	26	(13.1)	63	(31.7)	68	(34.2)	41	(20.6)	1	(0.5)
高学歴	101	26	(25.7)	40	(39.6)	26	(25.7)	8	(7.9)	1	(1.0)

表VI-12 ラジオの聴取時間 [405.]

	計	0~30分		31~60分		61~150分		151~240分		241分以上		その他・N.A.	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	239	(59.0)	60	(14.8)	36	(8.9)	26	(6.4)	34	(8.4)	10	(2.5)
男	181	96	(53.0)	36	(19.9)	15	(8.3)	15	(8.3)	16	(8.8)	3	(1.7)
女	224	143	(63.8)	24	(10.7)	21	(9.4)	11	(4.9)	18	(8.0)	7	(3.1)
15~19歳	47	28	(59.6)	9	(19.1)	4	(8.5)	2	(4.3)	1	(2.1)	3	(6.4)
20~24歳	21	16	(76.2)	1	(4.8)	1	(4.8)	3	(14.3)	0	(0.0)	0	(0.0)
25~34歳	65	40	(61.5)	10	(15.4)	4	(6.2)	2	(3.1)	7	(10.8)	2	(3.1)
35~44歳	100	60	(60.0)	17	(17.0)	5	(5.0)	6	(6.0)	11	(11.0)	1	(1.0)
45~54歳	61	35	(57.4)	8	(13.1)	8	(13.1)	4	(6.6)	5	(8.2)	1	(1.6)
55~69歳	111	60	(54.1)	15	(13.5)	14	(12.6)	9	(8.1)	10	(9.0)	3	(2.7)
低学歴	105	54	(51.4)	11	(10.5)	10	(9.5)	12	(11.4)	14	(13.3)	4	(3.8)
中学歴	199	119	(59.8)	34	(17.1)	18	(9.0)	8	(4.0)	14	(7.0)	6	(3.0)
高学歴	101	66	(65.3)	15	(14.9)	8	(7.9)	6	(5.9)	6	(5.9)	0	(0.0)

表VI-13 地元のニュースと全国ニュースのどちらが好きか [406.]

	計	無回答		鶴岡		全国		どちらでもない		聞かない		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	2 (0.5)		143 (35.3)		184 (45.4)		71 (17.5)		3 (0.7)		2 (0.5)	
男	181	1 (0.6)		52 (28.7)		96 (53.0)		31 (17.1)		0 (0.0)		1 (0.6)	
女	224	1 (0.4)		91 (40.6)		88 (39.3)		40 (17.9)		3 (1.3)		1 (0.4)	
15~19歳	47	0 (0.0)		13 (27.7)		27 (57.4)		6 (12.8)		0 (0.0)		1 (2.1)	
20~24歳	21	0 (0.0)		9 (42.9)		10 (47.6)		2 (9.5)		0 (0.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	0 (0.0)		27 (41.5)		30 (46.2)		8 (12.3)		0 (0.0)		0 (0.0)	
35~44歳	100	0 (0.0)		39 (39.0)		41 (41.0)		18 (18.0)		2 (2.0)		0 (0.0)	
45~54歳	61	0 (0.0)		19 (31.1)		29 (47.5)		13 (21.3)		0 (0.0)		0 (0.0)	
55~69歳	111	2 (1.8)		36 (32.4)		47 (42.3)		24 (21.6)		1 (0.9)		1 (0.9)	
低学歴	105	2 (1.9)		39 (37.1)		44 (41.9)		16 (15.2)		3 (2.9)		1 (1.0)	
中学歴	199	0 (0.0)		73 (36.7)		94 (47.2)		31 (15.6)		0 (0.0)		1 (0.5)	
高学歴	101	0 (0.0)		31 (30.7)		46 (45.5)		24 (23.8)		0 (0.0)		0 (0.0)	

表VI-14 新聞を毎日読むか [407.]

	計	毎日		時々		読まない		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	316 (78.0)		51 (12.6)		36 (8.9)		2 (0.5)	
男	181	163 (90.1)		9 (5.0)		8 (4.4)		1 (0.6)	
女	224	153 (68.3)		42 (18.8)		28 (12.5)		1 (0.4)	
15~19歳	47	29 (61.7)		11 (23.4)		7 (14.9)		0 (0.0)	
20~24歳	21	13 (61.9)		5 (23.8)		2 (9.5)		1 (4.8)	
25~34歳	65	46 (70.8)		11 (16.9)		7 (10.8)		1 (1.5)	
35~44歳	100	79 (79.0)		13 (13.0)		8 (8.0)		0 (0.0)	
45~54歳	61	52 (85.2)		5 (8.2)		4 (6.6)		0 (0.0)	
55~69歳	111	97 (87.4)		6 (5.4)		8 (7.2)		0 (0.0)	
低学歴	105	83 (79.0)		10 (9.5)		12 (11.4)		0 (0.0)	
中学歴	199	147 (73.9)		33 (16.6)		17 (8.5)		2 (1.0)	
高学歴	101	86 (85.1)		8 (7.9)		7 (6.9)		0 (0.0)	

表VI-15 スポーツやレクリエーション、趣味の会、文化団体に入っているか

[412.]

	計	無回答		加入・役員		加入・非役員		非加入		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	29 (7.2)		44 (10.9)		79 (19.5)		216 (53.3)		37 (9.1)	
男	181	16 (8.8)		26 (14.4)		29 (16.0)		92 (50.8)		18 (9.9)	
女	224	13 (5.8)		18 (8.0)		50 (22.3)		124 (55.4)		19 (8.5)	
15~19歳	47	6 (12.8)		5 (10.6)		11 (23.4)		22 (46.8)		3 (6.4)	
20~24歳	21	4 (19.0)		3 (14.3)		4 (19.0)		8 (38.1)		2 (9.5)	
25~34歳	65	1 (1.5)		4 (6.2)		13 (20.0)		39 (60.0)		8 (12.3)	
35~44歳	100	4 (4.0)		9 (9.0)		17 (17.0)		59 (59.0)		11 (11.0)	
45~54歳	61	6 (9.8)		6 (9.8)		13 (21.3)		30 (49.2)		6 (9.8)	
55~69歳	111	8 (7.2)		17 (15.3)		21 (18.9)		58 (52.3)		7 (6.3)	
低学歴	105	5 (4.8)		10 (9.5)		18 (17.1)		68 (64.8)		4 (3.8)	
中学歴	199	15 (7.5)		23 (11.6)		42 (21.1)		98 (49.2)		21 (10.6)	
高学歴	101	9 (8.9)		11 (10.9)		19 (18.8)		50 (49.5)		12 (11.9)	

表VI-16 関心のある選挙 [414.]

	計	国政レベル		県政レベル		県政+市政		市政レベル		全部関心あり		関心なし		その他・無回答	
		人数	人数 %	人数	人数 %	人数	人数 %	人数	人数 %	人数	人数 %	人数	人数 %	人数	人数 %
全体	405	133 (32.8)		37 (9.1)		6 (1.5)		198 (48.9)		8 (2.0)		5 (1.2)		18 (4.4)	
男	181	72 (39.8)		22 (12.2)		2 (1.1)		72 (39.8)		6 (3.3)		0 (0.0)		7 (3.9)	
女	224	61 (27.2)		15 (6.7)		4 (1.8)		126 (56.3)		2 (0.9)		5 (2.2)		11 (4.9)	
15~19歳	47	11 (23.4)		9 (19.1)		0 (0.0)		19 (40.4)		0 (0.0)		2 (4.3)		6 (12.8)	
20~24歳	21	7 (33.3)		1 (4.8)		0 (0.0)		11 (52.4)		0 (0.0)		0 (0.0)		2 (9.5)	
25~34歳	65	28 (43.1)		8 (12.3)		1 (1.5)		26 (40.0)		1 (1.5)		0 (0.0)		1 (1.5)	
35~44歳	100	30 (30.0)		9 (9.0)		0 (0.0)		56 (56.0)		3 (3.0)		2 (2.0)		0 (0.0)	
45~54歳	61	21 (34.4)		5 (8.2)		2 (3.3)		28 (45.9)		1 (1.6)		1 (1.6)		3 (4.9)	
55~69歳	111	36 (32.4)		5 (4.5)		3 (2.7)		58 (52.3)		3 (2.7)		0 (0.0)		6 (5.4)	
低学歴	105	24 (22.9)		8 (7.6)		3 (2.9)		58 (55.2)		3 (2.9)		0 (0.0)		9 (8.6)	
中学歴	199	60 (30.2)		23 (11.6)		2 (1.0)		99 (49.7)		4 (2.0)		5 (2.5)		6 (3.0)	
高学歴	101	49 (48.5)		6 (5.9)		1 (1.0)		41 (40.6)		1 (1.0)		0 (0.0)		3 (3.0)	

表VI-17 支持政党 [415.]

	計	自民党		社会党		民社党		公明党		共産党		支持なし		その他・無回答	
		人数	人数 %	人数	人数 %	人数	人数 %	人数	人数 %	人数	人数 %	人数	人数 %	人数	人数 %
全体	405	144 (35.6)		39 (9.6)		4 (1.0)		7 (1.7)		18 (4.4)		174 (43.0)		19 (4.7)	
男	181	69 (38.1)		20 (11.0)		3 (1.7)		2 (1.1)		7 (3.9)		67 (37.0)		13 (7.2)	
女	224	75 (33.5)		19 (8.5)		1 (0.4)		5 (2.2)		11 (4.9)		107 (47.8)		6 (2.7)	
15~19歳	47	9 (19.1)		1 (2.1)		0 (0.0)		1 (2.1)		1 (2.1)		31 (66.0)		4 (8.5)	
20~24歳	21	5 (23.8)		1 (4.8)		0 (0.0)		0 (0.0)		0 (0.0)		14 (66.7)		1 (4.8)	
25~34歳	65	18 (27.7)		4 (6.2)		0 (0.0)		3 (4.6)		2 (3.1)		38 (58.5)		0 (0.0)	
35~44歳	100	34 (34.0)		13 (13.0)		3 (3.0)		1 (1.0)		5 (5.0)		41 (41.0)		3 (3.0)	
45~54歳	61	23 (37.7)		9 (14.8)		0 (0.0)		0 (0.0)		3 (4.9)		20 (32.8)		6 (9.8)	
55~69歳	111	55 (49.5)		11 (9.9)		1 (0.9)		2 (1.8)		7 (6.3)		30 (27.0)		5 (4.5)	
低学歴	105	44 (41.9)		11 (10.5)		0 (0.0)		4 (3.8)		6 (5.7)		33 (31.4)		7 (6.7)	
中学歴	199	67 (33.7)		18 (9.0)		2 (1.0)		3 (1.5)		8 (4.0)		93 (46.7)		8 (4.0)	
高学歴	101	33 (32.7)		10 (9.9)		2 (2.0)		0 (0.0)		4 (4.0)		48 (47.5)		4 (4.0)	

表VI-18 昔、士族であったか [416.]

	計	無回答		士族		士族以外		その他	
		人数	人数 %	人数	人数 %	人数	人数 %	人数	人数 %
全体	405	43 (10.6)		51 (12.6)		309 (76.3)		2 (0.5)	
男	181	17 (9.4)		23 (12.7)		141 (77.9)		0 (0.0)	
女	224	26 (11.6)		28 (12.5)		168 (75.0)		2 (0.9)	
15~19歳	47	17 (36.2)		3 (6.4)		27 (57.4)		0 (0.0)	
20~24歳	21	4 (19.0)		1 (4.8)		16 (76.2)		0 (0.0)	
25~34歳	65	10 (15.4)		5 (7.7)		49 (75.4)		1 (1.5)	
35~44歳	100	5 (5.0)		10 (10.0)		84 (84.0)		1 (1.0)	
45~54歳	61	6 (9.8)		8 (13.1)		47 (77.0)		0 (0.0)	
55~69歳	111	1 (0.9)		24 (21.6)		86 (77.5)		0 (0.0)	
低学歴	105	7 (6.7)		13 (12.4)		84 (80.0)		1 (1.0)	
中学歴	199	28 (14.1)		16 (8.0)		155 (77.9)		0 (0.0)	
高学歴	101	8 (7.9)		22 (21.8)		70 (69.3)		1 (1.0)	

表VI-19 被調査者の性

	計	男		女	
	人数	人数	%	人数	%
全体	405	181 (44.7)		224 (55.3)	
15～19歳	47	24 (51.1)		23 (48.9)	
20～24歳	21	10 (47.6)		11 (52.4)	
25～34歳	65	26 (40.0)		39 (60.0)	
35～44歳	100	48 (48.0)		52 (52.0)	
45～54歳	61	26 (42.6)		35 (57.4)	
55～69歳	111	47 (42.3)		64 (57.7)	
低学歴	105	52 (49.5)		53 (50.5)	
中学歴	199	79 (39.7)		120 (60.3)	
高学歴	101	50 (49.5)		51 (50.5)	

表VI-20 被調査者の年齢

	計	15～19歳		20～24歳		25～34歳	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	47 (11.6)		21 (5.2)		65 (16.0)	
男	181	24 (13.3)		10 (5.5)		26 (14.4)	
女	224	23 (10.3)		11 (4.9)		39 (17.4)	
低学歴	105	7 (6.7)		1 (1.0)		5 (4.8)	
中学歴	199	39 (19.6)		11 (5.5)		28 (14.1)	
高学歴	101	1 (1.0)		9 (8.9)		32 (31.7)	

学歴全体	計	35～44歳		45～54歳		55～69歳	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	100 (24.7)		61 (15.1)		111 (27.4)	
男	181	48 (26.5)		26 (14.4)		47 (26)	
女	224	52 (23.2)		35 (15.6)		64 (28.6)	
低学歴	105	13 (12.4)		17 (16.2)		62 (59)	
中学歴	199	57 (28.6)		29 (14.6)		35 (17.6)	
高学歴	101	30 (29.7)		15 (14.9)		14 (13.9)	

表VI-21 被調査者の学歴 [418.]

	計	低学歴		中学歴		高学歴	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	105 (25.9)		199 (49.1)		65 (24.9)	
男	181	52 (28.7)		79 (43.6)		26 (27.6)	
女	224	53 (23.7)		120 (53.6)		39 (22.8)	
15～19歳	47	7 (14.9)		39 (83.0)		5 (2.1)	
20～24歳	21	1 (4.8)		11 (52.4)		28 (42.9)	
25～34歳	65	5 (7.7)		28 (43.1)		32 (49.2)	
35～44歳	100	13 (13.0)		57 (57.0)		0 (30.0)	
45～54歳	61	17 (27.9)		29 (47.5)		0 (24.6)	
55～69歳	111	62 (55.9)		35 (31.5)		0 (12.6)	

表VI-22 被調査者の職業 [417.]

	計	給与生活者		商店主・工場主		工員・大工・運転手		内職・パート		農業・漁業		主婦		学生	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	158	(39.0)	31	(7.7)	59	(14.6)	28	(6.9)	5	(1.2)	36	(8.9)	41	(10.1)
男	181	77	(42.5)	19	(10.5)	38	(21.0)	2	(1.1)	4	(2.2)	0	(0.0)	24	(13.3)
女	224	81	(36.2)	12	(5.4)	21	(9.4)	26	(11.6)	1	(0.4)	36	(16.1)	17	(7.6)
15～19歳	47	7	(14.9)	0	(0.0)	1	(2.1)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	36	(76.6)
20～24歳	21	12	(57.1)	1	(4.8)	2	(9.5)	1	(4.8)	0	(0.0)	0	(0.0)	5	(23.8)
25～34歳	65	33	(50.8)	4	(6.2)	10	(15.4)	7	(10.8)	0	(0.0)	11	(16.9)	0	(0.0)
35～44歳	100	53	(53.0)	5	(5.0)	25	(25.0)	7	(7.0)	2	(2.0)	5	(5.0)	0	(0.0)
45～54歳	61	30	(49.2)	13	(21.3)	10	(16.4)	3	(4.9)	0	(0.0)	1	(1.6)	0	(0.0)
55～69歳	111	23	(20.7)	8	(7.2)	11	(9.9)	10	(9.0)	3	(2.7)	19	(17.1)	0	(0.0)
低学歴	105	19	(18.1)	7	(6.7)	25	(23.8)	10	(9.5)	3	(2.9)	8	(7.6)	6	(5.7)
中学歴	199	73	(36.7)	20	(10.1)	30	(15.1)	10	(5.0)	1	(0.5)	20	(10.1)	30	(15.1)
高学歴	101	66	(65.3)	4	(4.0)	4	(4.0)	8	(7.9)	1	(1.0)	8	(7.9)	5	(5.0)

	計	無職		その他	
	人数	人数	%	人数	%
全体	405	40	(9.9)	7	(1.7)
男	181	15	(8.3)	2	(1.1)
女	224	25	(11.2)	5	(2.2)
15～19歳	47	2	(4.3)	1	(2.1)
20～24歳	21	0	(0.0)	0	(0.0)
25～34歳	65	0	(0.0)	0	(0.0)
35～44歳	100	1	(1.0)	2	(2.0)
45～54歳	61	2	(3.3)	2	(3.3)
55～69歳	111	35	(31.5)	2	(1.8)
低学歴	105	23	(21.9)	4	(3.8)
中学歴	199	14	(7.0)	1	(0.5)
高学歴	101	3	(3.0)	2	(2.0)

表VI-23 職業（職業分類） [414.]

	計	無回答		専門的		管理的		事務		販売		農林漁業		運輸通信	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	2	(0.5)	60	(14.8)	19	(4.7)	42	(10.4)	39	(9.6)	6	(1.5)	10	(2.5)
男	181	0	(0.0)	25	(13.8)	17	(9.4)	17	(9.4)	16	(8.8)	5	(2.8)	10	(5.5)
女	224	2	(0.9)	35	(15.6)	2	(0.9)	25	(11.2)	23	(10.3)	1	(0.4)	0	(0.0)
15～19歳	47	0	(0.0)	3	(6.4)	0	(0.0)	3	(6.4)	1	(2.1)	0	(0.0)	0	(0.0)
20～24歳	21	0	(0.0)	2	(9.5)	0	(0.0)	5	(23.8)	3	(14.3)	0	(0.0)	0	(0.0)
25～34歳	65	2	(3.1)	15	(23.1)	0	(0.0)	6	(9.2)	6	(9.2)	0	(0.0)	1	(1.5)
35～44歳	100	0	(0.0)	19	(19.0)	6	(6.0)	18	(18.0)	11	(11.0)	2	(2.0)	3	(3.0)
45～54歳	61	0	(0.0)	12	(19.7)	4	(6.6)	8	(13.1)	14	(23.0)	0	(0.0)	4	(6.6)
55～69歳	111	0	(0.0)	9	(8.1)	9	(8.1)	2	(1.8)	4	(3.6)	4	(3.6)	2	(1.8)
低学歴	105	0	(0.0)	3	(2.9)	7	(6.7)	3	(2.9)	5	(4.8)	4	(3.8)	4	(3.8)
中学歴	199	1	(0.5)	15	(7.5)	6	(3.0)	29	(14.6)	27	(13.6)	1	(0.5)	5	(2.5)
高学歴	101	1	(1.0)	42	(41.6)	6	(5.9)	10	(9.9)	7	(6.9)	1	(1.0)	1	(1.0)

	計	技能		保安		サービス		主婦		学生		無職		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	65 (16.0)		3 (0.7)		18 (4.4)		36 (8.9)		41 (10.1)		40 (9.9)		24 (5.9)	
男	181	40 (22.1)		3 (1.7)		6 (3.3)		0 (0.0)		24 (13.3)		15 (8.3)		3 (1.7)	
女	224	25 (11.2)		0 (0.0)		12 (5.4)		36 (16.1)		17 (7.6)		25 (11.2)		21 (9.4)	
15~19歳	47	1 (2.1)		0 (0.0)		1 (2.1)		0 (0.0)		36 (76.6)		2 (4.3)		0 (0.0)	
20~24歳	21	3 (14.3)		0 (0.0)		2 (9.5)		0 (0.0)		5 (23.8)		0 (0.0)		1 (4.8)	
25~34歳	65	11 (16.9)		2 (3.1)		6 (9.2)		11 (16.9)		0 (0.0)		0 (0.0)		5 (7.7)	
35~44歳	100	26 (26.0)		0 (0.0)		3 (3.0)		5 (5.0)		0 (0.0)		1 (1.0)		6 (6.0)	
45~54歳	61	10 (16.4)		0 (0.0)		2 (3.3)		1 (1.6)		0 (0.0)		2 (3.3)		4 (6.6)	
55~69歳	111	14 (12.6)		1 (0.9)		4 (3.6)		19 (17.1)		0 (0.0)		35 (31.5)		8 (7.2)	
低学歴	105	28 (26.7)		2 (1.9)		4 (3.8)		8 (7.6)		6 (5.7)		23 (21.9)		8 (7.6)	
中学歴	199	31 (15.6)		1 (0.5)		10 (5.0)		20 (10.1)		30 (15.1)		14 (7.0)		9 (4.5)	
高学歴	101	6 (5.9)		0 (0.0)		4 (4.0)		8 (7.9)		5 (5.0)		3 (3.0)		7 (6.9)	

表VI-24 職業(産業分類) [414.]

	計	無回答		農林漁業		建設業		製造業		卸売・小売		金融不動産		運輸・通信	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	18 (4.4)		5 (1.2)		15 (3.7)		59 (14.6)		59 (14.6)		11 (2.7)		15 (3.7)	
男	181	5 (2.8)		4 (2.2)		15 (8.3)		29 (16.0)		23 (12.7)		3 (1.7)		14 (7.7)	
女	224	13 (5.8)		1 (0.4)		0 (0.0)		30 (13.4)		36 (16.1)		8 (3.6)		1 (0.4)	
15~19歳	47	1 (2.1)		0 (0.0)		0 (0.0)		2 (4.3)		2 (4.3)		1 (2.1)		1 (2.1)	
20~24歳	21	2 (9.5)		0 (0.0)		0 (0.0)		2 (9.5)		4 (19.0)		2 (9.5)		0 (0.0)	
25~34歳	65	3 (4.6)		0 (0.0)		1 (1.5)		8 (12.3)		10 (15.4)		1 (1.5)		1 (1.5)	
35~44歳	100	9 (9.0)		2 (2.0)		6 (6.0)		23 (23.0)		16 (16.0)		4 (4.0)		8 (8.0)	
45~54歳	61	1 (1.6)		0 (0.0)		2 (3.3)		13 (21.3)		15 (24.6)		2 (3.3)		4 (6.6)	
55~69歳	111	2 (1.8)		3 (2.7)		6 (5.4)		11 (9.9)		12 (10.8)		1 (0.9)		1 (0.9)	
低学歴	105	0 (0.0)		3 (2.9)		9 (8.6)		22 (21.0)		14 (13.3)		1 (1.0)		4 (3.8)	
中学歴	199	13 (6.5)		1 (0.5)		4 (2.0)		32 (16.1)		34 (17.1)		7 (3.5)		9 (4.5)	
高学歴	101	5 (5.0)		1 (1.0)		2 (2.0)		5 (5.0)		11 (10.9)		3 (3.0)		2 (2.0)	

	計	電気・ガス・水道		サービス		公務		主婦・学生・無職	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	3 (0.7)		85 (21.0)		18 (4.4)		117 (28.9)	
男	181	3 (1.7)		35 (19.3)		11 (6.1)		39 (21.5)	
女	224	0 (0.0)		50 (22.3)		7 (3.1)		78 (34.8)	
15~19歳	47	0 (0.0)		2 (4.3)		0 (0.0)		38 (80.9)	
20~24歳	21	0 (0.0)		6 (28.6)		0 (0.0)		5 (23.8)	
25~34歳	65	2 (3.1)		22 (33.8)		6 (9.2)		11 (16.9)	
35~44歳	100	0 (0.0)		19 (19.0)		7 (7.0)		6 (6.0)	
45~54歳	61	0 (0.0)		16 (26.2)		5 (8.2)		3 (4.9)	
55~69歳	111	1 (0.9)		20 (18.0)		0 (0.0)		54 (48.6)	
低学歴	105	1 (1.0)		13 (12.4)		1 (1.0)		37 (35.2)	
中学歴	199	0 (0.0)		26 (13.1)		9 (4.5)		64 (32.2)	
高学歴	101	2 (2.0)		46 (45.5)		8 (7.9)		16 (15.8)	

表VI-25 調査全般の被調査者のことば〔調査員判定〕 [503.]

	計	無記入		正しい共通語		共通語だが どことなく違う		共通語が 混ざる		共通語を 話さない		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	9	(2.2)	75	(18.5)	151	(37.3)	149	(36.8)	18	(4.4)	3	(0.7)
男	181	1	(0.6)	36	(19.9)	70	(38.7)	62	(34.3)	11	(6.1)	1	(0.6)
女	224	8	(3.6)	39	(17.4)	81	(36.2)	87	(38.8)	7	(3.1)	2	(0.9)
15～19歳	47	0	(0.0)	16	(34.0)	25	(53.2)	5	(10.6)	0	(0.0)	1	(2.1)
20～24歳	21	1	(4.8)	7	(33.3)	10	(47.6)	2	(9.5)	1	(4.8)	0	(0.0)
25～34歳	65	2	(3.1)	15	(23.1)	30	(46.2)	17	(26.2)	0	(0.0)	1	(1.5)
35～44歳	100	2	(2.0)	22	(22.0)	33	(33.0)	38	(38.0)	5	(5.0)	0	(0.0)
45～54歳	61	3	(4.9)	6	(9.8)	25	(41.0)	23	(37.7)	4	(6.6)	0	(0.0)
55～69歳	111	1	(0.9)	9	(8.1)	28	(25.2)	64	(57.7)	8	(7.2)	1	(0.9)
低学歴	105	1	(1.0)	3	(2.9)	27	(25.7)	62	(59.0)	12	(11.4)	0	(0.0)
中学歴	199	2	(1.0)	33	(16.6)	83	(41.7)	72	(36.2)	6	(3.0)	3	(1.5)
高学歴	101	6	(5.9)	39	(38.6)	41	(40.6)	15	(14.9)	0	(0.0)	0	(0.0)

表VI-26 調査に対する態度〔調査員判定〕 [504-1.]

	計	無記入		積極的		ふつう		消極的		拒否的		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	13	(3.2)	132	(32.6)	225	(55.6)	31	(7.7)	2	(0.5)	2	(0.5)
男	181	4	(2.2)	63	(34.8)	98	(54.1)	14	(7.7)	1	(0.6)	1	(0.6)
女	224	9	(4.0)	69	(30.8)	127	(56.7)	17	(7.6)	1	(0.4)	1	(0.4)
15～19歳	47	0	(0.0)	6	(12.8)	35	(74.5)	6	(12.8)	0	(0.0)	0	(0.0)
20～24歳	21	1	(4.8)	3	(14.3)	15	(71.4)	2	(9.5)	0	(0.0)	0	(0.0)
25～34歳	65	3	(4.6)	27	(41.5)	31	(47.7)	2	(3.1)	1	(1.5)	1	(1.5)
35～44歳	100	4	(4.0)	34	(34.0)	55	(55.0)	7	(7.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
45～54歳	61	3	(4.9)	23	(37.7)	34	(55.7)	1	(1.6)	0	(0.0)	0	(0.0)
55～69歳	111	2	(1.8)	39	(35.1)	55	(49.5)	13	(11.7)	1	(0.9)	1	(0.9)
低学歴	105	4	(3.8)	22	(21.0)	62	(59.0)	15	(14.3)	1	(1.0)	1	(1.0)
中学歴	199	3	(1.5)	55	(27.6)	126	(63.3)	15	(7.5)	0	(0.0)	0	(0.0)
高学歴	101	6	(5.9)	55	(54.5)	37	(36.6)	1	(1.0)	1	(1.0)	1	(1.0)

表VI-27 調査した場所(1) [504-2.]

	計	無記入		自宅		勤務先		鶴岡ホテル		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	15	(3.7)	332	(82.0)	34	(8.4)	7	(1.7)	17	(4.2)
男	181	4	(2.2)	144	(79.6)	20	(11.0)	4	(2.2)	9	(5.0)
女	224	11	(4.9)	188	(83.9)	14	(6.3)	3	(1.3)	8	(3.6)
15～19歳	47	2	(4.3)	38	(80.9)	1	(2.1)	0	(0.0)	6	(12.8)
20～24歳	21	1	(4.8)	16	(76.2)	3	(14.3)	0	(0.0)	1	(4.8)
25～34歳	65	2	(3.1)	54	(83.1)	5	(7.7)	0	(0.0)	4	(6.2)
35～44歳	100	3	(3.0)	77	(77.0)	12	(12.0)	4	(4.0)	4	(4.0)
45～54歳	61	3	(4.9)	44	(72.1)	10	(16.4)	3	(4.9)	1	(1.6)
55～69歳	111	4	(3.6)	103	(92.8)	3	(2.7)	0	(0.0)	1	(0.9)
低学歴	105	5	(4.8)	96	(91.4)	3	(2.9)	0	(0.0)	1	(1.0)
中学歴	199	5	(2.5)	162	(81.4)	17	(8.5)	4	(2.0)	11	(5.5)
高学歴	101	5	(5.0)	74	(73.3)	14	(13.9)	3	(3.0)	5	(5.0)

表VI-28 調査した場所(2) [504-2.]

	計	無記入		部屋の中		玄関先		店先		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	14	(3.5)	301	(74.3)	59	(14.6)	17	(4.2)	14	(3.5)
男	181	3	(1.7)	143	(79.0)	16	(8.8)	10	(5.5)	9	(5.0)
女	224	11	(4.9)	158	(70.5)	43	(19.2)	7	(3.1)	5	(2.2)
15～19歳	47	1	(2.1)	29	(61.7)	12	(25.5)	2	(4.3)	3	(6.4)
20～24歳	21	2	(9.5)	12	(57.1)	4	(19.0)	1	(4.8)	2	(9.5)
25～34歳	65	3	(4.6)	45	(69.2)	11	(16.9)	4	(6.2)	2	(3.1)
35～44歳	100	3	(3.0)	74	(74.0)	14	(14.0)	3	(3.0)	6	(6.0)
45～54歳	61	2	(3.3)	48	(78.7)	5	(8.2)	5	(8.2)	1	(1.6)
55～69歳	111	3	(2.7)	93	(83.8)	13	(11.7)	2	(1.8)	0	(0.0)
低学歴	105	5	(4.8)	78	(74.3)	19	(18.1)	2	(1.9)	1	(1.0)
中学歴	199	3	(1.5)	145	(72.9)	32	(16.1)	10	(5.0)	9	(4.5)
高学歴	101	6	(5.9)	78	(77.2)	8	(7.9)	5	(5.0)	4	(4.0)

表VI-29 調査への同席者 [504-3.]

	計	無記入		本人のみ		配偶者		子ども		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	10	(2.5)	266	(65.7)	40	(9.9)	31	(7.7)	58	(14.3)
男	181	1	(0.6)	117	(64.6)	31	(17.1)	3	(1.7)	29	(16.0)
女	224	9	(4.0)	149	(66.5)	9	(4.0)	28	(12.5)	29	(12.9)
15～19歳	47	3	(6.4)	26	(55.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	18	(38.3)
20～24歳	21	2	(9.5)	16	(76.2)	0	(0.0)	0	(0.0)	3	(14.3)
25～34歳	65	1	(1.5)	37	(56.9)	4	(6.2)	14	(21.5)	9	(13.8)
35～44歳	100	2	(2.0)	58	(58.0)	10	(10.0)	17	(17.0)	13	(13.0)
45～54歳	61	2	(3.3)	47	(77.0)	6	(9.8)	0	(0.0)	6	(9.8)
55～69歳	111	0	(0.0)	82	(73.9)	20	(18.0)	0	(0.0)	9	(8.1)
低学歴	105	1	(1.0)	68	(64.8)	17	(16.2)	1	(1.0)	18	(17.1)
中学歴	199	4	(2.0)	130	(65.3)	14	(7.0)	19	(9.5)	32	(16.1)
高学歴	101	5	(5.0)	68	(67.3)	9	(8.9)	11	(10.9)	8	(7.9)

表VI-30 反応までの時間 [調査員判定] [504-4.]

	計	無記入		長いほう		普通		短いほう	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	6	(1.5)	54	(13.3)	233	(57.5)	112	(27.7)
男	181	0	(0.0)	34	(18.8)	95	(52.5)	52	(28.7)
女	224	6	(2.7)	20	(8.9)	138	(61.6)	60	(26.8)
15～19歳	47	0	(0.0)	2	(4.3)	32	(68.1)	13	(27.7)
20～24歳	21	1	(4.8)	2	(9.5)	9	(42.9)	9	(42.9)
25～34歳	65	1	(1.5)	1	(1.5)	39	(60.0)	24	(36.9)
35～44歳	100	2	(2.0)	18	(18.0)	45	(45.0)	35	(35.0)
45～54歳	61	2	(3.3)	12	(19.7)	31	(50.8)	16	(26.2)
55～69歳	111	0	(0.0)	19	(17.1)	77	(69.4)	15	(13.5)
低学歴	105	1	(1.0)	28	(26.7)	61	(58.1)	15	(14.3)
中学歴	199	1	(0.5)	19	(9.5)	125	(62.8)	54	(27.1)
高学歴	101	4	(4.0)	7	(6.9)	47	(46.5)	43	(42.6)

表VI-31 質問に対する問い返し〔調査員判定〕 [504-5.]

	計	無記入		多いほう		普通		少ないほう	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	6	(1.5)	18	(4.4)	230	(56.8)	151	(37.3)
男	181	0	(0.0)	12	(6.6)	101	(55.8)	68	(37.6)
女	224	6	(2.7)	6	(2.7)	129	(57.6)	83	(37.1)
15～19歳	47	0	(0.0)	0	(0.0)	25	(53.2)	22	(46.8)
20～24歳	21	1	(4.8)	0	(0.0)	13	(61.9)	7	(33.3)
25～34歳	65	1	(1.5)	2	(3.1)	33	(50.8)	29	(44.6)
35～44歳	100	2	(2.0)	7	(7.0)	49	(49.0)	42	(42.0)
45～54歳	61	2	(3.3)	4	(6.6)	33	(54.1)	22	(36.1)
55～69歳	111	0	(0.0)	5	(4.5)	77	(69.4)	29	(26.1)
低学歴	105	1	(1.0)	10	(9.5)	71	(67.6)	23	(21.9)
中学歴	199	1	(0.5)	3	(1.5)	115	(57.8)	80	(40.2)
高学歴	101	4	(4.0)	5	(5.0)	44	(43.6)	48	(47.5)

表VI-32

口 (クチ) [201.]

	計	無記入		tj		z		tj+z		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	2 (0.5)		367 (90.6)		17 (4.2)		1 (0.2)		18 (4.4)	
男	181	1 (0.6)		157 (86.7)		14 (7.7)		0 (0.0)		9 (5.0)	
女	224	1 (0.4)		210 (93.8)		3 (1.3)		1 (0.4)		9 (4.0)	
15~19歳	47	0 (0.0)		46 (97.9)		1 (2.1)		0 (0.0)		0 (0.0)	
20~24歳	21	0 (0.0)		21 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	0 (0.0)		62 (95.4)		0 (0.0)		0 (0.0)		3 (4.6)	
35~44歳	100	1 (1.0)		91 (91.0)		3 (3.0)		1 (1.0)		4 (4.0)	
45~54歳	61	1 (1.6)		56 (91.8)		1 (1.6)		0 (0.0)		3 (4.9)	
55~69歳	111	0 (0.0)		91 (82.0)		12 (10.8)		0 (0.0)		8 (7.2)	
低学歴	105	0 (0.0)		84 (80.0)		12 (11.4)		0 (0.0)		9 (8.6)	
中学歴	199	2 (1.0)		187 (94.0)		5 (2.5)		1 (0.5)		4 (2.0)	
高学歴	101	0 (0.0)		96 (95.0)		0 (0.0)		0 (0.0)		5 (5.0)	

表VI-33

髭 (ヒゲ) [202.]

	計	ξ		F		ξ+F		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	369 (91.1)		33 (8.1)		1 (0.2)		2 (0.5)	
男	181	164 (90.6)		14 (7.7)		1 (0.6)		2 (1.1)	
女	224	205 (91.5)		19 (8.5)		0 (0.0)		0 (0.0)	
15~19歳	47	47 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
20~24歳	21	21 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	64 (98.5)		1 (1.5)		0 (0.0)		0 (0.0)	
35~44歳	100	97 (97.0)		3 (3.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
45~54歳	61	60 (98.4)		1 (1.6)		0 (0.0)		0 (0.0)	
55~69歳	111	80 (72.1)		28 (25.2)		1 (0.9)		2 (1.8)	
低学歴	105	79 (75.2)		25 (23.8)		0 (0.0)		1 (1.0)	
中学歴	199	190 (95.5)		7 (3.5)		1 (0.5)		1 (0.5)	
高学歴	101	100 (99.0)		1 (1.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	

表VI-34

背中 (セナカ) [203.]

	計	s		s, ξ		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	392 (96.8)		12 (3.0)		1 (0.2)	
男	181	169 (93.4)		11 (6.1)		1 (0.6)	
女	224	223 (99.6)		1 (0.4)		0 (0.0)	
15~19歳	47	46 (97.9)		1 (2.1)		0 (0.0)	
20~24歳	21	20 (95.2)		0 (0.0)		1 (4.8)	
25~34歳	65	65 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
35~44歳	100	97 (97.0)		3 (3.0)		0 (0.0)	
45~54歳	61	59 (96.7)		2 (3.3)		0 (0.0)	
55~69歳	111	105 (94.6)		6 (5.4)		0 (0.0)	
低学歴	105	97 (92.4)		8 (7.6)		0 (0.0)	
中学歴	199	194 (97.5)		4 (2.0)		1 (0.5)	
高学歴	101	101 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	

表VI-35

汗 (アゼ) [204.]

	計	無記入		s		s, c		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	1 (0.2)		393 (97.0)		10 (2.5)		1 (0.2)	
男	181	0 (0.0)		175 (96.7)		6 (3.3)		0 (0.0)	
女	224	1 (0.4)		218 (97.3)		4 (1.8)		1 (0.4)	
15~19歳	47	0 (0.0)		47 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
20~24歳	21	0 (0.0)		21 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	0 (0.0)		63 (96.9)		1 (1.5)		1 (1.5)	
35~44歳	100	0 (0.0)		97 (97.0)		3 (3.0)		0 (0.0)	
45~54歳	61	1 (1.6)		59 (96.7)		1 (1.6)		0 (0.0)	
55~69歳	111	0 (0.0)		106 (95.5)		5 (4.5)		0 (0.0)	
低学歴	105	0 (0.0)		101 (96.2)		4 (3.8)		0 (0.0)	
中学歴	199	1 (0.5)		195 (98.0)		3 (1.5)		0 (0.0)	
高学歴	101	0 (0.0)		97 (96.0)		3 (3.0)		1 (1.0)	

表VI-36

蜂 (ハチ) [205.]

	計	tj		z		tsuj		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	370 (91.4)		15 (3.7)		2 (0.5)		18 (4.4)	
男	181	157 (86.7)		12 (6.6)		1 (0.6)		11 (6.1)	
女	224	213 (95.1)		3 (1.3)		1 (0.4)		7 (3.1)	
15~19歳	47	46 (97.9)		0 (0.0)		0 (0.0)		1 (2.1)	
20~24歳	21	21 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	61 (93.8)		2 (3.1)		0 (0.0)		2 (3.1)	
35~44歳	100	92 (92.0)		4 (4.0)		0 (0.0)		4 (4.0)	
45~54歳	61	54 (88.5)		2 (3.3)		1 (1.6)		4 (6.6)	
55~69歳	111	96 (86.5)		7 (6.3)		1 (0.9)		7 (6.3)	
低学歴	105	88 (83.8)		8 (7.6)		1 (1.0)		8 (7.6)	
中学歴	199	187 (94.0)		5 (2.5)		0 (0.0)		7 (3.5)	
高学歴	101	95 (94.1)		2 (2.0)		1 (1.0)		3 (3.0)	

表VI-37

鳩 (ハト) [206.]

	計	t		d	
		人数	%	人数	%
全体	405	388 (95.8)		17 (4.2)	
男	181	171 (94.5)		10 (5.5)	
女	224	217 (96.9)		7 (3.1)	
15~19歳	47	47 (100.0)		0 (0.0)	
20~24歳	21	21 (100.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	65 (100.0)		0 (0.0)	
35~44歳	100	96 (96.0)		4 (4.0)	
45~54歳	61	58 (95.1)		3 (4.9)	
55~69歳	111	101 (91.0)		10 (9.0)	
低学歴	105	96 (91.4)		9 (8.6)	
中学歴	199	192 (96.5)		7 (3.5)	
高学歴	101	100 (99.0)		1 (1.0)	

表VI-38 猫 (ネコ) [207.]

	計	k		g	
		人数	%	人数	%
全体	405	373 (92.1)		32 (7.9)	
男	181	159 (87.8)		22 (12.2)	
女	224	214 (95.5)		10 (4.5)	
15~19歳	47	45 (95.7)		2 (4.3)	
20~24歳	21	21 (100.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	63 (96.9)		2 (3.1)	
35~44歳	100	93 (93.0)		7 (7.0)	
45~54歳	61	54 (88.5)		7 (11.5)	
55~69歳	111	97 (87.4)		14 (12.6)	
低学歴	105	95 (90.5)		10 (9.5)	
中学歴	199	182 (91.5)		17 (8.5)	
高学歴	101	96 (95.0)		5 (5.0)	

表VI-39 蛇 (ヘビ) [208.]

	計	x		F	
		人数	%	人数	%
全体	405	391 (96.5)		14 (3.5)	
男	181	170 (93.9)		11 (6.1)	
女	224	221 (98.7)		3 (1.3)	
15~19歳	47	47 (100.0)		0 (0.0)	
20~24歳	21	21 (100.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	65 (100.0)		0 (0.0)	
35~44歳	100	100 (100.0)		0 (0.0)	
45~54歳	61	59 (96.7)		2 (3.3)	
55~69歳	111	99 (89.2)		12 (10.8)	
低学歴	105	93 (88.6)		12 (11.4)	
中学歴	199	198 (99.5)		1 (0.5)	
高学歴	101	100 (99.0)		1 (1.0)	

表VI-40 窓 (マド) [209.]

	計	d		~d	
		人数	%	人数	%
全体	405	372 (91.9)		33 (8.1)	
男	181	165 (91.2)		16 (8.8)	
女	224	207 (92.4)		17 (7.6)	
15~19歳	47	47 (100.0)		0 (0.0)	
20~24歳	21	21 (100.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	65 (100.0)		0 (0.0)	
35~44歳	100	96 (96.0)		4 (4.0)	
45~54歳	61	58 (95.1)		3 (4.9)	
55~69歳	111	85 (76.6)		26 (23.4)	
低学歴	105	84 (80.0)		21 (20.0)	
中学歴	199	189 (95.0)		10 (5.0)	
高学歴	101	99 (98.0)		2 (2.0)	

表VI-41

旗 (ハタ) [210.]

	計	無記入		t		d	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	2 (0.5)		382 (94.3)		21 (5.2)	
男	181	1 (0.6)		168 (92.8)		12 (6.6)	
女	224	1 (0.4)		214 (95.5)		9 (4.0)	
15~19歳	47	0 (0.0)		46 (97.9)		1 (2.1)	
20~24歳	21	0 (0.0)		21 (100.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	0 (0.0)		65 (100.0)		0 (0.0)	
35~44歳	100	0 (0.0)		94 (94.0)		6 (6.0)	
45~54歳	61	1 (1.6)		56 (91.8)		4 (6.6)	
55~69歳	111	1 (0.9)		100 (90.1)		10 (9.0)	
低学歴	105	2 (1.9)		94 (89.5)		9 (8.6)	
中学歴	199	0 (0.0)		189 (95.0)		10 (5.0)	
高学歴	101	0 (0.0)		99 (98.0)		2 (2.0)	

表VI-42

鈴 (スズ) [211.]

	計	dz		~z		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	352 (86.9)		51 (12.6)		2 (0.5)	
男	181	157 (86.7)		23 (12.7)		1 (0.6)	
女	224	195 (87.1)		28 (12.5)		1 (0.4)	
15~19歳	47	47 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
20~24歳	21	21 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	63 (96.9)		1 (1.5)		1 (1.5)	
35~44歳	100	96 (96.0)		4 (4.0)		0 (0.0)	
45~54歳	61	56 (91.8)		4 (6.6)		1 (1.6)	
55~69歳	111	69 (62.2)		42 (37.8)		0 (0.0)	
低学歴	105	73 (69.5)		32 (30.5)		0 (0.0)	
中学歴	199	183 (92.0)		15 (7.5)		1 (0.5)	
高学歴	101	96 (95.0)		4 (4.0)		1 (1.0)	

表VI-43

帯 (オビ) [212.]

	計	b		~b	
		人数	%	人数	%
全体	405	351 (86.7)		54 (13.3)	
男	181	151 (83.4)		30 (16.6)	
女	224	200 (89.3)		24 (10.7)	
15~19歳	47	47 (100.0)		0 (0.0)	
20~24歳	21	21 (100.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	64 (98.5)		1 (1.5)	
35~44歳	100	94 (94.0)		6 (6.0)	
45~54歳	61	53 (86.9)		8 (13.1)	
55~69歳	111	72 (64.9)		39 (35.1)	
低学歴	105	76 (72.4)		29 (27.6)	
中学歴	199	183 (92.0)		16 (8.0)	
高学歴	101	92 (91.1)		9 (8.9)	

表VI-44 靴(クツ) [213.]

	計	ts		z		tsi	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	390 (96.3)		12 (3.0)		3 (0.7)	
男	181	169 (93.4)		9 (5.0)		3 (1.7)	
女	224	221 (98.7)		3 (1.3)		0 (0.0)	
15~19歳	47	45 (95.7)		2 (4.3)		0 (0.0)	
20~24歳	21	21 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	65 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
35~44歳	100	96 (96.0)		3 (3.0)		1 (1.0)	
45~54歳	61	57 (93.4)		3 (4.9)		1 (1.6)	
55~69歳	111	106 (95.5)		4 (3.6)		1 (0.9)	
低学歴	105	99 (94.3)		6 (5.7)		0 (0.0)	
中学歴	199	191 (96.0)		5 (2.5)		3 (1.5)	
高学歴	101	100 (99.0)		1 (1.0)		0 (0.0)	

表VI-45 柿(カキ) [214.]

	計	k		g		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	378 (93.3)		26 (6.4)		1 (0.2)	
男	181	160 (88.4)		20 (11.0)		1 (0.6)	
女	224	218 (97.3)		6 (2.7)		0 (0.0)	
15~19歳	47	45 (95.7)		2 (4.3)		0 (0.0)	
20~24歳	21	21 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	65 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
35~44歳	100	92 (92.0)		8 (8.0)		0 (0.0)	
45~54歳	61	57 (93.4)		4 (6.6)		0 (0.0)	
55~69歳	111	98 (88.3)		12 (10.8)		1 (0.9)	
低学歴	105	92 (87.6)		12 (11.4)		1 (1.0)	
中学歴	199	186 (93.5)		13 (6.5)		0 (0.0)	
高学歴	101	100 (99.0)		1 (1.0)		0 (0.0)	

表VI-46 松(マツ) [215.]

	計	ts		z		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	391 (96.5)		12 (3.0)		2 (0.5)	
男	181	172 (95.0)		8 (4.4)		1 (0.6)	
女	224	219 (97.8)		4 (1.8)		1 (0.4)	
15~19歳	47	47 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
20~24歳	21	21 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	65 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
35~44歳	100	93 (93.0)		7 (7.0)		0 (0.0)	
45~54歳	61	56 (91.8)		4 (6.6)		1 (1.6)	
55~69歳	111	109 (98.2)		1 (0.9)		1 (0.9)	
低学歴	105	101 (96.2)		3 (2.9)		1 (1.0)	
中学歴	199	191 (96.0)		7 (3.5)		1 (0.5)	
高学歴	101	99 (98.0)		2 (2.0)		0 (0.0)	

表VI-47

西瓜 (スイカ) [216.]

	計	無記入		k		g ^w , k ^w		g	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	1 (0.2)		385 (95.1)		4 (1.0)		15 (3.7)	
男	181	0 (0.0)		168 (92.8)		3 (1.7)		10 (5.5)	
女	224	1 (0.4)		217 (96.9)		1 (0.4)		5 (2.2)	
15~19歳	47	0 (0.0)		46 (97.9)		0 (0.0)		1 (2.1)	
20~24歳	21	0 (0.0)		21 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	0 (0.0)		65 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
35~44歳	100	0 (0.0)		95 (95.0)		1 (1.0)		4 (4.0)	
45~54歳	61	0 (0.0)		59 (96.7)		0 (0.0)		2 (3.3)	
55~69歳	111	1 (0.9)		99 (89.2)		3 (2.7)		8 (7.2)	
低学歴	105	0 (0.0)		95 (90.5)		3 (2.9)		7 (6.7)	
中学歴	199	1 (0.5)		189 (95.0)		1 (0.5)		8 (4.0)	
高学歴	101	0 (0.0)		101 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	

表VI-48

火曜日 (カヨウビ) [217.]

	計	k		k ^w	
		人数	%	人数	%
全体	405	404 (99.8)		1 (0.2)	
男	181	180 (99.4)		1 (0.6)	
女	224	224 (100.0)		0 (0.0)	
15~19歳	47	47 (100.0)		0 (0.0)	
20~24歳	21	21 (100.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	65 (100.0)		0 (0.0)	
35~44歳	100	100 (100.0)		0 (0.0)	
45~54歳	61	61 (100.0)		0 (0.0)	
55~69歳	111	110 (99.1)		1 (0.9)	
低学歴	105	104 (99.0)		1 (1.0)	
中学歴	199	199 (100.0)		0 (0.0)	
高学歴	101	101 (100.0)		0 (0.0)	

表VI-49

百 (ヒヤク) [218.]

	計	無記入		ç		F	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	1 (0.2)		372 (91.9)		32 (7.9)	
男	181	0 (0.0)		163 (90.1)		18 (9.9)	
女	224	1 (0.4)		209 (93.3)		14 (6.3)	
15~19歳	47	1 (2.1)		46 (97.9)		0 (0.0)	
20~24歳	21	0 (0.0)		21 (100.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	0 (0.0)		65 (100.0)		0 (0.0)	
35~44歳	100	0 (0.0)		99 (99.0)		1 (1.0)	
45~54歳	61	0 (0.0)		57 (93.4)		4 (6.6)	
55~69歳	111	0 (0.0)		84 (75.7)		27 (24.3)	
低学歴	105	0 (0.0)		84 (80.0)		21 (20.0)	
中学歴	199	1 (0.5)		188 (94.5)		10 (5.0)	
高学歴	101	0 (0.0)		100 (99.0)		1 (1.0)	

表VI-50 税務署 (ゼイムシヨ) [219.]

	計	無記入		dz		z	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	2 (0.5)		399 (98.5)		4 (1.0)	
男	181	0 (0.0)		178 (98.3)		3 (1.7)	
女	224	2 (0.9)		221 (98.7)		1 (0.4)	
15~19歳	47	0 (0.0)		47 (100.0)		0 (0.0)	
20~24歳	21	0 (0.0)		20 (95.2)		1 (4.8)	
25~34歳	65	0 (0.0)		65 (100.0)		0 (0.0)	
35~44歳	100	1 (1.0)		99 (99.0)		0 (0.0)	
45~54歳	61	1 (1.6)		60 (98.4)		0 (0.0)	
55~69歳	111	0 (0.0)		108 (97.3)		3 (2.7)	
低学歴	105	2 (1.9)		101 (96.2)		2 (1.9)	
中学歴	199	0 (0.0)		197 (99.0)		2 (1.0)	
高学歴	101	0 (0.0)		101 (100.0)		0 (0.0)	

表VI-51 息 (イキ) [220.]

	計	i		e		i	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	344 (84.9)		24 (5.9)		37 (9.1)	
男	181	147 (81.2)		13 (7.2)		21 (11.6)	
女	224	197 (87.9)		11 (4.9)		16 (7.1)	
15~19歳	47	47 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
20~24歳	21	20 (95.2)		1 (4.8)		0 (0.0)	
25~34歳	65	64 (98.5)		0 (0.0)		1 (1.5)	
35~44歳	100	95 (95.0)		0 (0.0)		5 (5.0)	
45~54歳	61	49 (80.3)		3 (4.9)		9 (14.8)	
55~69歳	111	69 (62.2)		20 (18.0)		22 (19.8)	
低学歴	105	63 (60.0)		17 (16.2)		25 (23.8)	
中学歴	199	185 (93.0)		5 (2.5)		9 (4.5)	
高学歴	101	96 (95.0)		2 (2.0)		3 (3.0)	

表VI-52 駅 (エキ) [221.]

	計	e		e		i		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	343 (84.7)		53 (13.1)		3 (0.7)		6 (1.5)	
男	181	145 (80.1)		31 (17.1)		2 (1.1)		3 (1.7)	
女	224	198 (88.4)		22 (9.8)		1 (0.4)		3 (1.3)	
15~19歳	47	46 (97.9)		1 (2.1)		0 (0.0)		0 (0.0)	
20~24歳	21	20 (95.2)		1 (4.8)		0 (0.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	61 (93.8)		3 (4.6)		0 (0.0)		1 (1.5)	
35~44歳	100	91 (91.0)		8 (8.0)		0 (0.0)		1 (1.0)	
45~54歳	61	49 (80.3)		12 (19.7)		0 (0.0)		0 (0.0)	
55~69歳	111	76 (68.5)		28 (25.2)		3 (2.7)		4 (3.6)	
低学歴	105	76 (72.4)		24 (22.9)		2 (1.9)		3 (2.9)	
中学歴	199	177 (88.9)		19 (9.5)		1 (0.5)		2 (1.0)	
高学歴	101	90 (89.1)		10 (9.9)		0 (0.0)		1 (1.0)	

表VI-53

糸 (イト) [222.]

	計	i		e		i	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	375 (92.6)		9 (2.2)		21 (5.2)	
男	181	163 (90.1)		6 (3.3)		12 (6.6)	
女	224	212 (94.6)		3 (1.3)		9 (4.0)	
15~19歳	47	47 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
20~24歳	21	20 (95.2)		0 (0.0)		1 (4.8)	
25~34歳	65	64 (98.5)		0 (0.0)		1 (1.5)	
35~44歳	100	97 (97.0)		0 (0.0)		3 (3.0)	
45~54歳	61	57 (93.4)		0 (0.0)		4 (6.6)	
55~69歳	111	90 (81.1)		9 (8.1)		12 (10.8)	
低学歴	105	86 (81.9)		7 (6.7)		12 (11.4)	
中学歴	199	191 (96.0)		2 (1.0)		6 (3.0)	
高学歴	101	98 (97.0)		0 (0.0)		3 (3.0)	

表VI-54

煙突 (エントツ) [223.]

	計	e		e		i		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	360 (88.9)		37 (9.1)		3 (0.7)		5 (1.2)	
男	181	156 (86.2)		21 (11.6)		2 (1.1)		2 (1.1)	
女	224	204 (91.1)		16 (7.1)		1 (0.4)		3 (1.3)	
15~19歳	47	47 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
20~24歳	21	19 (90.5)		1 (4.8)		0 (0.0)		1 (4.8)	
25~34歳	65	64 (98.5)		1 (1.5)		0 (0.0)		0 (0.0)	
35~44歳	100	98 (98.0)		2 (2.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
45~54歳	61	52 (85.2)		8 (13.1)		1 (1.6)		0 (0.0)	
55~69歳	111	80 (72.1)		25 (22.5)		2 (1.8)		4 (3.6)	
低学歴	105	79 (75.2)		21 (20.0)		1 (1.0)		4 (3.8)	
中学歴	199	185 (93.0)		11 (5.5)		2 (1.0)		1 (0.5)	
高学歴	101	96 (95.0)		5 (5.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	

表VI-55

知事 (チジ) [224.]

	計	無記入		dʒi		zi		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	2 (0.5)		283 (69.9)		116 (28.6)		4 (1.0)	
男	181	0 (0.0)		117 (64.6)		63 (34.8)		1 (0.6)	
女	224	2 (0.9)		166 (74.1)		53 (23.7)		3 (1.3)	
15~19歳	47	1 (2.1)		42 (89.4)		4 (8.5)		0 (0.0)	
20~24歳	21	0 (0.0)		18 (85.7)		3 (14.3)		0 (0.0)	
25~34歳	65	0 (0.0)		58 (89.2)		7 (10.8)		0 (0.0)	
35~44歳	100	1 (1.0)		80 (80.0)		19 (19.0)		0 (0.0)	
45~54歳	61	0 (0.0)		37 (60.7)		23 (37.7)		1 (1.6)	
55~69歳	111	0 (0.0)		48 (43.2)		60 (54.1)		3 (2.7)	
低学歴	105	2 (1.9)		43 (41.0)		57 (54.3)		3 (2.9)	
中学歴	199	0 (0.0)		154 (77.4)		44 (22.1)		1 (0.5)	
高学歴	101	0 (0.0)		86 (85.1)		15 (14.9)		0 (0.0)	

表VI-56 地図 (チズ) [225.]

	計	dzur		zi		dzur + zi		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	365 (90.1)		38 (9.4)		1 (0.2)		1 (0.2)	
男	181	156 (86.2)		23 (12.7)		1 (0.6)		1 (0.6)	
女	224	209 (93.3)		15 (6.7)		0 (0.0)		0 (0.0)	
15～19歳	47	46 (97.9)		1 (2.1)		0 (0.0)		0 (0.0)	
20～24歳	21	21 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
25～34歳	65	65 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
35～44歳	100	97 (97.0)		3 (3.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
45～54歳	61	54 (88.5)		6 (9.8)		0 (0.0)		1 (1.6)	
55～69歳	111	82 (73.9)		28 (25.2)		1 (0.9)		0 (0.0)	
低学歴	105	78 (74.3)		27 (25.7)		0 (0.0)		0 (0.0)	
中学歴	199	186 (93.5)		11 (5.5)		1 (0.5)		1 (0.5)	
高学歴	101	101 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	

表VI-57 島 (シマ) [226.]

	計	ji		si		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	331 (81.7)		73 (18.0)		1 (0.2)	
男	181	139 (76.8)		41 (22.7)		1 (0.6)	
女	224	192 (85.7)		32 (14.3)		0 (0.0)	
15～19歳	47	47 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
20～24歳	21	20 (95.2)		1 (4.8)		0 (0.0)	
25～34歳	65	61 (93.8)		4 (6.2)		0 (0.0)	
35～44歳	100	86 (86.0)		14 (14.0)		0 (0.0)	
45～54歳	61	49 (80.3)		12 (19.7)		0 (0.0)	
55～69歳	111	68 (61.3)		42 (37.8)		1 (0.9)	
低学歴	105	62 (59.0)		43 (41.0)		0 (0.0)	
中学歴	199	177 (88.9)		21 (10.6)		1 (0.5)	
高学歴	101	92 (91.1)		9 (8.9)		0 (0.0)	

表VI-58 墨 (スミ) [227.]

	計	無記入		suu		si	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	1 (0.2)		377 (93.1)		27 (6.7)	
男	181	0 (0.0)		167 (92.3)		14 (7.7)	
女	224	1 (0.4)		210 (93.8)		13 (5.8)	
15～19歳	47	0 (0.0)		47 (100.0)		0 (0.0)	
20～24歳	21	0 (0.0)		21 (100.0)		0 (0.0)	
25～34歳	65	1 (1.5)		64 (98.5)		0 (0.0)	
35～44歳	100	0 (0.0)		98 (98.0)		2 (2.0)	
45～54歳	61	0 (0.0)		53 (86.9)		8 (13.1)	
55～69歳	111	0 (0.0)		94 (84.7)		17 (15.3)	
低学歴	105	0 (0.0)		87 (82.9)		18 (17.1)	
中学歴	199	1 (0.5)		189 (95.0)		9 (4.5)	
高学歴	101	0 (0.0)		101 (100.0)		0 (0.0)	

表VI-59

烏 (カラス) [228.]

	計	無記入		suu		si	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	1	(0.2)	382	(94.3)	22	(5.4)
男	181	1	(0.6)	168	(92.8)	12	(6.6)
女	224	0	(0.0)	214	(95.5)	10	(4.5)
15~19歳	47	0	(0.0)	46	(97.9)	1	(2.1)
20~24歳	21	0	(0.0)	21	(100.0)	0	(0.0)
25~34歳	65	0	(0.0)	65	(100.0)	0	(0.0)
35~44歳	100	0	(0.0)	100	(100.0)	0	(0.0)
45~54歳	61	1	(1.6)	53	(86.9)	7	(11.5)
55~69歳	111	0	(0.0)	97	(87.4)	14	(12.6)
低学歴	105	0	(0.0)	87	(82.9)	18	(17.1)
中学歴	199	1	(0.5)	194	(97.5)	4	(2.0)
高学歴	101	0	(0.0)	101	(100.0)	0	(0.0)

表VI-60

辛子 (カラシ) [229.]

	計	無記入		ji		si		suu		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	1	(0.2)	297	(73.3)	95	(23.5)	9	(2.2)	3	(0.7)
男	181	1	(0.6)	123	(68.0)	49	(27.1)	7	(3.9)	1	(0.6)
女	224	0	(0.0)	174	(77.7)	46	(20.5)	2	(0.9)	2	(0.9)
15~19歳	47	0	(0.0)	46	(97.9)	1	(2.1)	0	(0.0)	0	(0.0)
20~24歳	21	1	(4.8)	20	(95.2)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
25~34歳	65	0	(0.0)	61	(93.8)	4	(6.2)	0	(0.0)	0	(0.0)
35~44歳	100	0	(0.0)	81	(81.0)	17	(17.0)	1	(1.0)	1	(1.0)
45~54歳	61	0	(0.0)	39	(63.9)	20	(32.8)	2	(3.3)	0	(0.0)
55~69歳	111	0	(0.0)	50	(45.0)	53	(47.7)	6	(5.4)	2	(1.8)
低学歴	105	0	(0.0)	46	(43.8)	53	(50.5)	4	(3.8)	2	(1.9)
中学歴	199	1	(0.5)	161	(80.9)	31	(15.6)	5	(2.5)	1	(0.5)
高学歴	101	0	(0.0)	90	(89.1)	11	(10.9)	0	(0.0)	0	(0.0)

表VI-61

狐 (キツネ) [230.]

	計	無記入		tsuu		zi	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	1	(0.2)	388	(95.8)	16	(4.0)
男	181	1	(0.6)	172	(95.0)	8	(4.4)
女	224	0	(0.0)	216	(96.4)	8	(3.6)
15~19歳	47	1	(2.1)	46	(97.9)	0	(0.0)
20~24歳	21	0	(0.0)	21	(100.0)	0	(0.0)
25~34歳	65	0	(0.0)	65	(100.0)	0	(0.0)
35~44歳	100	0	(0.0)	97	(97.0)	3	(3.0)
45~54歳	61	0	(0.0)	56	(91.8)	5	(8.2)
55~69歳	111	0	(0.0)	103	(92.8)	8	(7.2)
低学歴	105	0	(0.0)	94	(89.5)	11	(10.5)
中学歴	199	1	(0.5)	193	(97.0)	5	(2.5)
高学歴	101	0	(0.0)	101	(100.0)	0	(0.0)

表VI-62 団扇(ウチワ) [231.]

	計	無記入		i		i		iii		iii		zi	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	6 (1.5)		322 (79.5)		73 (18.0)		2 (0.5)		1 (0.2)		1 (0.2)	
男	181	2 (1.1)		137 (75.7)		39 (21.5)		2 (1.1)		1 (0.6)		0 (0.0)	
女	224	4 (1.8)		185 (82.6)		34 (15.2)		0 (0.0)		0 (0.0)		1 (0.4)	
15~19歳	47	0 (0.0)		46 (97.9)		1 (2.1)		0 (0.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
20~24歳	21	1 (4.8)		19 (90.5)		1 (4.8)		0 (0.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
25~34歳	65	1 (1.5)		61 (93.8)		2 (3.1)		0 (0.0)		0 (0.0)		1 (1.5)	
35~44歳	100	2 (2.0)		87 (87.0)		11 (11.0)		0 (0.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
45~54歳	61	0 (0.0)		45 (73.8)		15 (24.6)		0 (0.0)		1 (1.6)		0 (0.0)	
55~69歳	111	2 (1.8)		64 (57.7)		43 (38.7)		2 (1.8)		0 (0.0)		0 (0.0)	
低学歴	105	1 (1.0)		61 (58.1)		41 (39.0)		2 (1.9)		0 (0.0)		0 (0.0)	
中学歴	199	4 (2.0)		169 (84.9)		25 (12.6)		0 (0.0)		0 (0.0)		1 (0.5)	
高学歴	101	1 (1.0)		92 (91.1)		7 (6.9)		0 (0.0)		1 (1.0)		0 (0.0)	

表VI-63

背中 (セナカ) [203a.]

	計	無記入		○○●		○○○		●○○		●●○		○○●		複数回答			
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
全体	405	2	(0.5)	148	(36.5)	219	(54.1)	12	(3.0)	14	(3.5)	5	(1.2)	2	(0.5)	3	(0.7)
男	181	0	(0.0)	67	(37.0)	102	(56.4)	3	(1.7)	7	(3.9)	0	(0.0)	1	(0.6)	1	(0.6)
女	224	2	(0.9)	81	(36.2)	117	(52.2)	9	(4.0)	7	(3.1)	5	(2.2)	1	(0.4)	2	(0.9)
15~19歳	47	0	(0.0)	24	(51.1)	20	(42.6)	2	(4.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(2.1)
20~24歳	21	1	(4.8)	12	(57.1)	6	(28.6)	1	(4.8)	1	(4.8)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
25~34歳	65	0	(0.0)	34	(52.3)	24	(36.9)	4	(6.2)	1	(1.5)	1	(1.5)	1	(1.5)	0	(0.0)
35~44歳	100	0	(0.0)	30	(30.0)	61	(61.0)	2	(2.0)	4	(4.0)	2	(2.0)	0	(0.0)	1	(1.0)
45~54歳	61	1	(1.6)	17	(27.9)	38	(62.3)	2	(3.3)	1	(1.6)	1	(1.6)	0	(0.0)	1	(1.6)
55~69歳	111	0	(0.0)	31	(27.9)	70	(63.1)	1	(0.9)	7	(6.3)	1	(0.9)	1	(0.9)	0	(0.0)
低学歴	105	0	(0.0)	33	(31.4)	68	(64.8)	2	(1.9)	2	(1.9)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
中学歴	199	1	(0.5)	72	(36.2)	112	(56.3)	5	(2.5)	6	(3.0)	2	(1.0)	0	(0.0)	1	(0.5)
高学歴	101	1	(1.0)	43	(42.6)	39	(38.6)	5	(5.0)	6	(5.9)	3	(3.0)	2	(2.0)	2	(2.0)

表VI-64

猫 (ネコ) [207a.]

	計	無記入		●○		○●		○○		●○+○●	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	4	(1.0)	258	(63.7)	130	(32.1)	9	(2.2)	4	(1.0)
男	181	2	(1.1)	108	(59.7)	64	(35.4)	5	(2.8)	2	(1.1)
女	224	2	(0.9)	150	(67.0)	66	(29.5)	4	(1.8)	2	(0.9)
15~19歳	47	0	(0.0)	43	(91.5)	3	(6.4)	0	(0.0)	1	(2.1)
20~24歳	21	0	(0.0)	17	(81.0)	4	(19.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
25~34歳	65	0	(0.0)	57	(87.7)	8	(12.3)	0	(0.0)	0	(0.0)
35~44歳	100	1	(1.0)	63	(63.0)	34	(34.0)	1	(1.0)	1	(1.0)
45~54歳	61	3	(4.9)	25	(41.0)	29	(47.5)	3	(4.9)	1	(1.6)
55~69歳	111	0	(0.0)	53	(47.7)	52	(46.8)	5	(4.5)	1	(0.9)
低学歴	105	0	(0.0)	51	(48.6)	49	(46.7)	4	(3.8)	1	(1.0)
中学歴	199	3	(1.5)	133	(66.8)	58	(29.1)	3	(1.5)	2	(1.0)
高学歴	101	1	(1.0)	74	(73.3)	23	(22.8)	2	(2.0)	1	(1.0)

表VI-65

旗 (ハタ) [210a.]

	計	無記入		○●		○○, ●○		複数回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	4	(1.0)	193	(47.7)	203	(50.1)	5	(1.2)
男	181	2	(1.1)	83	(45.9)	93	(51.4)	3	(1.7)
女	224	2	(0.9)	110	(49.1)	110	(49.1)	2	(0.9)
15~19歳	47	0	(0.0)	27	(57.4)	18	(38.3)	2	(4.3)
20~24歳	21	0	(0.0)	13	(61.9)	8	(38.1)	0	(0.0)
25~34歳	65	0	(0.0)	40	(61.5)	25	(38.5)	0	(0.0)
35~44歳	100	1	(1.0)	48	(48.0)	50	(50.0)	1	(1.0)
45~54歳	61	1	(1.6)	27	(44.3)	33	(54.1)	0	(0.0)
55~69歳	111	2	(1.8)	38	(34.2)	69	(62.2)	2	(1.8)
低学歴	105	1	(1.0)	38	(36.2)	63	(60.0)	3	(2.9)
中学歴	199	3	(1.5)	106	(53.3)	89	(44.7)	1	(0.5)
高学歴	101	0	(0.0)	49	(48.5)	51	(50.5)	1	(1.0)

表VI-66 烏 (カラス) [228a.]

	計	無記入		●○○		○○○		○○●		○○○		●○○		●●○		○○●		複数回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	2 (0.5)		221 (54.6)		156 (38.5)		2 (0.5)		2 (0.5)		16 (4.0)		2 (0.5)		4 (1.0)			
男	181	0 (0.0)		101 (55.8)		74 (40.9)		1 (0.6)		2 (1.1)		0 (0.0)		3 (1.7)					
女	224	2 (0.9)		120 (53.6)		82 (36.6)		1 (0.4)		14 (6.3)		2 (0.9)		1 (0.4)					
15~19歳	47	0 (0.0)		42 (89.4)		4 (8.5)		0 (0.0)		1 (2.1)		0 (0.0)		0 (0.0)					
20~24歳	21	0 (0.0)		16 (76.2)		3 (14.3)		0 (0.0)		2 (9.5)		0 (0.0)		0 (0.0)					
25~34歳	65	0 (0.0)		49 (75.4)		14 (21.5)		1 (1.5)		0 (0.0)		1 (1.5)		0 (0.0)					
35~44歳	100	0 (0.0)		57 (57.0)		38 (38.0)		1 (1.0)		1 (1.0)		1 (1.0)		2 (2.0)					
45~54歳	61	2 (3.3)		23 (37.7)		29 (47.5)		2 (3.3)		4 (6.6)		0 (0.0)		1 (1.6)					
55~69歳	111	0 (0.0)		34 (30.6)		68 (61.3)		0 (0.0)		8 (7.2)		0 (0.0)		1 (0.9)					
低学歴	105	0 (0.0)		31 (29.5)		66 (62.9)		0 (0.0)		5 (4.8)		1 (1.0)		2 (1.9)					
中学歴	199	1 (0.5)		119 (59.8)		69 (34.7)		1 (0.5)		6 (3.0)		1 (0.5)		1 (0.5)					
高学歴	101	1 (1.0)		71 (70.3)		21 (20.8)		1 (1.0)		5 (5.0)		0 (0.0)		1 (1.0)					

表VI-67 団扇 (ウチワ) [231a.]

	計	無記入		○○○		○○●		○○○		○○●		●○○		●●○		複数回答			
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
全体	405	3 (0.7)		92 (22.7)		170 (42.0)		39 (9.6)		92 (22.7)		5 (1.2)		2 (0.5)		2 (0.5)			
男	181	2 (1.1)		50 (27.6)		72 (39.8)		19 (10.5)		35 (19.3)		2 (1.1)		1 (0.6)					
女	224	1 (0.4)		42 (18.8)		98 (43.8)		20 (8.9)		57 (25.4)		3 (1.3)		1 (0.4)					
15~19歳	47	0 (0.0)		10 (21.3)		12 (25.5)		5 (10.6)		19 (40.4)		0 (0.0)		1 (2.1)					
20~24歳	21	1 (4.8)		5 (23.8)		7 (33.3)		1 (4.8)		5 (23.8)		2 (9.5)		0 (0.0)					
25~34歳	65	1 (1.5)		24 (36.9)		17 (26.2)		4 (6.2)		18 (27.7)		1 (1.5)		0 (0.0)					
35~44歳	100	1 (1.0)		27 (27.0)		38 (38.0)		11 (11.0)		22 (22.0)		0 (0.0)		1 (1.0)					
45~54歳	61	0 (0.0)		11 (18.0)		30 (49.2)		7 (11.5)		12 (19.7)		1 (1.6)		0 (0.0)					
55~69歳	111	0 (0.0)		15 (13.5)		66 (59.5)		11 (9.9)		16 (14.4)		1 (0.9)		2 (1.8)					
低学歴	105	0 (0.0)		14 (13.3)		64 (61.0)		10 (9.5)		16 (15.2)		0 (0.0)		0 (0.0)					
中学歴	199	1 (0.5)		50 (25.1)		77 (38.7)		20 (10.1)		47 (23.6)		2 (1.0)		1 (0.5)					
高学歴	101	2 (2.0)		28 (27.7)		29 (28.7)		9 (8.9)		29 (28.7)		3 (3.0)		1 (1.0)					

表VI-68

「いつも」遅れてくる [241.]

	計	無記入		イツモ		シヨツチュウ		トース		複数回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	3	(0.7)	319	(78.8)	31	(7.7)	7	(1.7)	40	(9.9)
男	181	2	(1.1)	134	(74.0)	16	(8.8)	6	(3.3)	20	(11.0)
女	224	1	(0.4)	185	(82.6)	15	(6.7)	1	(0.4)	20	(8.9)
15~19歳	47	0	(0.0)	44	(93.6)	2	(4.3)	0	(0.0)	1	(2.1)
20~24歳	21	1	(4.8)	18	(85.7)	1	(4.8)	0	(0.0)	1	(4.8)
25~34歳	65	0	(0.0)	50	(76.9)	10	(15.4)	0	(0.0)	4	(6.2)
35~44歳	100	0	(0.0)	84	(84.0)	7	(7.0)	0	(0.0)	7	(7.0)
45~54歳	61	1	(1.6)	48	(78.7)	5	(8.2)	0	(0.0)	6	(9.8)
55~69歳	111	1	(0.9)	75	(67.6)	6	(5.4)	7	(6.3)	21	(18.9)
低学歴	105	1	(1.0)	77	(73.3)	7	(6.7)	3	(2.9)	17	(16.2)
中学歴	199	1	(0.5)	164	(82.4)	16	(8.0)	3	(1.5)	14	(7.0)
高学歴	101	1	(1.0)	78	(77.2)	8	(7.9)	1	(1.0)	9	(8.9)

表VI-69

「留守番」 [242.]

	計	無記入		ルスバン		ルスイ		ヨスリ		ルス		複数回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	6	(1.5)	363	(89.6)	10	(2.5)	8	(2.0)	10	(2.5)	2	(0.5)
男	181	5	(2.8)	160	(88.4)	2	(1.1)	3	(1.7)	5	(2.8)	2	(1.1)
女	224	1	(0.4)	203	(90.6)	8	(3.6)	5	(2.2)	5	(2.2)	0	(0.0)
15~19歳	47	0	(0.0)	46	(97.9)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(2.1)	0	(0.0)
20~24歳	21	0	(0.0)	21	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
25~34歳	65	1	(1.5)	60	(92.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(3.1)	0	(0.0)
35~44歳	100	1	(1.0)	95	(95.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(2.0)	1	(1.0)
45~54歳	61	1	(1.6)	53	(86.9)	2	(3.3)	2	(3.3)	2	(3.3)	0	(0.0)
55~69歳	111	3	(2.7)	88	(79.3)	8	(7.2)	6	(5.4)	3	(2.7)	1	(0.9)
低学歴	105	3	(2.9)	85	(81.0)	4	(3.8)	7	(6.7)	3	(2.9)	0	(0.0)
中学歴	199	2	(1.0)	185	(93.0)	4	(2.0)	1	(0.5)	4	(2.0)	1	(0.5)
高学歴	101	1	(1.0)	93	(92.1)	2	(2.0)	0	(0.0)	3	(3.0)	1	(1.0)

表VI-70

「いらっしやい」 [243.]

	計	無記入		イラッシャイ		キテクダサイ		オイデクダサイ		ゴザヘ		オハイルクダサイ		複数回答		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	2	(0.5)	143	(35.3)	62	(15.3)	57	(14.1)	5	(1.2)	14	(3.5)	43	(10.6)	79	(19.5)
男	181	2	(1.1)	54	(29.8)	33	(18.2)	24	(13.3)	1	(0.6)	2	(1.1)	23	(12.7)	42	(23.2)
女	224	0	(0.0)	89	(39.7)	29	(12.9)	33	(14.7)	4	(1.8)	12	(5.4)	20	(8.9)	37	(16.5)
15~19歳	47	0	(0.0)	23	(48.9)	13	(27.7)	3	(6.4)	0	(0.0)	1	(2.1)	2	(4.3)	5	(10.6)
20~24歳	21	0	(0.0)	10	(47.6)	6	(28.6)	1	(4.8)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	4	(19.0)
25~34歳	65	0	(0.0)	32	(49.2)	9	(13.8)	6	(9.2)	0	(0.0)	4	(6.2)	6	(9.2)	8	(12.3)
35~44歳	100	0	(0.0)	34	(34.0)	12	(12.0)	18	(18.0)	1	(1.0)	3	(3.0)	12	(12.0)	20	(20.0)
45~54歳	61	1	(1.6)	26	(42.6)	8	(13.1)	9	(14.8)	1	(1.6)	1	(1.6)	5	(8.2)	10	(16.4)
55~69歳	111	1	(0.9)	18	(16.2)	14	(12.6)	20	(18.0)	3	(2.7)	5	(4.5)	18	(16.2)	32	(28.8)
低学歴	105	1	(1.0)	26	(24.8)	16	(15.2)	9	(8.6)	2	(1.9)	4	(3.8)	13	(12.4)	34	(32.4)
中学歴	199	0	(0.0)	70	(35.2)	35	(17.6)	30	(15.1)	1	(0.5)	8	(4.0)	20	(10.1)	35	(17.6)
高学歴	101	1	(1.0)	47	(46.5)	11	(10.9)	18	(17.8)	2	(2.0)	2	(2.0)	10	(9.9)	10	(9.9)

表VI-71 「もう(歩けない)」 [244.]

	計	無記入		モー		アド		複数回答		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	7	(1.7)	199	(49.1)	185	(45.7)	12	(3.0)	2	(0.5)
男	181	2	(1.1)	54	(29.8)	33	(18.2)	24	(13.3)	1	(0.6)
女	224	0	(0.0)	89	(39.7)	29	(12.9)	33	(14.7)	4	(1.8)
15~19歳	47	0	(0.0)	23	(48.9)	13	(27.7)	3	(6.4)	0	(0.0)
20~24歳	21	0	(0.0)	10	(47.6)	6	(28.6)	1	(4.8)	0	(0.0)
25~34歳	65	0	(0.0)	32	(49.2)	9	(13.8)	6	(9.2)	0	(0.0)
35~44歳	100	0	(0.0)	34	(34.0)	12	(12.0)	18	(18.0)	1	(1.0)
45~54歳	61	1	(1.6)	26	(42.6)	8	(13.1)	9	(14.8)	1	(1.6)
55~69歳	111	1	(0.9)	18	(16.2)	14	(12.6)	20	(18.0)	3	(2.7)
低学歴	105	1	(1.0)	26	(24.8)	16	(15.2)	9	(8.6)	2	(1.9)
中学歴	199	0	(0.0)	70	(35.2)	35	(17.6)	30	(15.1)	1	(0.5)
高学歴	101	1	(1.0)	47	(46.5)	11	(10.9)	18	(17.8)	2	(2.0)

表VI-72 急に声を掛けられたとき [245.]

	計	無回答		オドロイタ		ビックリシタ		オボゲダ		ハトモタ		タマゲタ		複数回答		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	6	(1.5)	16	(4.0)	315	(77.8)	20	(4.9)	22	(5.4)	4	(1.0)	17	(4.2)	5	(1.2)
男	181	5	(2.8)	6	(3.3)	133	(73.5)	11	(6.1)	11	(6.1)	2	(1.1)	9	(5.0)	4	(2.2)
女	224	1	(0.4)	10	(4.5)	182	(81.3)	9	(4.0)	11	(4.9)	2	(0.9)	8	(3.6)	1	(0.4)
15~19歳	47	2	(4.3)	1	(2.1)	42	(89.4)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(4.3)
20~24歳	21	0	(0.0)	1	(4.8)	17	(81.0)	0	(0.0)	1	(4.8)	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(9.5)
25~34歳	65	0	(0.0)	3	(4.6)	58	(89.2)	0	(0.0)	3	(4.6)	0	(0.0)	1	(1.5)	0	(0.0)
35~44歳	100	1	(1.0)	4	(4.0)	85	(85.0)	0	(0.0)	5	(5.0)	1	(1.0)	4	(4.0)	0	(0.0)
45~54歳	61	2	(3.3)	1	(1.6)	46	(75.4)	4	(6.6)	4	(6.6)	0	(0.0)	4	(6.6)	0	(0.0)
55~69歳	111	1	(0.9)	6	(5.4)	67	(60.4)	16	(14.4)	9	(8.1)	3	(2.7)	8	(7.2)	1	(0.9)
低学歴	105	2	(1.9)	5	(4.8)	74	(70.5)	11	(10.5)	9	(8.6)	1	(1.0)	3	(2.9)	0	(0.0)
中学歴	199	3	(1.5)	5	(2.5)	164	(82.4)	4	(2.0)	10	(5.0)	1	(0.5)	10	(5.0)	2	(1.0)
高学歴	101	1	(1.0)	6	(5.9)	77	(76.2)	5	(5.0)	3	(3.0)	2	(2.0)	4	(4.0)	3	(3.0)

表VI-73 人前で失敗したとき [246.]

	計	無記入		ハズカシイ		シヨースー		複数回答		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	4	(1.0)	350	(86.4)	22	(5.4)	21	(5.2)	8	(2.0)
男	181	3	(1.7)	149	(82.3)	15	(8.3)	9	(5.0)	5	(2.8)
女	224	1	(0.4)	201	(89.7)	7	(3.1)	12	(5.4)	3	(1.3)
15~19歳	47	1	(2.1)	44	(93.6)	1	(2.1)	1	(2.1)	0	(0.0)
20~24歳	21	1	(4.8)	18	(85.7)	2	(9.5)	0	(0.0)	0	(0.0)
25~34歳	65	0	(0.0)	59	(90.8)	2	(3.1)	1	(1.5)	3	(4.6)
35~44歳	100	0	(0.0)	87	(87.0)	4	(4.0)	7	(7.0)	2	(2.0)
45~54歳	61	1	(1.6)	55	(90.2)	2	(3.3)	2	(3.3)	1	(1.6)
55~69歳	111	1	(0.9)	87	(78.4)	11	(9.9)	10	(9.0)	2	(1.8)
低学歴	105	0	(0.0)	85	(81.0)	11	(10.5)	7	(6.7)	2	(1.9)
中学歴	199	3	(1.5)	175	(87.9)	9	(4.5)	8	(4.0)	4	(2.0)
高学歴	101	1	(1.0)	90	(89.1)	2	(2.0)	6	(5.9)	2	(2.0)

表VI-74

物を「与える」 [247.]

	計	無記入		ケル		ケル		ケル		アゲル		ヤル		クレヤル		複数回答		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	2	(0.5)	32	(7.9)	51	(12.6)	66	(16.3)	139	(34.3)	20	(4.9)	1	(0.2)	87	(21.5)	7	(1.7)
男	181	2	(1.1)	23	(12.7)	26	(14.4)	39	(21.5)	36	(19.9)	13	(7.2)	1	(0.6)	39	(21.5)	2	(1.1)
女	224	0	(0.0)	9	(4.0)	25	(11.2)	27	(12.1)	103	(46.0)	7	(3.1)	0	(0.0)	48	(21.4)	5	(2.2)
15~19歳	47	0	(0.0)	0	(0.0)	7	(14.9)	11	(23.4)	17	(36.2)	2	(4.3)	0	(0.0)	9	(19.1)	1	(2.1)
20~24歳	21	1	(4.8)	1	(4.8)	3	(14.3)	2	(9.5)	9	(42.9)	1	(4.8)	0	(0.0)	4	(19.0)	0	(0.0)
25~34歳	65	0	(0.0)	2	(3.1)	13	(20.0)	8	(12.3)	27	(41.5)	2	(3.1)	0	(0.0)	12	(18.5)	1	(1.5)
35~44歳	100	0	(0.0)	10	(10.0)	8	(8.0)	15	(15.0)	33	(33.0)	4	(4.0)	0	(0.0)	27	(27.0)	3	(3.0)
45~54歳	61	1	(1.6)	5	(8.2)	8	(13.1)	9	(14.8)	21	(34.4)	7	(11.5)	0	(0.0)	9	(14.8)	1	(1.6)
55~69歳	111	0	(0.0)	14	(12.6)	12	(10.8)	21	(18.9)	32	(28.8)	4	(3.6)	1	(0.9)	26	(23.4)	1	(0.9)
低学歴	105	0	(0.0)	10	(9.5)	13	(12.4)	29	(27.6)	31	(29.5)	2	(1.9)	1	(1.0)	18	(17.1)	1	(1.0)
中学歴	199	0	(0.0)	15	(7.5)	28	(14.1)	30	(15.1)	70	(35.2)	9	(4.5)	0	(0.0)	42	(21.1)	5	(2.5)
高学歴	101	2	(2.0)	7	(6.9)	10	(9.9)	7	(6.9)	38	(37.6)	9	(8.9)	0	(0.0)	27	(26.7)	1	(1.0)

表VI-75

冬、軒先に下がる氷の棒 [248.]

	計	無記入		ツララ		シガ・スガ		ケル		アゲル	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	1	(0.2)	327	(80.7)	50	(12.3)	22	(5.4)	5	(1.2)
男	181	1	(0.6)	137	(75.7)	30	(16.6)	12	(6.6)	1	(0.6)
女	224	0	(0.0)	190	(84.8)	20	(8.9)	10	(4.5)	4	(1.8)
15~19歳	47	0	(0.0)	47	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
20~24歳	21	0	(0.0)	20	(95.2)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(4.8)
25~34歳	65	0	(0.0)	65	(100.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
35~44歳	100	0	(0.0)	93	(93.0)	2	(2.0)	5	(5.0)	0	(0.0)
45~54歳	61	1	(1.6)	46	(75.4)	10	(16.4)	4	(6.6)	0	(0.0)
55~69歳	111	0	(0.0)	56	(50.5)	38	(34.2)	13	(11.7)	4	(3.6)
低学歴	105	0	(0.0)	61	(58.1)	32	(30.5)	8	(7.6)	4	(3.8)
中学歴	199	0	(0.0)	177	(88.9)	11	(5.5)	10	(5.0)	1	(0.5)
高学歴	101	1	(1.0)	89	(88.1)	7	(6.9)	4	(4.0)	0	(0.0)

表VI-76

「コーデ」を使うか [249.]

	計	無記入		使う		ないが聞けばわ		知らない		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	1	(0.2)	57	(14.1)	252	(62.2)	91	(22.5)	4	(1.0)
男	181	0	(0.0)	29	(16.0)	111	(61.3)	40	(22.1)	1	(0.6)
女	224	1	(0.4)	28	(12.5)	141	(62.9)	51	(22.8)	3	(1.3)
15~19歳	47	0	(0.0)	4	(8.5)	17	(36.2)	26	(55.3)	0	(0.0)
20~24歳	21	0	(0.0)	1	(4.8)	7	(33.3)	13	(61.9)	0	(0.0)
25~34歳	65	1	(1.5)	7	(10.8)	41	(63.1)	16	(24.6)	0	(0.0)
35~44歳	100	0	(0.0)	15	(15.0)	72	(72.0)	13	(13.0)	0	(0.0)
45~54歳	61	0	(0.0)	8	(13.1)	42	(68.9)	9	(14.8)	2	(3.3)
55~69歳	111	0	(0.0)	22	(19.8)	73	(65.8)	14	(12.6)	2	(1.8)
低学歴	105	0	(0.0)	19	(18.1)	64	(61.0)	19	(18.1)	3	(2.9)
中学歴	199	1	(0.5)	24	(12.1)	126	(63.3)	47	(23.6)	1	(0.5)
高学歴	101	0	(0.0)	14	(13.9)	62	(61.4)	25	(24.8)	0	(0.0)

表VI-77 手に皮をはめて打ちあうスポーツ [251.]

	計	無記入		ボクシング		拳闘	
		人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	4 (1.0)		395 (97.5)		6 (1.5)	
男	181	2 (1.1)		175 (96.7)		4 (2.2)	
女	224	2 (0.9)		220 (98.2)		2 (0.9)	
15～19歳	47	0 (0.0)		47 (100.0)		0 (0.0)	
20～24歳	21	0 (0.0)		21 (100.0)		0 (0.0)	
25～34歳	65	0 (0.0)		65 (100.0)		0 (0.0)	
35～44歳	100	0 (0.0)		100 (100.0)		0 (0.0)	
45～54歳	61	1 (1.6)		59 (96.7)		1 (1.6)	
55～69歳	111	3 (2.7)		103 (92.8)		5 (4.5)	
低学歴	105	2 (1.9)		100 (95.2)		3 (2.9)	
中学歴	199	1 (0.5)		196 (98.5)		2 (1.0)	
高学歴	101	1 (1.0)		99 (98.0)		1 (1.0)	

表VI-78 タクシーが客を断る [252.]

	計	無記入		乗車拒否		拒否		断る		複数回答		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	128 (31.6)		246 (60.7)		13 (3.2)		8 (2.0)		3 (0.7)		7 (1.7)	
男	181	35 (19.3)		134 (74.0)		2 (1.1)		3 (1.7)		3 (1.7)		4 (2.2)	
女	224	93 (41.5)		112 (50.0)		11 (4.9)		5 (2.2)		0 (0.0)		3 (1.3)	
15～19歳	47	29 (61.7)		17 (36.2)		0 (0.0)		0 (0.0)		0 (0.0)		1 (2.1)	
20～24歳	21	9 (42.9)		11 (52.4)		1 (4.8)		0 (0.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
25～34歳	65	18 (27.7)		46 (70.8)		0 (0.0)		1 (1.5)		0 (0.0)		0 (0.0)	
35～44歳	100	17 (17.0)		76 (76.0)		6 (6.0)		0 (0.0)		1 (1.0)		0 (0.0)	
45～54歳	61	11 (18.0)		43 (70.5)		2 (3.3)		2 (3.3)		0 (0.0)		3 (4.9)	
55～69歳	111	44 (39.6)		53 (47.7)		4 (3.6)		5 (4.5)		2 (1.8)		3 (2.7)	
低学歴	105	44 (41.9)		47 (44.8)		4 (3.8)		2 (1.9)		1 (1.0)		7 (6.7)	
中学歴	199	65 (32.7)		121 (60.8)		8 (4.0)		4 (2.0)		1 (0.5)		0 (0.0)	
高学歴	101	19 (18.8)		78 (77.2)		1 (1.0)		2 (2.0)		1 (1.0)		0 (0.0)	

表VI-79 女性のはく丈の短いもの [253.]

	計	無記入		ミニ(スカート)		複数回答		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	4 (95.8)		388 (95.8)		4 (1.0)		9 (2.2)	
男	181	3 (95.6)		173 (95.6)		3 (1.7)		2 (1.1)	
女	224	1 (96.0)		215 (96.0)		1 (0.4)		7 (3.1)	
15～19歳	47	1 (93.6)		44 (93.6)		0 (0.0)		2 (4.3)	
20～24歳	21	0 (100.0)		21 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
25～34歳	65	0 (100.0)		65 (100.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	
35～44歳	100	0 (97.0)		97 (97.0)		2 (2.0)		1 (1.0)	
45～54歳	61	1 (96.7)		59 (96.7)		1 (1.6)		0 (0.0)	
55～69歳	111	2 (91.9)		102 (91.9)		1 (0.9)		6 (5.4)	
低学歴	105	2 (92.4)		97 (92.4)		1 (1.0)		5 (4.8)	
中学歴	199	1 (96.0)		191 (96.0)		3 (1.5)		4 (2.0)	
高学歴	101	1 (99.0)		100 (99.0)		0 (0.0)		0 (0.0)	

表VI-80

「起きろ」 [261.]

	計	無記入		オキロ		オキレ		オキナサイ		オキテ		オキナ		複数回答		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	2	(0.5)	63	(15.6)	281	(69.4)	28	(6.9)	4	(1.0)	2	(0.5)	18	(4.4)	7	(1.7)
男	181	2	(1.1)	49	(27.1)	121	(66.9)	0	(0.0)	1	(0.6)	0	(0.0)	6	(3.3)	2	(1.1)
女	224	0	(0.0)	14	(6.3)	160	(71.4)	28	(12.5)	3	(1.3)	2	(0.9)	12	(5.4)	5	(2.2)
15~19歳	47	1	(2.1)	8	(17.0)	35	(74.5)	1	(2.1)	0	(0.0)	1	(2.1)	1	(2.1)	0	(0.0)
20~24歳	21	0	(0.0)	5	(23.8)	15	(71.4)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(4.8)
25~34歳	65	0	(0.0)	10	(15.4)	43	(66.2)	6	(9.2)	1	(1.5)	0	(0.0)	3	(4.6)	2	(3.1)
35~44歳	100	0	(0.0)	14	(14.0)	72	(72.0)	6	(6.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	5	(5.0)	3	(3.0)
45~54歳	61	1	(1.6)	7	(11.5)	40	(65.6)	7	(11.5)	0	(0.0)	0	(0.0)	6	(9.8)	0	(0.0)
55~69歳	111	0	(0.0)	19	(17.1)	76	(68.5)	8	(7.2)	3	(2.7)	1	(0.9)	3	(2.7)	1	(0.9)
低学歴	105	0	(0.0)	16	(15.2)	79	(75.2)	2	(1.9)	1	(1.0)	1	(1.0)	3	(2.9)	3	(2.9)
中学歴	199	1	(0.5)	29	(14.6)	140	(70.4)	12	(6.0)	3	(1.5)	1	(0.5)	11	(5.5)	2	(1.0)
高学歴	101	1	(1.0)	18	(17.8)	62	(61.4)	14	(13.9)	0	(0.0)	0	(0.0)	4	(4.0)	2	(2.0)

表VI-81

「わたしたち」 [262.]

	計	無記入		~タチ		~ドモ		~ガタ		~ダ		~ラ		複数回答		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	7	(1.7)	142	(35.1)	3	(0.7)	181	(44.7)	14	(3.5)	8	(2.0)	38	(9.4)	12	(3.0)
男	181	4	(2.2)	69	(38.1)	2	(1.1)	74	(40.9)	10	(5.5)	5	(2.8)	13	(7.2)	4	(2.2)
女	224	3	(1.3)	73	(32.6)	1	(0.4)	107	(47.8)	4	(1.8)	3	(1.3)	25	(11.2)	8	(3.6)
15~19歳	47	2	(4.3)	25	(53.2)	0	(0.0)	11	(23.4)	2	(4.3)	0	(0.0)	5	(10.6)	2	(4.3)
20~24歳	21	0	(0.0)	7	(33.3)	0	(0.0)	6	(28.6)	1	(4.8)	2	(9.5)	4	(19.0)	1	(4.8)
25~34歳	65	0	(0.0)	20	(30.8)	0	(0.0)	34	(52.3)	4	(6.2)	2	(3.1)	4	(6.2)	1	(1.5)
35~44歳	100	2	(2.0)	32	(32.0)	1	(1.0)	48	(48.0)	3	(3.0)	2	(2.0)	7	(7.0)	5	(5.0)
45~54歳	61	1	(1.6)	21	(34.4)	0	(0.0)	28	(45.9)	2	(3.3)	2	(3.3)	7	(11.5)	0	(0.0)
55~69歳	111	2	(1.8)	37	(33.3)	2	(1.8)	54	(48.6)	2	(1.8)	0	(0.0)	11	(9.9)	3	(2.7)
低学歴	105	3	(2.9)	36	(34.3)	1	(1.0)	51	(48.6)	3	(2.9)	0	(0.0)	9	(8.6)	2	(1.9)
中学歴	199	3	(1.5)	68	(34.2)	2	(1.0)	88	(44.2)	10	(5.0)	2	(1.0)	19	(9.5)	7	(3.5)
高学歴	101	1	(1.0)	38	(37.6)	0	(0.0)	42	(41.6)	1	(1.0)	6	(5.9)	10	(9.9)	3	(3.0)

表VI-82

「見に行かないか」 [263.]

	計	無記入		ミニ		ミサ		ミ(イガネガ)		複数回答(全員1+)	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	2	(0.5)	165	(40.7)	207	(51.1)	3	(0.7)	28	(6.9)
男	181	2	(1.1)	69	(38.1)	90	(49.7)	2	(1.1)	18	(9.9)
女	224	0	(0.0)	96	(42.9)	117	(52.2)	1	(0.4)	10	(4.5)
15~19歳	47	1	(2.1)	17	(36.2)	25	(53.2)	0	(0.0)	4	(8.5)
20~24歳	21	0	(0.0)	7	(33.3)	13	(61.9)	0	(0.0)	1	(4.8)
25~34歳	65	0	(0.0)	22	(33.8)	40	(61.5)	1	(1.5)	2	(3.1)
35~44歳	100	0	(0.0)	47	(47.0)	46	(46.0)	2	(2.0)	5	(5.0)
45~54歳	61	1	(1.6)	26	(42.6)	30	(49.2)	0	(0.0)	4	(6.6)
55~69歳	111	0	(0.0)	46	(41.4)	53	(47.7)	0	(0.0)	12	(10.8)
低学歴	105	0	(0.0)	40	(38.1)	56	(53.3)	0	(0.0)	9	(8.6)
中学歴	199	1	(0.5)	79	(39.7)	103	(51.8)	1	(0.5)	15	(7.5)
高学歴	101	1	(1.0)	46	(45.5)	48	(47.5)	2	(2.0)	4	(4.0)

表VI-83 「行くから」 [264.]

	計	無記入		～カラ		～サケ		～スケ		～ハケ		複数回答	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	6 (1.5)		161 (39.8)		149 (36.8)		7 (1.7)		47 (11.6)		35 (8.6)	
男	181	5 (2.8)		74 (40.9)		60 (33.1)		5 (2.8)		20 (11.0)		17 (9.4)	
女	224	1 (0.4)		87 (38.8)		89 (39.7)		2 (0.9)		27 (12.1)		18 (8.0)	
15～19歳	47	1 (2.1)		35 (74.5)		6 (12.8)		1 (2.1)		1 (2.1)		3 (6.4)	
20～24歳	21	0 (0.0)		10 (47.6)		4 (19.0)		1 (4.8)		2 (9.5)		4 (19.0)	
25～34歳	65	0 (0.0)		29 (44.6)		26 (40.0)		1 (1.5)		6 (9.2)		3 (4.6)	
35～44歳	100	0 (0.0)		38 (38.0)		42 (42.0)		3 (3.0)		11 (11.0)		6 (6.0)	
45～54歳	61	1 (1.6)		19 (31.1)		25 (41.0)		0 (0.0)		11 (18.0)		5 (8.2)	
55～69歳	111	4 (3.6)		30 (27.0)		46 (41.4)		1 (0.9)		16 (14.4)		14 (12.6)	
低学歴	105	4 (3.8)		34 (32.4)		39 (37.1)		2 (1.9)		16 (15.2)		10 (9.5)	
中学歴	199	1 (0.5)		83 (41.7)		74 (37.2)		5 (2.5)		19 (9.5)		17 (8.5)	
高学歴	101	1 (1.0)		44 (43.6)		36 (35.6)		0 (0.0)		12 (11.9)		8 (7.9)	

表VI-84 「行くけれども」 [265.]

	計	無記入		～ケレドモ		～ドモ		複数回答		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	8 (2.0)		158 (39.0)		202 (49.9)		22 (5.4)		15 (3.7)	
男	181	8 (4.4)		65 (35.9)		88 (48.6)		11 (6.1)		9 (5.0)	
女	224	0 (0.0)		93 (41.5)		114 (50.9)		11 (4.9)		6 (2.7)	
15～19歳	47	1 (2.1)		31 (66.0)		9 (19.1)		4 (8.5)		2 (4.3)	
20～24歳	21	1 (4.8)		6 (28.6)		13 (61.9)		0 (0.0)		1 (4.8)	
25～34歳	65	0 (0.0)		22 (33.8)		40 (61.5)		3 (4.6)		0 (0.0)	
35～44歳	100	2 (2.0)		36 (36.0)		54 (54.0)		4 (4.0)		4 (4.0)	
45～54歳	61	2 (3.3)		22 (36.1)		32 (52.5)		2 (3.3)		3 (4.9)	
55～69歳	111	2 (1.8)		41 (36.9)		54 (48.6)		9 (8.1)		5 (4.5)	
低学歴	105	5 (4.8)		34 (32.4)		52 (49.5)		8 (7.6)		6 (5.7)	
中学歴	199	2 (1.0)		81 (40.7)		100 (50.3)		9 (4.5)		7 (3.5)	
高学歴	101	1 (1.0)		43 (42.6)		50 (49.5)		5 (5.0)		2 (2.0)	

表VI-85 「強かったなあ」 [266.]

	計	無記入		ツヨカッタ		ツイエケ・ツエケ		ツヨイッケ		複数回答		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	4 (1.0)		122 (30.1)		99 (24.4)		132 (32.6)		26 (6.4)		22 (5.4)	
男	181	4 (2.2)		49 (27.1)		62 (34.3)		39 (21.5)		11 (6.1)		16 (8.8)	
女	224	0 (0.0)		73 (32.6)		37 (16.5)		93 (41.5)		15 (6.7)		6 (2.7)	
15～19歳	47	1 (2.1)		14 (29.8)		13 (27.7)		12 (25.5)		4 (8.5)		3 (6.4)	
20～24歳	21	0 (0.0)		10 (47.6)		4 (19.0)		6 (28.6)		0 (0.0)		1 (4.8)	
25～34歳	65	0 (0.0)		21 (32.3)		15 (23.1)		23 (35.4)		2 (3.1)		4 (6.2)	
35～44歳	100	0 (0.0)		22 (22.0)		26 (26.0)		41 (41.0)		5 (5.0)		6 (6.0)	
45～54歳	61	2 (3.3)		17 (27.9)		16 (26.2)		19 (31.1)		3 (4.9)		4 (6.6)	
55～69歳	111	1 (0.9)		38 (34.2)		25 (22.5)		31 (27.9)		12 (10.8)		4 (3.6)	
低学歴	105	2 (1.9)		28 (26.7)		30 (28.6)		29 (27.6)		11 (10.5)		5 (4.8)	
中学歴	199	1 (0.5)		55 (27.6)		48 (24.1)		76 (38.2)		7 (3.5)		12 (6.0)	
高学歴	101	1 (1.0)		39 (38.6)		21 (20.8)		27 (26.7)		8 (7.9)		5 (5.0)	

表VI-86

「勉強しないで」 [267.]

	計	無記入		シナイデ・シね		～シナクテ		～サねデ		～サねクテ		～サナクテ		複数回答		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	7 (1.7)		179 (44.2)		122 (30.1)		28 (6.9)		19 (4.7)		10 (2.5)		20 (4.9)		20 (4.9)	
男	181	5 (2.8)		84 (46.4)		35 (19.3)		19 (10.5)		9 (5.0)		6 (3.3)		10 (5.5)		13 (7.2)	
女	224	2 (0.9)		95 (42.4)		87 (38.8)		9 (4.0)		10 (4.5)		4 (1.8)		10 (4.5)		7 (3.1)	
15～19歳	47	2 (4.3)		31 (66.0)		8 (17.0)		3 (6.4)		0 (0.0)		0 (0.0)		1 (2.1)		2 (4.3)	
20～24歳	21	1 (4.8)		12 (57.1)		4 (19.0)		1 (4.8)		0 (0.0)		0 (0.0)		2 (9.5)		1 (4.8)	
25～34歳	65	0 (0.0)		38 (58.5)		19 (29.2)		5 (7.7)		0 (0.0)		0 (0.0)		2 (3.1)		1 (1.5)	
35～44歳	100	1 (1.0)		43 (43.0)		32 (32.0)		6 (6.0)		3 (3.0)		0 (0.0)		6 (6.0)		9 (9.0)	
45～54歳	61	1 (1.6)		22 (36.1)		21 (34.4)		5 (8.2)		4 (6.6)		2 (3.3)		3 (4.9)		3 (4.9)	
55～69歳	111	2 (1.8)		33 (29.7)		38 (34.2)		8 (7.2)		12 (10.8)		8 (7.2)		6 (5.4)		4 (3.6)	
低学歴	105	3 (2.9)		37 (35.2)		28 (26.7)		9 (8.6)		9 (8.6)		6 (5.7)		7 (6.7)		6 (5.7)	
中学歴	199	3 (1.5)		94 (47.2)		63 (31.7)		13 (6.5)		6 (3.0)		4 (2.0)		8 (4.0)		8 (4.0)	
高学歴	101	1 (1.0)		48 (47.5)		31 (30.7)		6 (5.9)		4 (4.0)		0 (0.0)		5 (5.0)		6 (5.9)	

表VI-87

「静かなら」 [268.]

	計	無記入		～ナラ(バ)		～ダバ		～ダラ(バ)		～ダト		～ダツタラ		複数回答		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	5 (1.2)		67 (16.5)		285 (70.4)		5 (1.2)		11 (2.7)		12 (3.0)		10 (2.5)		10 (2.5)	
男	181	4 (2.2)		35 (19.3)		116 (64.1)		1 (0.6)		4 (2.2)		6 (3.3)		7 (3.9)		8 (4.4)	
女	224	1 (0.4)		32 (14.3)		169 (75.4)		4 (1.8)		7 (3.1)		6 (2.7)		3 (1.3)		2 (0.9)	
15～19歳	47	1 (2.1)		11 (23.4)		29 (61.7)		1 (2.1)		1 (2.1)		2 (4.3)		2 (4.3)		0 (0.0)	
20～24歳	21	1 (4.8)		4 (19.0)		13 (61.9)		0 (0.0)		0 (0.0)		3 (14.3)		0 (0.0)		0 (0.0)	
25～34歳	65	0 (0.0)		11 (16.9)		49 (75.4)		0 (0.0)		2 (3.1)		1 (1.5)		2 (3.1)		0 (0.0)	
35～44歳	100	0 (0.0)		16 (16.0)		69 (69.0)		0 (0.0)		6 (6.0)		3 (3.0)		4 (4.0)		2 (2.0)	
45～54歳	61	2 (3.3)		8 (13.1)		45 (73.8)		1 (1.6)		0 (0.0)		2 (3.3)		1 (1.6)		2 (3.3)	
55～69歳	111	1 (0.9)		17 (15.3)		80 (72.1)		3 (2.7)		2 (1.8)		1 (0.9)		1 (0.9)		6 (5.4)	
低学歴	105	2 (1.9)		17 (16.2)		76 (72.4)		3 (2.9)		3 (2.9)		0 (0.0)		1 (1.0)		3 (2.9)	
中学歴	199	2 (1.0)		29 (14.6)		147 (73.9)		1 (0.5)		4 (2.0)		7 (3.5)		4 (2.0)		5 (2.5)	
高学歴	101	1 (1.0)		21 (20.8)		62 (61.4)		1 (1.0)		4 (4.0)		5 (5.0)		5 (5.0)		2 (2.0)	

表VI-88

「あなたをほめていた」 [269.]

	計	無記入		アナタ・アノタ		オメオ		オホコ		オメコト		オメガ		アナタ・アノタ		オメー		アノタコ		複数回答		その他	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	7 (1.7)		53 (13.1)		32 (7.9)		145 (35.8)		1 (0.2)		2 (0.5)		16 (4.0)		8 (2.0)		64 (15.8)		24 (5.9)		53 (13.1)	
男	181	4 (2.2)		7 (3.9)		27 (14.9)		86 (47.5)		1 (0.6)		2 (1.1)		2 (1.1)		6 (3.3)		2 (1.1)		11 (6.1)		33 (18.2)	
女	224	3 (1.3)		46 (20.5)		5 (2.2)		59 (26.3)		0 (0.0)		0 (0.0)		14 (6.3)		2 (0.9)		62 (27.7)		13 (5.8)		20 (8.9)	
15～19歳	47	1 (2.1)		3 (6.4)		6 (12.8)		23 (48.9)		0 (0.0)		1 (2.1)		0 (0.0)		0 (0.0)		5 (10.6)		3 (6.4)		5 (10.6)	
20～24歳	21	1 (4.8)		1 (4.8)		2 (9.5)		6 (28.6)		0 (0.0)		1 (4.8)		0 (0.0)		1 (4.8)		2 (9.5)		2 (9.5)		5 (23.8)	
25～34歳	65	1 (1.5)		5 (7.7)		1 (1.5)		23 (35.4)		0 (0.0)		0 (0.0)		5 (7.7)		1 (1.5)		15 (23.1)		5 (7.7)		9 (13.8)	
35～44歳	100	2 (2.0)		15 (15.0)		11 (11.0)		31 (31.0)		0 (0.0)		0 (0.0)		4 (4.0)		4 (4.0)		11 (11.0)		7 (7.0)		15 (15.0)	
45～54歳	61	1 (1.6)		7 (11.5)		4 (6.6)		19 (31.1)		0 (0.0)		0 (0.0)		3 (4.9)		1 (1.6)		15 (24.6)		2 (3.3)		9 (14.8)	
55～69歳	111	1 (0.9)		22 (19.8)		8 (7.2)		43 (38.7)		1 (0.9)		0 (0.0)		4 (3.6)		1 (0.9)		16 (14.4)		5 (4.5)		10 (9.0)	
低学歴	105	3 (2.9)		14 (13.3)		6 (5.7)		45 (42.9)		1 (1.0)		0 (0.0)		5 (4.8)		2 (1.9)		8 (7.6)		6 (5.7)		15 (14.3)	
中学歴	199	3 (1.5)		30 (15.1)		18 (9.0)		71 (35.7)		0 (0.0)		2 (1.0)		7 (3.5)		1 (0.5)		36 (18.1)		10 (5.0)		21 (10.6)	
高学歴	101	1 (1.0)		9 (8.9)		8 (7.9)		29 (28.7)		0 (0.0)		0 (0.0)		4 (4.0)		5 (5.0)		20 (19.8)		8 (7.9)		17 (16.8)	

表VI-89 あなたは次の2つの意見のうち、どちらに賛成ですか。[409.]

1. 鶴岡には長い間につくりあげてきた生活の仕方がある。これからもそれに従っていけばよい。
2. もっと新しい生活の仕方を積極的に取り入れて、生活をどんどん合理的にしていく必要がある。

	計	伝統		改変		どちらでもない	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	128 (31.6)		256 (63.2)		21 (5.2)	
男	181	61 (33.7)		112 (61.9)		8 (4.4)	
女	224	67 (29.9)		144 (64.3)		13 (5.8)	
15～19歳	47	18 (38.3)		27 (57.4)		2 (4.3)	
20～24歳	21	7 (33.3)		14 (66.7)		0 (0.0)	
25～34歳	65	19 (29.2)		41 (63.1)		5 (7.7)	
35～44歳	100	29 (29.0)		65 (65.0)		6 (6.0)	
45～54歳	61	19 (31.1)		39 (63.9)		3 (4.9)	
55～69歳	111	36 (32.4)		70 (63.1)		5 (4.5)	
低学歴	105	36 (34.3)		65 (61.9)		4 (3.8)	
中学歴	199	62 (31.2)		126 (63.3)		11 (5.5)	
高学歴	101	30 (29.7)		65 (64.4)		6 (5.9)	

表VI-90 鶴岡弁について、あなたはどちらの意見に賛成ですか。[413.]

1. 世の中が開けてきたのだからもう鶴岡弁をしゃべっている時代ではない。
鶴岡弁はできるだけ無くしてしまったほうがよい。
2. 鶴岡弁は私たちの鶴岡の大事な文化遺産だから、できるだけ保存しておいたほうがよい。

	計	改変		保存		どちらでもない	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	28 (6.9)		364 (89.9)		13 (3.2)	
男	181	12 (6.6)		160 (88.4)		9 (5.0)	
女	224	16 (7.1)		204 (91.1)		4 (1.8)	
15～19歳	47	2 (4.3)		41 (87.2)		4 (8.5)	
20～24歳	21	2 (9.5)		19 (90.5)		0 (0.0)	
25～34歳	65	1 (1.5)		63 (96.9)		1 (1.5)	
35～44歳	100	3 (3.0)		95 (95.0)		2 (2.0)	
45～54歳	61	3 (4.9)		57 (93.4)		1 (1.6)	
55～69歳	111	17 (15.3)		89 (80.2)		5 (4.5)	
低学歴	105	14 (13.3)		88 (83.8)		3 (2.9)	
中学歴	199	9 (4.5)		184 (92.5)		6 (3.0)	
高学歴	101	5 (5.0)		92 (91.1)		4 (4.0)	

表VI-91 鶴岡弁のイメージ (軽快—重苦しい) [411.]

	計	軽快		重苦しい		どちらとも		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	83	(20.5)	83	(20.5)	238	(58.8)	1	(0.2)
男	181	40	(22.1)	34	(18.8)	106	(58.6)	1	(0.6)
女	224	43	(19.2)	49	(21.9)	132	(58.9)	0	(0.0)
15～19歳	47	14	(29.8)	2	(4.3)	31	(66.0)	0	(0.0)
20～24歳	21	5	(23.8)	2	(9.5)	14	(66.7)	0	(0.0)
25～34歳	65	18	(27.7)	7	(10.8)	40	(61.5)	0	(0.0)
35～44歳	100	20	(20.0)	26	(26.0)	54	(54.0)	0	(0.0)
45～54歳	61	7	(11.5)	19	(31.1)	34	(55.7)	1	(1.6)
55～69歳	111	19	(17.1)	27	(24.3)	65	(58.6)	0	(0.0)
低学歴	105	21	(20.0)	24	(22.9)	59	(56.2)	1	(1.0)
中学歴	199	46	(23.1)	35	(17.6)	118	(59.3)	0	(0.0)
高学歴	101	16	(15.8)	24	(23.8)	61	(60.4)	0	(0.0)

表VI-92 鶴岡弁のイメージ (深みがある—薄っぺらだ) [411.]

	計	無回答		深みがある		薄っぺらだ		どちらとも	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	2	(0.5)	253	(62.5)	20	(4.9)	130	(32.1)
男	181	0	(0.0)	113	(62.4)	11	(6.1)	57	(31.5)
女	224	2	(0.9)	140	(62.5)	9	(4.0)	73	(32.6)
15～19歳	47	0	(0.0)	24	(51.1)	3	(6.4)	20	(42.6)
20～24歳	21	0	(0.0)	11	(52.4)	1	(4.8)	9	(42.9)
25～34歳	65	1	(1.5)	39	(60.0)	2	(3.1)	23	(35.4)
35～44歳	100	0	(0.0)	73	(73.0)	5	(5.0)	22	(22.0)
45～54歳	61	0	(0.0)	39	(63.9)	2	(3.3)	20	(32.8)
55～69歳	111	1	(0.9)	67	(60.4)	7	(6.3)	36	(32.4)
低学歴	105	1	(1.0)	53	(50.5)	11	(10.5)	40	(38.1)
中学歴	199	1	(0.5)	128	(64.3)	6	(3.0)	64	(32.2)
高学歴	101	0	(0.0)	72	(71.3)	3	(3.0)	26	(25.7)

表VI-93 鶴岡弁のイメージ (好き—嫌い) [411.]

	計	無回答		好き		嫌い		どちらとも	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	1	(0.2)	254	(62.7)	13	(3.2)	137	(33.8)
男	181	1	(0.6)	113	(62.4)	9	(5.0)	58	(32.0)
女	224	0	(0.0)	141	(62.9)	4	(1.8)	79	(35.3)
15～19歳	47	0	(0.0)	26	(55.3)	1	(2.1)	20	(42.6)
20～24歳	21	0	(0.0)	12	(57.1)	0	(0.0)	9	(42.9)
25～34歳	65	0	(0.0)	45	(69.2)	2	(3.1)	18	(27.7)
35～44歳	100	1	(1.0)	64	(64.0)	6	(6.0)	29	(29.0)
45～54歳	61	0	(0.0)	40	(65.6)	1	(1.6)	20	(32.8)
55～69歳	111	0	(0.0)	67	(60.4)	3	(2.7)	41	(36.9)
低学歴	105	0	(0.0)	56	(53.3)	2	(1.9)	47	(44.8)
中学歴	199	1	(0.5)	133	(66.8)	6	(3.0)	59	(29.6)
高学歴	101	0	(0.0)	65	(64.4)	5	(5.0)	31	(30.7)

表VI-94 東京弁のイメージ (軽快—重苦しい) [411.]

	計	無回答		軽快		重苦しい		どちらとも		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	2	(0.5)	284	(70.1)	36	(8.9)	82	(20.2)	1	(0.2)
男	181	1	(0.6)	118	(65.2)	21	(11.6)	40	(22.1)	1	(0.6)
女	224	1	(0.4)	166	(74.1)	15	(6.7)	42	(18.8)	0	(0.0)
15～19歳	47	0	(0.0)	17	(36.2)	10	(21.3)	20	(42.6)	0	(0.0)
20～24歳	21	0	(0.0)	12	(57.1)	1	(4.8)	8	(38.1)	0	(0.0)
25～34歳	65	0	(0.0)	42	(64.6)	6	(9.2)	17	(26.2)	0	(0.0)
35～44歳	100	1	(1.0)	77	(77.0)	8	(8.0)	14	(14.0)	0	(0.0)
45～54歳	61	0	(0.0)	52	(85.2)	4	(6.6)	5	(8.2)	0	(0.0)
55～69歳	111	1	(0.9)	84	(75.7)	7	(6.3)	18	(16.2)	1	(0.9)
低学歴	105	1	(1.0)	68	(64.8)	14	(13.3)	22	(21.0)	0	(0.0)
中学歴	199	1	(0.5)	142	(71.4)	16	(8.0)	39	(19.6)	1	(0.5)
高学歴	101	0	(0.0)	74	(73.3)	6	(5.9)	21	(20.8)	0	(0.0)

表VI-95 東京弁のイメージ (深みがある—薄っぺらだ) [411.]

	計	無回答		深みがある		薄っぺらだ		どちらとも	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	3	(0.7)	34	(8.4)	161	(39.8)	207	(51.1)
男	181	2	(1.1)	16	(8.8)	85	(47.0)	78	(43.1)
女	224	1	(0.4)	18	(8.0)	76	(33.9)	129	(57.6)
15～19歳	47	0	(0.0)	2	(4.3)	21	(44.7)	24	(51.1)
20～24歳	21	0	(0.0)	0	(0.0)	15	(71.4)	6	(28.6)
25～34歳	65	0	(0.0)	2	(3.1)	31	(47.7)	32	(49.2)
35～44歳	100	1	(1.0)	9	(9.0)	35	(35.0)	55	(55.0)
45～54歳	61	0	(0.0)	2	(3.3)	25	(41.0)	34	(55.7)
55～69歳	111	2	(1.8)	19	(17.1)	34	(30.6)	56	(50.5)
低学歴	105	1	(1.0)	20	(19.0)	36	(34.3)	48	(45.7)
中学歴	199	1	(0.5)	11	(5.5)	87	(43.7)	100	(50.3)
高学歴	101	1	(1.0)	3	(3.0)	38	(37.6)	59	(58.4)

表VI-96 東京弁のイメージ (好き—嫌い) [411.]

	計	無回答		好き		嫌い		どちらとも	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	1	(0.2)	254	(62.7)	13	(3.2)	137	(33.8)
男	181	1	(0.6)	113	(62.4)	9	(5.0)	58	(32.0)
女	224	0	(0.0)	141	(62.9)	4	(1.8)	79	(35.3)
15～19歳	47	0	(0.0)	26	(55.3)	1	(2.1)	20	(42.6)
20～24歳	21	0	(0.0)	12	(57.1)	0	(0.0)	9	(42.9)
25～34歳	65	0	(0.0)	45	(69.2)	2	(3.1)	18	(27.7)
35～44歳	100	1	(1.0)	64	(64.0)	6	(6.0)	29	(29.0)
45～54歳	61	0	(0.0)	40	(65.6)	1	(1.6)	20	(32.8)
55～69歳	111	0	(0.0)	67	(60.4)	3	(2.7)	41	(36.9)
低学歴	105	0	(0.0)	56	(53.3)	2	(1.9)	47	(44.8)
中学歴	199	1	(0.5)	133	(66.8)	6	(3.0)	59	(29.6)
高学歴	101	0	(0.0)	65	(64.4)	5	(5.0)	31	(30.7)

表VI-97 お宅で家族の方たちといろいろなお話しをなさる時 [410.]

	計	無回答		標準語		方言		混ざる		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	4	(1.0)	18	(4.4)	220	(54.3)	153	(37.8)	10	(2.5)
男	181	0	(0.0)	8	(4.4)	95	(52.5)	74	(40.9)	4	(2.2)
女	224	4	(1.8)	10	(4.5)	125	(55.8)	79	(35.3)	6	(2.7)
15~19歳	47	0	(0.0)	2	(4.3)	23	(48.9)	21	(44.7)	1	(2.1)
20~24歳	21	0	(0.0)	1	(4.8)	15	(71.4)	4	(19.0)	1	(4.8)
25~34歳	65	0	(0.0)	5	(7.7)	38	(58.5)	20	(30.8)	2	(3.1)
35~44歳	100	0	(0.0)	3	(3.0)	49	(49.0)	47	(47.0)	1	(1.0)
45~54歳	61	1	(1.6)	3	(4.9)	32	(52.5)	23	(37.7)	2	(3.3)
55~69歳	111	3	(2.7)	4	(3.6)	63	(56.8)	38	(34.2)	3	(2.7)
低学歴	105	2	(1.9)	0	(0.0)	64	(61.0)	37	(35.2)	2	(1.9)
中学歴	199	1	(0.5)	7	(3.5)	116	(58.3)	70	(35.2)	5	(2.5)
高学歴	101	1	(1.0)	11	(10.9)	40	(39.6)	46	(45.5)	3	(3.0)

表VI-98 近所の顔見知りの方とお話しをなさる時 [410.]

	計	無回答		標準語		方言		混ざる		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	8	(2.0)	43	(10.6)	225	(55.6)	119	(29.4)	10	(2.5)
男	181	2	(1.1)	28	(15.5)	96	(53.0)	49	(27.1)	6	(3.3)
女	224	6	(2.7)	15	(6.7)	129	(57.6)	70	(31.3)	4	(1.8)
15~19歳	47	3	(6.4)	12	(25.5)	19	(40.4)	12	(25.5)	1	(2.1)
20~24歳	21	2	(9.5)	2	(9.5)	12	(57.1)	4	(19.0)	1	(4.8)
25~34歳	65	2	(3.1)	11	(16.9)	31	(47.7)	20	(30.8)	1	(1.5)
35~44歳	100	1	(1.0)	8	(8.0)	53	(53.0)	34	(34.0)	4	(4.0)
45~54歳	61	0	(0.0)	4	(6.6)	39	(63.9)	18	(29.5)	0	(0.0)
55~69歳	111	0	(0.0)	6	(5.4)	71	(64.0)	31	(27.9)	3	(2.7)
低学歴	105	0	(0.0)	3	(2.9)	66	(62.9)	33	(31.4)	3	(2.9)
中学歴	199	7	(3.5)	21	(10.6)	113	(56.8)	55	(27.6)	3	(1.5)
高学歴	101	1	(1.0)	19	(18.8)	46	(45.5)	31	(30.7)	4	(4.0)

表VI-99 鶴岡の人で顔見知りでない方とお話しをなさる時 [410.]

	計	無回答		標準語		方言		混ざる		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	3	(0.7)	168	(41.5)	89	(22.0)	125	(30.9)	20	(4.9)
男	181	1	(0.6)	74	(40.9)	43	(23.8)	52	(28.7)	11	(6.1)
女	224	2	(0.9)	94	(42.0)	46	(20.5)	73	(32.6)	9	(4.0)
15~19歳	47	0	(0.0)	29	(61.7)	2	(4.3)	14	(29.8)	2	(4.3)
20~24歳	21	1	(4.8)	8	(38.1)	3	(14.3)	7	(33.3)	2	(9.5)
25~34歳	65	0	(0.0)	35	(53.8)	8	(12.3)	19	(29.2)	3	(4.6)
35~44歳	100	1	(1.0)	42	(42.0)	27	(27.0)	26	(26.0)	4	(4.0)
45~54歳	61	0	(0.0)	19	(31.1)	18	(29.5)	19	(31.1)	5	(8.2)
55~69歳	111	1	(0.9)	35	(31.5)	31	(27.9)	40	(36.0)	4	(3.6)
低学歴	105	1	(1.0)	27	(25.7)	35	(33.3)	36	(34.3)	6	(5.7)
中学歴	199	2	(1.0)	86	(43.2)	38	(19.1)	65	(32.7)	8	(4.0)
高学歴	101	0	(0.0)	55	(54.5)	16	(15.8)	24	(23.8)	6	(5.9)

表VI-100 旅の人などにお話しをなさる時 [410.]

	計	標準語		方言		混ざる		その他	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全体	405	286 (70.6)		24 (5.9)		87 (21.5)		8 (2.0)	
男	181	124 (68.5)		15 (8.3)		36 (19.9)		6 (3.3)	
女	224	162 (72.3)		9 (4.0)		51 (22.8)		2 (0.9)	
15～19歳	47	37 (78.7)		1 (2.1)		8 (17.0)		1 (2.1)	
20～24歳	21	15 (71.4)		2 (9.5)		3 (14.3)		1 (4.8)	
25～34歳	65	56 (86.2)		0 (0.0)		8 (12.3)		1 (1.5)	
35～44歳	100	74 (74.0)		4 (4.0)		21 (21.0)		1 (1.0)	
45～54歳	61	38 (62.3)		5 (8.2)		16 (26.2)		2 (3.3)	
55～69歳	111	66 (59.5)		12 (10.8)		31 (27.9)		2 (1.8)	
低学歴	105	56 (53.3)		15 (14.3)		32 (30.5)		2 (1.9)	
中学歴	199	145 (72.9)		9 (4.5)		41 (20.6)		4 (2.0)	
高学歴	101	85 (84.2)		0 (0.0)		14 (13.9)		2 (2.0)	

Ⅶ 資 料

- 1 面接調査票 (B5 版, 13 ページ)
- 2 調査員記録簿
- 3 提示リスト (A5 版, 35 枚)
- 4 言語生活調査票 (A4 版, 4 ページ)
- 5 調査へのお願い

鶴調 ('91 鶴岡)

面接調査票

調査員

[]

001. 氏名

[]	男・女	No. []
-----	-----	---------

002. 現住所

鶴岡市	☎ ()
-----	-------

003. 生年月日

明治 昭和
大正 昭和

[] 年 [] 月 [] 日 → [] 年 [] 月 [] 日

004. 調査月日

11月 [] 日

005. 開始時刻

午前 [] 時 [] 分

午後

■ 電池チェック

■ 録音確認

101. [] 年生まれですね。

[この間の後で、月日を確認すること!]

1.1 うなずき	1.2 身振り	
2.1. ハイ	2.2 ハー	2.3 エー
3.1 ソー	3.2 ン	3.3 アー
4.1 ソーダ	4.2 ンダ	
5.1 ソーデゴザイマス	5.2 ソーデガンス	5.3 ンデガンス
6.1 ソーデス	6.2 ンデス	
7 つぎたし []		
9 その他 []		

a. ノー	b. チャ	c. ノッシャ
d. []		

「7つぎたし」の類を答えた人には、
さらに念をおして「～年（つぎたし）ですね」と尋ねる。

102. ずっとここにお住まいですか。お生まれは？ そこからすぐこちらへいらっしゃったのですか。

年 齢 (歳)	居 住 地			理 由 (就職・結婚等)
	鶴 岡 市	都道府県	村 市郡 町	
0～	現住所			
～				
～				
～				
～				
～				
～				

※ 5～15歳の居住経歴の複雑な人には、この期間で一番長く居住した地域を尋ねる。

鶴岡市 _____ 都道 市
府県 _____ 郡

103. あなたの本籍はどちらですか。

鶴岡市 _____ 都道 市
府県 _____ 郡 D.K.

104.-1. あなたのお父さんの出身地はどちらですか。

鶴岡市 _____ 都道 市
府県 _____ 郡 D.K.

-2. それではお母さんは？

鶴岡市 _____ 都道 市
府県 _____ 郡 D.K.

-3. 配偶者は？

なし 鶴岡市 _____ 都道 市
府県 _____ 郡 D.K.

それでは、今からことばのことについてお尋ねします。まず、絵を見てお答え下さい。

201. 【絵】 口 (クチ) 1. tʃ 2. z 9. []
202. 【絵】 髭 (ヒゲ) 1. ʃ 2. F 9. []
203. 【絵】 背中 (セナカ) 1. s 2. ʃ, ʒ 9. []
 1. ○●● 2. ○●○ 9. []
204. 夏働くと背中からだらだら流れるものを何とおっしゃいますか。
汗 (アセ) 1. s 2. ʃ, ʒ 9. []
205. 【絵】 蜂 (ハチ) 1. tʃ 2. z 9. []
206. 【絵】 鳩 (ハト) 1. t 2. d 9. []
207. 【絵】 猫 (ネコ) 1. k 2. g 9. []
 1. ●○ 2. ○● 9. []
208. 【絵】 蛇 (ヘビ) 1. x 2. F 9. []
209. 【絵】 窓 (マド) 1. d 2. ~d 9. []
210. 【絵】 旗 (ハタ) 1. t 2. d 9. []
 1. ●○ 2. ○○, (○●) 9. []
211. 【絵】 鈴 (スズ) 1. dz 2. ~z 9. []
212. 【絵】 帯 (オビ) 1. b 2. ~b 9. []
213. 【絵】 靴 (クツ) 1. ts 2. z 9. []
214. 【絵】 柿 (カキ) 1. k 2. g 9. []
215. 【絵】 松 (マツ) 1. ts 2. z 9. []
216. 【絵】 西瓜 (スイカ) 1. k 2. g^w, k^w 9. []
217. 曜日のなまえについておたずねしますが、日曜日のつぎは月曜日、では月曜日のつぎは何とおっしゃいますか。
火曜日 (カヨウビ) 1. k 2. k^w 9. []
218. 【絵】 97,98,99 の次は何ですか。
百 (ヒヤク) 1. ʃ 2. F 9. []

219. 税金をとりたてる役所を何とおっしゃいますか。
 税務署 (ゼイムシヨ) 1. dz 2. z 9. []
220. 口からハーツとはくもの、これを何とおっしゃいますか。
 息 (イキ) 1. i 2. e 3. i 9. []
221. 【絵】 駅 (エキ) 1. e 2. e 3. i 9. []
222. 【絵】 糸 (イト) 1. i 2. e 3. i 9. []
223. 【絵】 煙突 (エントツ) 1. e 2. e 3. i 9. []
224. 市でいちばん上の人を「市長」と言いますが、県でいちばん上の人を何とおっしゃいますか。
 知事 (チジ) 1. i 2. i 9. []
225. 【絵】 地図 (チズ) 1. u 2. i 9. []
226. 【絵】 島 (シマ) 1. i 2. i 9. []
227. 【絵】 墨 (スミ) 1. u 2. i 9. []
228. 【絵】 鳥 (カラス) 1. u 2. i 9. []
 1. ●○○ 2. ○●○ 9. []
229. こちらの名産の小さいなすをつける辛い粉を何とおっしゃいますか。
 辛子 (カラシ) 1. i 2. i 9. []
230. 【絵】 狐 (キツネ) 1. u 2. i 9. []
231. 【絵】 団扇 (ウチワ) 1. i 2. i 9. []
 1. ○●○ 2. ○○● 9. []
241. 「あの人はいつも遅れてくる」という時、「いつも」ということをふつう何とおっしゃいますか。
 1. イツモ 2. ショツチュー 3. トース, トーシン 9. []
242. 「わたくしが留守番をしています」という時、「留守番」ということをふつう何とおっしゃいますか。
 1. ルスパン 2. ルスイ 3. ヨスリ 9. []

243. 「どうぞこちらへいらっしゃい」とていねいにいう時、「いらっしゃい」ということをふつう何とおっしゃいますか。
 1. イラっしゃイ 2. ゴザへ 3. ハイッテクネヘン 9. []
244. 「くたびれたもう歩けない」という時の「もう」ということをふつう何とおっしゃいますか。
 1. モー 2. アド 9. []
245. うしろから急にワッと大きい声をかけられた時の感じですが、「アッ、どうした」とおっしゃいますか。
 1. オドロイタ 2. ビックリシタ 3. オボゲタ 4. ハトモタ
 9. []
246. みんなの見ている前で失敗して、顔が赤くなるような感じをふつうどんなだとおっしゃいますか。
 1. ハズカシイ 2. ショ (-) ス (-) 9. []
247. 相手からお金をとって物を渡すのは「売る」と言いますが、お金をとらないで物を「与える」という時には、ふつうどうするとおっしゃいますか。
 1. クレル 2. クエル 3. ケル 9. []
248. 【絵】 冬、軒先などにさがるコオリの棒です。これを何とおっしゃいますか。
 1. ツララ 2. シガ, スガ 9. []
249. 「このお菓子はコーデうめえちゃ」などのように、「コーデ」という言葉をお使いになりますか。(使わないと答えた人には「聞けばわかりますか」と尋ねる。)
 1. 使う 2. 使わないが聞けばわかる 3. 知らない 9. []
251. 【絵】 手に皮をはめてうちあうスポーツを何とおっしゃいますか。足でけったりはしません。
 1. ボクシング 2. 拳闘 9. [] N.A.
252. 東京などのタクシーで、夜中など運転手がお客を乗せるのを断ることがありますが、これを何とおっしゃいますか。
 1. 乗車拒否 9. [] N.A.
253. 【絵】 近頃の若い女の人ののはく。この丈の短いのは何とおっしゃいますか。
 1. ミニ (スカート) 9. [] N.A.

261. こども（弟・妹）にむかって「朝寝坊をしないで早く起きろ」という時、
ふつう何とおっしゃいますか。
1. オキロ 2. オキレ 9. []
262. あなたが親しい友達にむかっていう時の言葉についていくつかお尋ねいたします。
「わたくしたちもいっしょに行こう」という時、「わたくしたち」ということをふつ
う何とおっしゃいますか。
1. ～タチ 2. ～ドモ 3. ～ガタ 9. []
263. では、「おもしろい映画だってね。いっしょに見に行かないか」という時、
「見に行かないか」ということをふつう何とおっしゃいますか。
1. ミニ 2. ミサ 3. ミエ 9. []
264. では、「おれも行くから、ちょっと待ってくれ」という時、「行くから」
ということをつつう何とおっしゃいますか。
1. ～カラ 2. ～サケ 3. ～スケ 4. ～ハケ 9. []
265. 同じように、親しい友達にむかっていう時の言葉についてもうすこしお尋ねしま
すが、「おれも行くけれども早くは行けない」という時「行くけれども」ということを
ふつう何とおっしゃいますか。
1. ～ケレドモ 2. ～ドモ 9. []
266. では、「あの人はずいぶんすもうが強かったなあ」と昔のことを話す時、
「強かったなあ」ということをふつう何とおっしゃいますか。
1. ツヨカッタ 2. ツイエケ・ツエケ 3. ツヨイッケ 9. []
267. では、「どうも、この子（弟・妹）は勉強しないで困る」という時、
「勉強しないで」ということをふつう何とおっしゃいますか。
1. ～シナイデ・シねデ 2. ～シナクテ 3. ～サねデ 4. ～サねクテ
5. ～サナクテ 9. []
268. では、「もっと海が静かならいいんだがなあ」という時、「静かなら」ということ
をふつう何とおっしゃいますか。
1. ～ナラ（バ） 2. ～ダバ 3. ～ダラ（バ） 9. []
269. もうひとつ、親しい友達にむかっていう時の言葉ですが、「（〇〇先生が）あなた
をほめていた」という時、ふつう何とおっしゃいますか。
1. アナタオ・アンタオ 2. オめーオ 3. オメトコ 4. オめコト
5. オメバ 6. アナタ・アンタ 7. オめー 9. []

270. 小学校時代の先生から「あなたは～年生まれですね」ときかれて、「そうです」と答える時、ふつう何とおっしゃいますか。

1.1 うなずき	1.2 身振り	
2.1. ハ イ	2.2 ハー	2.3 エー
3.1 ソ ー	3.2 ン	3.3 アー
4.1 ソーダ	4.2 ンダ	
5.1 ソーデゴザイマス	5.2 ソーデガンス	5.3 ンデガンス
6.1 ソーデス	6.2 ンデス	
7 つぎたし []		
9 その他 []		

a. ノー	b. チャ	c. ノッシャ
d. []		

271. 尊敬している先生にむかっていう時の言葉についてお尋ねいたします。「この絵はあなたがいたのか」と尋ねる時、ふつう何とおっしゃいますか。

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. オカキニ(ン)ナッタ . | ・ノ(ン)デゴザイマスカ (1) |
| 2. カカレタ . | ・ノ(ン)デスカ (2) |
| 3. オカキナリマシタ . | ・ノ(ン)デガンスカ (3) |
| 4. カカハリマシタ . | ・ノ(ナ)ダカ (4) |
| 5. カカシタ . | ・ノカ (5) |
| 6. カイタ . | |
| 9. [] | |

301. 【絵】(胃) ここにある、食べた物を消化するところを何とおっしゃいますか。

1. i 2. e 3. i 9. []

302. 【絵】(絵) 景色などを描いた物を何とおっしゃいますか。

1. e 2. e 3. i 9. []

303. (しみ) 洋服の上などに醬油がこぼれてできるものを何とおっしゃいますか。

1. i 2. i 3. fu 4. fo 9. []

304. 【絵】(鏡) 顔をうつすための こういうものを何とおっしゃいますか。

1. ga 2. ŋa 3. ~ga 4. ~ŋa 9. []

305. 【絵】(障子) 和室のしきりに使うものです。襖ではありません

1. fo: 2. ʃwo:, ɕwo: 9. []

306. 【絵】 映画館や演奏会などに入るときに必要なこれを何とおっしゃいますか。
 1. チケット 2. 切符 3. 入場券 4. 券 9. []
307. 昔の「電電公社」、電話や電報を扱っている会社のことを、ふだん、何と呼んでいらっしゃいますか。
 1. エヌティーティー 2. エヌテーテー 3. 電電公社 9. []
308. 小学校、中学校で親や保護者が作っている会のことを、ふだん、何と言っていられっしゃいますか。
 1. ピーティーイー 2. ピーテーイー 3. ピーチーイー
 4. 父兄会 5. 父母会 6. 保護者会 9. []
309. 【絵】 プロペラの無い、このような飛行機のことを何とおっしゃいますか。庄内空港の旅客機などは、これです。
 1. ジェット 2. ゼット 3. ジエット 9. []
310. 【絵】 食べるときに使うこんな道具のことを何といいますか。
 1. フォーク 2. フオーク 3. ホーク 9. []
311. 【絵】 写真をとる時にカメラに入れるこういう物を何といいますか。
 1. フィルム 2. ファイルム 9. []
312. 【絵】 この動物を何とおっしゃいますか。山の中にいて、胃は薬にしますクマ(熊) 1. ○● 2. ●○ 9. []
313. 【絵】 このような機械を何とおっしゃいますか。
 テレビ 1. ●○○ 2. ○●○ 9. []
314. 【絵】 それでは、この部分は何とおっしゃいますか。
 チャンネル 1. ●○○○ 2. ○●●● 3. ○●●○ 9. []
315. 【絵】 地図のこの国を何といいますか。米国のごとです。
 アメリカ 1. ○●●● 2. ○●○○ 9. []
316. 「分かりません」ということを、親しい友だちにふつう何とおっしゃいますか。
 1. ワカラナイ 2. ワガラネ 3. ワガンネ 4. ワガネ 9. []
317. 「朝寝をしたい」という時などの、「したい」ということをふつう何とおっしゃいますか。
 1. シタイ 2. シデ 3. シッデ 9. []

318. 親しい友だちに「どこへ行くのか」と尋ねるとしたらどのように言いますか。
 1. ドコニ 2. ドコエ 3. ドコサ 4. ドゴサ 5. ドコハ 6. ドゴハ
 7. ドサ 8. ドハ 9. []
319. 逆に、親しい友だちに「どこへ行くのか」と尋ねられ、「学校へ行く」と答えるときには何とおっしゃいますか。
 1. ニ 2. エ 3. サ 4. ハ 9. []
320. 「野菜の値段が高くなった」という時、「高く(なった)」ということをおっしゃいますか。
 1. タカク 2. タガ'ク 3. タゲク 4. タツガク 5. タツゲク
 9. []
321. 【絵】 二つの箱をくらべて(大きい方をさし)こちらは(小さい方をさし)こちらよりもどうだと言いますか。
 1. オオキイ 2. オッキ 3. オッキー 4. デカイ 5. デッカイ 6. デッケ
 9. []
322. 「赤ん坊がかわいい」という時の「かわいい」ということをふつう何とおっしゃいますか。
 1. カワイイ 2. メッコイ 3. メンコイ 4. メンゴイ 9. []
323. 「面白い」というのを、もっと短くしたこの辺の言い方では何と言いますか。
 1. オモシロイ 2. オモシエ 3. オモシ 4. オモセ 9. []
324. 「教える」ということを、もっと短くしたこの辺の言い方では何と言いますか。
 1. オシエル 2. オシエル 3. オセル 9. []
325. <リスト> 次の文をこの土地の言い方に直して言ってみてください。
 []

401. 仮に日本中どこでも好きな所に住んでいいということになったら、あなたはどこに住んでみたいと思われませんか。

1. 鶴岡 2. 庄内 3. 山形県 4. _____ 県 なし N.A.

402. <リスト> 東京に親せきとかお知りあいとかがありますか。

1. 行き来 2. 電話 3. 文通 4. つき合っていない
 1. なし 9. [] N.A.

403. この半年間に遠くへおいでになったことがありますか。

	場 所	用 件	滞在日数
秋田方面は？			
新潟方面は？			
山形方面は？			
東京方面は？			
関西方面は？			
そのほかには？			

404. あなたは1日にテレビをどのくらいごらんになりますか。

1. 30分以下 2. 1時間以下 3. 1時間30分以下 4. 2時間以下 5. 2時間30分以下
6. 3時間以下 7. 3時間30分以下 8. 4時間以下 9. 4時間超 N.A.

405. ラジオはどうですか。

1. 30分以下 2. 1時間以下 3. 1時間30分以下 4. 2時間以下 5. 2時間30分以下
6. 3時間以下 7. 3時間30分以下 8. 4時間以下 9. 4時間超 N.A.

406. ラジオやテレビのニュースでは庄内地方や鶴岡のことを取りあげたニュースと、東京や全国のニュースとでは、どちらが好きですか。

1. 鶴岡 2. 全国 3. どちらでもない 4. 聞かない N.A.

407. 新聞は毎日お読みですか。

1. 毎日 2. 時々 3. 読まない N.A.

408. 何新聞をお読みですか。(全国紙と地方紙の両方をあげた者に対して) どちらを多く読みますか。

- 全国紙 : 朝日・毎日・読売・産経・日経・()
地方紙 : 山形・庄内・()
その他 : () N.A.

409.<リスト> あなたは次の2つの意見のうち、どちらに賛成ですか。

「どちらかといえば」という程度でも結構ですからお答え下さい。

1. 伝統 2. 改変 N.A.

410. お宅で家族の方たちといろいろお話をなさる時のことばは鶴岡弁ですか。

それとも標準語ですか。いろいろ混りますか。

1.標準語 2.方言 3.混ざる N.A.

近所の顔見知りの方とお話なさる時は？

1.標準語 2.方言 3.混ざる N.A.

鶴岡の人で顔見知りでない方もおありでしょうが、そういう人とお話なさる時は？

1.標準語 2.方言 3.混ざる N.A.

旅の人などにお話なさる時は？

1.標準語 2.方言 3.混ざる N.A.

411.<リスト> あなたは鶴岡弁についてどんなふうに感じますか。

1.軽快 2.重苦しい 3.どちらとも N.A.

1.深み 2.薄っぺら 3.どちらとも N.A.

1.好き 2.きらい 3.どちらとも N.A.

それでは東京弁についてはどんなふうに感じますか。

1.軽快 2.重苦しい 3.どちらとも N.A.

1.深み 2.薄っぺら 3.どちらとも N.A.

1.好き 2.きらい 3.どちらとも N.A.

412. あなたが入っていらっしゃる団体や組合といったものについてうかがいます。

まず、スポーツやレクリエーション、趣味の会、文化団体に入っておられますか。

(入っている場合) その団体の正式な名前を教えてください。

その団体で役員をしておられますか。

前には役員をしておられましたか。

(役員をしている場合) どんな役ですか。

加入

(1.役員 2.非役員) 3.非加入 N.A.

<社会人のみに> 町内会や婦人会、青年団、PTAなどではどうですか。

加入

(1.役員 2.非役員) 3.非加入 N.A.

<学生のみ> 学校で何かの役員(委員)をしていますか。

加入

(1.役員 2.非役員) 3.非加入 N.A.

413.<リスト> 鶴岡弁について次のような意見があります。あなたはどちらの意見に賛成なさいですか。

1. 改変 2. 保存 N.A.

414.<リスト> ここで行われているこの6種類の選挙の中で、あなたがいちばん関心をおもちなのはどれですか。

1. 衆議院 2. 参議院 3. 知事 4. 県会議員 5. 市長 6. 市会議員 N.A.

415. あなたはどの政党を支持しておられますか。

(2つ以上あげたとき) どちらの政党をより強く支持しますか。

(「支持なし」と答えた場合) それではどの政党に好感をもっておられますか。

1. 自民 2. 社会 3. 民社 4. 公明 5. 共産
6. その他 () 支持なし N.A.

416. 昔、士族でいらっしゃいましたか。

1. 士族 2. 以外 N.A.

417. あなたの今のお仕事は (できるだけ詳しく)

主婦 学生 無職

<リスト> そのお仕事は、このうちどれに当てはまりますか。

1. 専門的・技術的 2. 管理的 3. 事務 4. 販売 5. 農林・漁業
6. 採鉱・採石 7. 運輸・通信 8. 技能、生産および単純作業 9. 保安
10. サービス 11. その他 () N.A.

418. 学校はどこまでおいでになりましたか。

1. なし 2. 小 3. 高小 4. 新中 5. 旧中 6. 新高 7. 旧高 8. 専 9. 大
10. その他 () N.A.

1. 卒業 2. 中退 3. 在学中

その学校は何県 (何市) にありましたか。

- 鶴岡市 山形県 _____ 県 N.A.

午前

501. 終了時刻 _____ 時 _____ 分 (調査時間: _____ 分)

午後

502. どうもありがとうございました。

ところで、～さんのお宅(～駅、市役所、郵便局)はどちらでしょうか。

1. 標準語 2. 方言 3. 混ざる

503. 調査全般の被調査者のことば〔調査員判定〕

1. 正しい 2. 共通語だがどこ 3. 共通語が 4. 共通語を 5. 共通語が
共通語 となくちがう 混ざる 話さない 通じない

504. -1. 調査に対する態度〔調査員判定〕

1. 積極的 2. ふつう 3. 消極的 4. 拒否的

-2. 調査した場所

1. 自宅 2. 勤務先

1. 部屋の中 2. 玄関先

-3. 同席者 1. 本人のみ 2. 配偶者 3. 子ども 9. []

-4. 反応までの時間 1. 長いほう 2. 普通 3. 短いほう 9. []

-5. 質問に対する問いかえし

1. 多いほう 2. 普通 3. 少ないほう

【メモ欄】

調査員記録簿（ランダム）

('91 鶴岡調査)

	氏名：	ヨミ：	男・女	Tel.
No.	住所：			
昭和 年 月生	備考：			

訪問状況

日	曜日	時刻			接触の相手	調査員
1		前・後	時	分	本人・家人・他（ ） / 不在	
2		前・後	時	分	本人・家人・他（ ） / 不在	
3		前・後	時	分	本人・家人・他（ ） / 不在	
4		前・後	時	分	本人・家人・他（ ） / 不在	
5		前・後	時	分	本人・家人・他（ ） / 不在	
6		前・後	時	分	本人・家人・他（ ） / 不在	
7		前・後	時	分	本人・家人・他（ ） / 不在	
8		前・後	時	分	本人・家人・他（ ） / 不在	
9		前・後	時	分	本人・家人・他（ ） / 不在	
10		前・後	時	分	本人・家人・他（ ） / 不在	

調査票回収状況

- A. 留置調査票
- イ. 回収（__月__日）
 - ロ. 未回収：回収予定日（__月__日） 回収予定者（ ）
 - ハ. 回収不能
理由（拒否・その他）
その他 → 具体的に_____
- B. 面接調査票
- イ. 回収（__月__日）
 - ロ. 回収不能と決定した日（__月__日）
 - 理由
 - 〔 転出・転居
 - 〔 長期不在・期間中一度も接触できず・病気・障害・難聴
 - 〔 拒否, その他
 - 具体的に_____

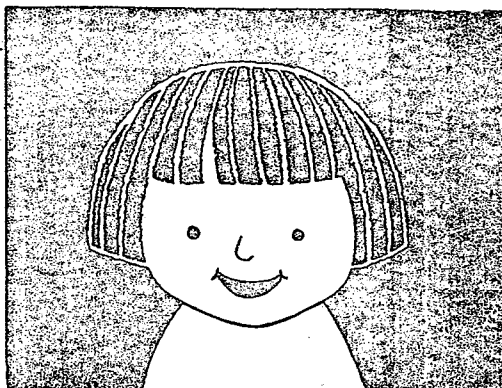
備考(原簿の誤り・その他)

留置 面接 Tape

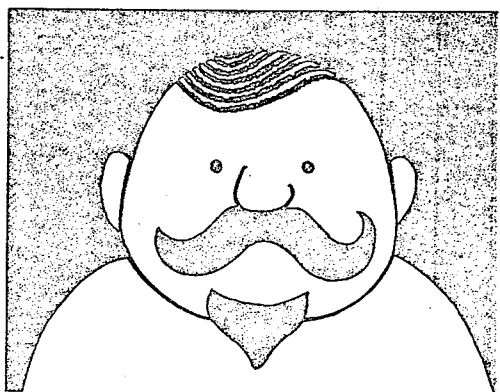
--	--	--

提示リスト

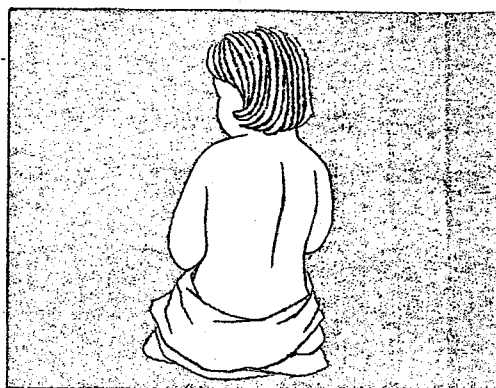
201.



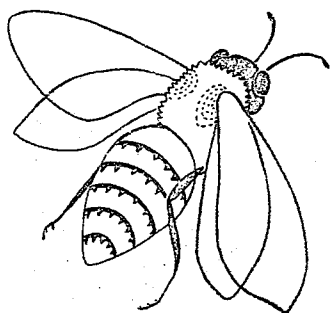
202.



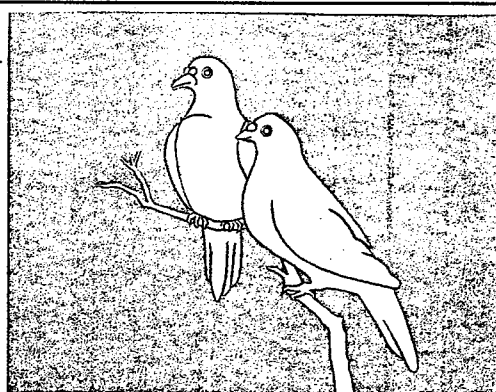
203.

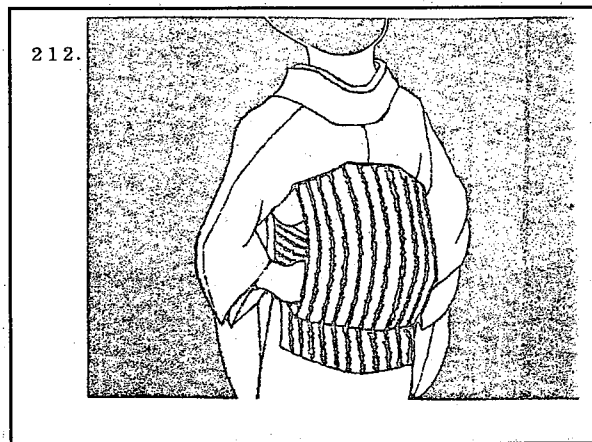
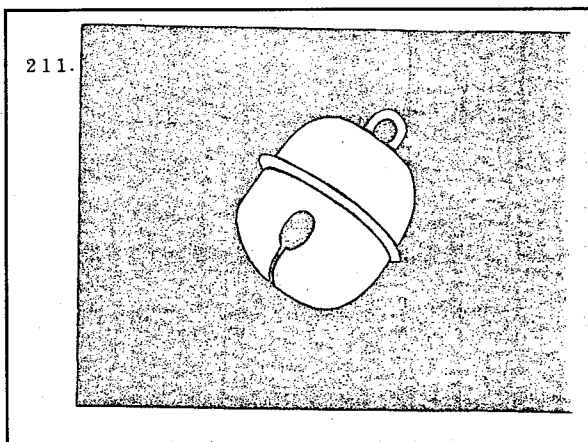
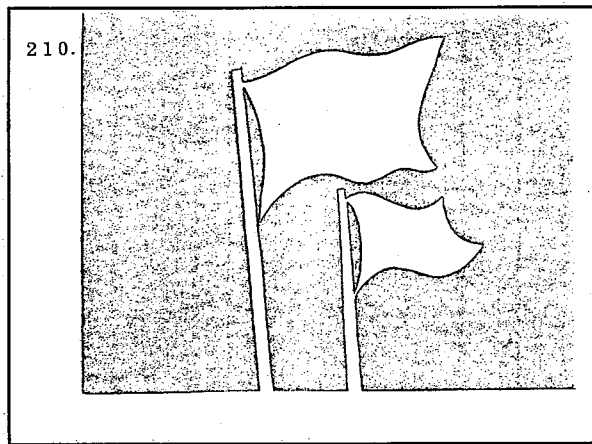
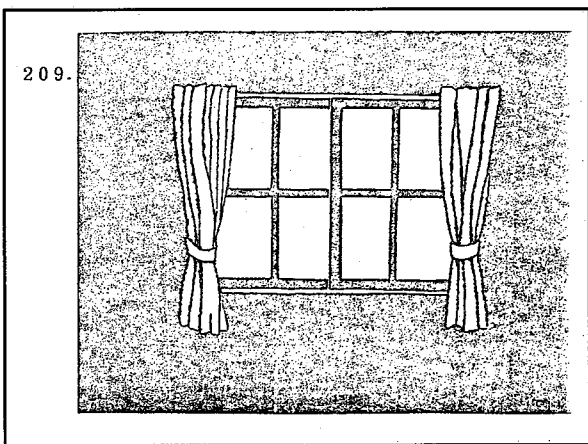
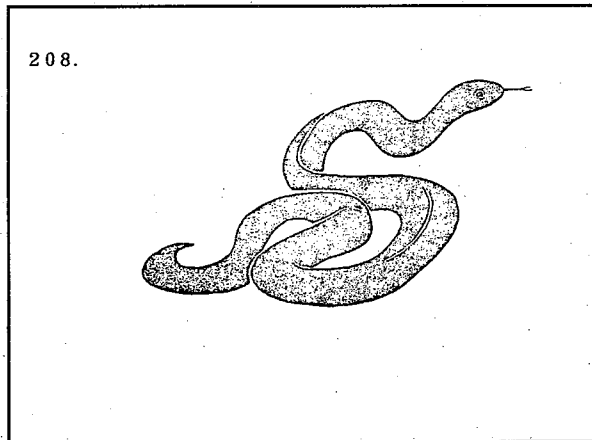
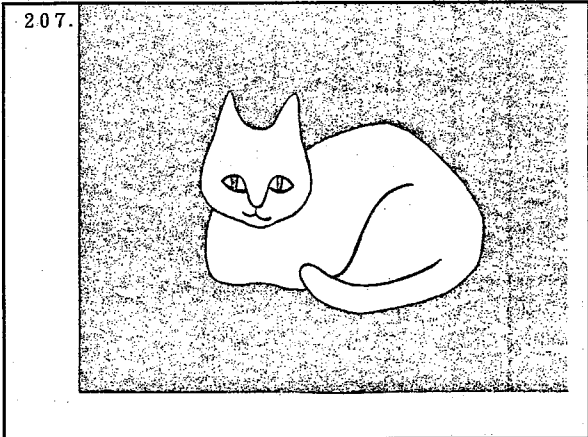


205.



206.

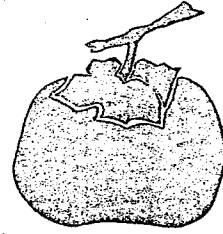




213.



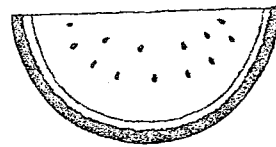
214.



215.



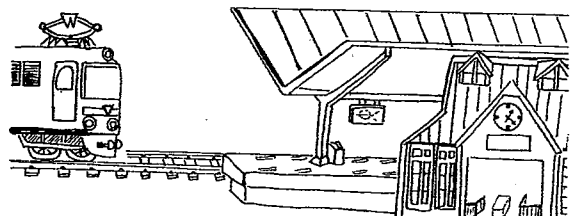
216.

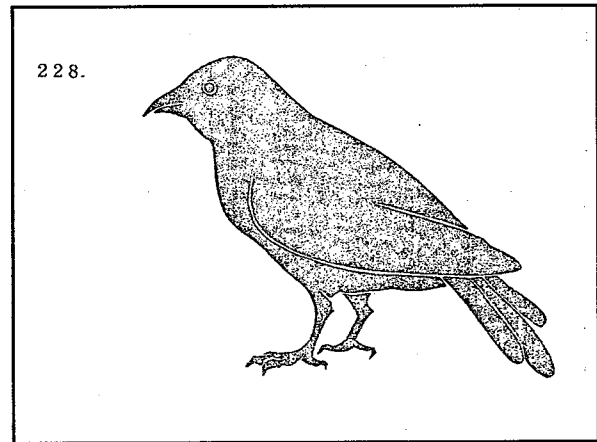
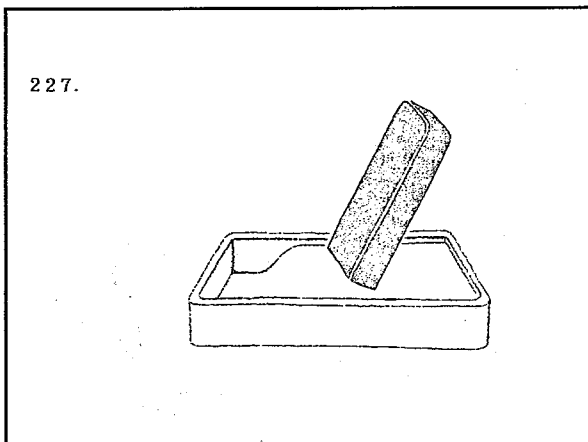
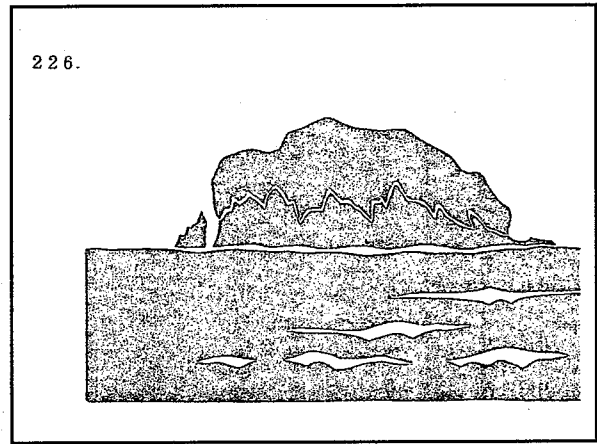
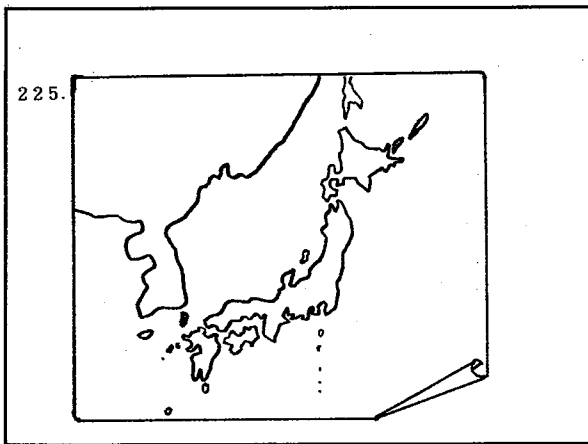
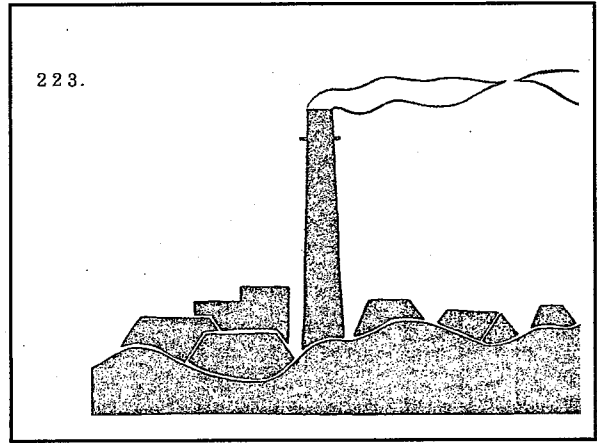
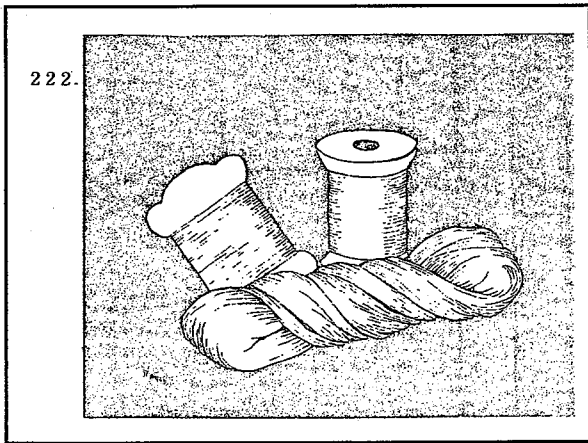


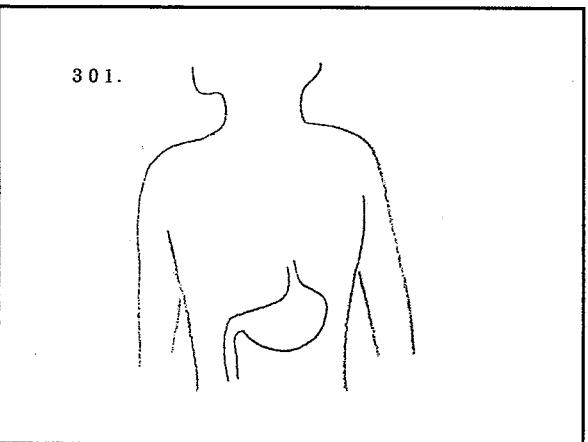
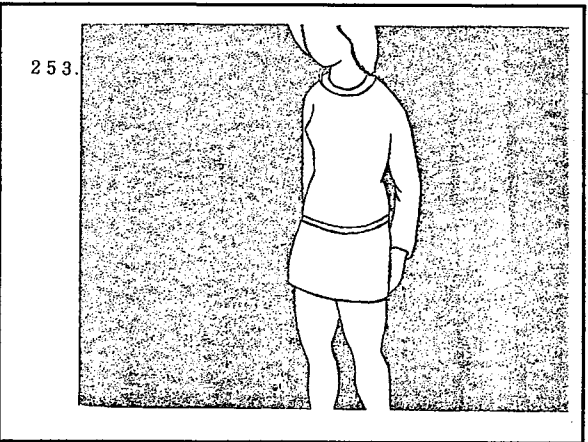
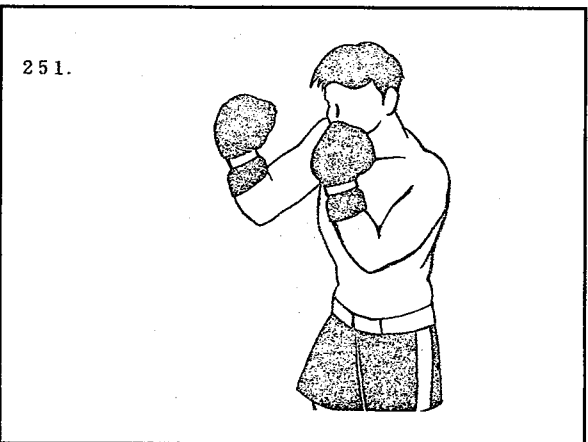
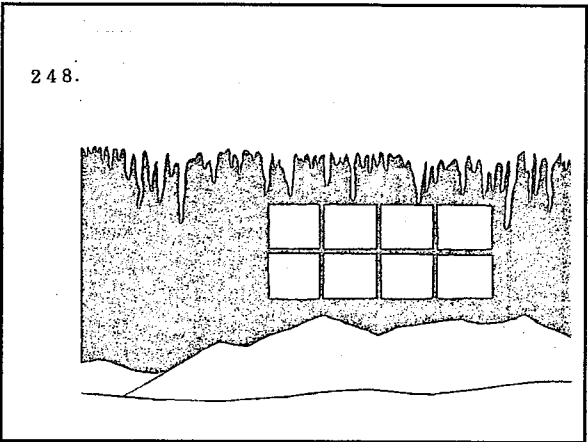
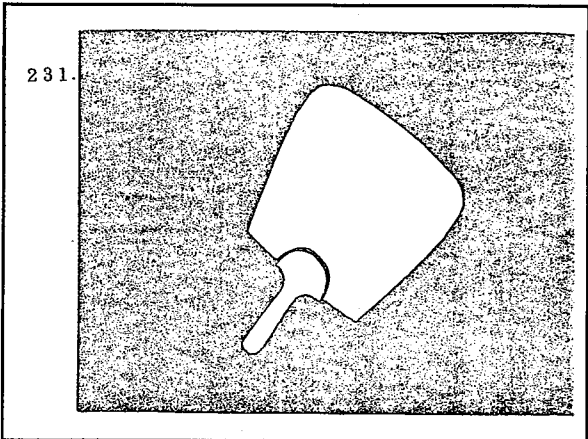
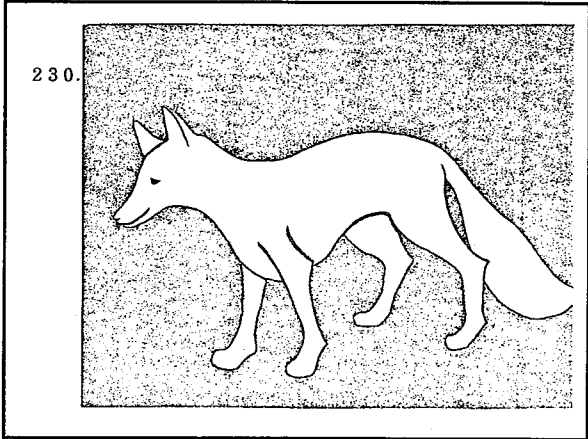
218.

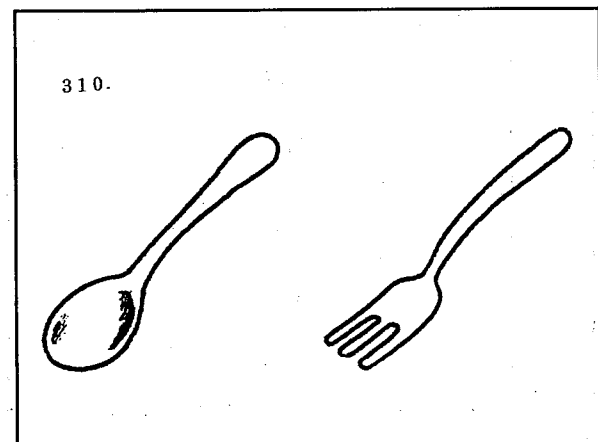
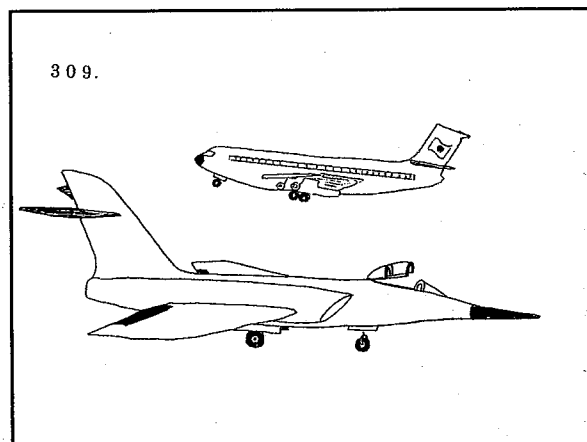
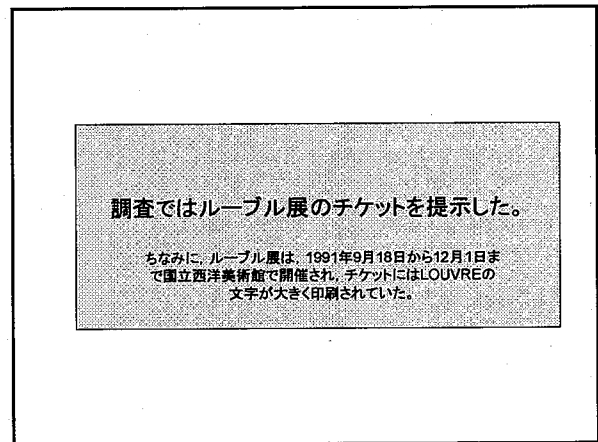
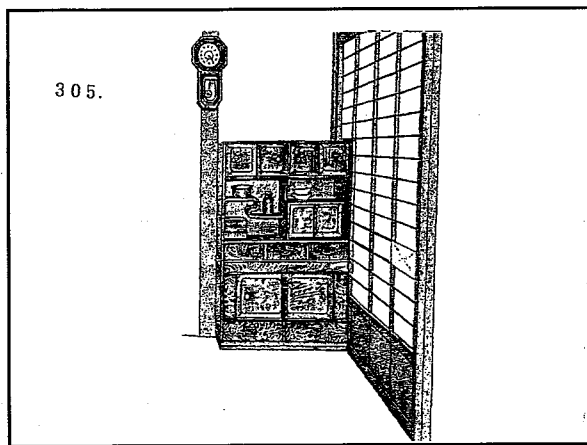
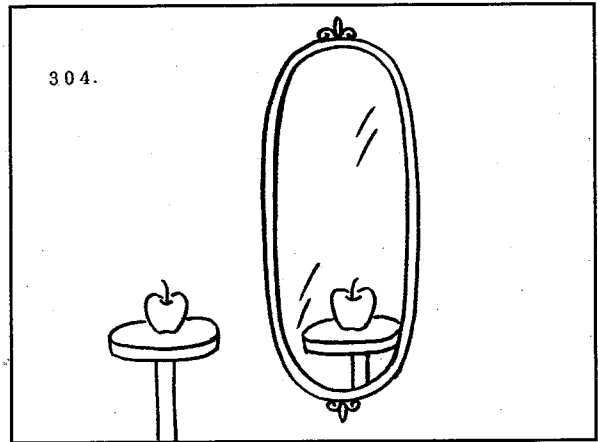
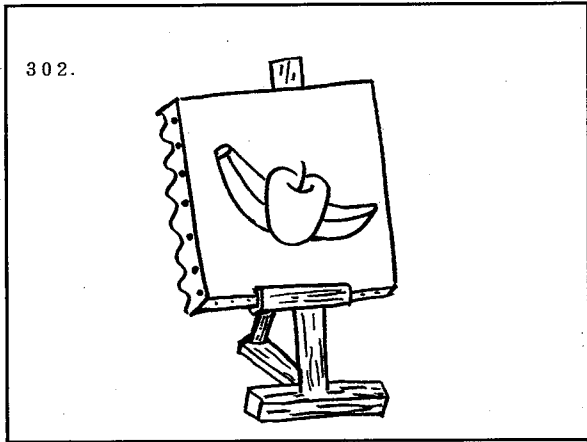
97, 98, 99,

221.

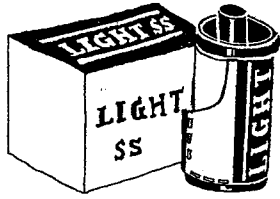








311.

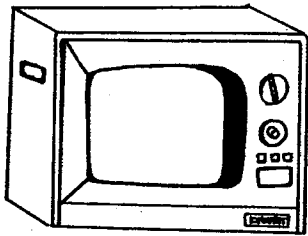


312.



313.

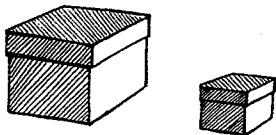
314.



315.



321.



325

「面白いテレビやっているから来てみる」

402.

1. 行き来をしている。
2. 電話で話し合う。
3. 文通をしている。
4. つき合っていない。

409.

1. 鶴岡には長い間につくりあげてきた生活の仕方（暮らし方）がある。これからもそれに従っていけばよい。
2. もっと新しい生活の仕方を積極的にとりいれて、生活をどんどん合理的にしてゆく必要がある。

411.

- | | | |
|----------|----------|--------------|
| 1. 軽快だ | 2. 重苦しい | 3. どちらとも言えない |
| 1. 深みがある | 2. 薄っぺらだ | 3. どちらとも言えない |
| 1. 好きだ | 2. きらいだ | 3. どちらとも言えない |

413.

1. 世の中が開けてきたのだから、もう鶴岡弁をしゃべっている時代ではない。鶴岡弁はできるだけなくしてしまったほうがよい。
2. 鶴岡弁は私たちの鶴岡の大事な文化遺産だから、できるだけ保存しておいたほうがよい。

414.

- | | |
|----------|---------|
| 1. 衆議院議員 | 4. 県会議員 |
| 2. 参議院議員 | 5. 鶴岡市長 |
| 3. 山形県知事 | 6. 市会議員 |

417.

- | | | |
|--------------|---------------|----------|
| 1. 専門的・技術的職業 | 2. 管理的職業 | |
| 3. 事務職 | 4. 販売 | 5. 農林・漁業 |
| 6. 採鉱・採石 | 7. 運輸・通信 | |
| 8. 技能作業・生産作業 | 9. 保安 | |
| 10. サービス業 | 11. その他 _____ | |



言語生活調査

(’91 鶴岡調査)

日常生活の中でふだん使っておられることばやことばに対するご意見をお尋ねします。
むずかしく考えないでお答えください。

1. あなたは、きのう一日、どんなことをしましたか。つぎの中から思い出して、○印をつけてください。○印はいくつつけてもかまいません。

[家で話をしましたか]

- 1.相談 2.言い争い 3.家人に注意やごこと 4.用事の話 5.さしずした
6.さしずされた 7.御用聞き・集金人・セールスマンとの応対 8.その他お客と応対
(家人との雑談は) 1.朝食のとき 2.昼食のとき 3.夕食のとき
4.お茶・夜食のとき 5.その他

[職場や学校や会合で話をしましたか]

- 1.先生や上役の人と 2.友だちや同僚と 3.部下や生徒と 4.客と
5.あまり心安くない人と 6.はじめての人と
1.質問 2.相談, 打合せ 3.交渉, 話し合い 4.会議 5.さしずした
6.さしずされた 7.雑談

[聞きましたか]

- 1.ラジオ 2.テレビ 3.宣伝カーの放送 4.その他街頭放送 5.外国語
1.演説 2.抗議・訓話・説教 3.駅などの案内・お知らせ 4.放送のニュース

[読みましたか]

- 1.新聞 2.週刊誌 3.その他の雑誌 4.教科書・参考書 5.辞書 6.外国語
7.小説の本 8.漫画 9.その他の本

[書きましたか]

- 1.日記 2.はがき 3.手紙 4.職場での書き物 5.署名 6.その他の文章
1.伝票 2.帳簿 3.家計簿 4.メモ 5.ノート 6.届・申込みその他の書類
(筆記用具は何を使いましたか)
1.鉛筆 2.万年筆 3.筆 4.ペン 5.ボールペン 6.サインペン
1.タイプライター 2.ワープロ

以下の質問の回答は、特にことわらない限り、選択肢のなかから1つだけ選んで○印をつけてください。

2. あなたは、近所の人とおしゃべりをするのが好きですか。
1.好き 2.どちらかといえば好き 3.どちらかといえば嫌い 4.嫌い
3. 集会や会議などに出席するのは好きですか。
1.好き 2.どちらかといえば好き 3.どちらかといえば嫌い 4.嫌い
4. 人前で話ができるほうですか。
1.できる 2.どちらかと言えばできる 3.どちらかといえばできない
4.できない
5. 他人と話をするとき 自分のことばが気になるほうですか。
1.非常に気になる 2.少し気になる 3.あまり気にならない
4.全熱気にならない
6. 旅先で、あなたは見知らぬ人に気軽に話しかけるほうですか。
1.はい 2.いいえ
7. 旅先で、あなたは見知らぬ人に話しかけられたら気軽に応じるほうですか。
1.はい 2.いいえ
8. あなたは、ご近所の方とどの程度のおつき合いがありますか。
1.あいさつをかわす程度の人だけ 2.世間話をする程度の人だけ
3.親しくつき合っている人が数人いる 4.親しくつき合っている人がかなりいる
5.ほとんどつき合いがない
9. 「標準語で話すと話の真実味が少ない」という人がいます。あなたはこの意見に賛成ですか。
1.全く賛成 2.どちらかといえば賛成 3.どちらかといえば反対
4.全く反対
10. 「方言まるだしでも話が通じればよい」という人がいます。あなたはこの意見に賛成ですか。
1.全く賛成 2.どちらかといえば賛成 3.どちらかといえば反対
4.全く反対

鶴岡市民各位

ことばの調査のお願い

突然お手紙をさしあげます。

私ども国立国語研究所では、これまで永年にわたり全国各地でことばの実態調査を行ってまいりました。当鶴岡市でも、昭和25年と昭和46年の2回にわたり多くの市民の方々にご協力をいただき、貴重な成果をあげることができました。

このたび、その後20年間のことばの変化をあとづける目標をかかげて、再度、鶴岡市で調査することを企画いたしました。今回は、市民の皆様の中から500人の方にお目にかかり、ことばについておうかがいしたいと存じます。

このほど市役所のご協力を得て、お会いする方を統計学的方法で公平に選びましたところ、あなたがその対象となりました。何かとお忙しいところ勝手なお願いを申上げて恐縮ですが、どうぞご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

ご協力いただきたいことは、つぎの二つです。

- (1) 同封のアンケート用紙（『言語生活調査』）にご記入いただくこと。
- (2) お宅に直接お訪ねする当研究所の所員（または、当研究所の委嘱した研究者）にお会いくださった上、簡単な質問に答えていただくこと。

調査結果は性別、年齢別、出身地別などのようにグループにまとめて集計します。お名前やお答えの内容など個人的な事柄は決して公表することはありませんので、安心してふだんのままをお答えください。また、ご家族の方を代人とするのではなく、あなたご自身でお答えいただきたく存じます。

以上突然ですが、上記趣旨をご理解のうえ、なにとぞご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成3年11月

国立国語研究所
所長 水谷 修

お願いの内容

- (1) 同封のアンケート（『言語生活調査』）に、あなたご自身で、お答えください。
- (2) きたる、11月22日（金）から11月29日（金）までのうち、ご都合のよいときに、私どもの調査員がお訪ねします。
- (3) そのときに、ご記入済みのアンケート用紙をお渡しください。
- (4) お訪ねするのにご都合のよい日時については、調査員が直接連絡してうかがいます。
- (5) 調査員がお聞きする質問にお答えください。質問は、ふだんお使いのことばについての簡単な内容です。30分ほどで終わりますので、どうぞご協力くださいますようお願いいたします。
- (6) なお、お礼の粗品を用意しておりますので、調査員からお受け取りください。

【担当研究室】

国立国語研究所 情報資料研究部第二研究室
（江川 清・米田 正人）

〒115 東京都北区西が丘3-9-14

電話 03-3900-3111（内線225）

【鶴岡での連絡先】

11月21日から11月29日までの調査期間中は、下記にご連絡ください。

鶴岡ホテル

〒997 鶴岡市本町2-1-18

電話 0235-22-1135（代）

（「国立国語研究所の調査本部」を呼び出してください。）

付 記

本書を刊行するにあたっては刊行物検討委員会が研究所内に設置され、各委員より内容と表現に関するコメントを得た。委員は次のとおりである。

- | | | |
|-----|------|-------------------------|
| 委員長 | 熊谷康雄 | 情報資料部門・部門長 |
| 委員 | 尾崎喜光 | 研究開発部門・言語生活グループ主任研究員 |
| 委員 | 野山 広 | 日本語教育基盤情報センター・整備普及グループ長 |
| 委員 | 米田正人 | 情報資料部門・上席研究員 |

執筆者一覧

- 井上史雄 明海大学外国語学部日本語学科・教授
IV
- 江川 清 広島国際大学心理科学部・教授
III
- 佐藤亮一 フェリス女子大学・名誉教授／独立行政法人国立国語研究所・名誉所員
II
- 米田正人 独立行政法人国立国語研究所情報資料部門・上席研究員
I, V (, VI, VII, VIII, IX)

編集協力者一覧

- 磯部よし子 独立行政法人国立国語研究所情報資料部門・研究員
- 米田純子 独立行政法人国立国語研究所情報資料部門・研究員
- 梁 敏鎬 東北大学大学院文学研究科国語学研究室（大学院博士課程3年在学）
- 関崎博紀 学校法人文際学園日本外国語専門学校 専任講師
- 太田幸代 中央大学文学部国文学科 非常勤講師

地域社会の言語生活

－鶴岡における20年間隔3回の継続調査－

平成19年(2007年)3月20日

独立行政法人 国立国語研究所

〒190-8561 東京都立川市緑町10-2

電話 042-540-4300 (代表)

URL <http://www.kokken.go.jp>

印刷：株式会社ノマド

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-7

電話 03-5367-8289

平18-12